DATA

財務データ編

Hokuhoku Financial Group, Inc.

ほくほくフィナンシャルグループ

経営指標	41
連結財務諸表	42
セグメント情報・損益の状況（連結）	50
貸出業務・証券業務（連結）	54
有価証券・金銭の信託の時価等情報（連結）	55
自己資本の充実の状況（連結）	57
資本の状況	147

北陸銀行

経営指標	68
連結財務諸表	69
財務諸表	75
財務諸表に係る確認書	79
損益の状況（単体）	80
預金業務（単体）	81
貸出業務（単体）	82
為替業務・国際業務（単体）	84
証券業務（単体）	85
有価証券・金銭の信託の時価等情報（単体）	86
デリバティブ取引情報（単体）	88
諸比率等（単体）	90
店舗・人員の状況	91
自己資本の充実の状況（連結）	92
自己資本の充実の状況（単体）	101
資本の状況	147
決算公告	148

北海道銀行

経営指標	108
連結財務諸表	109
財務諸表	115
財務諸表に係る確認書	119
損益の状況（単体）	120
預金業務（単体）	121
貸出業務（単体）	122
為替業務・国際業務（単体）	124
証券業務（単体）	125
有価証券・金銭の信託の時価等情報（単体）	126
デリバティブ取引情報（単体）	128
諸比率等（単体）	129
店舗・人員の状況	130
自己資本の充実の状況（連結）	131
自己資本の充実の状況（単体）	140
資本の状況	147
決算公告	154

経営指標（ほくほくフィナンシャルグループ）

主要な経営指標等の推移

（単位：百万円）

（連　結）

項目 ＼ 連結会計年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
連結経常収益	190,966	193,936	192,584	187,420	180,916
連結経常利益	49,448	48,140	46,425	39,477	31,792
親会社株主に帰属する当期純利益	27,332	28,235	28,837	28,157	21,191
連結包括利益	36,190	76,603	478	28,739	32,169
連結純資産額	505,125	572,987	566,251	585,237	610,147
連結総資産額	11,114,807	11,683,001	11,630,328	12,429,425	12,996,292
１株当たり純資産額	335.36円	385.83円	3,806.14円	4,028.62円	4,215.92円
１株当たり当期純利益	19.20円	19.87円	203.19円	201.36円	149.40円
潜在株式調整後１株当たり当期純利益	19.18円	19.84円	202.93円	201.04円	149.10円
連結自己資本比率（国内基準）	12.31%	11.13%	10.30%	9.43%	9.49%
連結自己資本利益率	5.86%	5.50%	5.29%	5.10%	3.61%
連結株価収益率	10.31倍	13.48倍	7.28倍	8.67倍	9.65倍
営業活動によるキャッシュ・フロー	251,285	367,321	38,088	608,869	149,389
投資活動によるキャッシュ・フロー	42,628	91,602	56,223	△23,676	497,774
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,808	△53,896	△49,540	△44,078	△7,697
現金及び現金同等物の期末残高	743,974	1,149,068	1,193,798	1,734,901	2,374,356
従業員数 ［外、平均臨時従業員数］	5,510人 ［3,395］	5,412人 ［3,439］	5,349人 ［3,406］	5,459人 ［3,349］	5,490人 ［3,261］

（注）1．当社及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
2．2016年10月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を実施いたしました。「1株当たり純資産額」、「1株当たり当期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」は、2015年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算出しております。
3．連結自己資本比率は、銀行法第52条の25の規定に基づく2006年金融庁告示第20号に定められた算式に基づき算出しております。当社は、国内基準を採用しております。

連結財務諸表

当社の銀行法第52条の28の規定により作成した書類は会社法により、有限責任監査法人トーマツの監査を受けております。
また、当社の連結財務諸表は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任監査法人トーマツの監査証明を受けております。

連結貸借対照表

（単位：百万円）

	2016年度末（2017年3月31日）	2017年度末（2018年3月31日）
（資産の部）		
現金預け金	1,753,743	2,388,907
コールローン及び買入手形	89,415	52,753
買入金銭債権	62,585	44,178
特定取引資産	4,646	4,397
金銭の信託	10,001	11,241
有価証券　※1,7,14	2,449,455	1,952,999
貸出金　※2,3,4,5,6,7,8	7,771,338	8,172,888
外国為替　※6	16,260	18,782
その他資産　※1,7	132,969	218,945
有形固定資産　※10,11	101,192	100,807
建物	33,046	33,536
土地　※9	60,499	58,781
リース資産	526	796
建設仮勘定	197	534
その他の有形固定資産	6,922	7,159
無形固定資産	24,358	24,449
ソフトウエア	7,770	9,834
のれん	15,591	13,489
リース資産	56	482
その他の無形固定資産	939	642
退職給付に係る資産	－	895
繰延税金資産	4,632	205
支払承諾見返	60,551	53,253
貸倒引当金	△51,725	△48,413
資産の部合計	**12,429,425**	**12,996,292**
（負債の部）		
預金　※7	10,560,772	11,028,521
譲渡性預金	140,499	122,691
コールマネー及び売渡手形　※7	36,267	45,312
売現先勘定	－	18,528
債券貸借取引受入担保金　※7	534,362	426,276
特定取引負債	861	683
借用金　※7,12	325,331	567,512
外国為替	103	186
社債　※13	25,000	25,000
その他負債	123,335	65,704
退職給付に係る負債	15,026	6,218
役員退職慰労引当金	204	189
偶発損失引当金	1,492	1,354
睡眠預金払戻損失引当金	1,590	1,921
特別法上の引当金	0	1
繰延税金負債	13,102	17,302
再評価に係る繰延税金負債　※9	5,686	5,487
支払承諾	60,551	53,253
負債の部合計	**11,844,188**	**12,386,145**
（純資産の部）		
資本金	70,895	70,895
資本剰余金	144,587	144,590
利益剰余金	284,896	299,060
自己株式	△1,398	△1,367
株主資本合計	498,979	513,178
その他有価証券評価差額金	81,406	90,163
繰延ヘッジ損益	△1,208	△975
土地再評価差額金　※9	8,993	8,642
退職給付に係る調整累計額	△5,773	△3,977
その他の包括利益累計額合計	83,417	93,852
新株予約権	367	451
非支配株主持分	2,472	2,664
純資産の部合計	**585,237**	**610,147**
負債及び純資産の部合計	**12,429,425**	**12,996,292**

連結損益計算書及び連結包括利益計算書

（単位：百万円）

	2016年度（2016年4月1日から2017年3月31日まで）	2017年度（2017年4月1日から2018年3月31日まで）
（連結損益計算書）		
経常収益	**187,420**	**180,916**
資金運用収益	**120,786**	**113,659**
貸出金利息	92,941	89,931
有価証券利息配当金	25,174	21,516
コールローン利息及び買入手形利息	1,092	893
買現先利息	△1	△10
預け金利息	914	923
その他の受入利息	666	404
役務取引等収益	**38,221**	**38,956**
特定取引収益	**319**	**1,054**
その他業務収益	**15,192**	**15,533**
その他経常収益	**12,900**	**11,712**
貸倒引当金戻入益	511	－
その他の経常収益　※1	12,389	11,712
経常費用	**147,942**	**149,123**
資金調達費用	**6,243**	**6,318**
預金利息	1,776	1,478
譲渡性預金利息	62	28
コールマネー利息及び売渡手形利息	144	79
売現先利息	－	148
債券貸借取引支払利息	1,483	2,018
借用金利息	542	379
社債利息	276	187
その他の支払利息	1,956	1,996
役務取引等費用	**14,194**	**15,396**
その他業務費用　※2	**17,271**	**21,675**
営業経費　※3	**101,411**	**98,758**
その他経常費用	**8,820**	**6,976**
貸倒引当金繰入額	－	645
その他の経常費用　※4	8,820	6,330
経常利益	**39,477**	**31,792**
特別利益	**104**	**1,491**
固定資産処分益	104	92
退職給付信託設定益	－	1,398
特別損失	**1,030**	**2,246**
固定資産処分損	419	249
減損損失　※5	610	1,995
その他	－	1
税金等調整前当期純利益	**38,552**	**31,037**
法人税、住民税及び事業税	**7,312**	**6,888**
法人税等調整額	**3,047**	**2,792**
法人税等合計	**10,360**	**9,681**
当期純利益	**28,192**	**21,356**
非支配株主に帰属する当期純利益	**34**	**165**
親会社株主に帰属する当期純利益	**28,157**	**21,191**

（連結包括利益計算書）		
当期純利益	**28,192**	**21,356**
その他の包括利益　※1	**547**	**10,813**
その他有価証券評価差額金	△2,466	8,751
繰延ヘッジ損益	387	233
退職給付に係る調整額	2,567	1,795
持分法適用会社に対する持分相当額	58	33
包括利益	**28,739**	**32,169**
（内訳）		
親会社株主に係る包括利益	28,684	31,977
非支配株主に係る包括利益	55	191

連結株主資本等変動計算書

（単位：百万円）

2016年度（2016年４月１日から2017年３月31日まで）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	**70,895**	**148,211**	**263,959**	**△1,489**	**481,576**
当期変動額					
剰余金の配当			△7,307		△7,307
親会社株主に帰属する当期純利益			28,157		28,157
自己株式の取得				△3,608	△3,608
自己株式の処分		22		52	75
自己株式の消却		△3,647		3,647	－
土地再評価差額金の取崩			86		86
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	**－**	**△3,624**	**20,936**	**91**	**17,403**
当期末残高	**70,895**	**144,587**	**284,896**	**△1,398**	**498,979**

	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	**83,834**	**△1,596**	**9,079**	**△8,340**	**82,976**	**319**	**1,378**	**566,251**
当期変動額								
剰余金の配当								△7,307
親会社株主に帰属する当期純利益								28,157
自己株式の取得								△3,608
自己株式の処分								75
自己株式の消却								－
土地再評価差額金の取崩								86
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△2,428	387	△86	2,567	440	47	1,094	1,582
当期変動額合計	**△2,428**	**387**	**△86**	**2,567**	**440**	**47**	**1,094**	**18,985**
当期末残高	**81,406**	**△1,208**	**8,993**	**△5,773**	**83,417**	**367**	**2,472**	**585,237**

2017年度（2017年４月１日から2018年３月31日まで）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	**70,895**	**144,587**	**284,896**	**△1,398**	**498,979**
当期変動額					
剰余金の配当			△7,377		△7,377
親会社株主に帰属する当期純利益			21,191		21,191
自己株式の取得				△24	△24
自己株式の処分		2		55	58
自己株式の消却					
土地再評価差額金の取崩			350		350
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	**－**	**2**	**14,164**	**30**	**14,198**
当期末残高	**70,895**	**144,590**	**299,060**	**△1,367**	**513,178**

	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	**81,406**	**△1,208**	**8,993**	**△5,773**	**83,417**	**367**	**2,472**	**585,237**
当期変動額								
剰余金の配当								△7,377
親会社株主に帰属する当期純利益								21,191
自己株式の取得								△24
自己株式の処分								58
自己株式の消却								－
土地再評価差額金の取崩								350
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	8,757	233	△350	1,795	10,435	84	191	10,711
当期変動額合計	**8,757**	**233**	**△350**	**1,795**	**10,435**	**84**	**191**	**24,909**
当期末残高	**90,163**	**△975**	**8,642**	**△3,977**	**93,852**	**451**	**2,664**	**610,147**

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	2016年度（2016年4月 1日から 2017年3月31日まで）	2017年度（2017年4月 1日から 2018年3月31日まで）
Ⅰ 営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	38,552	31,037
減価償却費	5,881	6,776
減損損失	610	1,995
のれん償却額	2,943	2,102
持分法による投資損益（△は益）	△6	△13
貸倒引当金の増減（△）	△3,199	△3,311
偶発損失引当金の増減額（△は減少）	△464	△138
退職給付に係る資産の増減額（△は増加）	－	△895
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	△5,433	△8,807
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	△26	△14
睡眠預金払戻損失引当金の増減（△）	170	331
資金運用収益	△120,786	△113,659
資金調達費用	6,243	6,318
有価証券関係損益（△）	879	3,980
金銭の信託の運用損益（△は運用益）	△10	△0
為替差損益（△は益）	△891	5,836
固定資産処分損益（△は益）	314	156
特定取引資産の純増（△）減	△15	248
特定取引負債の純増減（△）	△267	△178
貸出金の純増（△）減	△187,716	△401,550
預金の純増減（△）	329,363	467,749
譲渡性預金の純増減（△）	△103,508	△17,807
借用金（劣後特約付借入金を除く）の純増減（△）	141,912	242,180
預け金（日銀預け金を除く）の純増（△）減	22,858	4,290
コールローン等の純増（△）減	△24,950	55,069
コールマネー等の純増減（△）	15,421	27,572
債券貸借取引受入担保金の純増減（△）	441,407	△108,085
外国為替（資産）の純増（△）減	△1,488	△2,522
外国為替（負債）の純増減（△）	△123	82
資金運用による収入	95,954	90,917
資金調達による支出	△6,111	△6,314
その他	△28,835	△129,917
小計	618,678	153,429
法人税等の支払額	△9,808	△4,040
営業活動によるキャッシュ・フロー	**608,869**	**149,389**
Ⅱ 投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△971,447	△468,588
有価証券の売却による収入	700,130	695,593
有価証券の償還による収入	235,058	259,314
金銭の信託の増加による支出	△20,476	△21,380
金銭の信託の減少による収入	19,567	21,135
投資活動としての資金運用による収入	25,185	21,516
有形固定資産の取得による支出	△5,630	△5,826
有形固定資産の売却による収入	703	197
無形固定資産の取得による支出	△4,365	△4,186
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△2,399	－
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△23,676**	**497,774**
Ⅲ 財務活動によるキャッシュ・フロー		
劣後特約付借入金の返済による支出	△24,500	－
劣後特約付社債の償還による支出	△8,000	－
財務活動としての資金調達による支出	△662	△307
配当金の支払額	△7,307	△7,377
非支配株主への配当金の支払額	△0	△0
自己株式の取得による支出	△3,608	△12
自己株式の売却による収入	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△44,078**	**△7,697**
Ⅳ 現金及び現金同等物に係る換算差額	**△12**	**△11**
Ⅴ 現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	**541,102**	**639,454**
Ⅵ 現金及び現金同等物の期首残高	**1,193,798**	**1,734,901**
Ⅶ 現金及び現金同等物の期末残高 ※1	**1,734,901**	**2,374,356**

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項（2017年度）

1．連結の範囲に関する事項

（1）連結子会社　12社

主要な連結子会社名

株式会社北陸銀行　株式会社北海道銀行

（2）非連結子会社　6社

非連結子会社は、その資産、経常収益、当期純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

2．持分法の適用に関する事項

（1）持分法適用の非連結子会社　なし

（2）持分法適用の関連会社　1社

会社名

ほくほくキャピタル株式会社

（3）持分法非適用の非連結子会社　6社

持分法非適用の非連結子会社は、当期純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除いております。

（4）持分法非適用の関連会社　1社

持分法非適用の関連会社は、当期純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除いております。

3．連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4．会計方針に関する事項

（1）特定取引資産・負債の評価基準及び収益・費用の計上基準

金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る短期的な変動、市場間の格差等を利用して利益を得る等の目的（以下「特定取引目的」という。）の取引については、取引の約定時点を基準とし、連結貸借対照表上「特定取引資産」及び「特定取引負債」に計上するとともに、当該取引からの損益を連結損益計算書上「特定取引収益」及び「特定取引費用」に計上しております。

特定取引資産及び特定取引負債の評価は、有価証券及び金銭債権等については連結決算日の時価により、スワップ・先物・オプション取引等の派生商品については連結決算日において決済したものとみなした額により行っております。

また、特定取引収益及び特定取引費用の損益計上は、当連結会計年度中の受払利息等に、有価証券及び金銭債権等については前連結会計年度末と当連結会計年度末における評価損益の増減額を、派生商品については前連結会計年度末と当連結会計年度末におけるみなし決済からの損益相当額の増減額を加えております。

（2）有価証券の評価基準及び評価方法

（イ）有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、その他有価証券のうち株式については原則として連結決算期末前1カ月の市場価格の平均に基づく価格、それ以外については原則として連結決算日における市場価格等に基づく時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

（ロ）金銭の信託において信託財産を構成している有価証券の評価は、上記（1）及び（2）（イ）と同じ方法により行っております。

（3）デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引（特定取引目的の取引を除く）の評価は、時価法により行っております。

（4）固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び銀行業を営む連結子会社の有形固定資産は、動産については定率法、不動産については主として定額法を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建　物：6年～50年

その他：3年～20年

銀行業を営む連結子会社以外の連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定率法により償却しております。

②無形固定資産（リース資産を除く）

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウエアについては、当社及び連結子会社で定める利用可能期間（主として5年）に基づいて償却しております。

③リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引

「無形固定資産」中のリース資産は上記②無形固定資産と同様に償却しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引

「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

（5）貸倒引当金の計上基準

銀行業を営む連結子会社の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という。）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で非保全額又は与信額が一定金額以上の大口債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを貸出条件緩和実施前の約定利子率で割り引いた金額と債権の帳簿価額の差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）により計上しております。

上記以外の債権については、一定の種類ごとに分類し、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

当社及び銀行業を営む連結子会社以外の連結子会社においても同様に資産の自己査定を行い、必要な額を計上しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は43,033百万円であります。

（6）役員退職慰労引当金の計上基準

役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払に備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当連結会計年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

なお、当社及び銀行業を営む連結子会社の役員退職慰労金制度については、2012年5月11日開催の取締役会で廃止することを決定し、2012年6月26日開催の定時株主総会にて、役員退職慰労金制度廃止に伴う退職慰労金の打ち切り支給が承認されております。これに伴い、当社及び銀行業を営む連結子会社の役員退職慰労引当金の繰入は2012年6月の繰入をもって停止し、既引当金については継続して役員退職慰労引当金として計上しております。

（7）偶発損失引当金の計上基準

偶発損失引当金は、信用保証協会における責任共有制度等に基づく、将来発生する可能性のある負担金支払見込額及び他の引当金で引当対象とした事象以外の偶発事象に対し、将来発生する可能性のある損失を見積り、必要と認められる額をそれぞれ計上しております。

（8）睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。

（9）特別法上の引当金の計上基準

特別法上の引当金は、金融商品取引業を営む連結子会社の金融商品取引責任準備金であり、有価証券の売買その他取引等に関して生じた事故による損失に備えるため、金融商品取引法第46条の5及び金融商品取引業等に関する内閣府令第175条の規定に定めるところにより算出した額を計上しております。

（10）退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。また、過去勤務費用及び数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用：その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（8年）による定額法により損益処理

数理計算上の差異：各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（8年又は9年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から損益処理

なお、銀行業を営む連結子会社以外の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

（11）外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債については、主として連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

（12）重要なヘッジ会計の方法

（イ）金利リスク・ヘッジ

銀行業を営む連結子会社の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法として、一部の資産・負債について、ヘッジ対象とヘッジ手段を直接対応させる「個別ヘッジ」を適用し、繰延ヘッジによる会計処理あるいは金利スワップの特例処理を行っております。

ヘッジの有効性評価の方法については、リスク管理手続きに則り、ヘッジ指定を行い、ヘッジ手段とヘッジ対象を一体管理するとともに、ヘッジ手段によってヘッジ対象の金利リスクが減殺されているかどうかを検証することで評価しております。

（ロ）為替変動リスク・ヘッジ

銀行業を営む連結子会社の外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 2002年7月29日）に規定する繰延ヘッジによっております。

ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

（ハ）当社及び銀行業を営む連結子会社以外の連結子会社においては、デリバティブ取引によるヘッジを行っておりません。

（13）のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、20年間で均等償却を行っております。

（14）連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。

（15）消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税（以下「消費税等」という。）の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当連結会計年度の費用に計上しております。

（16）ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

（未適用の会計基準等）

・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号　2018年3月30日　企業会計基準委員会）

・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号　2018年3月30日　企業会計基準委員会）

（1）概要

国際会計基準審議会（IASB）及び米国財務会計基準審議会（FASB）は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」（IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606）を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

（2）適用予定日

2022年3月期の期首から適用します。

（3）当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

注記事項　（2017年度）

1．連結貸借対照表関係

※1．有価証券には、非連結子会社及び関連会社の株式339百万円及び出資金601百万円を含んでおります。

※2．貸出金のうち、破綻先債権額は3,746百万円、延滞債権額は125,692百万円であります。

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（1965年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

※3．貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は261百万円であります。

なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

※4．貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は18,967百万円であります。
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。
※5．破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は148,667百万円であります。
なお、上記2．から5．に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
※6．手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号　2002年2月13日）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は43,655百万円であります。
※7．担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産		担保資産に対応する債務	
有価証券	793,713百万円	預金	23,120百万円
貸出金	373,390百万円	コールマネー	40,000百万円
		債券貸借取引受入担保金	426,276百万円
		借用金	546,611百万円

上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、有価証券22,867百万円、その他資産（現金）102,796百万円を差し入れております。
また、その他資産には、金融商品等差入担保金3,744百万円、及び保証金5,181百万円が含まれております。
※8．当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は2,445,473百万円であります。このうち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なものが2,353,715百万円あります。
なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当社及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内（社内）手続きに基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。
※9．土地の再評価に関する法律（1998年3月31日公布法律第34号）に基づき、株式会社北陸銀行の事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。
再評価を行った年月日　1998年3月31日
同法律第3条第3項に定める再評価の方法
土地の再評価に関する法律施行令（1998年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める算定方法に基づき、地価税法に規定する地価税の課税価格の計算基礎となる土地の価額（路線価）を基準として時価を算出しております。
同法律第10条に定める再評価を行った事業用の土地の期末における時価の合計額と当該事業用の土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額　18,098百万円
※10．有形固定資産の減価償却累計額　105,180百万円
※11．有形固定資産の圧縮記帳額　3,683百万円
（当該連結会計年度の圧縮記帳額　ー百万円）
※12．借用金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金15,000百万円が含まれております。
※13．社債は、全額劣後特約付期限付劣後債であります。
※14．「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額は、162,731百万円であります。

2．連結損益計算書関係
※1．その他の経常収益には、株式等売却益8,170百万円を含んでおります。
※2．その他業務費用には、国債等債券売却損6,987百万円、国債等債券償還損3,892百万円を含んでおります。
※3．営業経費のうち主要な費目及び金額は給料・手当39,616百万円、退職給付費用2,501百万円であります。
※4．その他の経常費用には、貸出金償却460百万円、株式等売却損2,224百万円、株式等償却73百万円、債権売却損190百万円を含んでおります。
※5．以下の資産について減損損失を計上しております。

地域	主な用途	種類	減損損失(百万円)
北海道	営業用店舗　7か所	土地及び建物等	464
	遊休資産　1か所	土地	32
北陸三県	営業用店舗 13か所	土地及び建物等	941
	遊休資産　14か所	土地及び建物等	418
その他	営業用店舗　1か所	土地	138
	遊休資産　2か所	土地	0
合計	ー	ー	1,995

これらの営業用店舗等は、営業キャッシュ・フローの低下及び継続的な地価の下落等により、資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。
銀行業を営む連結子会社は、営業用店舗については、キャッシュ・フローの相互補完性に基づき一定の地域別に区分した営業用店舗エリアを基礎とする管理会計上の区分をグルーピングの単位としております。本部、コンピューターセンター、寮・社宅、厚生施設等については、独立したキャッシュ・フローを生み出さないことから共用資産としております。上記以外の連結子会社については各社を一つの単位としてグルーピングを行っております。なお、処分予定資産及び遊休資産については、各社、各資産単位でグルーピングしております。
なお、減損損失の測定に使用した回収可能価額は正味売却価額と使用価値のいずれか高い方としております。正味売却価額は、重要性の高い不動産については第三者から入手した鑑定評価額、それ以外については「不動産鑑定評価基準」等に基づき算定しております。使用価値は、将来キャッシュ・フローを5.35%で割り引いて算定しております。

3．連結包括利益計算書関係
※1．その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金	
当期発生額	7,770百万円
組替調整額	5,728百万円
税効果調整前	13,498百万円
税効果額	△4,747百万円
その他有価証券評価差額金	8,751百万円
繰延ヘッジ損益	
当期発生額	△1,101百万円
組替調整額	1,437百万円
税効果調整前	335百万円
税効果額	△102百万円
繰延ヘッジ損益	233百万円
退職給付に係る調整額	
当期発生額	1,079百万円
組替調整額	1,501百万円
税効果調整前	2,580百万円
税効果額	△785百万円
退職給付に係る調整額	1,795百万円
持分法適用会社に対する持分相当額	
当期発生額	60百万円
組替調整額	△17百万円
税効果調整前	42百万円
税効果額	△9百万円
持分法適用会社に対する持分相当額	33百万円
その他の包括利益合計	10,813百万円

4．連結株主資本等変動計算書関係
1．発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項（単位：千株）

	当連結会計年度期首株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	132,163	ー	ー	132,163	
第1回第5種優先株式	107,432	ー	ー	107,432	
合計	239,595	ー	ー	239,595	
自己株式					
普通株式	1,131	15	37	1,109	注1,2
第1回第5種優先株式	2	ー	ー	2	
合計	1,133	15	37	1,112	

（注）1．普通株式の自己株式の株式数の増加15千株は、単元未満株式の買取り等による増加であります。
2．普通株式の自己株式の株式数の減少37千株は、ストック・オプションの行使等による減少であります。

2．新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数（株）				当連結会計年度末残高（百万円）
			当連結会計年度期首	当連結会計年度増加	当連結会計年度減少	当連結会計年度末	
当社	ストック・オプションとしての新株予約権			ー			451
合計				ー			451

3．配当に関する事項
（1）当連結会計年度中の配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
2017年6月27日定時株主総会	普通株式	5,766	44.00	2017年3月31日	2017年6月28日
	第1回第5種優先株式	805	7.50	2017年3月31日	2017年6月28日
2017年11月13日取締役会	第1回第5種優先株式	805	7.50	2017年9月30日	2017年12月8日

（2）基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当連結会計年度の末日後となるもの

（決議予定）	株式の種類	配当金の総額（百万円）	配当の原資	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
2018年6月22日定時株主総会	普通株式	5,766	利益剰余金	44.00	2018年3月31日	2018年6月25日
	第1回第5種優先株式	805	利益剰余金	7.50	2018年3月31日	2018年6月25日

5．連結キャッシュ・フロー計算書関係
※1．現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
2018年3月31日現在

現金預け金勘定	2,388,907百万円
預け金（日本銀行預け金を除く）	△14,551百万円
現金及び現金同等物	2,374,356百万円

6．リース取引関係
1．ファイナンス・リース取引
（1）所有権移転ファイナンス・リース取引
①リース資産の内容
無形固定資産
ソフトウエアであります。
②リース資産の減価償却の方法
連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4．会計方針に関する事項」の「(4) 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。
（2）所有権移転外ファイナンス・リース取引
①リース資産の内容
（ア）有形固定資産
主として、ATM及び電子計算機であります。
（イ）無形固定資産
ソフトウエアであります。
②リース資産の減価償却の方法
連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4．会計方針に関する事項」の「(4) 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。
2．オペレーティング・リース取引
オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

1年内	1年超	合　計
3百万円	21百万円	25百万円

7．金融商品関係
1．金融商品の状況に関する事項
（1）金融商品に対する取組方針
当社グループは、預金、貸出業務等の銀行業務を中心に様々な金融サービスを提供しております。
貸出につきましては、地域経済との共栄を目指し、健全かつ適切な貸出運用を図るとともに信用リスク管理の強化に努めております。有価証券につきましては、リスク管理方針・規定等に基づいた厳格な運用を行っております。預金につきましては、地域のみなさまへの金融サービスの拡充に努めることで、安定的な調達を目指しております。借用金及び社債は、中長期的な資金調達としております。
当社グループが保有する貸出金等の金融資産と預金等の金融負債は期間構造が異なるため、市場の金利変動等に伴うリスクに晒されていることから、資産及び負債の総合的管理（以下「ALM」という。）を行い、市場リスクを適切にコントロールして安定的な収益を確保できる運営に努めております。
（2）金融商品の内容及びリスク
当社グループが保有する金融資産は、主として国内のお取引先に対する貸出金、有価証券であります。貸出金につきましては、お取引先の財務状況の悪化等により資産の価値が減少・消失し損失を被る信用リスクに晒されており、有価証券につきましても、発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動

リスクに晒されておりますが、いずれも適切なリスク分散を図るよう努めております。
金融負債である預金や借用金は、市場環境の急変や当社グループの財務内容の悪化等により、通常より著しく高い金利による資金調達を余儀なくされるなどの流動性リスクに晒されております。
株式会社北陸銀行及び株式会社北海道銀行は通貨スワップ・為替予約・通貨オプション取引等の邉貨関連デリバティブ取引や、金利スワップ・金利先物・金利キャップ取引等の金利関連デリバティブ取引を、各行自身のALM目的と、お取引先の多様なニーズに応える目的で利用しております。これらのデリバティブ取引は、金利変動リスク、為替変動リスク、価格変動リスク及び信用リスク等に晒されております。
ただし、当社グループが保有する金融資産・金融負債で著しくリスクが高いものや、時価の変動率が高い特殊なデリバティブ取引の取り扱いはありません。
なお、株式会社北陸銀行では一部の資産・負債をヘッジ対象として金利の変動リスクに対してヘッジ会計を邉用しておりますが、ヘッジ会計の邉用に際しては、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段を一体管理するとともに、ヘッジの有効性を評価しております。
(3) 金融商品に係るリスク管理体制
株式会社北陸銀行及び株式会社北海道銀行では、リスク管理部署を設置して「リスク管理基本規程」及びリスクに関する各種管理規定を定め、ALM委員会や統合リスク管理委員会等を設置して、各種リスクの管理を行っております。
①信用リスクの管理
信用リスクの適切な管理・運営を行うことにより経営の健全性の確保と収益力の向上に努める基本方針のもと、「信用リスク管理規定」等各種規定類を制定し、業務推進部門と信用リスク管理部門の分離による内部牽制機能の確保、「クレジットポリシー」に基づく厳正な審査と信用格付の付与、与信集中リスク管理のための与信限度ラインの設定等による個別管理、自己査定や信用リスク量の計測ならびに取締役会へのリスク状況の報告等を実施しております。
具体的には、個別案件毎に営業店が的確に分析・審査を行い、営業店長の権限を越える場合は本部の審査部門でも分析・審査を行っております。審査部門には業種・地域毎に専門の担当者を配置し、お取引先の特性に応じて営業店への適切な助言・指導が行える体制を整備しております。
また、有価証券の発行体の信用リスク及びデリバティブ取引のカウンターパーティーリスクに関しては、リスク管理部署において、信用情報や取引状況を定期的に把握・管理しております。
②市場リスクの管理
「市場リスク管理規定」等を定め、ALM委員会等を設置し、預貸金を含めた市場リスクを適切にコントロールして、安定的な収益を確保できる運営に努めております。
ⅰ　金利リスクの管理
「金利リスク管理規定」等の諸規定にリスク管理方法や手続等の詳細を明記し、リスク管理部署が定期的に金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握し、ギャップ分析や金利感応度分析等により金利リスク量をモニタリングするとともに、その結果をALM委員会等に報告・協議し、必要な対策を講じる体制としております。また、金利リスクを適切にコントロールするために、金利リスク量に対する各種限度額を設定・管理し、ALMの観点から金利の変動リスクをヘッジするための金利スワップ及び金利キャップ等のデリバティブ取引を利用して金利リスクの軽減を図っております。
ⅱ　為替リスクの管理
外貨建資産・負債にかかる為替の変動リスクを管理し、通貨スワップ等を利用し、為替リスクの軽減を図っております。
ⅲ　価格変動リスクの管理
有価証券を含む投資商品の保有にあたり、経営会議等で定めた方針に基づき、取締役会の監督の下、事前審査、投資限度額の設定のほか、継続的なモニタリングを通じて、価格変動リスクの軽減を図っております。なお、両行が保有している株式の多くは、政策保有目的で保有しているものであり、取引先の市場環境や財務状況などをモニタリングしております。また、有価証券については、バリュー・アット・リスク（VaR）等を用いて市場リスク量を把握し、規定で定めた各種ルールの遵守状況等が管理されており、取締役会及び経営会議等へ定期的に報告されております。
ⅳ　デリバティブ取引
デリバティブ取引に関しては、取引の執行、ヘッジ有効性の評価、事務管理に関する部門をそれぞれ分離し内部牽制を確立するとともに、管理セクションが取引の確認、日々のポジションの時価評価・損益状況・リスク量の計測を行い、一定の限度を超える損失が発生しないように管理しております。
ⅴ　市場リスクに係る定量的情報
当社グループでは、市場リスクに係る定量的情報について、株式会社北陸銀行及び株式会社北海道銀行が、それぞれにおいて算定しております。
（ア）トレーディング目的の金融商品
北陸銀行では、「特定取引資産」のうちの売買目的有価証券、「デリバティブ取引」のうちトレーディング目的として保有している通貨関連及び金利関連の一部に関するVaRの算定にあたっては、ヒストリカル法（保有期間1日、信頼区間99%、観測期間1,250日）を採用しております。
2018年3月31日現在、北陸銀行のトレーディング業務の市場リスク量（VaR）は179百万円であります。
北海道銀行では、トレーディング目的の金融商品はありません。
（イ）トレーディング目的以外の金融商品
当社グループにおいて、金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「買入金銭債権」、「貸出金」、「債券」、「預金」、「借用金」、「デリバティブ取引」のうちの金利スワップ取引、金利スワップション取引、金利キャップ取引であります。また、価格変動リスクの影響を受ける主たる金融商品は「上場株式」及び「投資信託」であります。当社グループでは、これらの金融資産及び金融負債について、統計的なリスク計測手法であるVaRにより金利変動リスクや価格変動リスクを統一的に管理しております。
なお、VaRの算定にあたっては、ヒストリカル法（保有期間120日、信頼区間99%、観測期間1,250日）を採用し、金利と株価等の変動における相関を考慮しております。
ただし、北海道銀行では商品有価証券業務（公共債窓販業務等）及び投資有価証券業務として行う特定金外信託運用におけるVaRは、保有期間を10日と定めそれぞれ個別に算定しており、特定金外信託運用におけるVaRは金利と株価等の変動における相関を考慮しております。
2018年3月31日現在、北陸銀行におけるトレーディング目的以外の金融商品におけるVaRは54,250百万円であり、北海道銀行におけるトレーディング目的以外の金融商品におけるVaRは21,414百万円、商品有価証券のVaRは16百万円、特定金外信託のVaRは4百万円であります。
また、VaR計測モデルのバックテスティングを定期的に実施し、モデルの妥当性を検証する態勢としており、適切なリスクの把握に努めております。ただし、VaRは統計的に算出した一定の発生確率での市場リスク量を計測しており、通常では考えられないほど市場環境が激変する状況下におけるリスクは捕捉できない場合があります。
VaRは統計的な信頼区間（99%）の下で、金融商品を保有する期間に相当する最大損失額ですが、特に金利リスクの影響を受ける主たる金融商品については、補完的なリスク指標として、指標となる金利が100ベーシス・ポイント（1.00%）上昇を想定した資産負債の時価変動額（100BPV）を算出しております。
2018年3月31日現在、指標となる金利が1.00%上昇したものと想定した場合には、北陸銀行では時価が46,750百万円増加し、北海道銀行では時価が17,413百万円増加するものと把握しております。
当該影響額は、金利環境のみが変化する場合を想定しており、金利以外のリスク変数との相関を考慮しておりません。なお、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。
③流動性リスクの管理
「流動性リスク管理規定」に基づいて、運用・調達の状況を的確に把握し、円滑な資金繰りに万全を期しております。具体的には、国債など資金化の容易な支払準備資産を十分に確保するとともに、流動性リスク管理指標を各種設定し、日々チェックしております。
また、万一危機が発生した場合は、危機の段階に応じた対応が取れるように、流動性リスクの状況をALM委員会等で定期的に報告・管理する体制を整備しております。
(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明
金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。
2．金融商品の時価等に関する事項
連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません（（注2）参照）。また、重要性の乏しいものは省略しております。

	連結貸借対照表計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金預け金	2,388,907	2,388,907	－
(2) コールローン及び買入手形	52,753	52,753	－
(3) 買入金銭債権（※1）	44,177	44,177	－
(4) 有価証券			
満期保有目的の債券	206,749	218,623	11,874
その他有価証券	1,719,118	1,719,118	－
(5) 貸出金	8,172,888		
貸倒引当金（※1）	△46,515		
	8,126,372	8,203,364	76,991
資産計	12,538,079	12,626,945	88,866
(1) 預金	11,028,521	11,028,869	348
(2) 譲渡性預金	122,691	122,691	－
(3) 債券貸借取引受入担保金	426,276	426,276	－
(4) 借用金	567,512	566,257	△1,255
負債計	12,145,002	12,144,095	△907
デリバティブ取引（※2）			
ヘッジ会計が適用されていないもの	2,791	2,791	－
ヘッジ会計が適用されているもの	2,708	2,708	（※3） －
デリバティブ取引計	5,499	5,499	－

（※1）貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。なお、買入金銭債権に対する貸倒引当金については、重要性が乏しいため、連結貸借対照表計上額から直接減額しております。
（※2）特定取引資産・負債及びその他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で表示しております。
（※3）金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている貸出金と一体として処理されているため、その時価は当該貸出金に含めて記載しております。
(注1) 金融商品の時価の算定方法
資　産
(1) 現金預け金
満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、預入期間に基づく区分ごとに、市場金利に信用リスク等を加味した利率で割り引いた現在価値を算定しております。なお、預入期間が1年以内のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。
(2) コールローン及び買入手形
コールローン及び買入手形は、約定期間が短期間（1年以内）であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。
(3) 買入金銭債権
買入金銭債権のうち、投資家として購入した住宅ローン債権の信託受益権及び貸付債権の信託受益権については、取引金融機関から提示された価格を時価としております。また、資産流動化の小口債権は、期間毎の市場金利に信用リスク等を加味した利率で割り引いた現在価値を算定しております。
(4) 有価証券
株式は期末前1カ月の市場価格の平均に基づいて算定された価格、債券は取引所の価格又は公表されている価格、これらがない場合には合理的な見積もりに基づいて算定された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格によっております。
自行保証付私募債は、内部格付、残存期間に基づく区分ごとに、市場金利に信用リスク等を加味した利率で割り引いた現在価値を算定しております。
なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については「有価証券・金銭の信託の時価等情報（連結）」に記載しております。
(5) 貸出金
貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を市場金利に信用リスク等を加味した利率で割り引いて時価を算定しております。なお、約定期間が1年以内のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。
また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。
貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。
負　債
(1) 預金及び (2) 譲渡性預金
要求払預金については、連結決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしております。また、定期預金及び譲渡性預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、預入期間が1年以内のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。
(3) 債券貸借取引受入担保金
債券貸借取引受入担保金は、約定期間が短期間（1年以内）であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。
(4) 借用金
借用金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当社及び連結子会社等の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借用金の元利金の合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しております。なお、約定期間が1年以内のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引は、金利関連取引（金利先物、金利オプション、金利スワップ等）、通貨関連取引（通貨先物、通貨オプション、通貨スワップ等）、債券関連取引（債券先物、債券先物オプション等）、商品関連取引であり、取引所の価格、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算出した価額によっております。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「資産（4）その他有価証券」には含まれておりません。

区分	連結貸借対照表計上額（百万円）
① 非上場株式（※1）（※2）	27,131
② 非上場外国証券（※1）	0
合計	27,131

（※1）市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。

（※2）当連結会計年度において、非上場株式について73百万円減損処理を行っております。

（注3）金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内（百万円）	1年超3年以内（百万円）	3年超5年以内（百万円）	5年超7年以内（百万円）	7年超（百万円）
預け金	2,267,774	－	－	－	－
コールローン及び買入手形	52,753	－	－	－	－
買入金銭債権	1,147	884	5,000	－	36,816
有価証券	219,970	657,355	317,504	147,558	262,119
満期保有目的の債券	32,965	61,471	44,893	5,495	62,305
うち国債	2,500	3,020	1,000	500	60,000
地方債	－	－	－	－	1,500
社債	30,465	58,451	43,893	4,995	805
その他有価証券のうち満期があるもの	187,005	595,884	272,611	142,062	199,814
うち国債	123,000	367,800	155,500	－	－
地方債	34,877	146,117	66,571	20,198	44,705
社債	12,228	38,612	26,688	11,217	71,948
その他	16,899	43,354	23,851	110,647	83,160
貸出金（※）	2,571,967	1,387,575	1,038,584	758,906	2,255,087
合計	5,113,613	2,045,815	1,361,089	906,465	2,554,022

（※）貸出金のうち、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めない129,439百万円、期間の定めのないもの31,327百万円は含めておりません。

（注4）借用金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

	1年以内（百万円）	1年超3年以内（百万円）	3年超5年以内（百万円）	5年超7年以内（百万円）	7年超（百万円）
預金（※）	9,996,507	779,762	241,982	4,188	6,080
譲渡性預金	122,691	－	－	－	－
債券貸借取引受入担保金	426,276	－	－	－	－
借用金	11,666	282,672	257,522	15,440	210
合計	10,557,142	1,062,435	499,505	19,629	6,290

（※）預金のうち、要求払預金については、「1年以内」に含めて開示しております。

8．退職給付関係

1．採用している退職給付制度の概要

株式会社北陸銀行では、確定給付型の制度として、企業年金制度、適格退職年金制度及び退職一時金制度を設けておりましたが、2011年3月に適格退職年金制度を廃止し、同制度と退職一時金制度の一部について確定拠出年金制度へ移行しました。従業員の退職時に際しては、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。なお、株式会社北陸銀行では、厚生労働大臣から、2003年2月17日に厚生年金基金の代行部分について将来分支給義務免除の認可を受け、2005年3月1日には厚生年金基金から企業年金基金への移行の認可を受けております。

株式会社北海道銀行では、確定給付型の制度として、退職一時金制度と企業年金制度を併用しております。また、確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。なお、株式会社北海道銀行では、2004年3月26日に厚生労働大臣から将来分支給義務免除の認可を受け、2006年3月31日に厚生年金基金から企業年金基金への移行の認可を受けております。

上記2社以外の国内の連結子会社では、退職一時金制度を設けております。

当社の従業員は、全員子会社からの出向者であり、それぞれ出向元の会社の退職給付制度が適用されております。

なお、株式会社北陸銀行及び株式会社北海道銀行は、退職給付信託を設定しております。

2．確定給付制度

（1）退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

区分	金額（百万円）
退職給付債務の期首残高	101,540
勤務費用	2,427
利息費用	624
数理計算上の差異の発生額	436
退職給付の支払額	△5,122
その他	89
退職給付債務の期末残高	99,996

（2）年金資産の期首残高と期末残高の調整表

区分	金額（百万円）
年金資産の期首残高	86,513
期待運用収益	2,569
数理計算上の差異の発生額	1,516
事業主からの拠出額	2,628
退職給付信託の設定	5,199
退職給付の支払額	△3,843
その他	89
年金資産の期末残高	94,673

（3）退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

区分	金額（百万円）
積立型制度の退職給付債務	84,025
年金資産	△82,997
	1,027
非積立型制度の退職給付債務	15,970
年金資産	△11,675
	4,294
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	5,322

区分	金額（百万円）
退職給付に係る負債	6,218
退職給付に係る資産	△895
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	5,322

（4）退職給付費用及びその内訳項目の金額

区分	金額（百万円）
勤務費用	2,427
利息費用	624
期待運用収益	△2,569
数理計算上の差異の費用処理額	1,547
過去勤務費用の費用処理額	△46
その他	61
確定給付制度に係る退職給付費用	2,045

（5）退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

区分	金額（百万円）
過去勤務費用	△46
数理計算上の差異	2,627
合計	2,580

（6）退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

区分	金額（百万円）
未認識過去勤務費用	△46
未認識数理計算上の差異	5,764
合計	5,717

（7）年金資産に関する事項

①年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	35.11%
株式	43.82%
現金及び預金	3.28%
一般勘定	7.21%
その他	10.58%
合計	100.00%

（注）年金資産合計には、企業年金制度等に対して設定した退職給付信託が24.88%含まれております。

②長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

（8）数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

①割引率0.61%～0.63%

②長期期待運用収益率3.0%

3．確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、369百万円であります。

9．ストック・オプション等関係

1．ストック・オプションに係る費用計上額及び科目名

	金額（百万円）
営業経費	130

2．ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

（1）ストック・オプションの内容

	第1回新株予約権	第2回新株予約権	第3回新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 7名 北陸銀行取締役 6名 同 執行役員 13名 北海道銀行取締役 6名 同 執行役員 10名 ただし、当社取締役のうち6名は北陸銀行又は北海道銀行の取締役又は執行役員を兼務しているので、合計36名	当社取締役 7名 北陸銀行取締役 6名 同 執行役員 12名 北海道銀行取締役 6名 同 執行役員 10名 ただし、当社取締役のうち6名は北陸銀行又は北海道銀行の取締役又は執行役員を兼務しているので、合計35名	当社取締役 7名 北陸銀行取締役 6名 同 執行役員 11名 北海道銀行取締役 6名 同 執行役員 10名 ただし、当社取締役のうち6名は北陸銀行又は北海道銀行の取締役又は執行役員を兼務しているので、合計34名
株式の種類別のストック・オプションの数（注）	当社普通株式 105,850株	当社普通株式 62,950株	当社普通株式 55,400株
付与日	2012年11月28日	2013年8月13日	2014年7月11日
権利確定条件	定めがありません。	定めがありません。	定めがありません。
対象勤務期間	定めがありません。	定めがありません。	定めがありません。
権利行使期間	2012年11月29日から2042年11月28日まで	2013年8月14日から2043年8月13日まで	2014年7月12日から2044年7月11日まで

	第4回新株予約権	第5回新株予約権	第6回新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 7名 北陸銀行取締役 5名 同 執行役員 13名 北海道銀行取締役 6名 同 執行役員 11名 ただし、当社取締役のうち6名は北陸銀行又は北海道銀行の取締役又は執行役員を兼務しているので、合計36名	当社取締役 7名 北陸銀行取締役 6名 同 執行役員 13名 北海道銀行取締役 6名 同 執行役員 12名 ただし、当社取締役のうち7名は北陸銀行又は北海道銀行の取締役又は執行役員を兼務しているので、合計37名	当社取締役 7名 北陸銀行取締役 7名 同 執行役員 13名 北海道銀行取締役 6名 同 執行役員 12名 ただし、当社取締役のうち7名は北陸銀行又は北海道銀行の取締役又は執行役員を兼務しているので、合計38名
株式の種類別のストック・オプションの数（注）	当社普通株式 41,730株	当社普通株式 106,200株	当社普通株式 75,960株
付与日	2015年7月14日	2016年8月12日	2017年7月14日
権利確定条件	定めがありません。	定めがありません。	定めがありません。
対象勤務期間	定めがありません。	定めがありません。	定めがありません。
権利行使期間	2015年7月15日から2045年7月14日まで	2016年8月13日から2046年8月12日まで	2017年7月15日から2047年7月14日まで

（注）株式数に換算して記載しております。なお、2016年10月1日付株式併合（10株につき1株の割合）による併合後の株式数に換算して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況
当連結会計年度（2018年3月期）において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。
①ストック・オプションの数

	第1回新株予約権	第2回新株予約権	第3回新株予約権	第4回新株予約権
権利確定前（株）				
前連結会計年度末	－	－	－	－
付与	－	－	－	－
失効	－	－	－	－
権利確定	－	－	－	－
未確定残	－	－	－	－
権利確定後（株）				
前連結会計年度末	32,800	32,090	32,860	32,740
権利確定	－	－	－	－
権利行使	3,470	4,180	3,800	4,020
失効	－	－	－	－
未行使残	29,330	27,910	29,060	28,720

	第5回新株予約権	第6回新株予約権
権利確定前（株）		
前連結会計年度末	－	－
付与	－	75,960
失効	－	－
権利確定	－	75,960
未確定残	－	－
権利確定後（株）		
前連結会計年度末	103,570	－
権利確定	－	75,960
権利行使	12,610	490
失効	－	680
未行使残	90,960	74,790

（注）2016年10月1日付株式併合（10株につき1株の割合）による併合後の株式数に換算して記載しております。
②単価情報

	第1回新株予約権	第2回新株予約権	第3回新株予約権	第4回新株予約権
権利行使価格（円）	1	1	1	1
行使時平均株価（円）	1,755	1,755	1,755	1,755
付与日における公正な評価単価（円）	1,080	1,820	2,010	2,650

	第5回新株予約権	第6回新株予約権
権利行使価格（円）	1	1
行使時平均株価（円）	1,755	1,450
付与日における公正な評価単価（円）	1,170	1,717

（注）2016年10月1日付株式併合（10株につき1株の割合）による影響を反映した金額を記載しております。
3．ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法
当連結会計年度において付与された第6回新株予約権についての公正な評価単価の見積方法は以下のとおりであります。
①使用した評価技法　ブラック・ショールズ式
②主な基礎数値及び見積方法

	第6回新株予約権
株価変動性（注）1	35.866%
予想残存期間（注）2	2年2カ月
予想配当（注）3	44.00円／株
無リスク利子率（注）4	△0.099%

（注）1．予想残存期間（2年2カ月）に対応する期間（2015年5月から2017年7月まで）の株価実績に基づき算定しております。
2．過去の役員データにより、平均的な退任時期を見積もっております。
3．2017年3月期の配当実績によっております。
4．予想残存期間に対応する期間の国債の利回りであります。
4．ストック・オプションの権利確定数の見積方法
将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

10. 税効果会計関係
1．繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金損金算入限度超過額	23,914百万円
減価償却損金算入限度超過額	850百万円
退職給付に係る負債	11,953百万円
有価証券評価損否認額	12,461百万円
その他	6,180百万円
繰越欠損金	69百万円
繰延税金資産小計	55,430百万円
評価性引当額	△26,401百万円
繰延税金資産合計	29,029百万円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	40,428百万円
合併引継土地	2,765百万円
その他	2,931百万円
繰延税金負債合計	46,125百万円
繰延税金資産の純額	△17,096百万円

2．連結財務諸表提出会社の法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳
法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

11. 1株当たり情報

	2017年度
1株当たり純資産額	4,215円92銭
1株当たり当期純利益	149円40銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	149円10銭

（注）1．1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、次のとおりであります。

1株当たり当期純利益	
親会社株主に帰属する当期純利益	21,191百万円
普通株主に帰属しない金額	1,611百万円
うち定時株主総会決議による優先配当額	805百万円
うち中間優先配当額	805百万円
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益	19,579百万円
普通株式の期中平均株式数	131,049千株
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	
親会社株主に帰属する当期純利益調整額	－百万円
普通株式増加数	266千株
うち新株予約権	266千株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	－

2．1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

純資産の部の合計額	610,147百万円
純資産の部の合計額から控除する金額	57,636百万円
うち新株予約権	451百万円
うち非支配株主持分	2,664百万円
うち優先株式発行金額	53,714百万円
うち優先配当額	805百万円
普通株式に係る期末の純資産額	552,510百万円
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数	131,053千株

12. 重要な後発事象
該当事項はありません。

セグメント情報・損益の状況（連結）

セグメント情報

（単位：百万円）

1．報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、当社の取締役会や経営会議が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、銀行持株会社である当社を中心に、銀行業を核とした総合的な金融サービスを提供しております。

当社は、連結子会社単位を事業セグメントとして認識し、「北陸銀行」及び「北海道銀行」を報告セグメントとしております。

2．報告セグメントごとの経常収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。事業セグメントの利益は当期純利益であります。セグメント間の内部経常収益は、外部顧客に対する経常収益と同一の決定方法による取引価格に基づいた金額であります。

3．報告セグメントごとの経常収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

2016年度

	報告セグメント			その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
	北陸銀行	北海道銀行	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	92,072	78,220	170,292	18,849	189,141	△1,721	187,420
セグメント間の内部経常収益	923	754	1,678	4,485	6,163	△6,163	－
計	92,995	78,974	171,970	23,334	195,304	△7,884	187,420
セグメント利益	18,732	10,943	29,675	2,193	31,868	△3,711	28,157
セグメント資産	7,329,338	5,051,619	12,380,957	88,167	12,469,124	△39,698	12,429,425
セグメント負債	6,991,212	4,841,517	11,832,730	66,359	11,899,089	△54,901	11,844,188
その他の項目							
減価償却費	3,357	2,273	5,631	261	5,893	△11	5,881
のれんの償却額	－	－	－	－	－	2,943	2,943
資金運用収益	68,115	54,293	122,408	334	122,743	△1,956	120,786
資金調達費用	5,311	909	6,221	464	6,685	△441	6,243
持分法投資利益	－	－	－	－	－	6	6
特別利益	104	0	104	－	104	－	104
固定資産処分益	104	0	104	－	104	－	104
退職給付信託設定益	－	－	－	－	－	－	－
特別損失	822	207	1,030	－	1,030	－	1,030
固定資産処分損	323	95	419	－	419	－	419
減損損失	498	112	610	－	610	－	610
税金費用	5,403	4,229	9,632	784	10,417	△56	10,360
持分法適用会社への投資額	－	29	29	92	122	170	292
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	6,405	3,184	9,590	408	9,999	15	10,015

（注）1．一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。
2．「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、証券業・リース業・クレジットカード業等を営む、銀行以外の連結子会社であります。
3．調整額は、次のとおりであります。
（1）外部顧客に対する経常収益の調整額△1,721百万円は、連結に伴う勘定科目の組替による調整額△1,624百万円、事業セグメントに配分していない経常収益及びパーチェス法による経常収益調整額△96百万円であります。
（2）セグメント利益の調整額△3,711百万円には、セグメント間取引消去△601百万円、のれん償却額△2,943百万円、パーチェス法による利益調整額△134百万円、持分法投資利益6百万円、非支配株主に帰属する当期純利益△34百万円及び事業セグメントに配分していない費用△3百万円が含まれております。
（3）セグメント資産の調整額△39,698百万円、セグメント負債の調整額△54,901百万円、資金運用収益の調整額△1,956百万円及び資金調達費用の調整額△441百万円は、セグメントに配分していないものの額及びセグメント間相殺消去額であります。
（4）減価償却費の調整額△11百万円は、セグメントに配分していない減価償却費及び連結上「その他の有形固定資産」となるリース投資資産に係る減価償却費であります。
（5）のれんの償却額の調整額2,943百万円は、北海道銀行の経営統合時に発生した連結上ののれん及びほくほくＴＴ証券の株式取得に伴い発生したのれんの償却額であります。
（6）持分法投資利益の調整額6百万円は、持分法投資利益全額であります。
（7）税金費用の調整額△56百万円は、セグメントに配分していない税金費用及び連結上の法人税等調整額であります。
（8）持分法適用会社への投資額の調整額170百万円は、セグメントに配分していない持分法適用会社への投資額及び持分法投資損益額であります。
（9）有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額15百万円は、連結上「その他の有形固定資産」となるリース投資資産に係る投資額及びセグメントに配分していない有形固定資産及び無形固定資産の増加額であります。
4．セグメント利益は、連結損益計算書の親会社株主に帰属する当期純利益と調整を行っております。

2017年度

	報告セグメント			その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
	北陸銀行	北海道銀行	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	90,102	77,012	167,115	20,359	187,475	△6,558	180,916
セグメント間の内部経常収益	1,037	1,209	2,246	4,512	6,759	△6,759	–
計	91,139	78,222	169,361	24,872	194,234	△13,317	180,916
セグメント利益	15,772	8,265	24,037	1,816	25,854	△4,663	21,191
セグメント資産	7,732,938	5,220,060	12,952,999	93,102	13,046,101	△49,808	12,996,292
セグメント負債	7,377,520	5,000,588	12,378,109	70,016	12,448,125	△61,980	12,386,145
その他の項目							
減価償却費	3,853	2,599	6,452	324	6,776	△0	6,776
のれんの償却額	–	–	–	–	–	2,102	2,102
資金運用収益	66,465	52,319	118,785	348	119,133	△5,474	113,659
資金調達費用	5,309	963	6,272	467	6,740	△421	6,318
持分法投資利益	–	–	–	–	–	13	13
特別利益	91	2,518	2,610	–	2,610	△1,118	1,491
固定資産処分益	91	14	105	–	105	△13	92
退職給付信託設定益	–	2,504	2,504	–	2,504	△1,105	1,398
特別損失	1,990	282	2,272	1	2,274	△28	2,246
固定資産処分損	114	134	249	–	249	0	249
減損損失	1,875	148	2,023	0	2,023	△28	1,995
税金費用	6,490	2,965	9,456	840	10,297	△616	9,681
持分法適用会社への投資額	–	29	29	92	122	217	339
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	6,741	3,927	10,668	273	10,942	12	10,955

（注）1. 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。
2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、証券業・リース業・クレジットカード業等を営む、銀行以外の連結子会社であります。
3. 調整額は、次のとおりであります。
(1) 外部顧客に対する経常収益の調整額△6,558百万円は、連結に伴う勘定科目の組替による調整額△6,059百万円、事業セグメントに配分していない経常収益及びパーチェス法による経常収益調整額△499百万円であります。
(2) セグメント利益の調整額△4,663百万円には、セグメント間取引消去△995百万円、のれん償却額△2,102百万円、パーチェス法による利益調整額△1,409百万円、持分法投資利益13百万円、非支配株主に帰属する当期純利益△165百万円及び事業セグメントに配分していない費用△4百万円が含まれております。
(3) セグメント資産の調整額△49,808百万円、セグメント負債の調整額△61,980百万円及び資金調達費用の調整額△421百万円は、セグメントに配分していないものの額及びセグメント間相殺消去額であります。
(4) 減価償却費の調整額△0百万円は、セグメントに配分していない減価償却費及び連結上「その他の有形固定資産」となるリース投資資産に係る減価償却費であります。
(5) のれんの償却額の調整額2,102百万円は、北海道銀行の経営統合時に発生した連結上ののれんの償却額であります。
(6) 資金運用収益の調整額△5,474百万円は、連結に伴う勘定科目の組替による調整額△4,028百万円及びセグメントに配分していないものの額及びセグメント間相殺消去額△1,445百万円であります。
(7) 持分法投資利益の調整額13百万円は、持分法投資利益全額であります。
(8) 固定資産処分益の調整額△13百万円、退職給付信託設定益の調整額△1,105百万円、固定資産処分損の調整額0百万円及び減損損失の調整額△28百万円は、パーチェス法による調整額であります。
(9) 税金費用の調整額△616百万円は、セグメントに配分していない税金費用及び連結上の法人税等調整額であります。
(10) 持分法適用会社への投資額の調整額217百万円は、セグメントに配分していない持分法適用会社への投資額及び持分法投資損益額であります。
(11) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額12百万円は、連結上「その他の有形固定資産」となるリース投資資産に係る投資額及びセグメントに配分していない有形固定資産及び無形固定資産の増加額であります。
4. セグメント利益は、連結損益計算書の親会社株主に帰属する当期純利益と調整を行っております。

関連情報

（単位：百万円）

2016年度

1．サービスごとの情報

	預金貸出業務	有価証券投資業務	その他	合計
外部顧客に対する経常収益	105,420	40,630	41,369	187,420

（注）一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2．地域ごとの情報

(1) 経常収益

当社グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が連結損益計算書の経常収益の90％を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

当社グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90％を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で連結損益計算書の経常収益の10％以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

2017年度

1．サービスごとの情報

	預金貸出業務	有価証券投資業務	その他	合計
外部顧客に対する経常収益	102,547	37,241	41,127	180,916

（注）一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2．地域ごとの情報

(1) 経常収益

当社グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が連結損益計算書の経常収益の90％を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

当社グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90％を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で連結損益計算書の経常収益の10％以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

報告セグメントごとののれんの未償却残高に関する情報

（単位：百万円）

2016年度

	報告セグメント			その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
	北陸銀行	北海道銀行	計				
未償却残高	－	－	－	－	－	15,591	15,591

（注）調整額は、北海道銀行の経営統合時に発生した連結上ののれんであります。

2017年度

	報告セグメント			その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
	北陸銀行	北海道銀行	計				
未償却残高	－	－	－	－	－	13,489	13,489

（注）調整額は、北海道銀行の経営統合時に発生した連結上ののれんであります。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

（単位：百万円）

該当事項はありません。

資金運用収支

（単位：百万円、％）

		2016年度			2017年度		
		平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り
国内業務部門	**資金運用勘定**	**10,819,380**	**111,705**	**1.03**	**10,916,773**	**105,582**	**0.96**
	うち貸出金	7,621,163	92,184	1.20	7,915,372	89,315	1.12
	うち有価証券	2,018,885	17,942	0.88	1,762,823	15,036	0.85
	うち預け金等	838,397	903	0.10	986,614	885	0.08
	資金調達勘定	**10,945,903**	**2,454**	**0.02**	**11,403,337**	**1,874**	**0.01**
	うち預金	10,318,478	1,354	0.01	10,692,633	1,091	0.01
	うち譲渡性預金	233,829	62	0.02	207,196	28	0.01
	うち債券貸借取引受入担保金	143,396	14	0.01	131,715	14	0.01
	うち借用金等	226,885	374	0.16	354,432	151	0.04
	資金運用収支	―――	**109,250**	―――	―――	**103,707**	―――
国際業務部門	**資金運用勘定**	**540,801**	**9,166**	**1.69**	**439,428**	**8,119**	**1.84**
	うち貸出金	44,922	756	1.68	30,150	616	2.04
	うち有価証券	362,982	7,232	1.99	314,843	6,479	2.05
	うち預け金等	116,694	1,102	0.94	67,480	931	1.38
	資金調達勘定	**536,265**	**3,872**	**0.72**	**439,990**	**4,485**	**1.01**
	うち預金	76,999	421	0.54	62,552	387	0.61
	うち譲渡性預金	–	–	–	**–**	**–**	**–**
	うち債券貸借取引受入担保金	160,253	1,469	0.91	176,002	2,004	1.13
	うち借用金等	25,875	312	1.20	20,216	307	1.52
	資金運用収支	―――	**5,293**	―――	―――	**3,634**	―――
合　計		―――	**114,543**	―――	―――	**107,342**	―――

（注）1. 預け金等にはコールローンを含んでおります。
2. 借用金等にはコールマネーを含んでおります。

役務取引等収支

（単位：百万円）

		2016年度	2017年度
国内業務部門	**役務取引等収益**	**37,744**	**38,488**
	うち預金・貸出業務	12,425	12,554
	うち為替業務	10,059	10,005
	うち証券関連業務	4,614	5,290
	役務取引等費用	**14,011**	**15,218**
	うち為替業務	1,672	1,674
	役務取引等収支	**23,733**	**23,269**
国際業務部門	**役務取引等収益**	**476**	**467**
	うち預金・貸出業務	**–**	**–**
	うち為替業務	464	458
	うち証券関連業務	**–**	**–**
	役務取引等費用	**183**	**177**
	うち為替業務	183	177
	役務取引等収支	**293**	**290**
合　計		**24,026**	**23,560**

貸出業務・証券業務（連結）

業種別貸出状況

（単位：百万円、%）

	2016年度末		2017年度末	
	貸出金残高	構成比	貸出金残高	構成比
国内（除く特別国際金融取引勘定分）	**7,771,338**	**100.00**	**8,172,888**	**100.00**
製造業	798,286	10.27	809,345	9.90
農業,林業	30,672	0.39	28,453	0.35
漁業	2,513	0.03	2,593	0.03
鉱業,採石業,砂利採取業	4,530	0.06	4,572	0.05
建設業	277,815	3.57	273,542	3.35
電気・ガス・熱供給・水道業	125,133	1.61	145,173	1.78
情報通信業	56,186	0.72	57,736	0.71
運輸業,郵便業	185,535	2.39	185,569	2.27
卸売業,小売業	764,547	9.84	777,933	9.52
金融業,保険業	344,106	4.43	326,148	3.99
不動産業,物品賃貸業	755,982	9.73	825,515	10.10
各種サービス業	591,525	7.61	606,398	7.42
地方公共団体等	1,545,351	19.89	1,758,735	21.52
その他	2,289,155	29.46	2,371,175	29.01
特別国際金融取引勘定分	–	–	**–**	**–**
合　計	**7,771,338**	———	**8,172,888**	———

リスク管理債権額

（単位：百万円）

区　分	2016年度末	2017年度末
破綻先債権額	4,099	3,746
延滞債権額	134,625	125,692
3ヵ月以上延滞債権額	295	261
貸出条件緩和債権額	18,316	18,967
合　計	**157,336**	**148,667**

有価証券残高

（単位：百万円、%）

種　類		2016年度末		2017年度末	
		期末残高	構成比	期末残高	構成比
国内業務部門	国　債	905,920	44.14	727,648	42.15
	地方債	329,301	16.05	317,286	18.38
	社　債	308,378	15.03	301,653	17.47
	株　式	244,460	11.91	255,353	14.79
	その他の証券	264,122	12.87	124,497	7.21
	合　計	**2,052,183**	**100.00**	**1,726,439**	**100.00**
国際業務部門	外国債券	395,441	99.54	224,227	98.97
	外国株式	1,830	0.46	2,332	1.03
	合　計	**397,272**	**100.00**	**226,560**	**100.00**

有価証券・金銭の信託の時価等情報（連結）

有価証券の時価等情報

（単位：百万円）

1. 連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「特定取引資産」中の商品有価証券、「現金預け金」中の譲渡性預け金、及び「買入金銭債権」中の信託受益権等を含めて記載しております。
2. 「子会社株式及び関連会社株式」については、財務諸表における注記事項として記載しております。

1．売買目的有価証券

	2016年度末	2017年度末
	2016年度の損益に含まれた評価差額	2017年度の損益に含まれた評価差額
売買目的有価証券	△1	△17

2．満期保有目的の債券

	種類	2016年度末			2017年度末		
		連結貸借対照表計上額	時価	差額	連結貸借対照表計上額	時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	国債	68,059	78,929	10,869	67,047	78,049	11,002
	地方債	1,500	1,506	6	1,500	1,510	10
	社債	107,137	108,054	916	116,783	117,701	917
	小計	**176,696**	**188,489**	**11,792**	**185,331**	**197,262**	**11,930**
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	国債	－	－	－	－	－	－
	地方債	－	－	－	－	－	－
	社債	21,397	21,328	△68	21,418	21,361	△56
	小計	**21,397**	**21,328**	**△68**	**21,418**	**21,361**	**△56**
合計		**198,094**	**209,818**	**11,723**	**206,749**	**218,623**	**11,874**

3．その他有価証券

	種類	2016年度末			2017年度末		
		連結貸借対照表計上額	取得原価	差額	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	184,247	91,727	92,519	183,322	75,825	107,496
	債券	1,256,619	1,228,645	27,974	1,050,809	1,031,119	19,689
	国債	813,790	794,335	19,454	660,600	647,183	13,417
	地方債	295,442	290,368	5,073	252,575	249,200	3,375
	社債	147,387	143,940	3,446	137,633	134,736	2,897
	その他	177,269	168,171	9,097	127,398	119,689	7,708
	外国証券	79,085	76,838	2,246	46,013	43,232	2,780
	その他	98,184	91,332	6,851	81,384	76,457	4,927
	小計	**1,618,136**	**1,488,545**	**129,591**	**1,361,530**	**1,226,635**	**134,895**
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	32,262	34,397	△2,134	44,902	50,617	△5,715
	債券	88,886	89,322	△435	89,029	89,286	△257
	国債	24,071	24,090	△19	0	0	△0
	地方債	32,358	32,477	△119	63,210	63,316	△105
	社債	32,456	32,753	△297	25,818	25,969	△151
	その他	538,920	557,823	△18,903	267,833	275,139	△7,306
	外国証券	318,186	326,466	△8,280	180,546	184,092	△3,546
	その他	220,733	231,356	△10,623	87,287	91,047	△3,759
	小計	**660,069**	**681,543**	**△21,473**	**401,765**	**415,044**	**△13,278**
合計		**2,278,206**	**2,170,088**	**108,118**	**1,763,296**	**1,641,679**	**121,616**

4．期中に売却したその他有価証券

	2016年度			2017年度		
	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	121,469	7,835	4,734	117,143	7,813	2,084
債券	163,498	173	393	43,579	27	147
国債	163,329	172	393	39,044	1	147
地方債	－	－	－	4,153	23	－
社債	168	1	－	381	2	－
その他	238,514	2,483	6,077	363,147	1,511	6,978
外国証券	158,390	321	5,986	271,849	986	6,579
その他	80,123	2,161	91	91,297	524	398
合計	**523,482**	**10,492**	**11,206**	**523,869**	**9,352**	**9,211**

5．保有目的を変更した有価証券
該当事項はありません。

6．減損処理を行った有価証券
売買目的有価証券以外の有価証券（時価を把握することが極めて困難なものを除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって連結貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当該連結会計年度の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。
前連結会計年度における減損処理額は、96百万円（株式1百万円、その他94百万円）であります。
当連結会計年度における減損処理額は、197百万円（全額社債）であります。
また、「減損処理」は、資産の自己査定における有価証券の発行会社の区分ごとに次のとおり実施しております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先、要注意先	株式は時価が取得原価に比べ下落、債券は時価が取得原価に比べ30％超下落
正常先	時価が取得原価の50％以上下落、又は、時価が取得原価の30％超50％未満下落かつ市場価格が一定水準以下で推移等

なお、要注意先とは今後管理に注意を要する債務者であり、正常先とは、破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の債務者であります。

金銭の信託の時価等情報
（単位：百万円）

1．運用目的の金銭の信託

	2016年度末		2017年度末	
	連結貸借対照表計上額	2016年度の損益に含まれた評価差額	連結貸借対照表計上額	2017年度の損益に含まれた評価差額
運用目的の金銭の信託	9,251	18	9,491	11

2．満期保有目的の金銭の信託
該当事項はありません。

3．その他の金銭の信託（運用目的及び満期保有目的以外）

	2016年度末		2017年度末	
	連結貸借対照表計上額	2016年度の損益に含まれた評価差額	連結貸借対照表計上額	2017年度の損益に含まれた評価差額
その他の金銭の信託	750	－	1,750	－

その他有価証券評価差額金
（単位：百万円）

連結貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

	2016年度末	2017年度末
評価差額	108,118	121,616
その他有価証券	108,118	121,616
その他の金銭の信託	－	－
（＋）繰延税金資産（又は（△）繰延税金負債）	△26,744	△31,492
その他有価証券評価差額金（持分相当額調整前）	81,373	90,124
（△）非支配株主持分相当額	114	140
（＋）持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	147	180
その他有価証券評価差額金	81,406	90,163

自己資本の充実の状況（連結）

銀行法施行規則（1982年大蔵省令第10号）第19条の2第1項第5号ニ等の規定に基づき、自己資本の充実の状況等について金融庁長官が別に定める事項（自己資本比率規制の第3の柱（市場規律））として、事業年度の開示事項を、以下のとおり、開示しております。

自己資本比率は、銀行法第52条の25の規定に基づき、銀行持株会社が銀行持株会社及びその子会社の保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（2006年金融庁告示第20号。以下「持株自己資本比率告示」又は「告示」という。）に定められた算式に基づき、算出しております。

国内基準を適用のうえ信用リスク・アセットの算出においては標準的手法（注）を採用しております。また、オペレーショナル・リスク相当額の算出においては、粗利益配分手法を採用しております。

（注）標準的手法とは、あらかじめ監督当局が設定したリスク・ウェイトを使用して信用リスク・アセットを算出する手法のことです。

自己資本の構成及び自己資本比率（連結）

（単位：百万円）

項　目	2016年度	経過措置による不算入額	2017年度	経過措置による不算入額
コア資本に係る基礎項目				
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	438,693		452,890	
うち、資本金及び資本剰余金の額	161,766		161,769	
うち、利益剰余金の額	284,896		299,060	
うち、自己株式の額（△）	1,397		1,366	
うち、社外流出予定額（△）	6,571		6,572	
うち、上記以外に該当するものの額	－		－	
コア資本に算入されるその他の包括利益累計額	△3,463		△3,181	
うち、為替換算調整勘定	－		－	
うち、退職給付に係るものの額	△3,463		△3,181	
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	367		451	
コア資本に係る調整後非支配株主持分の額	78		101	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	14,649		15,016	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	14,649		15,016	
うち、適格引当金コア資本算入額	－		－	
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	53,716		53,716	
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	40,000		40,000	
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	－		－	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	4,624		3,815	
非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	1,872		1,846	
コア資本に係る基礎項目の額　（イ）	550,537		564,655	
コア資本に係る調整項目				
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	19,237	2,430	19,587	1,524
うち、のれんに係るもの（のれん相当額を含む。）の額	15,591	－	13,489	－
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	3,645	2,430	6,098	1,524
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	10	6	18	4
適格引当金不足額	－	－	－	－
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	182	－	－	－
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	－	－	－	－
退職給付に係る資産の額	－	－	498	124
自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	9	6	2	0
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	－	－	－	－
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	－	－	－	－
特定項目に係る十パーセント基準超過額	－	－	－	－
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	－	－	－	－
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	－	－	－	－
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	－	－	－	－
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	－	－	－	－
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	－	－	－	－
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	－	－	－	－
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	－	－	－	－
コア資本に係る調整項目の額　（ロ）	19,439		20,107	
自己資本				
自己資本の額（（イ）－（ロ））　（ハ）	531,097		544,548	
リスク・アセット等				
信用リスク・アセットの額の合計額	5,358,815		5,474,065	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	15,123		14,784	
うち、無形固定資産（のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）	2,430		1,524	
うち、繰延税金資産	6		4	
うち、退職給付に係る資産	－		124	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△2,000		△1,000	
うち、上記以外に該当するものの額	14,685		14,131	
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	－		－	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	272,131		261,214	
信用リスク・アセット調整額	－		－	
オペレーショナル・リスク相当額調整額	－		－	
リスク・アセットの額の合計額　（ニ）	5,630,947		5,735,279	
連結自己資本比率				
連結自己資本比率（（ハ）／（ニ））	9.43%		9.49%	

【定性的な開示事項】

1．連結の範囲に関する事項

(1) 持株自己資本比率告示第15条の規定により連結自己資本比率を算出する対象となる会社の集団（以下「持株会社グループ」という。）に属する会社と会計連結範囲に含まれる会社との相違点及び当該相違点の生じた原因

・持株会社グループに属する会社と会計連結範囲に含まれる会社に相違点はありません。

(2) 持株会社グループのうち、連結子会社の数、名称及び主要な業務の内容

2017年3月末の持株会社グループに属する連結子会社は12社であります。

名　称	主要な業務の内容
株式会社北陸銀行	銀行業務
株式会社北海道銀行	銀行業務
ほくほくＴＴ証券株式会社	金融商品取引業
北銀リース株式会社	リース業務
株式会社北陸カード	クレジットカード業務
北陸保証サービス株式会社	信用保証業務
北銀ソフトウエア株式会社	ソフトウェア業務
ほくほく債権回収株式会社	サービサー業務
北銀ビジネスサービス株式会社	文書管理業務、事務集中処理業務等
道銀ビジネスサービス株式会社	文書管理業務、現金整理精算業務
道銀カード株式会社	クレジットカード業務、信用保証業務
株式会社道銀地域総合研究所	経済調査業務、受託調査・研究業務、コンサルティング業務

2018年3月末の持株会社グループに属する連結子会社は12社であります。

名　称	主要な業務の内容
株式会社北陸銀行	銀行業務
株式会社北海道銀行	銀行業務
ほくほくＴＴ証券株式会社	金融商品取引業
北銀リース株式会社	リース業務
株式会社北陸カード	クレジットカード業務
北陸保証サービス株式会社	信用保証業務
北銀ソフトウエア株式会社	ソフトウェア業務
ほくほく債権回収株式会社	サービサー業務
北銀ビジネスサービス株式会社	文書管理業務、事務集中処理業務等
道銀ビジネスサービス株式会社	文書管理業務、現金整理精算業務
道銀カード株式会社	クレジットカード業務、信用保証業務
株式会社道銀地域総合研究所	経済調査業務、受託調査・研究業務、コンサルティング業務

(3) 持株自己資本比率告示第21条が適用される金融業務を営む関連法人等の数並びに当該金融業務を営む関連法人等の名称、貸借対照表の総資産の額及び純資産の額並びに主要な業務の内容

当該金融業務を営む関連法人等はありません。

(4) 持株会社グループに属する会社であって会計連結範囲に含まれないもの及び持株会社グループに属しない会社であって会計連結範囲に含まれるものの名称、貸借対照表の総資産の額及び純資産の額並びに主要な業務の内容

・持株会社グループに属する会社であって会計連結範囲に含まれないもの

該当するものはありません。

・持株会社グループに属しない会社であって会計連結範囲に含まれるもの

該当するものはありません。

(5) 持株会社グループ内の資金及び自己資本の移動に係る制限等の概要

連結子会社全てにおいて、債務超過会社はなく、自己資本は充実しております。また、持株会社グループ内において自己資本にかかる支援は行っておりません。

2．自己資本調達手段（その額の全部又は一部が、持株自己資本比率告示第14条の算式におけるコア資本に係る基礎項目の額に含まれる資本調達手段をいう。）の概要

2017年3月末の自己資本調達の概要は以下のとおりです。

発行主体	当社	当社	当社
資本調達手段の種類	普通株式	第1回第5種優先株式	期限付劣後社債
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額	4,386億円	537億円	250億円
配当率又は利率	－	1株あたり7円50銭	0.75%
償還期限の有無	無	無	有
その日付	－	－	2023年10月23日まで
償還等を可能とする特約の概要			
初回償還可能日及びその償還金額	－	当社は、2005年3月31日以降いつでも、本優先株式1株につき500円で本優先株式の全部又は一部を取得することができる。一部取得の場合は抽選その他の方法により行うことができる。	2018年10月23日 250億円
償還特約の対象となる事由	－	－	5年経過
ステップ・アップ金利等に係る特約その他の償還等を行う蓋然性を高める特約の概要	－	－	契約時から5年を経過した後にステップ・アップ金利特約が付されております。

発行主体	北陸銀行	北海道銀行
資本調達手段の種類	劣後特約付借入金	劣後特約付借入金
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額	70億円	80億円
配当率又は利率	－	－
償還期限の有無	有	有
その日付	2024年3月28日から2024年3月29日まで	2024年3月26日から2024年3月31日まで
償還等を可能とする特約の概要		
初回償還可能日及びその償還金額	2019年3月28日 30億円	2019年3月26日 20億円
償還特約の対象となる事由	5年経過	5年経過
ステップ・アップ金利等に係る特約その他の償還等を行う蓋然性を高める特約の概要	契約時から5年を経過した後にステップ・アップ金利特約を付したものがあります。	契約時から5年を経過した後にステップ・アップ金利特約を付したものがあります。

2018年3月末の自己資本調達の概要は以下のとおりです。

発行主体	当社	当社	当社
資本調達手段の種類	普通株式	第1回第5種優先株式	期限付劣後社債
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額	4,528億円	537億円	250億円
配当率又は利率	—	1株あたり7円50銭	0.75%
償還期限の有無	無	無	有
その日付	—	—	2023年10月23日まで
償還等を可能とする特約の概要			
初回償還可能日及びその償還金額	—	当社は、2005年3月31日以降いつでも、本優先株式1株につき500円で本優先株式の全部又は一部を取得することができる。一部取得の場合は抽選その他の方法により行うことができる。	2018年10月23日 250億円
償還特約の対象となる事由	—	—	5年経過
ステップ・アップ金利等に係る特約その他の償還等を行う蓋然性を高める特約の概要	—	—	契約時から5年を経過した後にステップ・アップ金利特約が付されております。

発行主体	北陸銀行	北海道銀行
資本調達手段の種類	劣後特約付借入金	劣後特約付借入金
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額	70億円	80億円
配当率又は利率	—	—
償還期限の有無	有	有
その日付	2024年3月28日から2024年3月29日まで	2024年3月26日から2024年3月31日まで
償還等を可能とする特約の概要		
初回償還可能日及びその償還金額	2019年3月28日 30億円	2019年3月26日 20億円
償還特約の対象となる事由	5年経過	5年経過
ステップ・アップ金利等に係る特約その他の償還等を行う蓋然性を高める特約の概要	契約時から5年を経過した後にステップ・アップ金利特約を付したものがあります。	契約時から5年を経過した後にステップ・アップ金利特約を付したものがあります。

●以下の「3．持株会社グループの自己資本の充実度に関する評価方法の概要」から「10．金利リスクに関する事項」までの開示内容については、「7．証券化エクスポージャーに関する事項」を除いて2016年度、2017年度とも相違はありません。

3．持株会社グループの自己資本の充実度に関する評価方法の概要

当社では、自己資本比率の管理に加えて、当社及び銀行業を営む連結子会社（以下「子銀行」という。）においては銀行業務を行う上で被る可能性のある各種のリスクを把握・管理することで、自己資本充実度の評価を行っております。

自己資本充実度を評価する主要な方法としては、「リスク資本配賦」による経営管理の枠組み構築を進めており、業務上抱える「信用リスク」「市場リスク」「オペレーショナル・リスク」等様々なリスクにかかる最大損失額を計量化等により見積もり、リスクがすべて発現した場合でも一定の自己資本比率を確保できるよう一定限度内にリスク量が収まっていることを定期的にモニタリングしております。

このほか、一定の金利ショックが起こった場合の影響額試算や、与信集中に係るストレステスト等も実施しております。

なお、子銀行以外の連結子会社については、主として連結自己資本比率の管理を通じて自己資本の充実度の評価を行っております。

4．信用リスクに関する事項

(1) リスク管理の方針及び手続の概要

信用リスクとは、お取引先の経営状態の悪化などにより貸出金などの元本・利息が回収できなくなるリスクです。

当社及び子銀行では、信用リスクの適切な管理・運営を行うことにより経営の健全性の確保と収益力の向上に努める基本方針のもと、「信用リスク管理規定」等各種規定類を制定し、業務推進部門と信用リスク管理部門の分離による内部牽制機能の確保、「クレジットポリシー」に基づく厳正な審査と信用格付の付与、与信集中リスク管理のための与信限度ラインの設定等による個別管理、自己査定や信用リスク量の計測ならびに取締役会への報告等を実施しております。

また、貸倒引当金につきましては、予め定めている償却・引当基準に則り次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。

また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で非保全額又は与信額が一定金額以上の大口債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、2013年度より、当該キャッシュ・フローを貸出条件緩和実施前の約定利子率で割り引いた金額と債権の帳簿価額の差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）により計上しております。

上記以外の債権については、一定の種類ごとに分類し、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

子銀行以外の連結子会社においても、当社の信用リスク管理方針のもと同様に資産の自己査定を行い、必要な額を計上しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しております。

(2) リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関

当社及び連結子会社では、リスク・ウェイトの判定にあたり、内部管理との整合性を考慮し、次のとおりエクスポージャーの区分毎に適格格付機関によって付された外部格付を使用しております。

証券化エクスポージャー	日本格付研究所（JCR） 格付投資情報センター（R&I） ムーディーズ（Moody's） S&Pグローバル・レーティング
上記以外のエクスポージャー	日本格付研究所（JCR） 格付投資情報センター（R&I）

5．信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

信用リスク削減手法とは、当社及び連結子会社が抱える信用リスクを軽減するための措置であり、担保、保証、貸出金と預金の相殺、クレジット・デリバティブが該当いたします。

信用リスク削減手法の適用にあたっては、与信関連諸規定に基づき、経済情勢の変化や経営悪化等に備えて貸出金等を保全するための補完的な手段として、合理的な範囲での適切な取り扱いに努めております。

当社及び連結子会社が取り扱う担保、保証の主要な種類は次のとおりであり、それぞれ与信関連諸規定に基づき適切に事務管理を行うとともに年1回以上の定期的な評価替え（住宅ローンを除く）を実施しております。

担保の種類	預金、有価証券、商品、商業手形、不動産等
保証の種類	一般保証、信用保証協会保証等

(注) クレジット・デリバティブについては取り扱い実績はありません。

持株自己資本比率告示に定められている信用リスク削減手法としては、上記の担保の種類のうち適格金融資産担保として各子銀行の自行預金等を対象としております。また、保証としては上記の保証の種類のうち中央政府、地方公共団体、政府関係機関および信用保証協会による保証をその対象として取り扱っており、信用度の評価については、政府保証と同等又はそれに準じた水準と評価しております。

また、貸出金については、持株自己資本比率告示第95条に基づいて、「銀行取引約定書」等に定める相殺要件を充足する貸出金と自行定期性預金の相殺効果を勘案しております。

このほか担保付で行う証券の貸借取引等のレポ形式の取引については、法的な有効性を個別取引毎に確認できたものについて相対ネッティング契約による信用リスク削減効果を勘案しております。

信用リスク削減手法の適用に伴う信用リスクは、同一業種に偏ることのないように努めております。

6．派生商品取引の取引相手のリスクに関するリスク管理方針及び手続の概要

派生商品取引（デリバティブ取引）にかかる信用リスクについては、その他の与信とオン・バランス、オフ・バランス合算して管理するとともに、担保等の保全についても与信合計との対比で適切に保全措置を講じております。

貸倒引当金については、必要に応じて予め定めている償却・引当基準に則り引当しております。

対金融機関との派生商品取引において、ISDA Credit Support Annex（CSA）契約を締結する担保付取引については、当社及び子銀行の格付低下等の信用力低下によって追加的に取引相手に担保提供する義務が生じるものがあります。

なお、子銀行以外の連結子会社において派生商品取引の取り扱いはありません。

7．証券化エクスポージャーに関する事項

(1) リスク管理の方針及びリスク特性の概要

証券化エクスポージャーに内在するリスクとしては、信用リスク、金利リスク等の市場リスク、流動性リスク等があります。

子銀行が投資家として保有する証券化エクスポージャーについては、証券化によるリスク移転の程度およびリスクの種類等を的確に把握し、経営体力と対比して過大なリスクテイクを行わない基本方針のもと、予め定めている基準に則り、スキームの特性や債務償還見通しを個別に検討・評価のうえ、投融資にかかる限度枠等の範囲で取り扱う態勢としております。なお、再証券化取引の取り扱いはありません。

子銀行がオリジネーターとなる証券化については、2017年度において住宅ローンの証券化を終了しております。

また、子銀行はアレンジャー兼サービサーとして、お取引先が行う売掛債権等の証券化取引に関与しております。

(2) 体制の整備及びその運用状況の概要

子銀行が保有する証券化エクスポージャーについては、外部格付の利用に関する基準を定め、証券化エクスポージャーと裏付資産プールのリスク特性、裏付資産のパフォーマンスに係る情報および証券化エクスポージャーのパフォーマンスに重大な影響を及ぼし得る構造上の特性等について、定期的にモニタリングし、リスク評価に反映させる体制を整備しております。

なお、信用リスク削減手法として用いている証券化取引はありません。

(3) 信用リスク・アセットの額の算出に使用する方式

子銀行が投資家として保有する証券化エクスポージャーについては、外部格付を使用して持株自己資本比率告示第227条に定めるリスク・ウェイトを適用しております。

また、子銀行がアレンジャー兼サービサーとしてお取引先の売掛債権等の証券化を行うに当たっては特別目的会社（SPC）等を用いており、子銀行は投資家として当該証券化エクスポージャーを保有し、オン・バランス取引として計上しております。

なお、子銀行が関与した証券化取引に係る証券化エクスポージャーの当社及び子銀行以外の子法人等での保有はありません。

(4) 証券化取引に関する会計方針

子銀行が投資家として保有する証券化エクスポージャーについては、それぞれの金融資産について金融商品会計基準に基づいた会計処理を行っております。

(5) リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関

子銀行は、証券化エクスポージャーのリスク・ウェイトの判定にあたっては、適格格付機関である日本格付研究所（JCR）、格付投資情報センター（R&I）、ムーディーズ（Moody's）、S&Pグローバル・レーティングの4社の格付を使用しております。

8．オペレーショナル・リスクに関する事項

(1) リスク管理の方針および手続の概要

当社及び連結子会社は、業務上抱える様々なリスクのうち、信用リスク、市場リスクおよび流動性リスクを除く全てのリスクを総称してオペレーショナル・リスク（以下「オペリスク」という。）と定義し、オペリスクの顕在化を防ぐために、全ての部署でオペリスク管理水準の向上に取り組み、特に当社及び子銀行の損益や業務に重大な影響が懸念されるオペリスクについては、損失の発生を可能な限り回避することを基本方針として管理態勢を整備しております。

オペリスクの管理にあたっては、「オペレーショナル・リスク管理規定」等の諸規定を制定し、オペリスクを以下のサブカテゴリーに区分したうえで、リスク管理グループが、当社及び連結子会社のオペリスク統括部署として、オペリスクの状況を適切に把握し、取締役会等へ報告することにより適切な措置がとられる体制としております。

≪オペリスクの区分≫

①事務リスク	⑤有形資産リスク
②システムリスク	⑥風評リスク
③法務リスク	⑦その他のリスク
④人的リスク	

(2) オペレーショナル・リスク相当額の算出に使用する手法の名称

当社及び連結子会社は、粗利益配分手法によりオペレーショナル・リスク相当額を算出しております。

9．出資等エクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要

出資その他これに類するエクスポージャーについては、上場株式、非上場株式、子会社・関連会社株式等が対象となります。

このうち上場株式等は、債券と比べて価格ボラティリティが高いため多額のリスク資本が必要となることに鑑み、当社及び子銀行では「市場リスク管理規定」等諸規定に基づいて、予め定めた投資方針ならびに保有限度枠の範囲で厳格に運用しており、リスク管理部門が評価損益及びVaR（バリュー・アット・リスク）等のリスク量を計測し経営陣へ報告する態勢としております。

また、株式等については、非上場株式も含め自己査定基準に則って定期的に自己査定を実施し、評価損が発生しているものについては回復可能性を判断のうえ、減損・引当処理を行っております。

なお、株式等の評価は、時価のある株式については決算期末前1カ月の市場価格の平均に基づく価格、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

株式等について、会計方針等を変更した場合は、財務諸表等規則第8条の3に基づき変更の理由や影響額について財務諸表の注記に記載することとしております。

子銀行以外の連結子会社の保有する株式についても、上記に準じて取り扱う体制としております。

10. 金利リスクに関する事項

(1) リスク管理の方針及び手続の概要

金利リスクとは、市場金利の変動により資産・負債の経済価値が変動し将来の期間損益に影響を与えるリスクであり、当社では以下の基本方針を基に、「金利リスク管理規定」等の諸規定を定めております。

①管理対象とする金利リスクを計量化し、資本配賦等の方法により、自己資本や収益力と対比して適正な水準となるように金利リスクをコントロールする。

②データの整備、リスク計測精度の向上、多面的なリスク分析等、金利リスク管理の高度化・精緻化に努める。

また、リスク管理グループは定期的に金利リスク量をモニタリングするとともにその結果を取締役会等に報告・協議し、必要な対応を講じる態勢としております。

(2) 内部管理上使用した金利リスクの算定方法の概要

当社及び子銀行の内部管理上の金利リスク管理は、バンキング勘定およびトレーディング勘定（特定取引勘定）で保有する全ての資産、負債およびオフ・バランス取引を対象としております。

金利リスクの管理にあたっては、月次でのVaR（バリュー・アット・リスク）、100BPV（ベーシス・ポイント・バリュー）の計測と収益シミュレーション等の複数手法を併用しリスクを計量化することにより、経済価値と期間損益の双方の観点から金利リスクの状況を適切に把握するよう努めております。

また、流動性預金の金利リスク算定にあたり、コア預金内部モデルを用いております。貸出金、預金等の期限前返済（解約）については、考慮しておりません。

なお、持株会社グループの金利リスク管理については、子銀行以外の連結子会社の金利リスクが限定的であることから、子銀行の金利リスク量を適切にコントロールすることにより持株会社グループの金利リスクを管理する体制としております。

【定量的な開示事項】（ほくほくフィナンシャルグループ連結）

その他金融機関等（持株自己資本比率告示第18条第6項第1号に規定するその他金融機関等をいう。）であって銀行の子法人等であるもののうち、自己資本比率規制上の所要自己資本を下回った会社の名称、所要自己資本を下回った額の総額

該当ありません。

自己資本の充実度に関する事項

信用リスクに対する所要自己資本の額（所要自己資本の額＝リスク・アセット×4%）

（単位：百万円）

【資産（オン・バランス）項目】	2016年度末 所要自己資本の額	2017年度末 所要自己資本の額
1. 現金	－	－
2. 我が国の中央政府及び中央銀行向け	－	－
3. 外国の中央政府及び中央銀行向け	4	4
4. 国際決済銀行等向け	－	－
5. 我が国の地方公共団体向け	－	－
6. 外国の中央政府等以外の公共部門向け	34	32
7. 国際開発銀行向け	－	－
8. 地方公共団体金融機構向け	123	37
9. 我が国の政府関係機関向け	783	555
10. 地方三公社向け	6	0
11. 金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	2,394	1,716
12. 法人等向け	94,754	98,600
13. 中小企業等向け及び個人向け	52,393	55,920
14. 抵当権付住宅ローン	8,995	8,257
15. 不動産取得等事業向け	24,469	28,195
16. 三月以上延滞等	582	467
17. 取立未済手形	－	－
18. 信用保証協会等による保証付	998	877
19. 株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	－	－
20. 出資等	7,958	8,110
（うち出資等のエクスポージャー）	7,958	8,110
（うち重要な出資のエクスポージャー）	－	－
21. 上記以外	8,558	8,853
（うち他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通株式等に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー）	1,890	1,690
（うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー）	1,906	2,159
（うち上記以外のエクスポージャー）	4,761	5,003
22. 証券化（オリジネーターの場合）	3,695	－
（うち再証券化）	－	－
23. 証券化（オリジネーター以外の場合）	1,016	978
（うち再証券化）	－	－
24. 複数の資産を裏付とする資産（所謂ファンド）のうち、個々の資産の把握が困難な資産	2,503	1,521
25. 経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	684	631
26. 他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	△80	△40
資産（オン・バランス）計 (A)	**209,875**	**214,719**
【オフ・バランス取引項目】		
1. 任意の時期に無条件で取消可能又は自動的に取消可能なコミットメント	－	－
2. 原契約期間が1年以下のコミットメント	231	273
3. 短期の貿易関連偶発債務	13	14
4. 特定の取引に係る偶発債務	521	465
（うち経過措置を適用する元本補填信託契約）	－	－
5. NIF又はRUF	－	－
6. 原契約期間が1年超のコミットメント	1,686	1,832
7. 内部格付手法におけるコミットメント	－	－
8. 信用供与に直接的に代替する偶発債務	903	915
（うち借入金の保証）	708	698
（うち有価証券の保証）	－	－
（うち手形引受）	1	0
（うち経過措置を適用しない元本補填信託契約）	－	－
（うちクレジット・デリバティブのプロテクション提供）	－	－
9. 買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等（控除後）	－	－
買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等（控除前）	－	－
控除額（△）	－	－
10. 先物購入、先渡預金、部分払込株式又は部分払込債券	－	－
11. 有価証券の貸付、現金若しくは有価証券による担保の提供又は有価証券の買戻条件付売却若しくは売戻条件付購入	231	158
12. 派生商品取引及び長期決済期間取引	447	324
カレント・エクスポージャー方式	447	324
派生商品取引	447	324
外為関連取引	183	144
金利関連取引	259	175
金関連取引	－	－
株式関連取引	－	－
貴金属（金を除く）関連取引	－	－
その他のコモディティ関連取引	5	3
クレジット・デリバティブ取引（カウンター・パーティー・リスク）	－	－
一括清算ネッティング契約による与信相当額削減効果（△）	－	－
長期決済期間取引	－	－
標準方式	―――	―――
期待エクスポージャー方式	―――	―――
13. 未決済取引	－	－
14. 証券化エクスポージャーに係る適格流動性補完及び適格なサービサー・キャッシュ・アドバンス	－	－
15. 上記以外のオフ・バランスの証券化エクスポージャー	－	－
オフ・バランス取引　計 (B)	**4,035**	**3,983**
【CVA リスク相当額】（標準的リスク測定方式） (C)	**439**	**258**
【中央清算機関関連エクスポージャー】 (D)	**0**	**0**
合　計 (E) ＝ (A+B+C+D)	**214,352**	**218,962**

オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額

（単位：百万円）

	2016年度末 所要自己資本の額	2017年度末 所要自己資本の額
粗利益配分手法 (F)	**10,885**	**10,448**

連結総所要自己資本額

（単位：百万円）

	2016年度末 所要自己資本の額	2017年度末 所要自己資本の額
連結総所要自己資本の額 (E+F)	**225,237**	**229,411**

信用リスクに関する事項

信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高

（単位：百万円）

	2016年度末				
	信用リスクエクスポージャー期末残高	貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引	債券	デリバティブ取引	三月以上延滞エクスポージャー
国内計	12,681,639	7,972,096	1,654,632	12,309	15,211
国外計	425,130	33,944	260,972	10,387	－
地域別合計	**13,106,769**	**8,006,040**	**1,915,604**	**22,696**	**15,211**
製造業	934,695	817,016	29,409	1,578	3,166
農業，林業	32,057	30,504	1,047	310	44
漁業	2,567	2,550	－	14	31
鉱業，採石業，砂利採取業	5,164	4,534	612	3	21
建設業	320,286	291,748	20,839	243	854
電気・ガス・熱供給・水道業	146,153	129,161	1,680	256	1
情報通信業	64,517	56,624	2,400	258	7
運輸業，郵便業	231,299	189,933	31,819	477	7
卸売業，小売業	837,777	775,067	39,715	1,415	1,329
金融業，保険業	1,937,399	503,326	222,468	7,662	16
不動産業、物品賃貸業	819,225	762,626	37,250	1,692	1,320
各種サービス業	651,813	605,501	25,588	1,792	1,733
地方公共団体等	4,082,696	1,545,351	1,229,363	－	－
個人	2,271,034	2,256,862	－	－	6,676
その他	770,079	35,228	273,410	6,992	－
業種別合計	**13,106,769**	**8,006,040**	**1,915,604**	**22,696**	**15,211**
1年以下	2,661,089	1,466,276	261,790	7,261	
1年超3年以下	1,444,037	813,604	614,631	6,583	
3年超5年以下	1,544,993	1,056,193	468,560	3,139	
5年超7年以下	864,518	697,469	162,776	2,723	
7年超10年以下	1,310,943	900,631	306,437	2,189	
10年超	2,683,881	2,571,376	101,277	801	
期間の定めのないもの	2,597,304	500,488	130	－	
残存期間別合計	**13,106,769**	**8,006,040**	**1,915,604**	**22,696**	

	2017年度末				
	信用リスクエクスポージャー期末残高	貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引	債券	デリバティブ取引	三月以上延滞エクスポージャー
国内計	13,177,203	8,274,053	1,401,632	8,961	12,531
国外計	283,045	29,461	153,129	8,245	－
地域別合計	**13,460,248**	**8,303,515**	**1,554,762**	**17,207**	**12,531**
製造業	957,217	828,326	32,358	1,045	868
農業，林業	31,407	28,646	2,413	150	161
漁業	2,741	2,628	100	11	11
鉱業，採石業，砂利採取業	5,366	4,652	704	－	19
建設業	320,218	287,293	24,788	155	650
電気・ガス・熱供給・水道業	167,893	151,198	1,680	166	33
情報通信業	66,085	57,973	2,731	184	6
運輸業，郵便業	235,073	190,883	34,493	341	48
卸売業，小売業	850,990	788,648	41,485	1,163	1,298
金融業，保険業	2,007,617	376,851	159,268	6,830	16
不動産業、物品賃貸業	876,737	832,130	28,201	1,285	1,434
各種サービス業	666,881	622,133	24,440	1,241	1,613
地方公共団体等	4,404,959	1,758,735	1,036,570	－	－
個人	2,357,921	2,343,391	－	－	6,369
その他	509,137	30,023	165,526	4,631	－
業種別合計	**13,460,248**	**8,303,515**	**1,554,762**	**17,207**	**12,531**
1年以下	3,399,664	1,774,035	199,513	9,378	
1年超3年以下	1,461,267	817,947	636,461	2,484	
3年超5年以下	1,394,715	1,047,225	338,674	2,024	
5年超7年以下	808,039	657,294	143,998	1,201	
7年超10年以下	1,017,884	874,611	135,312	2,093	
10年超	2,825,323	2,716,145	100,670	23	
期間の定めのないもの	2,553,353	416,254	130	－	
残存期間別合計	**13,460,248**	**8,303,515**	**1,554,762**	**17,207**	

（注）1. 国内／国外の区分はリスク所在地ベース、残存期間は最終期日ベース、オフ・バランス取引は与信相当額を記載しております。
2. 「その他」には業種別に分類することが困難なエクスポージャー及び非居住者向けのエクスポージャーを記載しております。
3. 「三月以上延滞エクスポージャー」には、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞しているエクスポージャー、又は引当金勘案前でリスク・ウェイトが150％であるエクスポージャーを記載しております。
4. 証券化エクスポージャー及び中央清算機関関連エクスポージャーを含みません。

一般貸倒引当金、個別貸倒引当金、特定海外債権引当勘定の期末残高及び期中増減額

（単位：百万円）

	2016年度				2017年度			
	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
一般貸倒引当金	15,238	13,206	15,238	13,206	13,206	13,682	13,206	13,682
個別貸倒引当金	39,686	38,518	39,686	38,518	38,518	34,731	38,518	34,731
特定海外債権引当勘定	–	–	–	–	–	–	–	–
合　計	**54,925**	**51,725**	**54,925**	**51,725**	**51,725**	**48,413**	**51,725**	**48,413**

個別貸倒引当金の業種別残高及び期中増減額

（単位：百万円）

	2016年度				2017年度			
	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
製造業	7,790	5,516	7,790	5,516	5,516	4,819	5,516	4,819
農業，林業	110	127	110	127	127	182	127	182
漁業	38	30	38	30	30	26	30	26
鉱業，採石業，砂利採取業	7	8	7	8	8	7	8	7
建設業	5,439	5,651	5,439	5,651	5,651	4,259	5,651	4,259
電気・ガス・熱供給・水道業	424	421	424	421	421	417	421	417
情報通信業	468	449	468	449	449	428	449	428
運輸業，郵便業	251	290	251	290	290	255	290	255
卸売業，小売業	7,299	8,227	7,299	8,227	8,227	7,861	8,227	7,861
金融業，保険業	108	53	108	53	53	36	53	36
不動産業，物品賃貸業	7,310	7,101	7,310	7,101	7,101	6,484	7,101	6,484
各種サービス業	8,069	8,582	8,069	8,582	8,582	7,933	8,582	7,933
地方公共団体等	–	–	–	–	–	–	–	–
個人	2,228	1,927	2,228	1,927	1,927	1,892	1,927	1,892
その他	138	129	138	129	129	125	129	125
業種別合計	**39,686**	**38,518**	**39,686**	38,518	**38,518**	**34,731**	**38,518**	34,731

（注）上記はすべて国内向けエクスポージャーに対するものであります。

業種別の貸出金償却の額

（単位：百万円）

	2016年度	2017年度
	貸出金償却額	貸出金償却額
製造業	–	8
農業，林業	–	–
漁業	–	–
鉱業，採石業，砂利採取業	–	–
建設業	4	27
電気・ガス・熱供給・水道業	–	–
情報通信業	–	–
運輸業，郵便業	–	–
卸売業，小売業	93	16
金融業，保険業	–	–
不動産業，物品賃貸業	1	11
各種サービス業	22	39
地方公共団体等	–	–
個人	407	357
その他	–	–
業種別合計	**529**	**460**

リスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果を勘案した後の残高

（単位：百万円）

	2016年度末		2017年度末	
	エクスポージャーの額（注）		エクスポージャーの額（注）	
	格付あり	格付なし	格付あり	格付なし
0%	209,385	4,755,747	110,932	5,391,286
10%	－	422,057	－	380,558
20%	94,720	388,929	92,818	248,475
35%	－	642,517	－	589,825
50%	409,902	2,876	390,909	2,380
75%	－	1,751,224	－	1,868,159
100%	157,667	3,022,105	146,665	3,243,499
150%	2,000	5,394	－	6,105
250%	－	37,967	－	38,497
350%	－	－	－	－
1250%	－	－	－	－
合　計	**873,674**	**11,028,821**	**741,326**	**11,768,788**

（注）1．複数の資産を裏付とする資産（所謂ファンド）のうち、個々の資産の把握が困難な資産（2016年度末228,087百万円、2017年度末77,888百万円）は上記より除いております。
2．証券化エクスポージャー及び中央清算機関関連エクスポージャーを含みません。

信用リスク削減手法に関する事項

信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー

（単位：百万円）

	2016年度末	2017年度末
	信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー（効果が勘案された部分に限る）	信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー（効果が勘案された部分に限る）
現金及び自行預金	815,877	711,586
金	－	－
適格債券	－	－
適格株式	13,866	13,709
適格投資信託	－	－
適格金融資産担保合計	**829,743**	**725,296**
適格保証	448,765	419,321
適格クレジット・デリバティブ	－	－
適格保証、適格クレジット・デリバティブ合計	**448,765**	**419,321**

派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

（単位：百万円）

【派生商品取引】

1．派生商品取引の与信相当額算出に用いる方式

派生商品取引の与信相当額は、カレント・エクスポージャー方式（注）にて算出しております。

（注）カレント・エクスポージャー方式とは、デリバティブ取引の信用リスク計測手段の1つで、取引を時価評価することによって再構築コストを算出し、これに契約期間中に生じるであろう同コストの増加見込み額（ポテンシャル・エクスポージャー）を付加して算出する方法です。

2．派生商品取引のグロス再構築コストの額及び与信相当額

		2016年度末	2017年度末
グロス再構築コストの額（ゼロを下回らないものに限る）の合計額	(A)	12,150	11,303
グロスのアドオンの合計額	(B)	10,546	6,787
与信相当額（担保による信用リスク削減効果勘案前）	(C)	22,696	18,090
派生商品取引		22,696	18,090
外国為替関連取引		13,543	11,051
金利関連取引		8,896	5,924
株式関連取引		－	－
その他取引		257	1,113
クレジット・デリバティブ		－	－
(A) ＋ (B) － (C)		－	－
与信相当額（担保による信用リスク削減効果勘案後）		22,696	18,090

（注）原契約期間が5営業日以内の外国為替関連取引の与信相当額は除いております。

3．信用リスク削減手法に用いた担保の種類及び額

該当ありません。

4．与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの想定元本額

該当ありません。

5．信用リスク削減手法の効果を勘案するために用いるクレジット・デリバティブの想定元本額

該当ありません。

【長期決済期間取引】

該当ありません。

証券化エクスポージャーに関する事項

・持株会社グループがオリジネーターである場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャーに関する事項

原資産の額並びにこれらの主な原資産の種類別内訳 （単位：百万円）

	2016年度末	2017年度末
資産譲渡型証券化取引にかかる原資産の額	11,402	–
うち三月以上延滞エクスポージャーの額	–	–
うち当期の損失額	–	–
保有する証券化エクスポージャーの額（注）1,2	7,391	–
保有する証券化エクスポージャーの適切な数のリスク・ウェイトの区分ごとの残高（原資産ベース）（注）2	7,391	–
50%	–	–
100%	–	–
150%	–	–
1250%	7,391	–
所要自己資本の額	3,695	–
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	182	–
持株自己資本比率告示第225条第1項の規定により1250%のリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額	7,391	–

（注）1. 住宅ローン証券化における劣後受益権（留保持分および現金信託）の額を記載しております。
2. オフ・バランス取引に該当する証券化エクスポージャー及び再証券化エクスポージャーについては該当ありません。
3. 2017年度中間期において、住宅ローン証券化を終了しております。

証券化取引を目的として保有している資産の額及びこれらの主な資産の種類別の内訳 （単位：百万円）

該当ありません。

当期に証券化を行ったエクスポージャーならびに当期中に認識した売却損益の額 （単位：百万円）

該当ありません。

・持株会社グループが投資家である場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャーに関する事項

保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳 （単位：百万円）

	2016年度末	2017年度末
	エクスポージャーの額	エクスポージャーの額
住宅ローン債権	47,664	37,247
売掛債権	2,566	3,143
事業者向け貸出	–	–
不動産	1,664	887
その他	14,482	15,439
合　計	**66,379**	**56,718**

（注）オフ・バランス取引に該当する証券化エクスポージャー及び再証券化エクスポージャーについては該当ありません。

保有する証券化エクスポージャーの適切な数のリスク・ウェイトの区分ごとの残高及び所要自己資本の額 （単位：百万円）

リスク・ウェイト区分	2016年度末		2017年度末	
	残高	所要自己資本の額	残高	所要自己資本の額
20%	50,092	400	40,199	321
50%	1,799	35	192	3
100%	14,486	579	16,327	653
150%	–	–	–	–
1250%	–	–	–	–
計	**66,379**	**1,016**	**56,718**	**978**

（注）オフ・バランス取引に該当する証券化エクスポージャー及び再証券化エクスポージャーについては該当ありません。

持株自己資本比率告示第225条第1項の規定により1250%のリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳 （単位：百万円）

該当ありません。

保有する再証券化エクスポージャーに対する信用リスク削減手法の適用の有無及び保証人ごと又は当該保証人に適用されるリスク・ウェイトの区分ごとの内訳 （単位：百万円）

該当ありません。

出資等エクスポージャーに関する事項

出資等エクスポージャーの連結貸借対照表計上額等

（単位：百万円）

	2016年度末		2017年度末	
	連結貸借対照表計上額	時価	連結貸借対照表計上額	時価
上場している出資等エクスポージャー	216,510	216,510	228,225	228,225
上記に該当しない出資等エクスポージャー	32,065	32,065	32,778	32,778
計	**248,575**	**248,575**	**261,003**	**261,003**

出資等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

（単位：百万円）

	2016年度	2017年度
売却損益額	3,086	5,868
償却額	107	73

連結貸借対照表で認識され、かつ、連結損益計算書で認識されない評価損益の額

（単位：百万円）

	2016年度末	2017年度末
評価損益の額	90,409	101,799

連結貸借対照表及び連結損益計算書で認識されない評価損益の額

（単位：百万円）

該当ありません。

金利リスクに関して持株会社グループが内部管理上使用した金利ショックに対する損益又は経済的価値の増減額

（単位：億円）

	2016年度末	2017年度末
金利ショックの定義	100BPV、VaRによる金利リスク量	100BPV、VaRによる金利リスク量
損益又は経済的価値の増減額	100BPV…△388 VaR…… 316	100BPV…641 VaR… …417

（注）1. 持株会社グループの金利リスク管理については、当社及び子銀行以外の連結子会社の金利リスクが限定的であることから、子銀行の金利リスク量を適切にコントロールすることにより持株会社グループの金利リスクを管理する体制としております。
2. 「100BPV」は、当期末の金利リスクにつき、1％金利上昇ショックに対する経済的価値の金額。
3. 「VaR」は信頼区間99％、保有期間6カ月、観測期間5年、計測手法はヒストリカル法。北陸銀行と北海道銀行の間の相関を考慮した後の値であります。
4. 流動性預金の金利リスク算定にあたり、「コア預金内部モデル」を用いております。

【報酬等に関する開示事項】

「銀行法施行規則第19条の2第1項第6号、第19条の3第4号及び第34条の26第1項第5号の規定に基づき、報酬等に関する事項であって、銀行又は銀行持株会社及びそれらの子会社等の業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与えるものとして金融庁長官が別に定めるものを定める件」（2012年金融庁告示第21号。以下「報酬告示」という）に基づき、当社、株式会社北陸銀行及び株式会社北海道銀行（以下、3社まとめて「開示主体」という）の報酬等に関する事項について、定性的な事項については記載内容が重複するため、以下にまとめて記載しております。

1．当社グループの対象役職員の報酬等に関する組織体制の整備状況に関する事項

(1)「対象役職員」の範囲

開示の対象となる「報酬告示」に規定されている「対象役員」及び「対象従業員等」（合わせて「対象役職員」）の範囲については、以下のとおりであります。

①　「対象役員」の範囲

対象役員は、開示主体の取締役及び監査役であります。なお、社外取締役及び社外監査役を除いております。（当社は2017年6月27日に監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行しております。）

②　「対象従業員等」の範囲

開示主体の対象役員以外の職員及び主要な連結子法人等の役職員のうち、「高額な報酬等を受けている者」で開示主体及びその主要な連結子法人等の業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与える者等を「対象従業員等」として、開示の対象としています。

なお、北陸銀行及び北海道銀行においては、対象役員以外の役員及び従業員で、対象従業員等に該当する者はおりません。

（ア）「主要な連結子法人等」の範囲

「主要な連結子法人等」とは、開示主体の連結総資産に対する総資産の割合が2％を超えるもの及びグループ経営に重要な影響を与える連結子法人等で、具体的には当社においては北陸銀行及び北海道銀行が対象となります。なお、北陸銀行及び北海道銀行においては対象となる連結子法人等はありません。

（イ）「高額の報酬等を受ける者」の範囲

「高額の報酬等を受ける者」とは、当社、北陸銀行及び北海道銀行から基準額以上の報酬等を受ける者であります。基準額は、対象役員が当社、北陸銀行及び北海道銀行から受ける報酬等総額の平均金額としており、当社では37百万円、北陸銀行では32百万円、北海道銀行では31百万円であります。なお、平均金額の算出に際しては、無報酬の役員及び社外役員ではない非常勤役員並びに期中退任者を除いております。また、期中就任者については、報酬等額を年換算しております。

（ウ）「グループの業務運営又は財産の状況に重要な影響を与える者」の範囲

「グループの業務運営又は財産の状況に重要な影響を与える者」とは、その者が通常行う取引や管理する事項が、当社、北陸銀行及び北海道銀行の業務の運営に相当程度の影響を与え、又は取引等に損失が発生することにより財産の状況に重要な影響を与える者をいいます。具体的には、当社においては子銀行の取締役のうち当社の取締役を兼任していない者であります。なお、北陸銀行及び北海道銀行においては該当者はおりません。

(2) 対象役職員の報酬等の決定について

①　対象役員の報酬等の決定について

株主総会において役員報酬の総額（上限額）を決定しています。株主総会で決議された取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬の個人別の配分については、取締役会に一任されております。また、監査等委員及び監査役の報酬の個人別の配分については、監査等委員及び監査役の協議に一任されております。

②　対象従業員等の報酬等の決定について

当社の対象従業員等に含まれる子銀行の取締役の報酬等については、上記①に含まれます。

2．当社グループの対象役職員の報酬等に関する体系の設計及び運用の適切性の評価に関する事項

報酬等に関する方針について

①　当社の「対象役員」の報酬等に関する方針

取締役の報酬額等については、2017年6月27日開催の定時株主総会にて、次のとおり決議いただいております。

（ア）　取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬額は、賞与を含めた報酬として年額250百万円以内とする（使用人兼務取締役の使用人分給与は含まない）。

（イ）　監査等委員である取締役の報酬額は、年額80百万円以内とする。

（ウ）　取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬限度額とは別枠で取締役（監査等委員である取締役及び社外取締役を除く）に対する株式報酬型ストック・オプションとして、新株予約権を年額45百万円を上限とする（使用人兼務取締役の使用人分給与は含まない）。

また、役員の報酬等について、社長その他役職ごとの基本報酬金額上限を定めており、当該規定に基づいて、必要の都度取締役会で報酬額を決定しております。なお、当社及び子銀行における役職並びに兼務状況に応じて、それぞれ規定の報酬額等から減額調整を行っております。

②　当社の「対象従業員等」の報酬等に関する方針

当社における「対象従業員等」は子銀行の取締役であり、上記①に含まれます。

③　株式会社北陸銀行の「対象役員」の報酬等に関する方針

取締役及び監査役の報酬額等については、2012年6月26日付の定時株主総会にて、次のとおり決議いただいております。

（ア）　取締役の報酬額は、賞与を含めた報酬として年額360百万円以内とする（使用人兼務取締役の使用人分給与は含まない）。

（イ）　監査役の報酬額は、年額75百万円以内とする。

④　株式会社北海道銀行の「対象役員」の報酬等に関する方針

取締役及び監査役の報酬額等については、2012年6月26日付の定時株主総会にて、次のとおり決議いただいております。

（ア）　取締役の報酬額は、賞与を含めた報酬として年額312百万円以内とする。

（イ）　監査役の報酬額は、年額75百万円以内とする。

3．当社グループの対象役職員の報酬等の体系とリスク管理の整合性並びに報酬等と業績の連動に関する事項

対象役員の報酬等の決定に当たっては、株主総会で役員全体の報酬総額が決議され、決定される仕組みになっております。

4．当社グループの対象役職員の報酬等の種類、支払総額及び支払方法に関する事項

対象役職員の報酬等の総額（2017年4月1日から2018年3月31日まで）

(1) ほくほくフィナンシャルグループ連結

（単位：百万円）

区　分	人数	報酬等の総額	固定報酬の総額	固定報酬の基本報酬	固定報酬の株式報酬型ストックオプション	変動報酬の総額	変動報酬の基本報酬	変動報酬の賞与	退職慰労金
対象役員(除く社外役員)	11人	302	302	255	47	－	－	－	－
対象従業員等	－	－	－	－	－	－	－	－	－

（注）対象役員の報酬等額には、主要な連結子会社の役員としての報酬額等を含めて記載しております。

(2) 北陸銀行連結・単体

（単位：百万円）

区　分	人数	報酬等の総額	固定報酬の総額	固定報酬の基本報酬	固定報酬の株式報酬型ストックオプション	変動報酬の総額	変動報酬の基本報酬	変動報酬の賞与	退職慰労金
対象役員(除く社外役員)	10人	164	164	140	24	－	－	－	－
対象従業員等	－	－	－	－	－	－	－	－	－

(3) 北海道銀行連結・単体

（単位：百万円）

区　分	人数	報酬等の総額	固定報酬の総額	固定報酬の基本報酬	固定報酬の株式報酬型ストックオプション	変動報酬の総額	変動報酬の基本報酬	変動報酬の賞与	退職慰労金
対象役員(除く社外役員)	9人	191	191	160	31				
対象従業員等									

5．当社グループの対象役職員の報酬等の体系に関し、その他参考となるべき事項

ほくほくフィナンシャルグループ、北陸銀行及び北海道銀行において、役員退職慰労金制度を廃止し、株式報酬型ストックオプションを導入しております。

経営指標（北陸銀行）

主要な経営指標等の推移

（単位：百万円）

（連　結）

項目 ＼ 連結会計年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
連結経常収益	98,037	94,260	93,599	93,158	91,301
連結経常利益	30,483	24,537	26,770	24,860	24,171
親会社株主に帰属する当期純利益	17,840	14,682	16,507	18,737	15,778
連結包括利益	24,966	46,233	7,015	17,225	19,602
連結純資産額	286,323	326,653	328,954	334,971	352,583
連結総資産額	6,458,027	6,713,403	6,878,517	7,326,498	7,729,737
1株当たり純資産額	273.32円	311.82円	314.02円	319.76円	336.58円
1株当たり当期純利益	17.03円	14.01円	15.75円	17.88円	15.06円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	－円	－円	－円	－円	－円
連結自己資本比率（国内基準）	12.40%	10.61%	9.74%	8.71%	9.00%
連結自己資本利益率	6.42%	4.79%	5.03%	5.64%	4.58%
連結株価収益率	－倍	－倍	－倍	－倍	－倍
営業活動によるキャッシュ・フロー	224,783	137,802	225,788	366,971	210,858
投資活動によるキャッシュ・フロー	53,836	18,700	△77,269	△98,739	151,895
財務活動によるキャッシュ・フロー	15,427	△35,235	△31,449	△29,094	△2,144
現金及び現金同等物の期末残高	613,785	735,080	852,136	1,091,271	1,451,877
従業員数 （外、平均臨時従業員数）	2,902人 (2,140)	2,830人 (2,135)	2,821人 (2,085)	2,801人 (2,015)	2,764人 (1,931)

（注）1．当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
2．連結自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく2006年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は、国内基準を採用しております。
3．連結株価収益率については、当行株式は非上場のため記載しておりません。

（単　体）

項目 ＼ 年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
経常収益	97,797	94,047	93,387	92,995	91,139
経常利益	30,471	24,526	26,761	24,852	24,161
当期純利益	17,833	14,680	16,503	18,732	15,772
資本金	140,409	140,409	140,409	140,409	140,409
発行済株式総数　普通株式	1,047,542千株	1,047,542千株	1,047,542千株	1,047,542千株	1,047,542千株
純資産額	290,349	325,865	332,930	338,125	355,417
総資産額	6,460,371	6,712,709	6,880,493	7,329,338	7,732,938
預金残高	5,712,023	5,846,837	5,911,370	6,095,537	6,394,373
貸出金残高	4,227,696	4,365,302	4,383,442	4,467,623	4,670,149
有価証券残高	1,238,326	1,275,498	1,343,914	1,457,677	1,317,103
1株当たり純資産額	277.17円	311.07円	317.82円	322.77円	339.28円
1株当たり配当額　普通株式	3.10円	3.90円	4.50円	10.70円	1.90円
（うち1株当たり中間配当額）　普通株式	(3.10円)	(3.90円)	(4.50円)	(10.70円)	(1.90円)
1株当たり当期純利益	17.02円	14.01円	15.75円	17.88円	15.05円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	－円	－円	－円	－円	－円
単体自己資本比率（国内基準）	12.40%	10.61%	9.78%	8.74%	9.02%
自己資本利益率	6.38%	4.76%	5.01%	5.58%	4.54%
株価収益率	－倍	－倍	－倍	－倍	－倍
配当性向	18.20%	27.82%	28.56%	59.83%	12.61%
従業員数 （外、平均臨時従業員数）	2,877人 (2,069)	2,806人 (2,069)	2,798人 (2,024)	2,770人 (1,989)	2,732人 (1,911)

（注）1．消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
2．2017年度中間配当についての取締役会決議は2017年11月13日に行いました。
3．単体自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく2006年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は、国内基準を採用しております。
4．株価収益率については、当行株式は非上場のため記載しておりません。

連結財務諸表

連結貸借対照表

（単位：百万円）

	2016年度末（2017年3月31日）	2017年度末（2018年3月31日）
（資産の部）		
現金預け金	1,108,739	1,465,060
コールローン及び買入手形	89,415	52,753
買入金銭債権	62,585	44,177
特定取引資産	1,804	1,491
有価証券　※1,7,13	1,457,627	1,317,053
貸出金　※2,3,4,5,6,7,8	4,467,623	4,670,149
外国為替　※6	9,496	12,087
その他資産　※1,7	33,399	73,160
有形固定資産　※10,11	77,400	77,014
建物	20,325	20,906
土地　※9	51,668	50,038
リース資産	517	243
建設仮勘定	197	534
その他の有形固定資産	4,692	5,292
無形固定資産	4,925	5,975
ソフトウエア	4,602	5,666
その他の無形固定資産	323	308
退職給付に係る資産	－	895
支払承諾見返	31,547	28,593
貸倒引当金	△18,066	△18,675
資産の部合計	**7,326,498**	**7,729,737**
（負債の部）		
預金　※7	6,095,323	6,394,122
譲渡性預金	147,860	111,451
コールマネー及び売渡手形　※7	36,267	45,312
売現先勘定	－	18,528
債券貸借取引受入担保金　※7	394,220	392,551
特定取引負債	861	683
借用金　※7,12	207,747	338,167
外国為替	57	47
その他負債	53,503	21,191
退職給付に係る負債	3,600	2,338
役員退職慰労引当金	50	43
偶発損失引当金	925	876
睡眠預金払戻損失引当金	1,075	1,331
繰延税金負債	12,799	16,427
再評価に係る繰延税金負債　※9	5,686	5,487
支払承諾	31,547	28,593
負債の部合計	**6,991,526**	**7,377,154**
（純資産の部）		
資本金	140,409	140,409
資本剰余金	14,998	14,998
利益剰余金	108,693	122,832
株主資本合計	264,102	278,241
その他有価証券評価差額金	66,348	69,625
繰延ヘッジ損益	△1,208	△975
土地再評価差額金　※9	8,993	8,642
退職給付に係る調整累計額	△3,263	△2,949
その他の包括利益累計額合計	70,869	74,342
純資産の部合計	**334,971**	**352,583**
負債及び純資産の部合計	**7,326,498**	**7,729,737**

連結損益計算書及び連結包括利益計算書

（単位：百万円）

	2016年度（2016年4月1日から2017年3月31日まで）	2017年度（2017年4月1日から2018年3月31日まで）
（連結損益計算書）		
経常収益	**93,158**	**91,301**
資金運用収益	**68,115**	**66,465**
貸出金利息	48,851	46,558
有価証券利息配当金	17,033	18,106
コールローン利息及び買入手形利息	1,093	928
預け金利息	627	646
その他の受入利息	509	226
役務取引等収益	**15,934**	**16,262**
特定取引収益	**71**	**45**
その他業務収益	**2,037**	**2,171**
その他経常収益	**6,999**	**6,356**
貸倒引当金戻入益	9	－
償却債権取立益	4	24
その他の経常収益　※1	6,985	6,332
経常費用	**68,297**	**67,129**
資金調達費用	**5,311**	**5,309**
預金利息	1,255	1,020
譲渡性預金利息	53	27
コールマネー利息及び売渡手形利息	144	78
売現先利息	－	148
債券貸借取引支払利息	1,421	1,713
借用金利息	483	333
その他の支払利息	1,951	1,986
役務取引等費用	**6,907**	**7,155**
その他業務費用	**4,075**	**3,385**
営業経費　※2	**50,246**	**48,301**
その他経常費用	**1,756**	**2,977**
貸倒引当金繰入額	－	1,671
その他の経常費用　※3	1,756	1,306
経常利益	**24,860**	**24,171**
特別利益	**104**	**91**
固定資産処分益	104	91
特別損失	**822**	**1,990**
固定資産処分損	323	114
減損損失　※4	498	1,875
税金等調整前当期純利益	**24,143**	**22,272**
法人税、住民税及び事業税	**3,948**	**5,503**
法人税等調整額	**1,457**	**991**
法人税等合計	**5,406**	**6,494**
当期純利益	**18,737**	**15,778**
親会社株主に帰属する当期純利益	**18,737**	**15,778**
（連結包括利益計算書）		
当期純利益	**18,737**	**15,778**
その他の包括利益　※1	**△1,512**	**3,824**
その他有価証券評価差額金	△2,716	3,277
繰延ヘッジ損益	387	233
土地再評価差額金	－	－
退職給付に係る調整額	816	314
包括利益	**17,225**	**19,602**
（内訳）		
親会社株主に係る包括利益	17,225	19,602
非支配株主に係る包括利益	－	－

連結株主資本等変動計算書

（単位：百万円）

2016年度（2016年4月1日から2017年3月31日まで）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	**140,409**	**14,998**	**101,078**	**256,487**
当期変動額				
剰余金の配当			△11,208	△11,208
親会社株主に帰属する当期純利益			18,737	18,737
土地再評価差額金の取崩			86	86
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計	**－**	**－**	**7,614**	**7,614**
当期末残高	**140,409**	**14,998**	**108,693**	**264,102**

	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	**69,064**	**△1,596**	**9,079**	**△4,080**	**72,467**	**328,954**
当期変動額						
剰余金の配当						△11,208
親会社株主に帰属する当期純利益						18,737
土地再評価差額金の取崩						86
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△2,716	387	△86	816	△1,598	△1,598
当期変動額合計	**△2,716**	**387**	**△86**	**816**	**△1,598**	**6,016**
当期末残高	**66,348**	**△1,208**	**8,993**	**△3,263**	**70,869**	**334,971**

2017年度（2017年4月1日から2018年3月31日まで）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	**140,409**	**14,998**	**108,693**	**264,102**
当期変動額				
剰余金の配当			△1,990	△1,990
親会社株主に帰属する当期純利益			15,778	15,778
土地再評価差額金の取崩			350	350
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計	**－**	**－**	**14,138**	**14,138**
当期末残高	**140,409**	**14,998**	**122,832**	**278,241**

	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	**66,348**	**△1,208**	**8,993**	**△3,263**	**70,869**	**334,971**
当期変動額						
剰余金の配当						△1,990
親会社株主に帰属する当期純利益						15,778
土地再評価差額金の取崩						350
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3,277	233	△350	314	3,473	3,473
当期変動額合計	**3,277**	**233**	**△350**	**314**	**3,473**	**17,612**
当期末残高	**69,625**	**△975**	**8,642**	**△2,949**	**74,342**	**352,583**

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	2016年度（2016年4月 1日から 2017年3月31日まで）	2017年度（2017年4月 1日から 2018年3月31日まで）
Ⅰ 営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	24,143	22,272
減価償却費	3,385	3,879
減損損失	498	1,875
貸倒引当金の増減（△）	△877	608
偶発損失引当金の増減額（△は減少）	△468	△48
退職給付に係る資産の増減額（△は増加）	－	△895
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	△2,347	△1,261
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	△13	△7
睡眠預金払戻損失引当金の増減（△）	110	256
資金運用収益	△68,115	△66,465
資金調達費用	5,311	5,309
有価証券関係損益（△）	△306	△2,167
為替差損益（△は益）	2	4
固定資産処分損益（△は益）	218	23
特定取引資産の純増（△）減	402	312
特定取引負債の純増減（△）	△267	△178
貸出金の純増（△）減	△84,180	△202,525
預金の純増減（△）	184,162	298,799
譲渡性預金の純増減（△）	△58,440	△36,408
借用金（劣後特約付借入金を除く）の純増減（△）	24,488	130,419
預け金（日銀預け金を除く）の純増（△）減	23,142	4,284
コールローン等の純増（△）減	△24,950	55,069
コールマネー等の純増減（△）	15,421	27,572
債券貸借取引受入担保金の純増減（△）	301,265	△1,668
外国為替（資産）の純増（△）減	△645	△2,590
外国為替（負債）の純増減（△）	△117	△10
資金運用による収入	51,399	47,602
資金調達による支出	△5,120	△5,346
その他	△15,876	△65,384
小計	372,225	213,329
法人税等の支払額	△5,254	△2,470
営業活動によるキャッシュ・フロー	**366,971**	**210,858**
Ⅱ 投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△396,146	△193,559
有価証券の売却による収入	178,018	242,697
有価証券の償還による収入	108,075	91,181
投資活動としての資金運用による収入	17,033	18,106
有形固定資産の取得による支出	△3,748	△4,288
有形固定資産の売却による収入	701	174
無形固定資産の取得による支出	△2,673	△2,416
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△98,739**	**151,895**
Ⅲ 財務活動によるキャッシュ・フロー		
劣後特約付借入金の返済による支出	△17,500	－
財務活動としての資金調達による支出	△385	△153
配当金の支払額	△11,208	△1,990
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△29,094**	**△2,144**
Ⅳ 現金及び現金同等物に係る換算差額	**△2**	**△4**
Ⅴ 現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	**239,135**	**360,605**
Ⅵ 現金及び現金同等物の期首残高	**852,136**	**1,091,271**
Ⅶ 現金及び現金同等物の期末残高　※1	**1,091,271**	**1,451,877**

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項　（2017年度）

1．連結の範囲に関する事項

（1）連結子会社　　1社

北銀ビジネスサービス株式会社

（2）非連結子会社　4社

非連結子会社は、その資産、経常収益、当期純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

2．持分法の適用に関する事項

（1）持分法適用の非連結子会社　　なし
（2）持分法適用の関連会社　　なし
（3）持分法非適用の非連結子会社　4社
（4）持分法非適用の関連会社　　1社

持分法非適用の非連結子会社及び関連会社は、当期純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除いております。

3．連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4．会計方針に関する事項

（1）特定取引資産・負債の評価基準及び収益・費用の計上基準

金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る短期的な変動、市場間の格差等を利用して利益を得る等の目的（以下「特定取引目的」という。）の取引については、取引の約定時点を基準とし、連結貸借対照表上「特定取引資産」及び「特定取引負債」に計上するとともに、当該取引からの損益を連結損益計算書上「特定取引収益」及び「特定取引費用」に計上しております。

特定取引資産及び特定取引負債の評価は、有価証券及び金銭債権等については連結決算日の時価により、スワップ・先物・オプション取引等の派生商品については連結決算日において決済したものとみなした額により行っております。

また、特定取引収益及び特定取引費用の損益計上は、当連結会計年度中の受払利息等に、有価証券及び金銭債権等については前連結会計年度末と当連結会計年度末における評価損益の増減額を、派生商品については前連結会計年度末と当連結会計年度末におけるみなし決済からの損益相当額の増減額を加えております。

（2）有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、その他有価証券のうち株式については原則として連結決算期末前1カ月の市場価格の平均に基づく価格、それ以外については原則として連結決算日における市場価格等に基づく時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

（3）デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引（特定取引目的の取引を除く）の評価は、時価法により行っております。

（4）固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）

当行の有形固定資産は、動産については定率法、不動産については定額法を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建　物：6年～50年
その他：3年～20年

連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定率法により償却しております。

②無形固定資産（リース資産を除く）

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結子会社で定める利用可能期間（主として5年）に基づいて償却しております。

③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

（5）貸倒引当金の計上基準

当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という。）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で非保全額又は与信額が一定金額以上の大口債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを貸出条件緩和実施前の約定利子率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）により計上しております。

上記以外の債権については、一定の種類ごとに分類し、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は30,315百万円であります。

（6）役員退職慰労引当金の計上基準

役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払に備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当連結会計年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

なお、当行の役員退職慰労金制度については、2012年5月11日開催の取締役会で廃止することを決定し、2012年6月26日開催の定時株主総会にて、役員退職慰労金制度廃止に伴う退職慰労金の打ち切り支給が承認されております。

これに伴い、当行の役員退職慰労引当金の繰入は2012年6月の繰入をもって停止し、既引当金については継続して役員退職慰労引当金として計上しております。

（7）偶発損失引当金の計上基準

偶発損失引当金は、信用保証協会における責任共有制度等に基づく、将来発生する可能性のある負担金支払見込額及び他の引当金で引当対象とした事象以外の偶発事象に対し、将来発生する可能性のある損失を見積り、必要と認められる額をそれぞれ計上しております。

（8）睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。

（9）退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。また、過去勤務費用及び数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用：その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（8年）による定額法により損益処理
数理計算上の差異：各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（8年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から損益処理

なお、連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

（10）外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、主として連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

（11）重要なヘッジ会計の方法

（イ）金利リスク・ヘッジ

当行の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法として、一部の資産・負債について、ヘッジ対象とヘッジ手段を直接対応させる「個別ヘッジ」を適用し、繰延ヘッジによる会計処理あるいは金利スワップの特例処理を行っております。

ヘッジの有効性評価の方法については、当行のリスク管理手続きに則り、ヘッジ指定を行い、ヘッジ手段とヘッジ対象を一体管理するとともに、ヘッジ手段によってヘッジ対象の金利リスクが減殺されているかどうかを検証することで評価しております。

（ロ）為替変動リスク・ヘッジ
当行の外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号　2002年7月29日）に規定する繰延ヘッジによっております。
ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。
（ハ）連結子会社においては、デリバティブ取引によるヘッジを行っておりません。
（12）連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。
（13）消費税等の会計処理
当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税（以下、消費税等という。）の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当連結会計年度の費用に計上しております。

（未適用の会計基準等）

・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号　2018年3月30日　企業会計基準委員会）
・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号　2018年3月30日　企業会計基準委員会）

（1）概要
国際会計基準審議会（IASB）及び米国財務会計基準審議会（FASB）は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」（IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606）を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。
企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。
（2）適用予定日
2022年3月期の期首から適用します。
（3）当該会計基準等の適用による影響
「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

注記事項　（2017年度）

1．連結貸借対照表関係

※1．非連結子会社及び関連会社の株式又は出資金の総額　　45百万円
※2．貸出金のうち、破綻先債権額は2,158百万円、延滞債権額は71,986百万円であります。
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（1965年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
※3．貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は88百万円であります。
なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
※4．貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は10,858百万円であります。
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。
※5．破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は85,091百万円であります。
なお、上記2．から5．に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
※6．手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号　2002年2月13日）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は、29,270百万円であります。
※7．担保に供している資産は、次のとおりであります。

担保に供している資産		担保資産に対応する債務	
有価証券	598,182百万円	預金	20,745百万円
貸出金	268,649百万円	コールマネー	40,000百万円
		債券貸借取引受入担保金	392,551百万円
		借用金	317,211百万円

上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、有価証券8,640百万円、その他資産（現金）49,019百万円を差し入れております。
また、その他資産には金融商品等差入担保金2,022百万円、保証金1,366百万円が含まれております。
※8．当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、1,337,212百万円であります。このうち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なものが1,278,525百万円あります。
なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。
※9．土地の再評価に関する法律（1998年3月31日公布法律第34号）に基づき、当行の事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。
再評価を行った年月日　1998年3月31日
同法律第3条第3項に定める再評価の方法
土地の再評価に関する法律施行令（1998年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める算定方法に基づき、地価税法に規定する地価税の課税価格の計算基礎となる土地の価額（路線価）を基準として時価を算出しております。
同法律第10条に定める再評価を行った事業用の土地の当連結会計年度末における時価の合計額と当該事業用の土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額　18,098百万円
※10．有形固定資産の減価償却累計額　63,274百万円
※11．有形固定資産の圧縮記帳額　2,682百万円
（当該連結会計年度の圧縮記帳額　－百万円）
※12．借用金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金20,000百万円が含まれております。
※13．「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額は29,121百万円であります。

2．連結損益計算書関係

※1．その他の経常収益には、株式等売却益4,606百万円を含んでおります。
※2．営業経費のうち主要な費目及び金額は、給料・手当20,893百万円、退職給付費用676百万円であります。
※3．その他の経常費用には、株式等売却損76百万円、株式等償却53百万円を含んでおります。
※4．以下の資産について減損損失を計上しております。

地域	主な用途	種類	減損損失（百万円）
北陸三県	営業用店舗　13カ所	土地及び建物	941
	遊休資産　13カ所	土地	418
その他	営業用店舗　4カ所	土地及び建物	483
	遊休資産　3カ所	土地	32
合計	－	－	1,875

これらの営業用店舗等は、営業キャッシュ・フローの低下及び継続的な地価の下落等により、資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。
当行は、営業用店舗については、キャッシュ・フローの相互補完性に基づき一定の地域別に区分した営業用店舗エリアを基礎とする管理会計上の区分をグルーピングの単位としており、本部、コンピューターセンター、寮、社宅、厚生施設等については、独立したキャッシュ・フローを生み出さないことから共用資産としております。なお、処分予定資産及び遊休資産については、各資産単位でグルーピングしております。また、連結子会社については、会社を1つの単位としてグルーピングを行っております。
なお、減損損失の測定に使用した回収可能価額は正味売却価額と使用価値のいずれか高い方としております。正味売却価額は、重要性の高い不動産については第三者から入手した鑑定評価額、それ以外については「不動産鑑定評価基準」等に基づき算定しております。使用価値は、将来キャッシュ・フローを5.35％で割り引いて算定しております。

3．連結包括利益計算書関係

※1．その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金	
当期発生額	9,216百万円
組替調整額	△3,740百万円
税効果調整前	5,476百万円
税効果額	△2,198百万円
その他有価証券評価差額金	3,277百万円
繰延ヘッジ損益	
当期発生額	△1,101百万円
組替調整額	1,437百万円
税効果調整前	335百万円
税効果額	△102百万円
繰延ヘッジ損益	233百万円
退職給付に係る調整額	
当期発生額	△87百万円
組替調整額	539百万円
税効果調整前	451百万円
税効果額	△137百万円
退職給付に係る調整額	314百万円
その他の包括利益合計	3,824百万円

4．連結株主資本等変動計算書関係

1．発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項（単位：千株）

	当連結会計年度期首株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	1,047,542	－	－	1,047,542	
合計	1,047,542	－	－	1,047,542	

2．配当に関する事項
（1）当連結会計年度中の配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
2017年11月13日取締役会	普通株式	1,990	1.90	2017年9月30日	2017年12月8日

（2）基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当連結会計年度の末日後となるもの
該当ありません。

5．連結キャッシュ・フロー計算書関係

※1．現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

2018年3月31日現在	
現金預け金勘定	1,465,060百万円
預け金（日本銀行預け金を除く）	△13,183百万円
現金及び現金同等物	1,451,877百万円

6．リース取引関係

1．ファイナンス・リース取引
所有権移転外ファイナンス・リース取引
①リース資産の内容
有形固定資産
操作端末、大型画面情報表示装置、貸金庫等
②リース資産の減価償却の方法
連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4．会計方針に関する事項」の「(4) 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。
2．オペレーティング・リース取引
オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

1年内	1年超	合　計
3百万円	21百万円	25百万円

7．金融商品関係

1．金融商品の状況に関する事項
（1）金融商品に対する取組方針
当行グループは、預金、貸出業務等の銀行業務を中心に様々な金融サービスを提供しております。貸出につきましては、地域経済との共栄を目指し、健全かつ適切な貸出運用を図るとともに信用リスク管理の強化に努めております。有価証券につきましては、リスク管理方針・規定等に基づいた厳格な運用を行っております。
預金につきましては、地域のみなさまへの金融サービスの拡充に努めることで流動性及び定期性預金ともに安定的な調達を目指しております。借用金、社債は、中長期的な資金調達としております。
当行グループが保有する貸出金等の金融資産と預金等の金融負債は期間構造が異なるため、市場の金利変動等に伴うリスクに晒されていることから資産及び負債の総合的管理（以下「ALM」という。）を行い、市場リスクを適切にコントロールして安定的な収益を確保できる運営に努めております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク
当行グループが保有する金融資産は、主として国内のお取引先に対する貸出金、有価証券であります。貸出金につきましては、お取引先の経営状態の悪化などによって元金・利息が回収できなくなる信用リスクに晒されており、また、有価証券は、発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、適切なリスク分散を図るよう努めております。
金融負債である預金や譲渡性預金、コールマネー及び借用金は、市場環境の急変や当行の財務内容の悪化等により、通常より著しく高い金利による資金調達を余儀なくされるなどの流動性リスクに晒されております。
当行は通貨スワップ・為替予約・通貨オプション取引等の通貨関連デリバティブ取引や金利先物、金利スワップ、金利キャップ取引等の金利関連デリバティブ取引を、当行自身のALM目的と、お取引先の多様なリスクヘッジニーズに応える目的で利用しております。これらのデリバティブ取引は、金利変動リスク、為替変動リスク、価格変動リスク及び信用リスク等に晒されております。ただし、当行が保有する金融資産・金融負債で著しくリスクが高いものや、時価の変動率が高い特殊なデリバティブ取引の取り扱いはありません。
なお、当行では一部の資産・負債をヘッジ対象として金利の変動リスクに対してヘッジ会計を適用しておりますが、ヘッジ会計の適用に際しては、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段を一体管理するとともに、ヘッジの有効性を評価しております。
(3) 金融商品に係るリスク管理体制
当行グループでは、リスク管理部署を設置してリスク管理基本規程及びリスクに関する各種管理諸規程を定め、ALM委員会や各種委員会を設置して、各種リスクの管理を行っております。
①信用リスクの管理
当行グループでは、信用リスクの適切な管理・運営を行うことにより経営の健全性の確保と収益力の向上に努める基本方針のもと、「信用リスク管理規定」等各種規程類を制定し、業務推進部門と信用リスク管理部門の分離による内部牽制機能の確保、「クレジットポリシー」に基づく厳正な審査と信用格付の付与、与信集中リスク管理のための与信限度ラインの設定等による個別管理、自己査定や信用リスク量の計測ならびに取締役会への信用リスク状況報告等を実施しております。
具体的には、個別案件毎に営業店が的確に分析・審査を行い、営業店長の権限を超える場合は本部の審査部門でも分析・審査を行っております。審査部門には業種・地域毎に専門の担当者を配置し、お取引先の特性に応じて営業店への適切な助言・指導が行える体制を整備しております。
また、有価証券の発行体の信用リスク及びデリバティブ取引のカウンターパーティーリスクに関しては、リスク管理部署において、信用情報や取引状況を定期的に把握・管理しております。
②市場リスクの管理
当行では、ALM委員会等を設置し、預貸金を含めた市場リスクを適切にコントロールして、安定的な収益を確保できる運営に努めております。
(ⅰ) 金利リスクの管理
「金利リスク管理規定」等の諸規程にリスク管理方法や手続き等の詳細を明記し、リスク管理部署が定期的に金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握し、ギャップ分析や金利感応度分析等により金利リスク量をモニタリングするとともに、その結果をALM委員会等に報告・協議し、必要な対策を講じる体制としております。また、金利リスクを適切にコントロールするために、金利リスク量に対する各種限度ラインを設定・管理し、ALMの観点から金利の変動リスクをヘッジするための金利スワップ及び金利キャップ等のデリバティブ取引を利用して金利リスクの軽減を図っております。
(ⅱ) 為替リスクの管理
外貨建資産・負債にかかる為替の変動リスクを管理し、通貨スワップ等を利用し、為替リスクの軽減を図っております。
(ⅲ) 価格変動リスクの管理
有価証券を含む投資商品の保有にあたり、経営会議で定めた運用方針に基づき、取締役会の監督の下、リスク管理基本規程ならびに関連諸規程に従い、事前審査、投資限度額の設定のほか、継続的なモニタリングを通じて、価格変動リスクの軽減を図っております。当行が保有している株式の多くは、政策保有目的で保有しているものであり、お取引先の市場環境や財務状況などをモニタリングしております。また、有価証券については、リスク管理部署においてバリュー・アット・リスク（VaR）等を用いて有価証券の市場リスク量を把握し、規定で定めた各種ルールの遵守状況等が管理されており、これらの情報はリスク管理部署を通じ、取締役会等において定期的に報告されております。
(ⅳ) デリバティブ取引
デリバティブ取引に関しては、取引の執行、ヘッジ有効性の評価、事務管理に関する部門をそれぞれ分離し内部牽制を確立するとともに、管理セクションが取引の確認、日々のポジションの時価評価、損益状況、リスク量の計測を行い、一定の限度を超える損失が発生しないように管理しております。
(ⅴ) 市場リスクに係る定量的情報
(ア) トレーディング目的の金融商品
当行グループでは、「特定取引資産」のうちの売買目的有価証券、「デリバティブ取引」のうちトレーディング目的として保有している通貨関連及び金利関連の一部に関するVaRの算定にあたっては、ヒストリカル法（保有期間1日、信頼区間99%、観測期間1,250日）を採用しております。
2018年3月31日現在で当行グループのトレーディング業務の市場リスク量（VaR）は179百万円であります。
(イ) トレーディング目的以外の金融商品
当行グループにおいて、金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「買入金銭債権」、「貸出金」、「債券」、「預金」、「借用金」、「デリバティブ取引」のうちの金利スワップ取引、金利スワップション取引、金利キャップ取引であります。また、価格変動リスクの影響を受ける金融商品は「上場株式」及び「投資信託」であります。当行グループでは、これらの金融資産及び金融負債について、統計的なリスク計測手法であるVaRにより金利変動リスクや価格変動リスクを統一的に管理しております。
なお、VaRの算定にあたっては、ヒストリカル法（保有期間120日、信頼区間99%、観測期間1,250日）を採用し、金利と株価等の変動における相関を考慮しております。
2018年3月31日現在、トレーディング目的以外の金融商品におけるVaRは54,250百万円であります。
また、VaR計測モデルのバックテスティングを定期的に実施し、モデルの妥当性を検証する態勢としており、適切なリスクの把握に努めております。ただし、VaRは統計的に算出した一定の発生確率での市場リスク量を計測しており、通常では考えられないほど市場環境が激変する状況下におけるリスクは捕捉できない場合があります。
VaRは統計的な信頼区間（99%）の下で、金融商品を保有する期間に相当する最大損失額ですが、特に金利リスクの影響を受ける主たる金融商品については、補完的なリスク指標として、指標となる金利の100ベーシス・ポイント（1.00%）上昇を想定した資産負債の時価変動額（100BPV：100ベーシス・ポイント・バリュー）を算出しております。2018年3月31日現在、指標となる金利が1.00%上昇したものと想定した場合には、時価が46,750百万円増加するものと把握しております。当該影響額は、金利環境のみが変化する場合を想定しており、金利以外のリスク変数との相関を考慮しておりません。なお、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。
③流動性リスクの管理
当行では、「流動性リスク管理規定」に基づいて、運用・調達の状況を的確に把握し、円滑な資金繰りに万全を期しております。具体的には、国債など資金化の容易な支払準備資産を十分に確保するとともに、流動性リスク管理指標を各種設定し、日々チェックしております。
また、万一危機が発生した場合は、危機の段階に応じた対応が取れるように、流動性リスクの状況をALM委員会等で定期的に報告・管理する体制を整備しております。
(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明
金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。
2．金融商品の時価等に関する事項
2018年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません（(注2) 参照）。また、重要性の乏しいものは省略しております。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金預け金	1,465,060	1,465,060	－
(2) コールローン及び買入手形	52,753	52,753	－
(3) 買入金銭債権	44,177	44,177	－
(4) 有価証券			
その他有価証券	1,300,333	1,300,333	－
(5) 貸出金	4,670,149		
貸倒引当金 (＊1)	△18,074		
	4,652,074	4,684,190	32,116
資産計	7,514,399	7,546,515	32,116
(1) 預金	6,394,122	6,394,408	286
(2) 譲渡性預金	111,451	111,451	－
(3) 債券貸借取引受入担保金	392,551	392,551	－
(4) 借用金	338,167	337,544	△622
負債計	7,236,293	7,235,956	△336
デリバティブ取引 (＊2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	344	344	－
ヘッジ会計が適用されているもの	2,708	2,708	(＊3) －
デリバティブ取引計	3,053	3,053	－

(＊1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。
(＊2) 特定取引資産・負債及びその他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。
デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、(　) で表示しております。
(＊3) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている貸出金と一体として処理されているため、その時価は当該貸出金の時価に含めて記載しております。
(注1) 金融商品の時価の算定方法
資　産
(1) 現金預け金
満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、預入期間が1年以内であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。
(2) コールローン及び買入手形
コールローン及び買入手形は、約定期間が短期間（1年以内）であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。
(3) 買入金銭債権
買入金銭債権のうち、投資家として購入した住宅ローン債権の信託受益権及び貸付債権の信託受益権については、取引金融機関から提示された価格を時価としております。また、資産流動化の小口債権は、期間毎の市場金利に信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値を算定しております。
(4) 有価証券
株式は期末前1ヵ月の市場価格の平均に基づいて算定された価格、債券は取引所の価格又は公表されている価格、これらがない場合には合理的な見積もりに基づいて算定された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格によっております。
自行保証付私募債は、内部格付、残存期間に基づく区分ごとに、市場金利に信用リスク等を加味した利率で割り引いた現在価値を算定しております。
(5) 貸出金
貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を市場金利に信用リスク等を加味した利率で割り引いて時価を算定しております。なお、約定期間が1年以内のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。
また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。
貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。
負　債
(1) 預金及び (2) 譲渡性預金
要求払預金については、連結決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしております。また、定期預金及び譲渡性預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、預入期間が1年以内のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。
(3) 債券貸借取引受入担保金
債券貸借取引受入担保金については、約定期間が1年以内であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。
(4) 借用金
借用金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当行及び連結子会社等の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借用金の元利金の合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しております。なお、約定期間が1年以内のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。
デリバティブ取引
デリバティブ取引は、金利関連取引（金利先物、金利オプション、金利スワップ等）、通貨関連取引（通貨先物、通貨オプション、通貨スワップ等）、債券関連取引（債券先物、債券先物オプション等）、商品関連取引であり、取引所の価格、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算出した価額によっております。
(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「資産 (3) 買入金銭債権」及び「資産 (4) その他有価証券」に含まれておりません。

（単位：百万円）

区分	連結貸借対照表計上額
非上場株式（＊1）（＊2）	16,720
非上場外国証券（＊1）	0
合計	16,720

（＊1）市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。
（＊2）当連結会計年度において、非上場株式について53百万円減損処理を行なっております。

（注3）金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額　（単位：百万円）

	1年以内	1年超3年以内	3年超5年以内	5年超7年以内	7年超
預け金	1,403,952	－	－	－	－
コールローン及び買入手形	52,753	－	－	－	－
買入金銭債権	1,147	884	5,000	－	36,816
有価証券					
その他有価証券のうち満期があるもの	134,393	473,234	225,371	94,269	150,075
うち国債（＊1）	84,000	251,800	134,500	－	－
地方債	23,977	137,947	52,561	9,098	23,305
社債	10,837	42,081	26,092	8,404	67,326
その他	15,577	41,405	12,217	76,766	59,442
貸出金（＊2）	1,602,898	882,950	611,552	376,429	1,104,837
合計	3,195,145	1,357,068	841,923	470,698	1,291,728

（＊1）国債のうち、変動利付国債152,819百万円について、それぞれの償還期間に含めて開示しております。
（＊2）貸出金のうち、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めない74,145百万円、期間の定めのないもの17,335百万円は含めておりません。

（注4）借用金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額　（単位：百万円）

	1年以内	1年超3年以内	3年超5年以内	5年超7年以内	7年超
預金（＊）	5,899,696	349,874	134,283	4,188	6,080
譲渡性預金	111,451	－	－	－	－
債券貸借取引受入担保金	392,551	－	－	－	－
借用金	8,895	166,312	142,937	20,020	－
合計	6,412,595	516,186	277,221	24,209	6,080

（＊）預金のうち、要求払預金については、「1年以内」に含めて開示しております。

8．退職給付関係

1．採用している退職給付制度の概要
当行では、確定給付型の制度として、企業年金制度、適格退職年金制度及び退職一時金制度を設けておりましたが、2011年3月に適格退職年金制度を廃止し、同制度と退職一時金制度の一部について確定拠出年金制度へ移行しました。従業員の退職等に際しては、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。なお、当行では、厚生労働大臣から、2003年2月17日に厚生年金基金の代行部分について将来分支給義務免除の認可を受け、2005年3月1日には厚生年金基金から企業年金基金への移行の認可を受けております。
また、当行では、退職給付信託を設定しております。
国内の連結子会社では、退職一時金制度を設けております。

2．退職給付制度
（1）退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

区分	金額（百万円）
退職給付債務の期首残高	51,819
勤務費用	998
利息費用	315
数理計算上の差異の発生額	72
退職給付の支払額	△2,891
その他	－
退職給付債務の期末残高	50,315

（2）年金資産の期首残高と期末残高の調整表

区分	金額（百万円）
年金資産の期首残高	48,218
期待運用収益	1,501
数理計算上の差異の発生額	△14
事業主からの拠出額	1,305
退職給付の支払額	△2,138
年金資産の期末残高	48,871

（3）退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

区分	金額（百万円）
積立型制度の退職給付債務	41,817
年金資産	△42,712
	△895
非積立型制度の退職給付債務	8,479
年金資産	△6,158
	2,320
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,425

区分	金額（百万円）
退職給付に係る負債	1,425
退職給付に係る資産	－
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,425

（4）退職給付費用及びその内訳項目の金額

区分	金額（百万円）
勤務費用	998
利息費用	315
期待運用収益	△1,501
数理計算上の差異の費用処理額	586
過去勤務費用の費用処理額	△46
その他	61
確定給付制度に係る退職給付費用	413

（5）退職給付に係る調整額
退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

区分	金額（百万円）
過去勤務費用	△46
数理計算上の差異	498
合計	451

（6）退職給付に係る調整累計額
退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

区分	金額（百万円）
未認識過去勤務費用	△46
未認識数理計算上の差異	4,287
合計	4,240

（7）年金資産に関する事項
① 年金資産の主な内訳
年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	35.76%
株式	40.47%
現金及び預金	2.81%
一般勘定	6.82%
その他	14.14%
合計	100.00%

（注）年金資産合計には、企業年金制度等に対して設定した退職給付信託が22.14％含まれております。
② 長期期待運用収益率の設定方法
年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

（8）数理計算上の計算基礎に関する事項
当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎
① 割引率　0.61％
② 長期期待運用収益率　3.5％

3．確定拠出制度
当行及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、263百万円であります。

9．税効果会計関係

1．繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金損金算入限度超過額	13,056百万円
減価償却損金算入限度超過額	379百万円
退職給付に係る負債	7,744百万円
有価証券評価損否認額	11,480百万円
繰越欠損金	24百万円
その他	4,040百万円
繰延税金資産小計	36,725百万円
評価性引当額	△21,591百万円
繰延税金資産合計	15,134百万円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額	28,172百万円
合併引継土地	2,765百万円
その他	622百万円
繰延税金負債合計	31,561百万円
繰延税金資産の純額	△16,427百万円

2．法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率	30.69%
（調整）	
評価性引当額の増減	△1.35%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0.87%
住民税均等割額	0.37%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.35%
その他	△0.04%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.15%

10．1株当たり情報

	2017年度
1株当たり純資産額	336.58円
1株当たり当期純利益	15.06円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	－円

（注）1．1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、次のとおりであります。

1株当たり当期純利益	
親会社株主に帰属する当期純利益	15,778百万円
普通株主に帰属しない金額	－百万円
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益	15,778百万円
普通株式の期中平均株式数	1,047,542千株

2．なお潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3．1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

純資産の部の合計額	352,583百万円
純資産の部の合計額から控除する金額	－百万円
普通株式に係る期末の純資産額	352,583百万円
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数	1,047,542千株

（重要な後発事象）
該当ありません。

セグメント情報

当行グループは、銀行業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

財務諸表

当行の銀行法第20条第1項の規定により作成した書類は会社法により、有限責任監査法人トーマツの監査を受けております。

貸借対照表

（単位：百万円）

	2016年度末（2017年3月31日）	2017年度末（2018年3月31日）
（資産の部）		
現金預け金	1,108,739	1,465,060
現金	60,362	61,107
預け金	1,048,377	1,403,952
コールローン	89,415	52,753
買入金銭債権	62,585	44,177
特定取引資産	1,804	1,491
商品有価証券	730	658
特定金融派生商品	1,073	832
有価証券　※1,7,11	1,457,677	1,317,103
国債	541,206	481,289
地方債	232,882	249,532
社債	160,367	157,438
株式	155,198	166,524
その他の証券	368,022	262,318
貸出金　※2,3,4,5,7,8	4,467,623	4,670,149
割引手形　※6	25,452	26,036
手形貸付	131,636	126,072
証書貸付	3,749,630	3,881,293
当座貸越	560,904	636,746
外国為替	9,496	12,087
外国他店預け	5,546	8,136
買入外国為替　※6	2,369	3,234
取立外国為替	1,581	717
その他資産	33,684	73,461
前払費用	487	416
未収収益	7,293	6,875
未収入金	1,712	4,719
金融派生商品	4,617	5,251
金融商品等差入担保金	2,317	2,022
その他の資産　※1,7	17,255	54,176
有形固定資産　※9	77,159	76,791
建物	20,177	20,768
土地	51,606	49,976
リース資産	513	242
建設仮勘定	197	534
その他の有形固定資産	4,663	5,269
無形固定資産	4,920	5,963
ソフトウエア	4,598	5,655
その他の無形固定資産	322	307
前払年金費用	2,751	3,980
支払承諾見返	31,547	28,593
貸倒引当金	△18,066	△18,675
資産の部合計	7,329,338	7,732,938

	2016年度末（2017年3月31日）	2017年度末（2018年3月31日）
（負債の部）		
預金　※7	6,095,537	6,394,373
当座預金	497,319	581,887
普通預金	3,118,819	3,410,909
貯蓄預金	46,131	46,670
通知預金	33,953	28,356
定期預金	2,280,524	2,217,666
定期積金	21,959	22,053
その他の預金	96,829	86,830
譲渡性預金	147,860	111,451
コールマネー　※7	36,267	45,312
売現先勘定	－	18,528
債券貸借取引受入担保金　※7	394,220	392,551
特定取引負債	861	683
特定金融派生商品	861	683
借用金　※7	207,747	338,167
借入金　※10	207,747	338,167
外国為替	57	47
売渡外国為替	13	46
未払外国為替	43	0
その他負債	53,501	21,181
未払法人税等	1,735	3,253
未払費用	2,859	2,204
前受収益	2,579	2,489
給付補塡備金	3	3
未払金	1,950	2,070
金融派生商品	3,059	2,347
金融商品等受入担保金	4,145	3,512
リース債務	513	242
資産除去債務	168	170
その他の負債	36,486	4,886
退職給付引当金	1,608	1,132
役員退職慰労引当金	43	43
偶発損失引当金	925	876
睡眠預金払戻損失引当金	1,075	1,331
繰延税金負債	14,272	17,760
再評価に係る繰延税金負債	5,686	5,487
支払承諾	31,547	28,593
負債の部合計	6,991,212	7,377,520
（純資産の部）		
資本金	140,409	140,409
資本剰余金	14,998	14,998
資本準備金	14,998	14,998
利益剰余金	108,584	122,717
利益準備金	12,707	13,106
その他利益剰余金	95,876	109,611
繰越利益剰余金	95,876	109,611
株主資本合計	263,992	278,125
その他有価証券評価差額金	66,348	69,625
繰延ヘッジ損益	△1,208	△975
土地再評価差額金	8,993	8,642
評価・換算差額等合計	74,132	77,292
純資産の部合計	338,125	355,417
負債及び純資産の部合計	7,329,338	7,732,938

損益計算書

（単位：百万円）

	2016年度（2016年4月 1日から 2017年3月31日まで）	2017年度（2017年4月 1日から 2018年3月31日まで）
経常収益	**92,995**	**91,139**
資金運用収益	**68,115**	**66,465**
貸出金利息	48,851	46,558
有価証券利息配当金	17,033	18,106
コールローン利息	1,093	928
預け金利息	627	646
その他の受入利息	509	226
役務取引等収益	**15,934**	**16,262**
受入為替手数料	6,064	6,012
その他の役務収益	9,870	10,250
特定取引収益	**71**	**45**
商品有価証券収益	49	30
特定金融派生商品収益	21	14
その他業務収益	**1,879**	**2,013**
外国為替売買益	1,036	937
国債等債券売却益	839	1,075
金融派生商品収益	3	–
その他経常収益	**6,995**	**6,353**
貸倒引当金戻入益	9	–
償却債権取立益	4	24
株式等売却益	4,340	4,606
その他の経常収益	2,639	1,722
経常費用	**68,143**	**66,978**
資金調達費用	**5,311**	**5,309**
預金利息	1,255	1,020
譲渡性預金利息	53	27
コールマネー利息	144	78
売現先利息	–	148
債券貸借取引支払利息	1,421	1,713
借用金利息	483	333
金利スワップ支払利息	992	1,282
その他の支払利息	959	704
役務取引等費用	**6,905**	**7,154**
支払為替手数料	1,017	1,017
その他の役務費用	5,888	6,136
その他業務費用	**4,075**	**3,385**
国債等債券売却損	4,075	3,384
金融派生商品費用	–	1
営業経費	**50,096**	**48,154**
その他経常費用	**1,752**	**2,975**
貸倒引当金繰入額	–	1,671
貸出金償却	123	53
株式等売却損	629	76
株式等償却	168	53
その他の経常費用	830	1,119
経常利益	**24,852**	**24,161**
特別利益	**104**	**91**
固定資産処分益	104	91
特別損失	**822**	**1,990**
固定資産処分損	323	114
減損損失	498	1,875
税引前当期純利益	**24,135**	**22,262**
法人税、住民税及び事業税	**3,947**	**5,502**
法人税等調整額	**1,455**	**987**
法人税等合計	**5,403**	**6,490**
当期純利益	**18,732**	**15,772**

株主資本等変動計算書

（単位：百万円）

2016年度（2016年4月1日から2017年3月31日まで）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	**140,409**	**14,998**	**14,998**	**10,466**	**90,508**	**100,974**	**256,383**
当期変動額							
剰余金の配当				2,241	△13,450	△11,208	△11,208
当期純利益					18,732	18,732	18,732
土地再評価差額金の取崩					86	86	86
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	**－**	**－**	**－**	**2,241**	**5,368**	**7,609**	**7,609**
当期末残高	**140,409**	**14,998**	**14,998**	**12,707**	**95,876**	**108,584**	**263,992**

	評価・換算差額等				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	**69,064**	**△1,596**	**9,079**	**76,547**	**332,930**
当期変動額					
剰余金の配当					△11,208
当期純利益					18,732
土地再評価差額金の取崩					86
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△2,716	387	△86	△2,414	△2,414
当期変動額合計	**△2,716**	**387**	**△86**	**△2,414**	**5,194**
当期末残高	**66,348**	**△1,208**	**8,993**	**74,132**	**338,125**

2017年度（2017年4月1日から2018年3月31日まで）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	**140,409**	**14,998**	**14,998**	**12,707**	**95,876**	**108,584**	**263,992**
当期変動額							
剰余金の配当				398	△2,388	△1,990	△1,990
当期純利益					15,772	15,772	15,772
土地再評価差額金の取崩					350	350	350
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	**－**	**－**	**－**	**398**	**13,734**	**14,132**	**14,132**
当期末残高	**140,409**	**14,998**	**14,998**	**13,106**	**109,611**	**122,717**	**278,125**

	評価・換算差額等				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	**66,348**	**△1,208**	**8,993**	**74,132**	**338,125**
当期変動額					
剰余金の配当					△1,990
当期純利益					15,772
土地再評価差額金の取崩					350
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3,277	233	△350	3,159	3,159
当期変動額合計	**3,277**	**233**	**△350**	**3,159**	**17,291**
当期末残高	**69,625**	**△975**	**8,642**	**77,292**	**355,417**

重要な会計方針　（2017年度）

1．特定取引資産・負債の評価基準及び収益・費用の計上基準

金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る短期的な変動、市場間の格差等を利用して利益を得る等の目的（以下「特定取引目的」という。）の取引については、取引の約定時点を基準とし、貸借対照表上「特定取引資産」及び「特定取引負債」に計上するとともに、当該取引からの損益を損益計算書上「特定取引収益」及び「特定取引費用」に計上しております。

特定取引資産及び特定取引負債の評価は、有価証券及び金銭債権等については決算日の時価により、スワップ・先物・オプション取引等の派生商品については決算日において決済したものとみなした額により行っております。

また、特定取引収益及び特定取引費用の損益計上は、当事業年度中の受払利息等に、有価証券及び金銭債権等については前事業年度末と当事業年度末における評価損益の増減額を、派生商品については前事業年度末と当事業年度末におけるみなし決済からの損益相当額の増減額を加えております。

2．有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、子会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券のうち株式については原則として決算期末前1カ月の市場価格の平均に基づく価格、それ以外については原則として決算日における市場価格等に基づく時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

3．デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引（特定取引目的の取引を除く）の評価は、時価法により行っております。

4．固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

有形固定資産は、動産については定率法、不動産については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建　物：6年～50年
その他：3年～20年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間（主として5年）に基づいて償却しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

5．外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、主として決算日の為替相場による円換算額を付しております。

6．引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という。）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で非保全額又は与信額が一定金額以上の大口債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを貸出条件緩和実施前の約定利子率で割り引いた金額と債権の帳簿価額の差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）により計上しております。

上記以外の債権については、一定の種類ごとに分類し、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は30,315百万円であります。

(2) 退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。なお、過去勤務費用及び数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用：その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（8年）による定額法により損益処理
数理計算上の差異：各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（8年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から損益処理

(3) 役員退職慰労引当金

当行の役員退職慰労金制度については、2012年5月11日開催の取締役会で廃止することを決定し、2012年6月26日開催の定時株主総会にて、役員退職慰労金制度廃止に伴う退職慰労金の打ち切り支給が承認されております。

これに伴い、当行の役員退職慰労引当金の繰入は2012年6月の繰入をもって停止し、既引当金については継続して役員退職慰労引当金として計上しております。

(4) 偶発損失引当金

偶発損失引当金は、信用保証協会における責任共有制度に基づく、将来発生する可能性のある負担金支払見込額及び他の引当金で引当対象とした事象以外の偶発事象に対し、将来発生する可能性のある損失を見積り、必要と認められる額をそれぞれ計上しております。

(5) 睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。

7．ヘッジ会計の方法

(イ) 金利リスク・ヘッジ

金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法として、一部の資産・負債について、ヘッジ対象とヘッジ手段を直接対応させる「個別ヘッジ」を適用し、繰延ヘッジによる会計処理あるいは金利スワップの特例処理を行っております。

ヘッジの有効性評価の方法については、当行のリスク管理手続きに則り、ヘッジ指定を行い、ヘッジ手段とヘッジ対象を一体管理するとともに、ヘッジ手段によってヘッジ対象の金利リスクが減殺されているかどうかを検証することで評価しております。

(ロ) 為替変動リスク・ヘッジ

外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号　2002年7月29日）に規定する繰延ヘッジによっております。

ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

8．その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税（以下、消費税等という。）の会計処理は、税抜方式によっております。

ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しております。

注記事項　（2017年度）

1．貸借対照表関係

※1．関係会社の株式及び出資金総額　95百万円

※2．貸出金のうち、破綻先債権額は2,158百万円、延滞債権額は71,986百万円であります。

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（1965年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

※3．貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は88百万円であります。

なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

※4．貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は10,858百万円であります。

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。

※5．破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は85,091百万円であります。

なお、上記2．から5．に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

※6．手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号　2002年2月13日）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は29,270百万円であります。

※7．担保に供している資産は、次のとおりであります。

担保に供している資産		担保資産に対応する債務	
有価証券	598,182百万円	預金	20,745百万円
貸出金	268,649百万円	コールマネー	40,000百万円
		債券貸借取引受入担保金	392,551百万円
		借用金	317,211百万円

上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、有価証券8,640百万円、その他の資産（現金）49,019百万円を差し入れております。

また、その他の資産には保証金1,819百万円が含まれております。

※8．当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は1,337,212百万円であります。このうち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なものが1,278,525百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

※9．有形固定資産の圧縮記帳額　2,601百万円
（当該事業年度の圧縮記帳額　－百万円）

※10．借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金20,000百万円が含まれております。

※11．「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する当行の保証債務の額は29,121百万円であります。

2．税効果会計関係

1．繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金損金算入限度超過額	13,056百万円
減価償却損金算入限度超過額	379百万円
退職給付引当金	6,436百万円
有価証券評価損否認額	11,474百万円
その他	4,039百万円
繰延税金資産小計	35,387百万円
評価性引当額	△21,585百万円
繰延税金資産合計	13,801百万円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額	28,172百万円
合併引継土地	2,765百万円
その他	622百万円
繰延税金負債合計	31,561百万円
繰延税金資産の純額	△17,760百万円

2．法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率	30.69%
（調整）	
評価性引当額の増減	△1.35%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0.87%
住民税均等割額	0.36%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.35%
その他	△0.03%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.15%

（重要な後発事象）

該当ありません。

財務諸表に係る確認書

「財務諸表の正確性、内部監査の有効性についての経営者責任の明確化について（要請）」（2005年10月7日付金監第2835号）に基づく、当行の財務諸表の適正性、および財務諸表作成に係る内部監査の有効性に関する代表者の確認書は以下のとおりです。

2018年7月4日

確認書

株式会社　北陸銀行
取締役頭取　庵　栄伸

私は、当行の2017年4月1日から2018年3月31日までの会計年度（2018年3月期）に係る財務諸表・連結財務諸表の適正性、および財務諸表・連結財務諸表作成に係る内部監査の有効性を確認しております。

以上

損益の状況（単体）

部門別損益の状況

（単位：百万円、％）

		2016年度	2017年度
国内業務部門業務粗利益	資金運用収支	60,350	59,234
	役務取引等収支	8,760	8,848
	特定取引収支	70	41
	その他業務収支	660	△64
		69,843 **(1.10)**	**68,059** **(1.06)**
国際業務部門業務粗利益	資金運用収支	2,453	1,922
	役務取引等収支	267	260
	特定取引収支	0	3
	その他業務収支	△2,857	△1,307
		△135 (△0.03)	878 (0.27)
業務粗利益		69,707 (1.06)	68,937 (1.04)
経費		48,234	47,503
業務純益（一般貸倒引当金繰入前）		21,472	21,434
一般貸倒引当金繰入額		－	1,040
業務純益		21,472	20,394
臨時損益		3,379	3,767
経常利益		24,852	24,161
当期純利益		18,732	15,772

（注）（ ）内は業務粗利益率を表示しております。

営業経費の内訳

（単位：百万円）

	2016年度	2017年度
給料・手当	21,089	20,715
退職給付費用	1,962	671
福利厚生費	183	182
減価償却費	3,357	3,853
土地建物機械賃借料	1,227	1,220
営繕費	282	275
消耗品費	1,101	735
給水光熱費	552	575
旅費	413	372
通信費	1,202	1,200
広告宣伝費	641	495
租税公課	3,508	3,516
その他	14,572	14,339
合　計	**50,096**	**48,154**

資金運用収支

（単位：百万円、％）

		2016年度			2017年度		
		平均残高	利　息	利回り	平均残高	利　息	利回り
国内業務部門	**資金運用勘定**	**6,305,483**	**62,025**	**0.98**	**6,388,873**	**60,552**	**0.94**
	うち貸出金	4,394,603	48,238	1.09	4,541,469	46,033	1.01
	うち有価証券	1,090,553	12,675	1.16	1,072,261	13,703	1.27
	うち預け金等	612,963	619	0.10	627,873	643	0.10
	資金調達勘定	**6,423,134**	**1,674**	**0.02**	**6,666,193**	**1,317**	**0.01**
	うち預金	5,940,531	900	0.01	6,145,456	745	0.01
	うち譲渡性預金	190,828	53	0.02	167,307	27	0.01
	うち債券貸借取引受入担保金	84,990	8	0.00	120,684	13	0.01
	うち借用金等	206,776	343	0.16	232,739	139	0.06
	資金運用収支	――	**60,350**	――	――	**59,234**	――
国際業務部門	**資金運用勘定**	**392,228**	**6,142**	**1.56**	**325,207**	**5,940**	**1.82**
	うち貸出金	32,427	612	1.88	24,155	525	2.17
	うち有価証券	229,121	4,358	1.90	220,239	4,402	1.99
	うち預け金等	116,668	1,102	0.94	67,463	931	1.38
	資金調達勘定	**388,477**	**3,689**	**0.94**	**324,926**	**4,018**	**1.23**
	うち預金	59,022	354	0.60	45,807	274	0.60
	うち譲渡性預金	－	－	－	**－**	**－**	**－**
	うち債券貸借取引受入担保金	154,741	1,413	0.91	154,666	1,700	1.09
	うち借用金等	23,255	284	1.22	17,709	273	1.54
	資金運用収支	――	**2,453**	――	――	**1,922**	――
合　計		――	**62,803**	――	――	**61,156**	――

（注）1. 預け金等にはコールローンを含んでおります。
2. 借用金等にはコールマネーを含んでおります。

受取・支払利息の分析

（単位：百万円）

		2016年度			2017年度		
		残高要因	利率要因	純増減	残高要因	利率要因	純増減
国内業務部門	**受取利息**	**465**	**△2,884**	**△2,419**	**805**	**△2,278**	**△1,473**
	うち貸出金	822	△4,439	△3,616	1,550	△3,755	△2,205
	うち有価証券	199	1,271	1,470	△223	1,251	1,028
	うち預け金等	△117	50	△67	32	△8	24
	支払利息	**97**	**△1,504**	**△1,406**	**55**	**△412**	**△356**
	うち預金	27	△895	△867	27	△183	△155
	うち譲渡性預金	△29	△139	△169	△5	△21	△26
	うち債券貸借取引受入担保金	8	**－**	8	3	0	4
	うち借用金等	425	△855	△429	23	△228	△204
	資金運用収支	**368**	**△1,380**	**△1,012**	**749**	**△1,866**	**△1,116**
国際業務部門	**受取利息**	**1,381**	**1,021**	**2,402**	**△1,136**	**935**	**△201**
	うち貸出金	101	190	292	△168	80	△87
	うち有価証券	1,604	131	1,735	△173	217	44
	うち預け金等	91	330	422	△380	209	△170
	支払利息	**725**	**1,335**	**2,061**	**△694**	**1,024**	**329**
	うち預金	72	179	252	△79	△0	△79
	うち譲渡性預金	－	－	－	**－**	**－**	**－**
	うち債券貸借取引受入担保金	763	307	1,070	△0	288	287
	うち借用金等	△294	241	△52	△89	77	△11
	資金運用収支	**655**	**△314**	**341**	**△442**	**△88**	**△531**
合　計		**1,023**	**△1,694**	**△670**	**307**	**△1,955**	**△1,647**

（注）1. 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、残高要因と利率要因に按分して記載しております。
2. 預け金等にはコールローンを含んでおります。
3. 借用金等にはコールマネーを含んでおります。

損益の状況・預金業務（単体）

役務取引等収支

（単位：百万円）

		2016年度	2017年度
国内業務部門	**役務取引等収益**	**15,559**	**15,889**
	うち預金・貸出業務	5,872	6,376
	うち為替業務	5,699	5,647
	うち証券関連業務	1,737	1,645
	役務取引等費用	**6,799**	**7,041**
	うち為替業務	910	904
	役務取引等収支	**8,760**	**8,848**
国際業務部門	**役務取引等収益**	**374**	**373**
	うち預金・貸出業務	**－**	**－**
	うち為替業務	364	364
	うち証券関連業務	**－**	**－**
	役務取引等費用	**106**	**112**
	うち為替業務	106	112
	役務取引等収支	**267**	**260**
合　計		**9,028**	**9,108**

特定取引収支

（単位：百万円）

	2016年度	2017年度
国内業務部門	**70**	**41**
商品有価証券損益	49	30
特定金融派生商品損益	20	10
国際業務部門	**0**	**3**
特定金融派生商品損益	0	3
合　計	**71**	**45**

その他業務収支

（単位：百万円）

	2016年度	2017年度
国内業務部門	**660**	**△64**
国債等債券関係損益	657	△63
その他	3	△1
国際業務部門	**△2,857**	**△1,307**
外国為替売買益	1,036	937
国債等債券関係損益	△3,893	△2,244
その他	**－**	**－**
合　計	**△2,196**	**△1,371**

預金者別残高

（単位：百万円、%）

区　分	2016年度末	構成比	2017年度末	構成比
個人預金	4,071,172	66.93	4,176,780	65.37
法人預金	1,834,323	30.16	1,999,261	31.29
その他	177,127	2.91	213,191	3.34
合　計	**6,082,623**	**100.00**	**6,389,234**	**100.00**

（注）譲渡性預金及び特別国際金融取引勘定分は含んでおりません。

預金科目別残高

（単位：百万円、%）

		2016年度				2017年度			
		期末残高	構成比	平均残高	構成比	期末残高	構成比	平均残高	構成比
国内業務部門	流動性預金	3,696,224	59.73	3,588,121	58.52	4,067,823	63.01	3,841,332	60.85
	定期性預金	2,302,483	37.20	2,329,343	37.99	2,239,719	34.70	2,280,357	36.12
	その他の預金	42,125	0.68	23,066	0.38	36,191	0.56	23,766	0.38
	合　計	**6,040,833**	**97.61**	**5,940,531**	**96.89**	**6,343,734**	**98.27**	**6,145,456**	**97.35**
	譲渡性預金	147,860	2.39	190,828	3.11	111,451	1.73	167,307	2.65
	総合計	**6,188,694**	**100.00**	**6,131,360**	**100.00**	**6,455,186**	**100.00**	**6,312,764**	**100.00**
国際業務部門	流動性預金	－	－	－	－	**－**	**－**	**－**	**－**
	定期性預金	－	－	－	－	**－**	**－**	**－**	**－**
	その他の預金	54,703	100.00	59,022	100.00	50,639	100.00	45,807	100.00
	合　計	**54,703**	**100.00**	**59,022**	**100.00**	**50,639**	**100.00**	**45,807**	**100.00**
	譲渡性預金	－	－	－	－	**－**	**－**	**－**	**－**
	総合計	**54,703**	**100.00**	**59,022**	**100.00**	**50,639**	**100.00**	**45,807**	**100.00**

（注）1. 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金
2. 定期性預金＝定期預金＋定期積金
3. 国際業務部門の外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

定期預金の残存期間別残高

（単位：百万円）

		3ヵ月未満	3ヵ月以上6ヵ月未満	6ヵ月以上1年未満	1年以上2年未満	2年以上3年未満	3年以上	合計
2016年度末	定期預金	462,211	528,336	749,009	182,362	115,024	128,672	**2,165,616**
	うち固定自由金利定期預金	462,131	528,235	748,823	182,109	114,745	127,670	**2,163,716**
	うち変動自由金利定期預金	80	100	185	253	278	1,001	**1,900**
	うちその他定期預金	－	－	－	－	－	－	－
2017年度末	定期預金	466,225	464,646	739,470	147,311	142,047	141,701	**2,101,403**
	うち固定自由金利定期預金	466,147	464,559	739,323	147,052	141,626	140,718	**2,099,427**
	うち変動自由金利定期預金	77	87	147	259	420	983	**1,976**
	うちその他定期預金	**－**	**－**	**－**	**－**	**－**	**－**	**－**

（注）1. 固定自由金利定期預金：預入時に満期日までの利率が確定する自由金利定期預金
2. 変動自由金利定期預金：預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する自由金利定期預金
3. 本表の預金残高には、積立定期預金を含んでおりません。

貸出業務（単体）

貸出金科目別残高

（単位：百万円）

		2016年度		2017年度	
		期末残高	平均残高	期末残高	平均残高
国内業務部門	手形貸付	126,912	139,133	122,922	118,629
	証書貸付	3,719,211	3,681,690	3,866,951	3,810,652
	当座貸越	560,904	548,461	636,746	589,452
	割引手形	25,452	25,317	26,036	22,734
	計	**4,432,480**	**4,394,603**	**4,652,657**	**4,541,469**
国際業務部門	手形貸付	4,723	3,819	3,150	4,491
	証書貸付	30,418	28,607	14,341	19,663
	当座貸越	－	－	－	－
	割引手形	－	－	－	－
	計	**35,142**	**32,427**	**17,492**	**24,155**
合　計		**4,467,623**	**4,427,030**	**4,670,149**	**4,565,624**

（注）国際業務部門の外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

業種別貸出状況

（単位：百万円、％）

	2016年度末		2017年度末	
	貸出金残高	構成比	貸出金残高	構成比
国内（除く特別国際金融取引勘定分）	**4,467,623**	**100.00**	**4,670,149**	**100.00**
製造業	557,453	12.48	565,182	12.10
農業，林業	16,904	0.38	12,140	0.26
漁業	809	0.02	1,227	0.03
鉱業，採石業，砂利採取業	1,892	0.04	2,125	0.05
建設業	175,145	3.92	172,102	3.68
電気・ガス・熱供給・水道業	66,819	1.50	76,522	1.64
情報通信業	30,717	0.69	29,489	0.63
運輸業，郵便業	88,549	1.98	91,713	1.96
卸売業，小売業	458,204	10.26	472,004	10.11
金融業，保険業	184,269	4.12	184,722	3.95
不動産業，物品賃貸業	446,471	9.99	501,058	10.73
各種サービス業	362,752	8.12	372,964	7.99
地方公共団体等	857,426	19.19	961,418	20.59
その他	1,220,213	27.31	1,227,483	26.28
特別国際金融取引勘定分	－	－	－	－
合　計	**4,467,623**	——	**4,670,149**	——

貸出金の残存期間別残高

（単位：百万円）

		1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超	期間の定めのないもの	合計
2016年度末	貸出金	1,502,630	905,848	607,880	380,945	1,056,982	13,335	**4,467,623**
	うち変動金利		334,881	190,220	90,191	220,401	13,335	
	うち固定金利		570,966	417,660	290,754	836,581	－	
2017年度末	貸出金	1,677,043	882,950	611,552	376,429	1,104,837	17,335	**4,670,149**
	うち変動金利		321,827	194,226	100,165	235,011	17,335	
	うち固定金利		561,123	417,326	276,263	869,826	－	

（注）残存期間1年以下の貸出金については、変動金利、固定金利の区別をしておりません。

貸出金使途別残高

（単位：百万円、％）

区　分	2016年度末		2017年度末	
	貸出金残高	構成比	貸出金残高	構成比
設備資金	2,084,162	46.65	2,176,393	46.60
運転資金	2,383,461	53.35	2,493,755	53.40
合　計	**4,467,623**	**100.00**	**4,670,149**	**100.00**

貸出金の担保別内訳

（単位：百万円）

種　類	2016年度末	2017年度末
有価証券	28,421	27,526
債　権	59,819	59,722
商　品	231	263
不動産	641,844	663,936
その他	51,855	49,009
計	**782,173**	**800,458**
保　証	2,153,534	2,024,270
信　用	1,531,915	1,845,420
合　計	**4,467,623**	**4,670,149**

支払承諾見返の担保別内訳

（単位：百万円）

種　類	2016年度末	2017年度末
有価証券	1,393	1,663
債　権	475	328
商　品	－	－
不動産	3,947	3,545
その他	356	281
計	**6,173**	**5,819**
保　証	9,756	8,557
信　用	15,617	14,216
合　計	**31,547**	**28,593**

中小企業等に対する貸出金

（単位：百万円）

区　分	2016年度末	2017年度末
貸出金残高	**4,467,623**	**4,670,149**
うち中小企業等	2,969,746	3,050,235
（割合）	（66.47%）	（65.31%）

（注）1. 貸出金残高には、特別国際金融取引勘定分は含まれておりません。
2. 中小企業等とは、資本金3億円（ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円）以下の会社又は常用する従業員が300人（ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人、サービス業は100人）以下の企業等であります。

個人ローン残高

（単位：百万円）

	2016年度末	2017年度末
個人ローン残高	**1,199,871**	**1,225,590**
住宅系ローン残高	1,133,983	1,157,640
その他のローン残高	65,888	67,949

（注）1. 住宅系ローンには、アパートローンを含んでおります。
2. その他のローンには、カードローンを含んでおり、総合口座の貸越残高は含んでおりません。

金融再生法に基づく開示債権の額

（単位：百万円）

区　分	2016年度末	2017年度末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	12,612	10,991
危険債権	66,296	64,314
要管理債権	10,176	10,946
小　計	**89,086**	**86,252**
正常債権	4,450,642	4,656,756
合　計	**4,539,728**	**4,743,009**

（注）資産の査定は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」（1998年法律第132号）第6条に基づき、当行の貸借対照表の社債（当該社債を有する金融機関がその元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が金融商品取引法（1948年法律第25号）第2条第3項に規定する有価証券の私募によるものに限る。）、貸出金、外国為替、その他資産中の未収利息及び仮払金、支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに貸借対照表に注記することとされている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券（使用貸借又は賃貸借契約によるものに限る。）について債務者の財政状態及び経営成績等を基礎として次のとおり区分するものであります。
（1）「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。
（2）「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権であります。
（3）「要管理債権」とは、3カ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権であります。
（4）「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記（1）から（3）までに掲げる債権以外のものに区分される債権であります。

リスク管理債権額

（単位：百万円）

区　分	2016年度末	2017年度末
破綻先債権額	2,422	2,158
延滞債権額	75,270	71,986
3カ月以上延滞債権額	290	88
貸出条件緩和債権額	9,886	10,858
合　計	**87,869**	**85,091**

リスク管理債権額（連結）

（単位：百万円）

区　分	2016年度末	2017年度末
破綻先債権額	2,422	2,158
延滞債権額	75,270	71,986
3カ月以上延滞債権額	290	88
貸出条件緩和債権額	9,886	10,858
合　計	**87,869**	**85,091**

特定海外債権残高

該当ありません。

貸倒引当金残高

（単位：百万円）

		2016年度					2017年度				
		期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高
				目的使用	その他				目的使用	その他	
貸倒引当金	一般貸倒引当金	3,912	3,913	－	3,912	3,913	3,913	4,953	－	3,913	4,953
	個別貸倒引当金	15,032	14,153	868	14,163	14,153	14,153	13,721	1,063	13,090	13,721
	うち非居住者向け債権分	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	特定海外債権引当勘定	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	合　計	**18,944**	**18,066**	**868**	**18,076**	**18,066**	**18,066**	**18,675**	**1,063**	**17,003**	**18,675**

貸出金償却額

（単位：百万円）

	2016年度	2017年度
貸出金償却額	123	53

為替業務・国際業務（単体）

内国為替取扱高

（単位：千口、百万円）

区　分		2016年度		2017年度	
		口　数	金　額	口　数	金　額
送金為替	各地へ向けた分	21,719	19,518,170	21,690	19,710,987
	各地より受けた分	22,974	20,337,254	22,830	20,582,500
代金取立	各地へ向けた分	427	812,066	383	743,910
	各地より受けた分	427	822,288	382	742,639

外国為替取扱高

（単位：百万米ドル）

区　分		2016年度	2017年度
仕向為替	売渡為替	4,036	3,298
	買入為替	49	64
被仕向為替	支払為替	3,536	2,893
	取立為替	137	127
合　計		**7,760**	**6,384**

国際業務部門資産残高

（単位：百万米ドル）

	2016年度末	2017年度末
国内店合計	**3,832**	**2,404**

（注）国際業務部門は国内店の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

証券業務（単体）

有価証券残高

（単位：百万円、％）

種類		2016年度				2017年度			
		期末残高	構成比	平均残高	構成比	期末残高	構成比	平均残高	構成比
国内業務部門	国債	541,206	45.44	550,813	50.51	481,289	41.81	500,152	46.65
	地方債	232,882	19.55	215,143	19.73	249,532	21.68	237,506	22.15
	社債	160,367	13.46	153,055	14.03	157,438	13.68	155,722	14.52
	株式	155,198	13.03	91,094	8.35	166,524	14.46	90,006	8.39
	その他の証券	101,528	8.52	80,445	7.38	96,363	8.37	88,872	8.29
	合計	**1,191,183**	**100.00**	**1,090,553**	**100.00**	**1,151,149**	**100.00**	**1,072,261**	**100.00**
国際業務部門	外国債券	266,493	100.00	229,120	100.00	165,954	100.00	220,239	100.00
	外国株式	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	合計	**266,494**	**100.00**	**229,121**	**100.00**	**165,954**	**100.00**	**220,239**	**100.00**

（注）国際業務部門の外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

有価証券の残存期間別残高

（単位：百万円）

種類		1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超10年以下	10年超	期間の定めのないもの	合計
2016年度末	国債（注）	55,751	225,511	207,288	52,655	－	－	－	**541,206**
	地方債	9,642	123,695	69,839	1,467	28,238	－	－	**232,882**
	社債	8,713	39,550	31,083	10,900	10,146	59,971	－	**160,367**
	株式	－	－	－	－	－	－	155,198	**155,198**
	外国債券	1,088	49,630	15,394	56,554	141,831	1,994	－	**266,493**
	外国株式	－	－	－	－	－	－	0	**0**
	その他の証券	0	3,930	6,839	4,814	25,857	12	60,073	**101,528**
2017年度末	国債（注）	84,242	257,174	139,872	－	－	－	－	**481,289**
	地方債	24,185	139,698	52,752	9,359	23,536	－	－	**249,532**
	社債	10,873	42,544	26,545	8,648	11,170	57,656	－	**157,438**
	株式	－	－	－	－	－	－	166,524	166,524
	外国債券	13,095	35,279	8,342	68,917	39,354	964	－	**165,954**
	外国株式	－	－	－	－	－	－	0	**0**
	その他の証券	2,458	5,848	3,696	5,585	19,270	12	59,490	**96,363**

（注）国債には、変動利付国債152,819百万円（前年度末は208,571百万円）を含んでおります。

商品有価証券ディーリング実績

（単位：百万円）

種類	2016年度		2017年度	
	売買高	平均残高	売買高	平均残高
商品国債	914	560	580	556
商品地方債	45	207	30	170
商品政府保証債	－	10	－	9
合計	**959**	**778**	**610**	**736**

（注）売買高は現物取引のほか、先物・オプション取引を含んでおります。

公共債の引受実績

（単位：百万円）

区分	2016年度	2017年度
国債	－	－
地方債・政府保証債	17,978	39,866
合計	**17,978**	**39,866**

公共債及び投資信託の窓口販売実績

（単位：百万円）

区分	2016年度	2017年度
国債	10,811	9,588
地方債・政府保証債	－	－
合計	**10,811**	**9,588**
投資信託	38,941	38,398

有価証券・金銭の信託の時価等情報（単体）

有価証券の時価等情報

（単位：百万円）

1．貸借対照表の「有価証券」のほか、「特定取引資産」中の商品有価証券、「現金預け金」中の譲渡性預け金及び「買入金銭債権」中の信託受益権等も含めて記載しております。
2．「子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの」については該当ありません。

1．売買目的有価証券

	2016年度末	2017年度末
	2016年度の損益に含まれた評価差額	2017年度の損益に含まれた評価差額
売買目的有価証券	3	△0

2．満期保有目的の債券

該当ありません。

3．その他有価証券

	種類	2016年度末			2017年度末		
		貸借対照表計上額	取得原価	差額	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	122,727	59,413	63,314	130,478	51,270	79,208
	債券	885,278	862,891	22,387	820,503	804,458	16,045
	国債	541,206	526,207	14,999	481,289	470,706	10,582
	地方債	213,048	208,991	4,057	205,354	202,711	2,642
	社債	131,023	127,692	3,330	133,859	131,039	2,820
	その他	170,649	163,450	7,199	120,068	114,789	5,278
	外国証券	77,255	76,838	416	41,082	40,647	435
	その他	93,394	86,611	6,782	78,985	74,142	4,843
	小計	**1,178,656**	**1,085,755**	**92,901**	**1,071,050**	**970,518**	**100,532**
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	15,027	15,430	△403	19,275	22,521	△3,245
	債券	49,177	49,494	△317	67,757	67,948	△191
	国債	－	－	－	－	－	－
	地方債	19,833	19,867	△34	44,178	44,226	△48
	社債	29,343	29,627	△283	23,579	23,722	△143
	その他	252,170	257,304	△5,134	186,427	191,000	△4,573
	外国証券	189,238	193,097	△3,859	124,871	126,940	△2,069
	その他	62,931	64,206	△1,275	61,555	64,060	△2,504
	小計	**316,374**	**322,229**	**△5,854**	**273,460**	**281,470**	**△8,010**
合計		**1,495,031**	**1,407,984**	**87,046**	**1,344,511**	**1,251,989**	**92,522**

4．期中に売却したその他有価証券

	2016年度			2017年度		
	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	24,636	4,140	601	18,744	4,508	56
債券	168	1	－	4,534	25	－
国債	－	－	－	－	－	－
地方債	－	－	－	4,153	23	－
社債	168	1	－	381	2	－
その他	153,875	1,038	4,104	219,261	1,147	3,404
外国証券	81,706	163	4,056	150,871	881	3,126
その他	72,169	875	47	68,390	265	278
合計	**178,681**	**5,180**	**4,705**	**242,540**	**5,682**	**3,461**

5．時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券

	2016年度末	2017年度末
子会社株式及び関連会社株式	50	50
うち子会社株式	50	50
非上場株式	17,394	16,720
非上場外国証券	0	0

6．保有目的を変更した有価証券

該当ありません。

7．減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券（時価を把握することが極めて困難なものを除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当期の損失として処理（以下「減損処理」という）しております。
前期における減損処理額は、96百万円（株式1百万円、その他94百万円）であります。
当期における減損処理額は、該当ありません。
また、「減損処理」は、資産の自己査定における有価証券の発行会社の区分ごとに次のとおり実施しております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先、要注意先	株式は時価が取得原価に比べ下落、債券は時価が取得原価に比べ30％超下落
正常先	時価が取得原価の50％以上下落、又は、時価が取得原価の30％超50％未満下落かつ市場価格が一定水準以下で推移等

なお、要注意先とは今後管理に注意を要する債務者であり、正常先とは、破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の債務者であります。

金銭の信託の時価等情報

1．運用目的の金銭の信託

該当ありません。

2．満期保有目的の金銭の信託

該当ありません。

3．その他の金銭の信託（運用目的及び満期保有目的以外）

該当ありません。

その他有価証券評価差額金

（単位：百万円）

貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は次のとおりであります。

	2016年度末	2017年度末
評価差額	87,046	92,522
その他有価証券	87,046	92,522
その他の金銭の信託	－	－
（＋）繰延税金資産（又は（△）繰延税金負債）	△20,697	△22,896
その他有価証券評価差額金	66,348	69,625

デリバティブ取引情報（単体）

取引の時価等

（単位：百万円）

1．ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

区分	種類		2016年度末				2017年度末			
			契約額等	うち1年超	時価	評価損益	契約額等	うち1年超	時価	評価損益
店頭	金利スワップ	受取固定・支払変動	92,309	89,758	1,083	1,209	14,436	12,645	717	735
		受取変動・支払固定	92,574	90,400	△836	△836	14,632	12,701	△598	△598
	金利オプション	売建	－	－	－	－	－	－	－	－
		買建	－	－	－	－	－	－	－	－
	その他	売建	－	－	－	－	－	－	－	－
		買建	－	－	－	－	－	－	－	－
合計					246	372			119	137

（注）1．上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。
2．時価の算定
割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

(2) 通貨関連取引

区分	種類		2016年度末				2017年度末			
			契約額等	うち1年超	時価	評価損益	契約額等	うち1年超	時価	評価損益
店頭	通貨スワップ		－	－	－	－	3,784	3,784	3	3
	為替予約	売建	13,196	258	8	8	21,454	235	342	342
		買建	21,799	168	135	135	25,877	159	△147	△147
	通貨オプション	売建	18,222	4,055	△470	189	14,959	3,014	△279	107
		買建	18,222	4,055	470	△47	14,959	3,014	279	△34
合計					143	285			198	270

（注）1．上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。
2．時価の算定
割引現在価値等により算定しております。

(3) 株式関連取引

該当ありません。

(4) 債券関連取引

該当ありません。

(5) 商品関連取引

区分	種類		2016年度末				2017年度末			
			契約額等	うち1年超	時価	評価損益	契約額等	うち1年超	時価	評価損益
店頭	商品スワップ	固定価格受取・変動仁格支払	708	691	△26	△26	556	555	△69	△69
		変動価格受取・固定仁格支払	708	691	65	65	556	555	96	96
合計					38	38			27	27

（注）1．上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。
2．時価の算定
取引対象物の価格、契約期間、その他当該取引に係る契約を構成する要素に基づき算出しております。
3．商品は、オイル、銅、アルミニウム等に係るものであります。

(6) クレジット・デリバティブ取引

該当ありません。

取引の時価等

（単位：百万円）

2．ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

ヘッジ会計の方法	種類		主なヘッジ対象	2016年度末			2017年度末		
				契約額等	うち1年超	時価	契約額等	うち1年超	時価
原則的処理方法	金利スワップ	受取変動・支払固定	その他有価証券（債券）	55,000	55,000	△1,748	55,000	55,000	△1,475
金利スワップの特例処理	金利スワップ	受取変動・支払固定	貸出金	6,250	6,239	（注）3	18,033	18,013	（注）3
合計			――			△1,748			△1,475

（注）1．主として「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号　2002年2月13日）に基づき、繰延ヘッジによっております。
2．時価の算定
割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。
3．金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている貸出金と一体として処理されているため、その時価は（金融商品関係）の当該貸出金の時価に含めて記載しております。

(2) 通貨関連取引

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2016年度末			2017年度末		
			契約額等	うち1年超	時価	契約額等	うち1年超	時価
原則的処理方法	通貨スワップ	外貨建貸出金・外貨建有価証券	50,598	22,452	2,362	42,416	146	3,752
	為替予約	外貨コールローン・外貨預け金	63,189	－	728	29,739	－	432
合計		――			3,090			4,184

（注）1．主として「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号　2002年7月29日）に基づき、繰延ヘッジによっております。
2．時価の算定
割引現在価値等により算定しております。

(3) 株式関連取引

該当ありません。

(4) 債券関連取引

該当ありません。

デリバティブ取引情報・諸比率等（単体）

オフバランス取引情報

（単位：億円）

		2016年度末	2017年度末
金融派生商品及び先物外国為替取引の想定元本額（信用リスク相当額）	金利及び通貨スワップ	1,429 (59)	1,216 (55)
	金利及び通貨オプション	920 (12)	159 (5)
	先物外国為替取引	971 (22)	718 (17)
	その他の金融派生商品	14 (2)	11 (2)
	合　計	**3,335 (96)**	**2,105 (81)**
与信関連取引の契約金額	ローン・コミットメント	8,582	8,556
	保証取引	315	285
	その他	6,483	6,170
	合　計	**15,381**	**15,013**

（注）1. 上記取引は、オフバランス取引のうち、自己資本比率基準の対象のものです。
2. 信用リスク相当額は、カレント・エクスポージャー方式で算出しております。
3. なお、自己資本比率基準で算出対象となっていない取引所取引、原契約期間が5営業日以内の外国為替関連取引等の契約金額・想定元本額は次のとおりです。

	2016年度末	2017年度末
金利及び通貨先物取引	－	－
金利及び通貨オプション	－	－
先物外国為替取引	21	52
その他の金融派生商品（*）	－	－
合　計	**21**	**52**

（*）「その他の金融派生商品」は、取引所で取引される金利、通貨及び株価指数の各先物取引が含まれます。先物取引とは、将来の特定の期日に予め決められた価格等とその時点での価格等との差額を決済する取引のことです。

利　鞘

（単位：%）

		2016年度	2017年度
資金運用利回り	国内業務部門	0.98	0.94
	国際業務部門	1.56	1.82
	計	**1.03**	**1.00**
資金調達原価	国内業務部門	0.75	0.71
	国際業務部門	1.30	1.66
	計	**0.80**	**0.76**
総資金利鞘	国内業務部門	0.22	0.23
	国際業務部門	0.25	0.16
	計	**0.23**	**0.23**

利益率

（単位：%）

	2016年度	2017年度
総資産経常利益率	0.35	0.33
資本経常利益率	7.40	6.96
総資産当期純利益率	0.26	0.21
資本当期純利益率	5.58	4.54

（注）1. 総資産経常（当期純）利益率＝$\frac{\text{経常（当期純）利益}}{\text{総資産（除く支払承諾見返）平均残高}}\times 100$

2. 資本経常（当期純）利益率＝$\frac{\text{経常（当期純）利益－優先株式配当金総額}}{\{(\text{期首純資産（除く優先株式）})+(\text{期末純資産（除く優先株式）})\}\div 2}\times 100$

預貸率・預証率

（単位：%）

		2016年度		2017年度	
		期末値	期中平均値	期末値	期中平均値
預貸率	国内業務部門	71.62	71.67	72.07	71.94
	国際業務部門	64.24	54.94	34.54	52.73
	計	**71.55**	**71.51**	**71.78**	**71.80**
預証率	国内業務部門	19.24	17.78	17.83	16.98
	国際業務部門	487.15	388.18	327.71	480.79
	計	**23.34**	**21.31**	**20.24**	**20.32**

（注）預金額には譲渡性預金を含んでおります。

店舗・人員の状況

店舗数の推移

（単位：店）

		2016年度末	2017年度末
国　内	本支店	145	145
	出張所	41	42
	国内計	**186**	**187**
海　外	駐在員事務所	6	6

現金自動機設置状況

（単位：台）

	2016年度末	2017年度末
店　舗　内	377	367
店　舗　外	233	230
合　　計	**610**	**597**

（注）イーネット、ローソン・エイティエム・ネットワークス、バンクタイム、セブン銀行及びまちかどATMとの提携により、利用できるコンビニATMは53,143台です。

従業員の状況

	2016年度末	2017年度末
従 業 員 数	2,779人	2,754人
平 均 年 齢	38歳　9月	38歳　8月
平均勤続年数	15年　5月	15年　4月
平均給与月額	377千円	372千円

（注）1. 平均年齢、平均勤続年数、平均給与月額は、それぞれ単位未満を切り捨てて表示しております。
2. 従業員には、出向者を含み臨時雇員及び嘱託は含まれておりません。
3. 平均給与月額は、賞与を除く3月中の平均給与月額であります。

従業員1人当たり預金・貸出金残高

（単位：百万円）

種　類	2016年度末	2017年度末
預　金	2,176	2,292
貸出金	1,557	1,645

（注）1. 預金額には譲渡性預金を含んでおります。
2. 従業員数は期中平均人員を使用し計算しております。また、従業員数には本部人員数を含んでおります。

1店舗当たり預金・貸出金残高

（単位：百万円）

種　類	2016年度末	2017年度末
預　金	43,356	45,179
貸出金	31,025	32,431

（注）1. 預金額には譲渡性預金を含んでおります。
2. 店舗数は国際事務センター・出張所を含まないもので計算しております。

自己資本の充実の状況（連結）

当行は、銀行法施行規則（1982年大蔵省令第10号）第19条の2第1項第5号ニ等の規定に基づき、自己資本の充実の状況等について金融庁長官が別に定める事項（自己資本比率規制の第3の柱（市場規律））として、事業年度の開示事項を、以下のとおり、開示しております。

自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（2006年金融庁告示第19号。以下「自己資本比率告示」という。）に定められた算式に基づき、算出しております。

当行は、国内基準を適用のうえ信用リスク・アセットの算出においては標準的手法（注）を採用しております。また、オペレーショナル・リスク相当額の算出においては、粗利益配分手法を採用しております。

（注）標準的手法とは、あらかじめ監督当局が設定したリスク・ウェイトを使用して信用リスク・アセットを算出する手法のことです。

自己資本の構成及び自己資本比率（連結）

（単位：百万円）

項　目	2016年度末	経過措置による不算入額	2017年度末	経過措置による不算入額
コア資本に係る基礎項目				
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	264,102		278,241	
うち、資本金及び資本剰余金の額	155,408		155,408	
うち、利益剰余金の額	108,693		122,832	
うち、自己株式の額（△）	－		－	
うち、社外流出予定額（△）	－		－	
うち、上記以外に該当するものの額	－		－	
コア資本に算入されるその他の包括利益累計額	△1,958		△2,359	
うち、為替換算調整勘定	－		－	
うち、退職給付に係るものの額	△1,958		△2,359	
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	－		－	
コア資本に係る調整後非支配株主持分の額	－		－	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	4,809		5,830	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	4,809		5,830	
うち、適格引当金コア資本算入額	－		－	
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	－		－	
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	20,000		20,000	
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	－		－	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	4,624		3,815	
非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	－		－	
コア資本に係る基礎項目の額　（イ）	291,577		305,527	
コア資本に係る調整項目				
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	2,048	1,365	3,324	831
うち、のれんに係るもの（のれん相当額を含む。）の額	－	－	－	－
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	2,048	1,365	3,324	831
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	3	2	3	0
適格引当金不足額	－	－	－	－
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	182	－	－	－
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	－	－	－	－
退職給付に係る資産の額	－	－	498	124
自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	－	－	－	－
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	－	－	－	－
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	－	－	－	－
特定項目に係る十パーセント基準超過額	－	－	－	－
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	－	－	－	－
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	－	－	－	－
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	－	－	－	－
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	－	－	－	－
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	－	－	－	－
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	－	－	－	－
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	－	－	－	－
コア資本に係る調整項目の額　（ロ）	2,234		3,826	
自己資本				
自己資本の額（（イ）－（ロ））　（ハ）	289,343		301,700	
リスク・アセット等				
信用リスク・アセットの額の合計額	3,180,763		3,215,707	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	14,047		14,087	
うち、無形固定資産（のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）	1,365		831	
うち、繰延税金資産	2		0	
うち、退職給付に係る資産	－		124	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△2,000		△1,000	
うち、上記以外に該当するものの額	14,679		14,130	
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	－		－	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	137,756		134,652	
信用リスク・アセット調整額	－		－	
オペレーショナル・リスク相当額調整額	－		－	
リスク・アセットの額の合計額　（ニ）	3,318,519		3,350,359	
連結自己資本比率				
連結自己資本比率（（ハ）／（ニ））	8.71%		9.00%	

【定性的な開示事項】

1．連結の範囲に関する事項

(1) 自己資本比率告示第26条の規定により連結自己資本比率を算出する対象となる会社の集団（以下「連結グループ」という。）に属する会社と会計連結範囲に含まれる会社との相違点及び当該相違点の生じた原因

・連結グループに属する会社と会計連結範囲に含まれる会社に相違点はありません。

(2) 連結グループのうち、連結子会社の数、名称及び主要な業務の内容

2017年3月末の連結グループに属する連結子会社は1社であります。

名　称	主要な業務の内容
北銀ビジネスサービス株式会社	文書管理業務、事務集中処理業務等

2018年3月末の連結グループに属する連結子会社は1社であります。

名　称	主要な業務の内容
北銀ビジネスサービス株式会社	文書管理業務、事務集中処理業務等

(3) 自己資本比率告示第32条が適用される金融業務を営む関連法人等の数並びに当該金融業務を営む関連法人等の名称、貸借対照表の総資産の額及び純資産の額並びに主要な業務の内容

当該金融業務を営む関連法人等はありません。

(4) 連結グループに属する会社であって会計連結範囲に含まれないもの及び連結グループに属しない会社であって会計連結範囲に含まれるものの名称、貸借対照表の総資産の額及び純資産の額並びに主要な業務の内容

・連結グループに属する会社であって会計連結範囲に含まれないもの
該当するものはありません。

・連結グループに属しない会社であって会計連結範囲に含まれるもの
該当するものはありません。

(5) 連結グループ内の資金及び自己資本の移動に係る制限等の概要

連結子会社において、債務超過会社はなく、自己資本は充実しております。また、連結グループ内において自己資本にかかる支援は行っておりません。

2．自己資本調達手段（その額の全部又は一部が、自己資本比率告示第25条又は第37条の算式におけるコア資本に係る基礎項目の額に含まれる資本調達手段をいう。）の概要

2017年3月末の自己資本調達の概要は以下のとおりです。

発行主体	当行	当行
資本調達手段の種類	普通株式	劣後特約付借入金
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額（連結）	2,641億円	200億円
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額（単体）	2,639億円	200億円
償還期限の有無	無	有
その日付	—	2023年10月23日から2024年3月29日まで
償還等を可能とする特約の概要		
初回償還可能日及びその償還金額	—	2018年10月23日 130億円
償還特約の対象となる事由	—	5年経過
ステップ・アップ金利等に係る特約その他の償還等を行う蓋然性を高める特約の概要	—	契約時から5年を経過した後にステップ・アップ金利特約を付したものがあります。

2018年3月末の自己資本調達の概要は以下のとおりです。

発行主体	当行	当行
資本調達手段の種類	普通株式	劣後特約付借入金
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額（連結）	2,782億円	200億円
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額（単体）	2,781億円	200億円
償還期限の有無	無	有
その日付	—	2023年10月23日から2024年3月29日まで
償還等を可能とする特約の概要		
初回償還可能日及びその償還金額	—	2018年10月23日 130億円
償還特約の対象となる事由	—	5年経過
ステップ・アップ金利等に係る特約その他の償還等を行う蓋然性を高める特約の概要	—	契約時から5年を経過した後にステップ・アップ金利特約を付したものがあります。

●以下の「3. 銀行の自己資本の充実度に関する評価方法の概要」から「10. 金利リスクに関する事項」までの開示内容については、「7.証券化エクスポージャーに関する事項」を除いて、2016年度、2017年度とも相違はありません。

3．銀行の自己資本の充実度に関する評価方法の概要

当行では、自己資本比率の管理に加えて、当行が銀行業務を行う上で被る可能性のある各種のリスクを把握・管理することで、自己資本充実度の評価を行っております。

自己資本充実度を評価する主要な方法としては、「リスク資本配賦」による経営管理の枠組み構築を進めており、業務上抱える「信用リスク」「市場リスク」「オペレーショナル・リスク」等様々なリスクにかかる最大損失額を計量化等により見積もり、リスクがすべて発現した場合でも一定の自己資本比率を確保できるよう一定限度内にリスク量が収まっていることを定期的にモニタリングしております。

このほか、一定の金利ショックが起こった場合の影響額試算や、与信集中に係るストレステスト等も実施しております。

なお、連結グループについては、主として連結自己資本比率の管理を通じて自己資本の充実度の評価を行っております。

4．信用リスクに関する事項

(1) リスク管理の方針及び手続の概要

信用リスクとは、お取引先の経営状態の悪化などにより貸出金などの元本・利息が回収できなくなるリスクです。

当行では、信用リスクの適切な管理・運営を行うことにより経営の健全性の確保と収益力の向上に努める基本方針のもと、「信用リスク管理規定」等各種規定類を制定し、業務推進部門と信用リスク管理部門の分離による内部牽制機能の確保、「クレジットポリシー」に基づく厳正な審査と信用格付の付与、与信集中リスク管理のための与信限度ラインの設定等による個別管理、自己査定や信用リスク量の計測ならびに取締役会への報告等を実施しております。

また、貸倒引当金につきましては、予め定めている償却・引当基準に則り次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。

また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で非保全額又は与信額が一定金額以上の大口債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、2013年度より、当該キャッシュ・フローを貸出条件緩和実施前の約定利子率で割り引いた金額と債権の帳簿価額の差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）により計上しております。

上記以外の債権については、一定の種類ごとに分類し、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しております。

(2) リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関

当行及び連結子会社では、リスク・ウェイトの判定にあたり、内部管理との整合性を考慮し、次のとおりエクスポージャーの区分毎に適格格付機関によって付された外部格付を使用しております。

証券化エクスポージャー	日本格付研究所（JCR） 格付投資情報センター（R&I） ムーディーズ（Moody's） S&Pグローバル・レーティング
上記以外のエクスポージャー	日本格付研究所（JCR） 格付投資情報センター（R&I）

5．信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

信用リスク削減手法とは、当行及び連結子会社が抱える信用リスクを軽減するための措置であり、担保、保証、貸出金と預金の相殺、クレジット・デリバティブが該当いたします。

信用リスク削減手法の適用にあたっては、「貸出金取扱規定」等の諸規定に基づき、経済情勢の変化や経営悪化等に備えて貸出金等を保全するための補完的な手段として、合理的な範囲での適切な取り扱いに努めております。

当行及び連結子会社が取り扱う担保、保証の主要な種類は次のとおりであり、それぞれ「貸出金取扱規定」、「融資事務取扱要領」等の関連諸規定に基づき適切に事務管理を行うとともに年2回以上の定期的な評価替え（住宅ローンを除く）を実施しております。

担保の種類	預金、有価証券、商品、商業手形、不動産等
保証の種類	一般保証、信用保証協会保証等

（注）クレジット・デリバティブについては取り扱い実績はありません。

自己資本比率告示に定められている信用リスク削減手法としては、上記の担保の種類のうち適格金融資産担保として自行預金と上場株式（債務者の連結対象会社の発行するものは除く）を対象としております。また、保証としては上記の保証の種類のうち中央政府、地方公共団体、政府関係機関および信用保証協会による保証をその対象として取り扱っており、信用度の評価については、政府保証と同等又はそれに準じた水準と評価しております。

また、貸出金については、自己資本比率告示第117条に基づいて、「銀行取引約定書」等に定める相殺要件を充足する貸出金と自行定期性預金の相殺効果を勘案しております。

このほか担保付で行う証券の貸借取引等のレポ形式の取引については、法的な有効性を個別取引毎に確認できたものについて相対ネッティング契約による信用リスク削減効果を勘案しております。

信用リスク削減手法の適用に伴う信用リスクは、同一業種に偏ることのないように努めております。

6．派生商品取引の取引相手のリスクに関するリスク管理方針及び手続の概要

派生商品取引（デリバティブ取引）にかかる信用リスクについては、その他の与信とオン・バランス、オフ・バランス合算して管理するとともに、担保等の保全についても与信合計との対比で適切に保全措置を講じております。

貸倒引当金については、必要に応じて予め定めている償却・引当基準に則り引当しております。

対金融機関との派生商品取引において、ISDA Credit Support Annex（CSA）契約を締結する担保付取引については、当行の格付低下等の信用力低下によって追加的に取引相手に担保提供する義務が生じるものがあります。

なお、連結子会社において派生商品取引の取り扱いはありません。

7．証券化エクスポージャーに関する事項

(1) リスク管理の方針及びリスク特性の概要

証券化エクスポージャーに内在するリスクとしては、信用リスク、金利リスク等の市場リスク、流動性リスク等があります。

当行が投資家として保有する証券化エクスポージャーについては、証券化によるリスク移転の程度およびリスクの種類等を的確に把握し、経営体力と対比して過大なリスクテイクを行わない基本方針のもと、予め定めている基準に則り、スキームの特性や債務償還見通しを個別に検討・評価のうえ、投融資にかかる限度枠等の範囲で取り扱う態勢としております。なお、当行は再証券化取引の取り扱いはありません。

当行がオリジネーターとなる証券化については、2017年度において住宅ローンの証券化を終了しております。

また、当行はアレンジャー兼サービサーとして、お取引先が行う売掛債権等の証券化取引に関与しております。

(2) 体制の整備及びその運用状況の概要

当行が保有する証券化エクスポージャーについては、外部格付の利用に関する基準を定め、証券化エクスポージャーと裏付資産プールのリスク特性、裏付資産のパフォーマンスに係る情報および証券化エクスポージャーのパフォーマンスに重大な影響を及ぼし得る構造上の特性等について、定期的にモニタリングし、リスク評価に反映させる体制を整備しております。

なお、信用リスク削減手法として用いている証券化取引はありません。

(3) 信用リスク・アセットの額の算出に使用する方式

当行が投資家として保有する証券化エクスポージャーについては、外部格付を使用して自己資本比率告示第249条に定めるリスク・ウェイトを適用しております。

また、当行がアレンジャー兼サービサーとしてお取引先の売掛債権等の証券化を行うにあたっては特別目的会社（SPC）を用いており、当行は投資家として当該証券化エクスポージャーを保有し、オン・バランス取引として計上しております。

なお、当行が関与した証券化取引に係る証券化エクスポージャーの子法人等での保有はありません。

(4) 証券化取引に関する会計方針

当行が投資家として保有する証券化エクスポージャーについては、それぞれの金融資産について金融商品会計基準に基づいた会計処理を行っております。

(5) リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関

当行は、証券化エクスポージャーのリスク・ウェイトの判定にあたっては、適格格付機関である日本格付研究所（JCR）、格付投資情報センター（R&I）、ムーディーズ（Moody's）、S&Pグローバル・レーティングの4社の格付を使用しております。

8．オペレーショナル・リスクに関する事項

(1) リスク管理の方針及び手続の概要

当行及び連結子会社は、業務上抱える様々なリスクのうち、信用リスク、市場リスクおよび流動性リスクを除く全てのリスクを総称してオペレーショナル・リスク（以下、「オペリスク」という）と定義し、オペリスクの顕在化を防ぐために、全ての部署でオペリスク管理水準の向上に取り組み、特に銀行の損益や業務に重大な影響が懸念されるオペリスクについては、損失の発生を回避または軽減することを基本方針として管理態勢を整備しております。

オペリスクの管理にあたっては、「オペレーショナル・リスク管理規定」等の諸規定を制定し、オペリスクを以下のサブカテゴリーに区分したうえで、それぞれの所管部署を定め、営業部門から独立したこれらの所管部署が各リスク区分の管理を行うとともに、オペリスク全体を統括する部署が重層的な管理を行っております。さらに月次でオペリスクの把握・管理・制御について検討・協議を行ったうえで、オペリスクの状況を取締役会等へ定期的に報告することにより適切な措置がとられる体制としております。

≪オペリスクの区分≫

①システムリスク	⑤有形資産リスク
②事務リスク	⑥風評リスク
③法務リスク	⑦その他のリスク
④人的リスク	

(2) オペレーショナル・リスク相当額の算出に使用する手法の名称

当行及び連結子会社は、粗利益配分手法によりオペレーショナル・リスク相当額を算出しております。

9．出資等エクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要

出資その他これに類するエクスポージャーについては、上場株式、非上場株式、子会社・関連会社株式等が対象となります。

このうち上場株式等は、債券と比べて価格ボラティリティが高いため多額のリスク資本が必要となることに鑑み、当行では「市場リスク管理規定」等諸規定に基づいて、予め定めた投資方針ならびに保有限度枠の範囲で厳格に運用しており、リスク管理部門が評価損益およびVaR（バリュー・アット・リスク）等のリスク量を日次で計測し経営陣へ報告する態勢としております。

また、株式等については、非上場株式も含め自己査定基準に則って定期的に自己査定を実施し、評価損が発生しているものについては回復可能性を判断のうえ、減損・引当処理を行っております。

なお、株式等の評価は、時価のある株式については決算期末前1カ月の市場価格の平均に基づく価格、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

株式等について、会計方針等を変更した場合は、財務諸表等規則第8条の3に基づき変更の理由や影響額について財務諸表の注記に記載することとしております。

連結子会社の保有する株式についても、上記に準じて取り扱う体制としております。

10. 金利リスクに関する事項

(1) リスク管理の方針及び手続の概要

金利リスクとは、市場金利の変動により資産・負債の経済価値が変動し将来の期間損益に影響を与えるリスクであり、当行では以下の基本方針を基に、「金利リスク管理規定」等の諸規定を定めております。

①管理対象とする金利リスクを計測し、自己資本や収益力と対比して設定した限度ライン等の範囲内に金利リスクをコントロールする。

②データの整備、リスク計測精度の向上、多面的なリスク分析等、金利リスク管理方法の高度化・精緻化に努める。

また、金利リスクを適切にコントロールするため金利リスク量に対する限度ラインを設定し、リスク管理部署が月次で金利リスク量を計測・モニタリングするとともにその結果をALM 委員会等に報告・協議し、必要な対応を講じる態勢としております。

(2) 内部管理上使用した金利リスクの算定方法の概要

当行の内部管理上の金利リスク管理は、バンキング勘定およびトレーディング勘定（特定取引勘定）で保有する全ての資産、負債およびオフ・バランス取引を対象としております。

金利リスクの管理にあたっては、月次でのVaR（バリュー・アット・リスク）、100BPV（ベーシス・ポイント・バリュー）の計測と期次で実施する収益シミュレーション等の複数手法を併用しリスクを計量化することにより、経済価値と期間損益の双方の観点から金利リスクの状況を適切に把握するよう努めております。

また、流動性預金の金利リスク算定にあたり、コア預金内部モデルを用いております。貸出金、預金等の期限前返済（解約）については、考慮しておりません。

なお、連結グループの金利リスク管理については、連結子会社の金利リスクが限定的であることから、当行の金利リスク量を適切にコントロールすることにより連結グループの金利リスクを管理する体制としております。

【定量的な開示事項】（北陸銀行連結）

その他金融機関等（自己資本比率告示第29条第6項第1号に規定するその他金融機関等をいう。）であって銀行の子法人等であるもののうち、自己資本比率規制上の所要自己資本を下回った会社の名称、所要自己資本を下回った額の総額

該当ありません。

自己資本の充実度に関する事項

信用リスクに対する所要自己資本の額（所要自己資本の額＝リスク・アセット×4%）

（単位：百万円）

【資産（オン・バランス）項目】	2016年度末 所要自己資本の額	2017年度末 所要自己資本の額
1. 現金	－	－
2. 我が国の中央政府及び中央銀行向け	－	－
3. 外国の中央政府及び中央銀行向け	4	4
4. 国際決済銀行等向け	－	－
5. 我が国の地方公共団体向け	－	－
6. 外国の中央政府等以外の公共部門向け	34	32
7. 国際開発銀行向け	－	－
8. 地方公共団体金融機構向け	30	29
9. 我が国の政府関係機関向け	408	404
10. 地方三公社向け	6	－
11. 金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	1,425	1,011
12. 法人等向け	56,187	58,419
13. 中小企業等向け及び個人向け	29,823	30,817
14. 抵当権付住宅ローン	4,207	3,746
15. 不動産取得等事業向け	14,944	18,101
16. 三月以上延滞等	235	207
17. 取立未済手形	－	－
18. 信用保証協会等による保証付	490	403
19. 株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	－	－
20. 出資等	5,335	5,424
（うち出資等のエクスポージャー）	5,335	5,424
（うち重要な出資のエクスポージャー）	－	－
21. 上記以外	5,916	5,680
（うち他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通株式等に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー）	1,890	1,690
（うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー）	931	822
（うち上記以外のエクスポージャー）	3,094	3,168
22. 証券化（オリジネーターの場合）	3,695	－
（うち再証券化）	－	－
23. 証券化（オリジネーター以外の場合）	490	382
（うち再証券化）	－	－
24. 複数の資産を裏付とする資産（所謂ファンド）のうち、個々の資産の把握が困難な資産	950	924
25. 経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	641	603
26. 他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	△80	△40
資産（オン・バランス）計 (A)	124,747	126,152
【オフ・バランス取引項目】		
1. 任意の時期に無条件で取消可能又は自動的に取消可能なコミットメント	－	－
2. 原契約期間が1年以下のコミットメント	141	184
3. 短期の貿易関連偶発債務	10	13
4. 特定の取引に係る偶発債務	292	243
（うち経過措置を適用する元本補填信託契約）	－	－
5. NIF又はRUF	－	－
6. 原契約期間が1年超のコミットメント	1,121	1,264
7. 内部格付手法におけるコミットメント	－	－
8. 信用供与に直接的に代替する偶発債務	473	435
（うち借入金の保証）	277	217
（うち有価証券の保証）	－	－
（うち手形引受）	1	0
（うち経過措置を適用しない元本補填信託契約）	－	－
（うちクレジット・デリバティブのプロテクション提供）	－	－
9. 買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等（控除後）	－	－
買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等（控除前）	－	－
控除額（△）	－	－
10. 先物購入、先渡預金、部分払込株式又は部分払込債券	－	－
11. 有価証券の貸付、現金若しくは有価証券による担保の提供又は有価証券の買戻条件付売却若しくは売戻条件付購入	130	118
12. 派生商品取引及び長期決済期間取引	152	120
カレント・エクスポージャー方式	152	120
派生商品取引	152	120
外為関連取引	76	80
金利関連取引	70	36
金関連取引	－	－
株式関連取引	－	－
貴金属（金を除く）関連取引	－	－
その他のコモディティ関連取引	5	3
クレジット・デリバティブ取引（カウンター・パーティー・リスク）	－	－
一括清算ネッティング契約による与信相当額削減効果（△）	－	－
長期決済期間取引	－	－
標準方式	――	
期待エクスポージャー方式	――	
13. 未決済取引	－	－
14. 証券化エクスポージャーに係る適格流動性補完及び適格なサービサー・キャッシュ・アドバンス	－	－
15. 上記以外のオフ・バランスの証券化エクスポージャー	－	－
オフ・バランス取引　計 (B)	2,322	2,379
【CVA リスク相当額】（標準的リスク測定方式） (C)	**159**	**96**
【中央清算機関関連エクスポージャー】 (D)	**0**	**0**
合　計 (E) ＝ (A+B+C+D)	**127,230**	**128,628**

オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額

（単位：百万円）

	2016年度末 所要自己資本の額	2017年度末 所要自己資本の額
粗利益配分手法 (F)	**5,510**	**5,386**

連結総所要自己資本の額

（単位：百万円）

	2016年度末 所要自己資本の額	2017年度末 所要自己資本の額
連結総所要自己資本の額 (E+F)	**132,740**	**134,014**

信用リスクに関する事項

信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高

（単位：百万円）

	2016年度末				
	信用リスクエクスポージャー期末残高	貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引	債券	デリバティブ取引	三月以上延滞エクスポージャー
国内計	7,503,703	4,485,385	966,215	4,765	6,625
国外計	365,551	33,944	209,501	4,913	－
地域別合計	**7,869,255**	**4,519,329**	**1,175,717**	**9,679**	**6,625**
製造業	638,715	571,597	10,834	426	820
農業，林業	16,999	16,910	－	－	17
漁業	850	846	－	2	19
鉱業，採石業，砂利採取業	2,041	1,896	145	－	－
建設業	190,513	182,362	3,501	64	420
電気・ガス・熱供給・水道業	79,712	70,441	－	－	－
情報通信業	32,931	30,737	551	20	4
運輸業，郵便業	118,275	91,421	23,095	120	4
卸売業，小売業	486,134	468,968	7,468	331	1,216
金融業，保険業	870,729	187,220	138,085	6,995	－
不動産業，物品賃貸業	470,325	452,200	8,239	38	1,123
各種サービス業	372,910	365,966	3,697	114	1,269
地方公共団体等	2,918,397	857,426	758,159	－	－
個人	1,188,593	1,187,857	－	－	1,728
その他	482,123	33,476	221,939	1,565	－
業種別合計	**7,869,255**	**4,519,329**	**1,175,717**	**9,679**	**6,625**
1年以下	1,505,113	1,099,749	74,995	3,568	
1年超3年以下	976,962	540,747	431,576	3,706	
3年超5年以下	1,041,605	719,230	314,245	685	
5年超7年以下	502,395	381,599	119,213	775	
7年超10年以下	667,383	481,749	184,199	353	
10年超	1,342,910	1,281,742	51,355	589	
期間の定めのないもの	1,832,883	14,511	130	－	
残存期間別合計	**7,869,255**	**4,519,329**	**1,175,717**	**9,679**	

	2017年度末				
	信用リスクエクスポージャー期末残高	貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引	債券	デリバティブ取引	三月以上延滞エクスポージャー
国内計	7,980,161	4,696,104	925,868	3,640	5,859
国外計	234,520	29,461	111,501	4,476	－
地域別合計	**8,214,681**	**4,725,566**	**1,037,369**	**8,117**	**5,859**
製造業	647,662	579,822	10,915	330	427
農業，林業	12,447	12,338	－	－	44
漁業	1,265	1,262	－	1	3
鉱業，採石業，砂利採取業	2,438	2,204	234	－	－
建設業	188,663	179,701	4,257	26	360
電気・ガス・熱供給・水道業	91,352	82,066	－	－	－
情報通信業	32,239	29,889	728	－	0
運輸業，郵便業	122,342	94,743	24,472	73	4
卸売業，小売業	498,236	481,661	7,872	559	1,123
金融業，保険業	850,241	187,572	130,003	6,216	－
不動産業，物品賃貸業	522,860	506,885	8,411	13	988
各種サービス業	385,254	378,052	4,526	45	1,170
地方公共団体等	3,290,427	961,418	722,049	－	－
個人	1,200,598	1,199,642	－	－	1,735
その他	368,650	28,306	123,899	850	－
業種別合計	**8,214,681**	**4,725,566**	**1,037,369**	**8,117**	**5,859**
1年以下	1,945,377	1,272,315	131,992	6,172	
1年超3年以下	1,010,467	539,842	467,836	704	
3年超5年以下	918,094	688,976	222,706	519	
5年超7年以下	430,198	339,918	89,529	－	
7年超10年以下	599,151	523,532	74,430	721	
10年超	1,400,577	1,342,605	50,743	－	
期間の定めのないもの	1,910,814	18,374	130	－	
残存期間別合計	**8,214,681**	**4,725,566**	**1,037,369**	**8,117**	

（注）1．国内／国外の区分はリスク所在地ベース、残存期間は最終期日ベース、オフ・バランス取引は与信相当額を記載しております。
2．「その他」には業種別に分類することが困難なエクスポージャー及び非居住者向けのエクスポージャーを記載しております。
3．「三月以上延滞エクスポージャー」には、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞しているエクスポージャー、又は引当金勘案前でリスク・ウェイトが150%であるエクスポージャーを記載しております。
4．証券化エクスポージャー及び中央清算機関関連エクスポージャーを含みません。

一般貸倒引当金、個別貸倒引当金、特定海外債権引当勘定の期末残高及び期中増減額

（単位：百万円）

	2016年度				2017年度			
	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
一般貸倒引当金	3,912	3,913	3,912	3,913	3,913	4,953	3,913	4,953
個別貸倒引当金	15,032	14,153	15,032	14,153	14,153	13,721	14,153	13,721
特定海外債権引当勘定	－	－	－	－	－	－	－	－
合　計	**18,944**	**18,066**	**18,944**	**18,066**	**18,066**	**18,675**	**18,066**	**18,675**

個別貸倒引当金の業種別残高及び期中増減額

（単位：百万円）

	2016年度				2017年度			
	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
製造業	5,010	3,181	5,010	3,181	3,181	2,968	3,181	2,968
農業，林業	6	6	6	6	6	14	6	14
漁業	16	15	16	15	15	16	15	16
鉱業，採石業，砂利採取業	2	2	2	2	2	2	2	2
建設業	1,227	1,672	1,227	1,672	1,672	819	1,672	819
電気・ガス・熱供給・水道業	－	－	－	－	－	－	－	－
情報通信業	24	40	24	40	40	45	40	45
運輸業，郵便業	25	111	25	111	111	140	111	140
卸売業，小売業	4,448	5,022	4,448	5,022	5,022	4,913	5,022	4,913
金融業，保険業	19	14	19	14	14	11	14	11
不動産業，物品賃貸業	1,543	1,447	1,543	1,447	1,447	1,338	1,447	1,338
各種サービス業	2,186	2,186	2,186	2,186	2,186	3,021	2,186	3,021
地方公共団体等	－	－	－	－	－	－	－	－
個人	520	452	520	452	452	428	452	428
その他	－	－	－	－	－	－	－	－
業種別合計	**15,032**	**14,153**	**15,032**	**14,153**	**14,153**	**13,721**	**14,153**	**13,721**

（注）上記はすべて国内向けエクスポージャーに対するものであります。

業種別の貸出金償却の額

（単位：百万円）

	2016年度	2017年度
	貸出金償却額	貸出金償却額
製造業	－	－
農業，林業	－	－
漁業	－	－
鉱業，採石業，砂利採取業	－	－
建設業	4	－
電気・ガス・熱供給・水道業	－	－
情報通信業	－	－
運輸業，郵便業	－	－
卸売業，小売業	93	13
金融業，保険業	－	－
不動産業，物品賃貸業	－	－
各種サービス業	22	39
地方公共団体等	－	－
個人	3	－
その他	－	－
業種別合計	**123**	**53**

リスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果を勘案した後の残高

（単位：百万円）

	2016年度末		2017年度末	
	エクスポージャーの額（注）		エクスポージャーの額（注）	
	格付あり	格付なし	格付あり	格付なし
0%	209,385	2,882,207	110,932	3,289,711
10%	－	239,293	－	214,474
20%	47,550	204,152	41,085	148,917
35%	－	300,537	－	267,637
50%	193,601	1,788	180,768	1,396
75%	－	995,637	－	1,028,617
100%	65,034	1,887,046	63,041	2,036,944
150%	－	2,554	－	2,116
250%	－	28,215	－	25,122
350%	－	－	－	－
1250%	－	－	－	－
合　計	**515,571**	**6,541,434**	**395,827**	**7,014,938**

（注）1．複数の資産を裏付とする資産（所謂ファンド）のうち、個々の資産の把握が困難な資産（2016年度末58,627百万円、2017年度末51,395百万円）は上記より除いております。
2．証券化エクスポージャー及び中央清算機関関連エクスポージャーを含みません。

信用リスク削減手法に関する事項

信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー

（単位：百万円）

	2016年度末	2017年度末
	信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー（効果が勘案された部分に限る）	信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー（効果が勘案された部分に限る）
現金及び自行預金	650,513	646,853
金	－	－
適格債券	－	－
適格株式	12,282	12,142
適格投資信託	－	－
適格金融資産担保合計	**662,795**	**658,996**
適格保証	282,267	262,938
適格クレジット・デリバティブ	－	－
適格保証、適格クレジット・デリバティブ合計	**282,267**	**262,938**

派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

（単位：百万円）

【派生商品取引】

1．派生商品取引の与信相当額算出に用いる方式

派生商品取引の与信相当額は、カレント・エクスポージャー方式（注）にて算出しております。

（注）カレント・エクスポージャー方式とは、デリバティブ取引の信用リスク計測手段の1つで、取引を時価評価することによって再構築コストを算出し、これに契約期間中に生じるであろう同コストの増加見込み額（ポテンシャル・エクスポージャー）を付加して算出する方法です。

2．派生商品取引のグロス再構築コストの額及び与信相当額

		2016年度末	2017年度末
グロス再構築コストの額（ゼロを下回らないものに限る）の合計額	(A)	5,296	5,906
グロスのアドオンの合計額	(B)	4,382	2,211
与信相当額（担保による信用リスク削減効果勘案前）	(C)	9,679	8,117
派生商品取引		9,679	8,117
外国為替関連取引		6,935	6,658
金利関連取引		2,486	1,228
株式関連取引		－	－
その他取引		257	230
クレジット・デリバティブ		－	－
(A) ＋ (B) － (C)		－	－
与信相当額（担保による信用リスク削減効果勘案後）		9,679	8,117

（注）原契約期間が5営業日以内の外国為替関連取引の与信相当額は除いております。

3．信用リスク削減手法に用いた担保の種類及び額

該当ありません。

4．与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの想定元本額

該当ありません。

5．信用リスク削減手法の効果を勘案するために用いるクレジット・デリバティブの想定元本額

該当ありません。

【長期決済期間取引】

該当ありません。

証券化エクスポージャーに関する事項

・連結グループがオリジネーターである場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャーに関する事項

原資産の額並びにこれらの主な原資産の種類別内訳 （単位：百万円）

	2016年度末	2017年度末
資産譲渡型証券化取引にかかる原資産の額	11,402	－
うち三月以上延滞エクスポージャーの額	－	－
うち当期の損失額	－	－
保有する証券化エクスポージャーの額（注）1,2	7,391	－
保有する証券化エクスポージャーの適切な数のリスク・ウェイトの区分ごとの残高（原資産ベース）（注）2	7,391	－
50%	－	－
100%	－	－
150%	－	－
1250%	7,391	－
所要自己資本の額	3,695	－
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	182	－
自己資本比率告示第247条第1項の規定により1250%のリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額	7,391	－

（注）1．住宅ローン証券化における劣後受益権（留保持分および現金信託）の額を記載しております。
2．オフ・バランス取引に該当する証券化エクスポージャー及び再証券化エクスポージャーについては該当ありません。
3．2017年度において、住宅ローン証券化を終了しております。

証券化取引を目的として保有している資産の額及びこれらの主な資産の種類別の内訳 （単位：百万円）

該当ありません。

当期に証券化を行ったエクスポージャーならびに当期中に認識した売却損益の額 （単位：百万円）

該当ありません。

・連結グループが投資家である場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャーに関する事項

保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳 （単位：百万円）

	2016年度末	2017年度末
	エクスポージャーの額	エクスポージャーの額
住宅ローン債権	47,664	37,247
売掛債権	2,566	3,143
事業者向け貸出	－	－
不動産	－	－
その他	3,005	1,424
合　計	**53,237**	**41,815**

（注）オフ・バランス取引に該当する証券化エクスポージャー及び再証券化エクスポージャーについては該当ありません。

保有する証券化エクスポージャーの適切な数のリスク・ウェイトの区分ごとの残高及び所要自己資本の額 （単位：百万円）

リスク・ウェイト区分	2016年度末		2017年度末	
	残高	所要自己資本の額	残高	所要自己資本の額
20%	50,092	400	40,199	321
50%	1,799	35	192	3
100%	1,345	53	1,424	56
150%	－	－	－	－
1250%	－	－	－	－
計	**53,237**	**490**	**41,815**	**382**

（注）オフ・バランス取引に該当する証券化エクスポージャー及び再証券化エクスポージャーについては該当ありません。

自己資本比率告示第247条第1項の規定により1250%のリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳（単位：百万円）

該当ありません。

保有する再証券化エクスポージャーに対する信用リスク削減手法の適用の有無及び保証人ごと又は当該保証人に適用されるリスク・ウェイトの区分ごとの内訳（単位：百万円）

該当ありません。

出資等エクスポージャーに関する事項

出資等エクスポージャーの連結貸借対照表計上額等

(単位：百万円)

	2016年度末		2017年度末	
	連結貸借対照表計上額	時価	連結貸借対照表計上額	時価
上場している出資等エクスポージャー	137,334	137,334	149,754	149,754
上記に該当しない出資等エクスポージャー	19,590	19,590	19,862	19,862
計	**156,925**	**156,925**	**169,616**	**169,616**

出資等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

	2016年度	2017年度
売却損益額	3,539	4,452
償却額	73	53

連結貸借対照表で認識され、かつ、連結損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

	2016年度末	2017年度末
評価損益の額	62,910	75,963

連結貸借対照表及び連結損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

該当ありません。

金利リスクに関して連結グループが内部管理上使用した金利ショックに対する損益又は経済的価値の増減額

連結グループの金利リスク管理については、連結子会社の金利リスクが限定的であることから、北陸銀行の金利リスク量を適切にコントロールすることにより連結グループの金利リスクを管理する体制としております。

【報酬等に関する開示事項】

報酬等に関する事項については、定性的な事項について株式会社ほくほくフィナンシャルグループ及び株式会社北海道銀行と記載内容が重複することから、全て67ページにまとめて記載しております。

自己資本の充実の状況（単体）

当行は、銀行法施行規則（1982年大蔵省令第10号）第19条の2第1項第5号ニ等の規定に基づき、自己資本の充実の状況等について金融庁長官が別に定める事項（自己資本比率規制の第3の柱（市場規律））として、事業年度の開示事項を、以下のとおり、開示しております。

自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（2006年金融庁告示第19号。以下「自己資本比率告示」という。）に定められた算式に基づき、算出しております。

当行は、国内基準を適用のうえ信用リスク・アセットの算出においては標準的手法（注）を採用しております。また、オペレーショナル・リスク相当額の算出においては、粗利益配分手法を採用しております。

（注）標準的手法とは、あらかじめ監督当局が設定したリスク・ウェイトを使用して信用リスク・アセットを算出する手法のことです。

自己資本の構成及び自己資本比率（単体）

（単位：百万円）

項　目	2016年度末	経過措置による不算入額	2017年度末	経過措置による不算入額
コア資本に係る基礎項目				
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	263,992		278,125	
うち、資本金及び資本剰余金の額	155,408		155,408	
うち、利益剰余金の額	108,584		122,717	
うち、自己株式の額（△）	－		－	
うち、社外流出予定額（△）	－		－	
うち、上記以外に該当するものの額	－		－	
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	－		－	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	4,809		5,830	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	4,809		5,830	
うち、適格引当金コア資本算入額	－		－	
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	－		－	
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	20,000		20,000	
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	－		－	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	4,624		3,815	
コア資本に係る基礎項目の額　（イ）	293,426		307,770	
コア資本に係る調整項目				
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	2,046	1,364	3,318	829
うち、のれんに係るものの額	－	－	－	－
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	2,046	1,364	3,318	829
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	－	－	－	－
適格引当金不足額	－	－	－	－
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	182	－	－	－
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	－	－	－	－
前払年金費用の額	1,144	762	2,214	553
自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	－	－	－	－
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	－	－	－	－
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	－	－	－	－
特定項目に係る十パーセント基準超過額	－	－	－	－
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	－	－	－	－
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	－	－	－	－
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	－	－	－	－
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	－	－	－	－
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	－	－	－	－
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	－	－	－	－
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	－	－	－	－
コア資本に係る調整項目の額　（ロ）	3,373		5,532	
自己資本				
自己資本の額（（イ）－（ロ））　（ハ）	290,053		302,238	
リスク・アセット等				
信用リスク・アセットの額の合計額	3,180,054		3,215,231	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	14,806		14,513	
うち、無形固定資産（のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）	1,364		829	
うち、繰延税金資産	－		－	
うち、前払年金費用	762		553	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△2,000		△1,000	
うち、上記以外に該当するものの額	14,679		14,130	
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	－		－	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	137,321		134,257	
信用リスク・アセット調整額	－		－	
オペレーショナル・リスク相当額調整額	－		－	
リスク・アセットの額の合計額　（ニ）	3,317,376		3,349,488	
自己資本比率				
自己資本比率（（ハ）／（ニ））	8.74%		9.02%	

定量的な開示事項（単体）

自己資本の充実度に関する事項

信用リスクに対する所要自己資本の額（所要自己資本の額＝リスク・アセット×4%）

（単位：百万円）

【資産（オン・バランス）項目】	2016年度末 所要自己資本の額	2017年度末 所要自己資本の額
1. 現金	－	－
2. 我が国の中央政府及び中央銀行向け	－	－
3. 外国の中央政府及び中央銀行向け	4	4
4. 国際決済銀行等向け	－	－
5. 我が国の地方公共団体向け	－	－
6. 外国の中央政府等以外の公共部門向け	34	32
7. 国際開発銀行向け	－	－
8. 地方公共団体金融機構向け	30	29
9. 我が国の政府関係機関向け	408	404
10. 地方三公社向け	6	－
11. 金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	1,425	1,011
12. 法人等向け	56,186	58,419
13. 中小企業等向け及び個人向け	29,823	30,817
14. 抵当権付住宅ローン	4,207	3,746
15. 不動産取得等事業向け	14,944	18,101
16. 三月以上延滞等	235	207
17. 取立未済手形	－	－
18. 信用保証協会等による保証付	490	403
19. 株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	－	－
20. 出資等	5,337	5,428
（うち出資等のエクスポージャー）	5,337	5,428
（うち重要な出資のエクスポージャー）	－	－
21. 上記以外	5,855	5,640
（うち他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通株式等に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー）	1,890	1,690
（うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー）	868	778
（うち上記以外のエクスポージャー）	3,097	3,172
22. 証券化（オリジネーターの場合）	3,695	－
（うち再証券化）	－	－
23. 証券化（オリジネーター以外の場合）	490	382
（うち再証券化）	－	－
24. 複数の資産を裏付とする資産（所謂ファンド）のうち、個々の資産の把握が困難な資産	950	924
25. 経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	672	620
26. 他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	△80	△40
資産（オン・バランス）計 (A)	124,719	126,133
【オフ・バランス取引項目】		
1. 任意の時期に無条件で取消可能又は自動的に取消可能なコミットメント	－	－
2. 原契約期間が1年以下のコミットメント	141	184
3. 短期の貿易関連偶発債務	10	13
4. 特定の取引に係る偶発債務	292	243
（うち経過措置を適用する元本補填信託契約）	－	－
5. NIF又はRUF	－	－
6. 原契約期間が1年超のコミットメント	1,121	1,264
7. 内部格付手法におけるコミットメント		－
8. 信用供与に直接的に代替する偶発債務	473	435
（うち借入金の保証）	277	217
（うち有価証券の保証）	－	－
（うち手形引受）	1	0
（うち経過措置を適用しない元本補填信託契約）	－	－
（うちクレジット・デリバティブのプロテクション提供）	－	－
9. 買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等（控除後）	－	－
買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等（控除前）	－	－
控除額（△）	－	－
10. 先物購入、先渡預金、部分払込株式又は部分払込債券	－	－
11. 有価証券の貸付、現金若しくは有価証券による担保の提供又は有価証券の買戻条件付売却若しくは売戻条件付購入	130	118
12. 派生商品取引及び長期決済期間取引	152	120
カレント・エクスポージャー方式	152	120
派生商品取引	152	120
外為関連取引	76	80
金利関連取引	70	36
金関連取引	－	－
株式関連取引	－	－
貴金属（金を除く）関連取引	－	－
その他のコモディティ関連取引	5	3
クレジット・デリバティブ取引（カウンター・パーティー・リスク）	－	－
一括清算ネッティング契約による与信相当額削減効果（△）	－	－
長期決済期間取引	－	－
標準方式	――	――
期待エクスポージャー方式	――	――
13. 未決済取引	－	－
14. 証券化エクスポージャーに係る適格流動性補完及び適格なサービサー・キャッシュ・アドバンス	－	－
15. 上記以外のオフ・バランスの証券化エクスポージャー	－	－
オフ・バランス取引　計 (B)	2,322	2,379
【CVA リスク相当額】（標準的リスク測定方式） (C)	**159**	**96**
【中央清算機関関連エクスポージャー】 (D)	**0**	**0**
合　計 (E) ＝ (A+B+C+D)	**127,202**	**128,609**

オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額

（単位：百万円）

	2016年度末 所要自己資本の額	2017年度末 所要自己資本の額
粗利益配分手法 (F)	**5,492**	**5,370**

総所要自己資本の額

（単位：百万円）

	2016年度末 所要自己資本の額	2017年度末 所要自己資本の額
総所要自己資本の額 (E+F)	**132,695**	**133,979**

信用リスクに関する事項

信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高

（単位：百万円）

	2016年度末				
	信用リスクエクスポージャー期末残高	貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引	債券	デリバティブ取引	三月以上延滞エクスポージャー
国内計	7,503,942	4,485,385	966,215	4,765	6,625
国外計	365,551	33,944	209,501	4,913	－
地域別合計	**7,869,494**	**4,519,329**	**1,175,717**	**9,679**	**6,625**
製造業	638,715	571,597	10,834	426	820
農業，林業	16,999	16,910	－	－	17
漁業	850	846	－	2	19
鉱業，採石業，砂利採取業	2,041	1,896	145	－	－
建設業	190,513	182,362	3,501	64	420
電気・ガス・熱供給・水道業	79,712	70,441	－	－	－
情報通信業	32,931	30,737	551	20	4
運輸業，郵便業	118,275	91,421	23,095	120	4
卸売業，小売業	486,134	468,968	7,468	331	1,216
金融業，保険業	870,723	187,220	138,085	6,995	－
不動産業，物品賃貸業	470,325	452,200	8,239	38	1,123
各種サービス業	372,960	365,966	3,697	114	1,269
地方公共団体等	2,918,397	857,426	758,159	－	－
個人	1,188,593	1,187,857	－	－	1,728
その他	482,318	33,476	221,939	1,565	－
業種別合計	**7,869,494**	**4,519,329**	**1,175,717**	**9,679**	**6,625**
1年以下	1,505,113	1,099,749	74,995	3,568	
1年超3年以下	976,962	540,747	431,576	3,706	
3年超5年以下	1,041,605	719,230	314,245	685	
5年超7年以下	502,395	381,599	119,213	775	
7年超10年以下	667,383	481,749	184,199	353	
10年超	1,342,910	1,281,742	51,355	589	
期間の定めのないもの	1,833,123	14,511	130	－	
残存期間別合計	**7,869,494**	**4,519,329**	**1,175,717**	**9,679**	

	2017年度末				
	信用リスクエクスポージャー期末残高	貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引	債券	デリバティブ取引	三月以上延滞エクスポージャー
国内計	7,980,332	4,696,104	925,868	3,640	5,859
国外計	234,520	29,461	111,501	4,476	－
地域別合計	**8,214,852**	**4,725,566**	**1,037,369**	**8,117**	**5,859**
製造業	647,662	579,822	10,915	330	427
農業，林業	12,447	12,338	－	－	44
漁業	1,265	1,262	－	1	3
鉱業，採石業，砂利採取業	2,438	2,204	234	－	－
建設業	188,663	179,701	4,257	26	360
電気・ガス・熱供給・水道業	91,352	82,066	－	－	－
情報通信業	32,239	29,889	728	－	0
運輸業，郵便業	122,342	94,743	24,472	73	4
卸売業，小売業	498,236	481,661	7,872	559	1,123
金融業，保険業	850,235	187,572	130,003	6,216	－
不動産業，物品賃貸業	522,860	506,885	8,411	13	988
各種サービス業	385,304	378,052	4,526	45	1,170
地方公共団体等	3,290,427	961,418	722,049	－	－
個人	1,200,598	1,199,642	－	－	1,735
その他	368,777	28,306	123,899	850	－
業種別合計	**8,214,852**	**4,725,566**	**1,037,369**	**8,117**	**5,859**
1年以下	1,945,377	1,272,315	131,992	6,172	
1年超3年以下	1,010,467	539,842	467,836	704	
3年超5年以下	918,094	688,976	222,706	519	
5年超7年以下	430,198	339,918	89,529	－	
7年超10年以下	599,151	523,532	74,430	721	
10年超	1,400,577	1,342,605	50,743	－	
期間の定めのないもの	1,910,985	18,374	130	－	
残存期間別合計	**8,214,852**	**4,725,566**	**1,037,369**	**8,117**	

（注）1．国内／国外の区分はリスク所在地ベース、残存期間は最終期日ベース、オフ・バランス取引は与信相当額を記載しております。
2．「その他」には業種別に分類することが困難なエクスポージャー及び非居住者向けのエクスポージャーを記載しております。
3．「三月以上延滞エクスポージャー」には、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞しているエクスポージャー、又は引当金勘案前でリスク・ウェイトが150%であるエクスポージャーを記載しております。
4．証券化エクスポージャー及び中央清算機関関連エクスポージャーを含みません。

一般貸倒引当金、個別貸倒引当金、特定海外債権引当勘定の期末残高及び期中増減額

（単位：百万円）

	2016年度				2017年度			
	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
一般貸倒引当金	3,912	3,913	3,912	3,913	3,913	4,953	3,913	4,953
個別貸倒引当金	15,032	14,153	15,032	14,153	14,153	13,721	14,153	13,721
特定海外債権引当勘定	－	－	－	－	－	－	－	－
合　計	**18,944**	**18,066**	**18,944**	**18,066**	**18,066**	**18,675**	**18,066**	**18,675**

個別貸倒引当金の業種別残高及び期中増減額

（単位：百万円）

	2016年度				2017年度			
	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
製造業	5,010	3,181	5,010	3,181	3,181	2,968	3,181	2,968
農業，林業	6	6	6	6	6	14	6	14
漁業	16	15	16	15	15	16	15	16
鉱業，採石業，砂利採取業	2	2	2	2	2	2	2	2
建設業	1,227	1,672	1,227	1,672	1,672	819	1,672	819
電気・ガス・熱供給・水道業	－	－	－	－	－	－	－	－
情報通信業	24	40	24	40	40	45	40	45
運輸業，郵便業	25	111	25	111	111	140	111	140
卸売業，小売業	4,448	5,022	4,448	5,022	5,022	4,913	5,022	4,913
金融業，保険業	19	14	19	14	14	11	14	11
不動産業，物品賃貸業	1,543	1,447	1,543	1,447	1,447	1,338	1,447	1,338
各種サービス業	2,186	2,186	2,186	2,186	2,186	3,021	2,186	3,021
地方公共団体等	－	－	－	－	－	－	－	－
個人	520	452	520	452	452	428	452	428
その他	－	－	－	－	－	－	－	－
業種別合計	**15,032**	**14,153**	**15,032**	**14,153**	**14,153**	**13,721**	**14,153**	**13,721**

（注）上記はすべて国内向けエクスポージャーに対するものであります。

業種別の貸出金償却の額

（単位：百万円）

	2016年度	2017年度
	貸出金償却額	貸出金償却額
製造業	－	－
農業，林業	－	－
漁業	－	－
鉱業，採石業，砂利採取業	－	－
建設業	4	－
電気・ガス・熱供給・水道業	－	－
情報通信業	－	－
運輸業，郵便業	－	－
卸売業，小売業	93	13
金融業，保険業	－	－
不動産業，物品賃貸業	－	－
各種サービス業	22	39
地方公共団体等	－	－
個人	3	－
その他	－	－
業種別合計	**123**	**53**

リスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果を勘案した後の残高

（単位：百万円）

	2016年度末		2017年度末	
	エクスポージャーの額（注）		エクスポージャーの額（注）	
	格付あり	格付なし	格付あり	格付なし
0%	209,385	2,882,207	110,932	3,289,711
10%	－	239,293	－	214,474
20%	47,550	204,147	41,085	148,911
35%	－	300,537	－	267,637
50%	193,601	1,788	180,768	1,396
75%	－	995,637	－	1,028,617
100%	65,034	1,887,926	63,041	2,037,556
150%	－	2,554	－	2,116
250%	－	27,581	－	24,687
350%	－	－	－	－
1250%	－	－	－	－
合　計	**515,571**	**6,541,673**	**395,827**	**7,015,109**

（注）1．複数の資産を裏付とする資産（所謂ファンド）のうち、個々の資産の把握が困難な資産（2016年度末58,627百万円、2017年度末51,395百万円）は上記より除いております。
2．証券化エクスポージャー及び中央清算機関関連エクスポージャーを含みません。

信用リスク削減手法に関する事項

信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー

（単位：百万円）

	2016年度末	2017年度末
	信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー（効果が勘案された部分に限る）	信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー（効果が勘案された部分に限る）
現金及び自行預金	650,513	646,853
金	－	－
適格債券	－	－
適格株式	12,282	12,142
適格投資信託	－	－
適格金融資産担保合計	**662,795**	**658,996**
適格保証	282,267	262,938
適格クレジット・デリバティブ	－	－
適格保証、適格クレジット・デリバティブ合計	**282,267**	**262,938**

派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

（単位：百万円）

【派生商品取引】

1．派生商品取引の与信相当額算出に用いる方式

派生商品取引の与信相当額は、カレント・エクスポージャー方式（注）にて算出しております。

（注）カレント・エクスポージャー方式とは、デリバティブ取引の信用リスク計測手段の1つで、取引を時価評価することによって再構築コストを算出し、これに契約期間中に生じるであろう同コストの増加見込み額（ポテンシャル・エクスポージャー）を付加して算出する方法です。

2．派生商品取引のグロス再構築コストの額及び与信相当額

		2016年度末	2017年度末
グロス再構築コストの額（ゼロを下回らないものに限る）の合計額	(A)	5,296	5,906
グロスのアドオンの合計額	(B)	4,382	2,211
与信相当額（担保による信用リスク削減効果勘案前）	(C)	9,679	8,117
派生商品取引		9,679	8,117
外国為替関連取引		6,935	6,658
金利関連取引		2,486	1,228
株式関連取引		－	－
その他取引		257	230
クレジット・デリバティブ		－	－
(A) ＋ (B) － (C)		－	－
与信相当額（担保による信用リスク削減効果勘案後）		9,679	8,117

（注）原契約期間が5営業日以内の外国為替関連取引の与信相当額は除いております。

3．信用リスク削減手法に用いた担保の種類及び額

該当ありません。

4．与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの想定元本額

該当ありません。

5．信用リスク削減手法の効果を勘案するために用いるクレジット・デリバティブの想定元本額

該当ありません。

【長期決済期間取引】

該当ありません。

証券化エクスポージャーに関する事項

・銀行がオリジネーターである場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャーに関する事項

原資産の額並びにこれらの主な原資産の種類別内訳 （単位：百万円）

	2016年度末	2017年度末
資産譲渡型証券化取引にかかる原資産の額	11,402	－
うち三月以上延滞エクスポージャーの額	－	－
うち当期の損失額	－	－
保有する証券化エクスポージャーの額（注）1,2	7,391	－
保有する証券化エクスポージャーの適切な数のリスク・ウェイトの区分ごとの残高（原資産ベース）（注）2	7,391	－
50%	－	－
100%	－	－
150%	－	－
1250%	7,391	－
所要自己資本の額	3,695	－
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	182	－
自己資本比率告示第247条第1項の規定により1250%のリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額	7,391	－

（注）1．住宅ローン証券化における劣後受益権（留保持分および現金信託）の額を記載しております。
2．オフ・バランス取引に該当する証券化エクスポージャー及び再証券化エクスポージャーについては該当ありません。
3．2017年度において、住宅ローン証券化を終了しております。

証券化取引を目的として保有している資産の額及びこれらの主な資産の種類別の内訳 （単位：百万円）

該当ありません。

当期に証券化を行ったエクスポージャーならびに当期中に認識した売却損益の額 （単位：百万円）

該当ありません。

・銀行が投資家である場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャーに関する事項

保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳 （単位：百万円）

	2016年度末	2017年度末
	エクスポージャーの額	エクスポージャーの額
住宅ローン債権	47,664	37,247
売掛債権	2,566	3,143
事業者向け貸出	－	－
不動産	－	－
その他	3,005	1,424
合　計	**53,237**	**41,815**

（注）オフ・バランス取引に該当する証券化エクスポージャー及び再証券化エクスポージャーについては該当ありません。

保有する証券化エクスポージャーの適切な数のリスク・ウェイトの区分ごとの残高及び所要自己資本の額 （単位：百万円）

リスク・ウェイト区分	2016年度末		2017年度末	
	残高	所要自己資本の額	残高	所要自己資本の額
20%	50,092	400	40,199	321
50%	1,799	35	192	3
100%	1,345	53	1,424	56
150%	－	－	－	－
1250%	－	－	－	－
計	**53,237**	**490**	**41,815**	**382**

（注）オフ・バランス取引に該当する証券化エクスポージャー及び再証券化エクスポージャーについては該当ありません。

自己資本比率告示第247条第1項の規定により1250%のリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳（単位：百万円）

該当ありません。

保有する再証券化エクスポージャーに対する信用リスク削減手法の適用の有無及び保証人ごと又は当該保証人に適用されるリスク・ウェイトの区分ごとの内訳（単位：百万円）

該当ありません。

出資等エクスポージャーに関する事項

出資等エクスポージャーの貸借対照表計上額等

（単位：百万円）

	2016年度末		2017年度末	
	貸借対照表計上額	時価	貸借対照表計上額	時価
上場している出資等エクスポージャー	137,334	137,334	149,754	149,754
上記に該当しない出資等エクスポージャー	19,640	19,640	19,912	19,912
計	**156,975**	**156,975**	**169,666**	**169,666**

出資等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

（単位：百万円）

	2016年度	2017年度
売却損益額	3,539	4,452
償却額	73	53

貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額

（単位：百万円）

	2016年度末	2017年度末
評価損益の額	62,910	75,963

貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額

（単位：百万円）

該当ありません。

金利リスクに関して銀行が内部管理上使用した金利ショックに対する損益又は経済的価値の増減額

（単位：億円）

	2016年度末	2017年度末
金利ショックの定義	100BPV、VaRによる金利リスク量	100BPV、VaRによる金利リスク量
損益又は経済的価値の増減額	100BPV ……△55 VaR……233	100BPV ……467 VaR……336

（注）1. 「100BPV」は、当期末の金利リスクにつき、1%金利上昇ショックに対する経済的価値の金額。
2. 「VaR」は信頼区間99%、保有期間6カ月、観測期間5年、計測手法はヒストリカル法。
3. 流動性預金の金利リスク算定にあたり、「コア預金内部モデル」を用いております。

【報酬等に関する開示事項】

報酬等に関する事項については、定性的な事項について株式会社ほくほくフィナンシャルグループ及び株式会社北海道銀行と記載内容が重複することから、全て67ページにまとめて記載しております。

経営指標（北海道銀行）

主要な経営指標等の推移

（単位：百万円）

（連　結）

項目 ＼ 連結会計年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
連結経常収益	82,278	87,137	87,564	80,827	79,518
連結経常利益	19,256	23,428	20,307	16,213	9,350
親会社株主に帰属する当期純利益	10,415	13,886	13,397	11,397	8,221
連結包括利益	11,867	30,619	△5,463	13,153	13,604
連結純資産額	183,273	210,872	202,191	210,814	221,834
連結総資産額	4,611,640	4,926,320	4,713,290	5,062,276	5,229,517
1株当たり純資産額	264.57円	321.29円	303.45円	321.17円	343.81円
1株当たり当期純利益	18.09円	25.22円	24.22円	20.10円	13.58円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	－円	－円	－円	－円	－円
連結自己資本比率（国内基準）	11.06%	11.06%	10.33%	9.46%	9.44%
連結自己資本利益率	7.0%	8.6%	7.7%	6.4%	4.1%
連結株価収益率	－倍	－倍	－倍	－倍	－倍
営業活動によるキャッシュ・フロー	34,091	240,815	△175,127	251,816	△61,282
投資活動によるキャッシュ・フロー	△20,784	60,917	121,046	69,692	342,723
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,633	△17,974	△18,217	△19,531	△2,584
現金及び現金同等物の期末残高	130,188	413,987	341,662	643,629	922,478
従業員数 （外、平均臨時従業員数）	2,406人 (1,172)	2,387人 (1,208)	2,328人 (1,219)	2,361人 (1,219)	2,411人 (1,208)

（注）1．当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
2．連結自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく2006年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は、国内基準を採用しております。
3．連結株価収益率については、当行株式は非上場のため記載しておりません。

（単　体）

項目 ＼ 年度		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
経常収益		80,206	85,410	85,530	78,974	78,222
経常利益		18,069	22,613	20,003	15,381	8,995
当期純利益		9,693	13,573	13,442	10,943	8,265
資本金		93,524	93,524	93,524	93,524	93,524
発行済株式総数	普通株式	486,634千株	486,634千株	486,634千株	486,634千株	486,634千株
	第一回第二種優先株式	107,432千株	107,432千株	107,432千株	107,432千株	107,432千株
純資産額		183,094	206,457	203,799	210,101	219,472
総資産額		4,599,042	4,915,851	4,701,456	5,051,619	5,220,060
預金残高		4,217,188	4,303,272	4,332,822	4,479,727	4,648,903
貸出金残高		3,108,677	3,196,487	3,216,184	3,320,734	3,519,283
有価証券残高		1,243,120	1,205,913	1,051,981	981,696	626,231
1株当たり純資産額		264.21円	312.22円	306.76円	319.70円	338.96円
1株当たり配当額	普通株式	2.10円	2.80円	3.30円	6.00円	2.00円
	第一回第二種優先株式	15.00円	15.00円	15.00円	15.00円	15.00円
（うち1株当たり中間配当額）	普通株式	(2.10円)	(2.80円)	(3.30円)	(6.00円)	(2.00円)
	第一回第二種優先株式	(7.50円)	(7.50円)	(7.50円)	(7.50円)	(7.50円)
1株当たり当期純利益		16.61円	24.58円	24.31円	19.17円	13.67円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		－円	－円	－円	－円	－円
単体自己資本比率（国内基準）		10.76%	10.75%	10.23%	9.34%	9.28%
自己資本利益率		6.5%	8.5%	7.8%	6.1%	4.1%
株価収益率		－倍	－倍	－倍	－倍	－倍
配当性向		12.64%	11.39%	13.57%	31.29%	14.62%
従業員数 （外、平均臨時従業員数）		2,295人 (995)	2,275人 (1,017)	2,226人 (1,028)	2,249人 (1,029)	2,309人 (1,008)

（注）1．消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
2．2017年度中間配当についての取締役会決議は2017年11月13日に行いました。
3．単体自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく2006年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は、国内基準を採用しております。
4．株価収益率については、当行株式は非上場のため記載しておりません。

連結財務諸表

連結貸借対照表

（単位：百万円）

	2016年度末（2017年3月31日）	2017年度末（2018年3月31日）
（資産の部）		
現金預け金	644,543	923,254
商品有価証券	2,842	2,906
金銭の信託	9,251	9,491
有価証券　※1,7,12	986,223	630,061
貸出金　※2,3,4,5,6,7,8	3,322,687	3,520,979
外国為替　※6	6,763	6,694
その他資産　※7	56,849	102,355
有形固定資産　※9,10	29,277	29,211
建物	12,555	12,429
土地	14,785	14,682
リース資産	409	694
その他の有形固定資産	1,526	1,404
無形固定資産	3,499	4,642
ソフトウエア	2,841	3,840
リース資産	56	482
その他の無形固定資産	601	319
繰延税金資産	6,473	1,500
支払承諾見返	24,207	24,665
貸倒引当金	△30,341	△26,246
資産の部合計	**5,062,276**	**5,229,517**
（負債の部）		
預金　※7	4,476,870	4,645,721
譲渡性預金	7,939	26,040
債券貸借取引受入担保金　※7	140,142	33,725
借用金　※7,11	139,792	249,400
外国為替	45	139
その他負債	50,101	23,222
退職給付に係る負債	11,172	3,587
役員退職慰労引当金	108	113
偶発損失引当金	567	477
睡眠預金払戻損失引当金	514	589
支払承諾	24,207	24,665
負債の部合計	**4,851,462**	**5,007,683**
（純資産の部）		
資本金	93,524	93,524
資本剰余金	16,795	16,795
利益剰余金	83,775	89,412
株主資本合計	194,094	199,731
その他有価証券評価差額金	19,229	23,130
退職給付に係る調整累計額	△2,509	△1,027
その他の包括利益累計額合計	16,719	22,102
純資産の部合計	**210,814**	**221,834**
負債及び純資産の部合計	**5,062,276**	**5,229,517**

連結損益計算書及び連結包括利益計算書

（単位：百万円）

	2016年度（2016年4月 1日から 2017年3月31日まで）	2017年度（2017年4月 1日から 2018年3月31日まで）
（連結損益計算書）		
経常収益	**80,827**	**79,518**
資金運用収益	**53,784**	**51,404**
貸出金利息	44,279	43,528
有価証券利息配当金	9,064	7,467
コールローン利息及び買入手形利息	△1	△34
買現先利息	△1	△10
預け金利息	286	276
その他の受入利息	157	177
役務取引等収益	**19,533**	**19,250**
その他業務収益	**2,124**	**1,768**
その他経常収益	**5,385**	**7,094**
貸倒引当金戻入益	–	1,200
償却債権取立益	17	11
その他の経常収益　※1	5,368	5,882
経常費用	**64,614**	**70,167**
資金調達費用	**911**	**964**
預金利息	523	460
譲渡性預金利息	10	2
コールマネー利息及び売渡手形利息	△0	0
債券貸借取引支払利息	61	305
借用金利息	312	187
その他の支払利息	4	8
役務取引等費用	**7,476**	**8,415**
その他業務費用	**4,695**	**12,514**
営業経費　※2	**44,974**	**44,138**
その他経常費用	**6,556**	**4,134**
貸倒引当金繰入額	6	–
その他の経常費用　※3	6,550	4,134
経常利益	**16,213**	**9,350**
特別利益	**0**	**2,518**
固定資産処分益	0	14
退職給付信託設定益	–	2,504
特別損失	**207**	**282**
固定資産処分損	95	134
減損損失	112	148
税金等調整前当期純利益	**16,005**	**11,586**
法人税、住民税及び事業税	**2,956**	**880**
法人税等調整額	**1,652**	**2,484**
法人税等合計	**4,608**	**3,364**
当期純利益	**11,397**	**8,221**
親会社株主に帰属する当期純利益	**11,397**	**8,221**
（連結包括利益計算書）		
当期純利益	**11,397**	**8,221**
その他の包括利益　※1	**1,756**	**5,383**
その他有価証券評価差額金	5	3,901
退職給付に係る調整額	1,750	1,481
包括利益	**13,153**	**13,604**
（内訳）		
親会社株主に係る包括利益	13,153	13,604
非支配株主に係る包括利益	–	–

連結株主資本等変動計算書

（単位：百万円）

2016年度（2016年4月1日から2017年3月31日まで）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	**93,524**	**16,795**	**76,909**	**187,228**
当期変動額				
剰余金の配当			△4,531	△4,531
親会社株主に帰属する当期純利益			11,397	11,397
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計	**－**	**－**	**6,865**	**6,865**
当期末残高	**93,524**	**16,795**	**83,775**	**194,094**

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	**19,223**	**△4,260**	**14,962**	**202,191**
当期変動額				
剰余金の配当				△4,531
親会社株主に帰属する当期純利益				11,397
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	5	1,750	1,756	1,756
当期変動額合計	**5**	**1,750**	**1,756**	**8,622**
当期末残高	**19,229**	**△2,509**	**16,719**	**210,814**

2017年度（2017年4月1日から2018年3月31日まで）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	**93,524**	**16,795**	**83,775**	**194,094**
当期変動額				
剰余金の配当			△2,584	△2,584
親会社株主に帰属する当期純利益			8,221	8,221
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計	**－**	**－**	**5,636**	**5,636**
当期末残高	**93,524**	**16,795**	**89,412**	**199,731**

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	**19,229**	**△2,509**	**16,719**	**210,814**
当期変動額				
剰余金の配当				△2,584
親会社株主に帰属する当期純利益				8,221
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3,901	1,481	5,383	5,383
当期変動額合計	**3,901**	**1,481**	**5,383**	**11,020**
当期末残高	**23,130**	**△1,027**	**22,102**	**221,834**

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	2016年度（2016年4月 1日から 2017年3月31日まで）	2017年度（2017年4月 1日から 2018年3月31日まで）
Ⅰ 営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	16,005	11,586
減価償却費	2,318	2,644
減損損失	112	148
貸倒引当金の増減（△）	△1,803	△4,094
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	△3,109	△7,584
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	△1	5
偶発損失引当金の増減額（△は減少）	3	△89
睡眠預金払戻損失引当金の増減額（△は減少）	60	75
資金運用収益	△53,784	△51,404
資金調達費用	911	964
有価証券関係損益（△）	1,922	9,269
金銭の信託の運用損益（△は運用益）	△10	△0
為替差損益（△は益）	△893	5,832
固定資産処分損益（△は益）	95	120
貸出金の純増（△）減	△104,311	△198,292
預金の純増減（△）	102,268	186,952
借用金（劣後特約付借入金を除く）の純増減（△）	117,088	109,607
預け金（日銀預け金を除く）の純増（△）減	△35	137
債券貸借取引受入担保金の純増減（△）	140,142	△106,417
外国為替（資産）の純増（△）減	△842	68
外国為替（負債）の純増減（△）	△5	93
資金運用による収入	53,834	50,925
資金調達による支出	△1,276	△1,077
商品有価証券の純増（△）減	△417	△64
その他	△12,309	△69,506
小計	255,959	△60,101
法人税等の支払額	△4,143	△1,180
営業活動によるキャッシュ・フロー	**251,816**	**△61,282**
Ⅱ 投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△573,799	△275,028
有価証券の売却による収入	522,103	452,896
有価証券の償還による収入	125,482	168,132
金銭の信託の増加による支出	△20,476	△21,380
金銭の信託の減少による収入	19,567	21,135
有形固定資産の取得による支出	△1,745	△1,382
有形固定資産の売却による収入	1	23
無形固定資産の取得による支出	△1,440	△1,672
投資活動によるキャッシュ・フロー	**69,692**	**342,723**
Ⅲ 財務活動によるキャッシュ・フロー		
劣後特約付借入金の返済による支出	△15,000	**－**
配当金の支払額	△4,531	△2,584
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△19,531**	**△2,584**
Ⅳ 現金及び現金同等物に係る換算差額	**△9**	**△7**
Ⅴ 現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	**301,967**	**278,848**
Ⅵ 現金及び現金同等物の期首残高	**341,662**	**643,629**
Ⅶ 現金及び現金同等物の期末残高　※1	**643,629**	**922,478**

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項　（2017年度）

1．連結の範囲に関する事項

（1）連結子会社　　3社

会社名

道銀ビジネスサービス株式会社

道銀カード株式会社

株式会社道銀地域総合研究所

（2）非連結子会社　2社

会社名

道銀どさんこ3号投資事業有限責任組合

ほっかいどう地方創生投資事業有限責任組合

非連結子会社は、その資産、経常収益、当期純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

2．持分法の適用に関する事項

（1）持分法適用の非連結子会社　　なし

（2）持分法適用の関連会社　　なし

（3）持分法非適用の非連結子会社　2社

会社名

道銀どさんこ3号投資事業有限責任組合

ほっかいどう地方創生投資事業有限責任組合

持分法非適用の非連結子会社は、当期純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除いております。

（4）持分法非適用の関連会社　　なし

3．連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4．会計方針に関する事項

（1）商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）により行っております。

（2）有価証券の評価基準及び評価方法

（イ）有価証券の評価は、満期保有目的の債券については、移動平均法による償却原価法（定額法）、その他有価証券のうち株式については原則として連結決算期末前1カ月の市場価格の平均に基づく価格、それ以外については原則として連結決算日における市場価格等に基づく時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

（ロ）金銭の信託において信託財産を構成している有価証券の評価は、上記（1）及び（2）（イ）と同じ方法により行っております。

（3）デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

（4）固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）

当行の有形固定資産は、定率法（ただし、1998年4月1日以後に取得した建物（建物附属設備を除く。）並びに2016年４月１日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建　物：6年～50年

その他：3年～20年

連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定率法により償却しております。

②無形固定資産（リース資産を除く）

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結子会社で定める利用可能期間（主として5年）に基づいて償却しております。

③リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引

「無形固定資産」中のリース資産は上記②無形固定資産と同様に償却しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引

「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

（5）貸倒引当金の計上基準

当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という。）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で非保全額又は与信額が一定金額以上の大口債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを貸出条件緩和実施前の約定利子率で割り引いた金額と債権の帳簿価額の差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）により計上しております。

上記以外の債権については、一定の種類ごとに分類し、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

連結子会社においても同様に資産の自己査定を行い、必要な額を計上しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は12,717百万円であります。

（6）役員退職慰労引当金の計上基準

役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当連結会計年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

なお、当行の役員退職慰労金制度については、2012年5月11日開催の取締役会で廃止することを決定し、2012年6月26日開催の定時株主総会にて、役員退職慰労金制度廃止に伴う退職慰労金の打ち切り支給が承認されております。

これに伴い、当行の役員退職慰労引当金の繰入は2012年6月の繰入をもって停止し、既引当金については継続して役員退職慰労引当金として計上しております。

（7）偶発損失引当金の計上基準

偶発損失引当金は、信用保証協会における責任共有制度等に基づく、将来発生する可能性のある負担金支払見込額及び他の引当金で引当対象とした事象以外の偶発事象に対し、将来発生する可能性のある損失を見積り、必要と認められる額をそれぞれ計上しております。

（8）睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り、必要と認める額を計上しております。

（9）退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。また、数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

数理計算上の差異：各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（9年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から損益処理

なお、連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(10) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準
当行の外貨建資産・負債は、主として連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。
連結子会社の外貨建資産・負債については、それぞれの決算日等の為替相場により換算しております。

(11) 重要なヘッジ会計の方法
(イ) 金利リスク・ヘッジ
当行の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号　2002年2月13日)に規定する繰延ヘッジによる会計処理、あるいは金利スワップの特例処理を行っております。
ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の(残存)期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。また、キャッシュ・フローを固定するヘッジについては、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。
(ロ) 為替変動リスク・ヘッジ
当行の外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号　2002年7月29日)に規定する繰延ヘッジによっております。
ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。
(ハ) 連結子会社においては、デリバティブ取引によるヘッジを行っておりません。

(12) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。

(13) 消費税等の会計処理
当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税(以下、消費税等という)の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当連結会計年度の費用に計上しております。

(未適用の会計基準等)
・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号　2018年3月30日　企業会計基準委員会)
・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号　2018年3月30日　企業会計基準委員会)

(1) 概要
国際会計基準審議会(IASB)及び米国財務会計基準審議会(FASB)は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。
企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日
2022年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響
「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

注記事項　(2017年度)

1．連結貸借対照表関係
※1．有価証券には、非連結子会社の出資金555百万円を含んでおります。
※2．貸出金のうち、破綻先債権額は1,329百万円、延滞債権額は52,782百万円であります。
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(1965年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
※3．貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は173百万円であります。
なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
※4．貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は8,108百万円であります。
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。
※5．破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は62,394百万円であります。
なお、上記2．から5．に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
※6．手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号　2002年2月13日)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は、14,384百万円であります。
※7．担保に供している資産は、次のとおりであります。

担保に供している資産		担保資産に対応する債務	
有価証券	195,530百万円	預金	2,375百万円
貸出金	104,741百万円	債券貸借取引受入担保金	33,725百万円
		借用金	229,400百万円

上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、有価証券14,226百万円、その他資産(現金)53,777百万円を差し入れております。
また、その他資産には、金融商品等差入担保金1,721百万円、保証金2,639百万円が含まれております。
※8．当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、1,085,397百万円であります。このうち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なものが1,052,327百万円あります。
なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行及び連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内(社内)手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。
※9．有形固定資産の減価償却累計額　41,134百万円
※10．有形固定資産の圧縮記帳額　1,001百万円
(当該連結会計年度の圧縮記帳額　ー百万円)
※11．借用金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金20,000百万円が含まれております。
※12．「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額は138,610百万円であります。

2．連結損益計算書関係
※1．その他の経常収益には、株式等売却益4,063百万円を含んでおります。
※2．営業経費のうち主要な費目及び金額は、給料・手当16,379百万円、退職給付費用1,749百万円であります。
※3．その他の経常費用には、貸出金償却122百万円、株式等売却損1,747百万円、株式等償却12百万円を含んでおります。

3．連結包括利益計算書関係
※1．その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金	
当期発生額	△1,876百万円
組替調整額	7,619百万円
税効果調整前	5,742百万円
税効果額	△1,840百万円
その他有価証券評価差額金	3,901百万円
退職給付に係る調整額	
当期発生額	1,167百万円
組替調整額	961百万円
税効果調整前	2,129百万円
税効果額	△647百万円
退職給付に係る調整額	1,481百万円
その他の包括利益合計	5,383百万円

4．連結株主資本等変動計算書関係
1．発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項　(単位：千株)

	当連結会計年度期首株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	486,634	ー	ー	486,634	
第一回第二種優先株式	107,432	ー	ー	107,432	
合計	594,066	ー	ー	594,066	

2．配当に関する事項
(1) 当連結会計年度中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2017年6月27日定時株主総会	第一回第二種優先株式	805	7.50	2017年3月31日	2017年6月28日
2017年11月13日取締役会	普通株式	973	2.00	2017年9月30日	2017年12月8日
	第一回第二種優先株式	805	7.50		

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当連結会計年度の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年6月22日定時株主総会	第一回第二種優先株式	805	利益剰余金	7.50	2018年3月31日	2018年6月25日

5．連結キャッシュ・フロー計算書関係
※1．現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
2018年3月31日現在

現金預け金勘定	923,254百万円
預け金(日銀預け金を除く)	△776百万円
現金及び現金同等物	922,478百万円

6．リース取引関係
ファイナンス・リース取引
(1) 所有権移転ファイナンス・リース取引
①リース資産の内容
有形固定資産
ソフトウェアであります。
②リース資産の減価償却の方法
連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4．会計方針に関する事項」の「(4) 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。
(2) 所有権移転外ファイナンス・リース取引
①リース資産の内容
(ア) 有形固定資産
主として、ATM、電子計算機及び車輌であります。
(イ) 無形固定資産
ソフトウェアであります。
②リース資産の減価償却の方法
連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4．会計方針に関する事項」の「(4) 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

7．金融商品関係
1．金融商品の状況に関する事項
(1) 金融商品に対する取組方針
当行グループは、預金、貸出業務等の銀行業務を中心に様々な金融サービスを提供しております。
貸出につきましては、地域経済との共栄を目指し、健全かつ適切な貸出運用を図るとともに、信用リスク管理の強化に努めております。有価証券につきましては、リスク管理方針・規程等に基づいた厳格な運用を実施しております。預金につきましては、地域のみなさまへの金融サービスの拡充に努めることで、流動性及び定期性預金とも安定的な調達を目指しております。借用金は、中長期的な資金調達として行っております。
貸出金等の金融資産と、預金等の金融負債の期間構造が異なるため、市場の金利変動等に伴うリスクに晒されていることから、資産及び負債の総合的管理(以下「ALM」という)を行い、市場リスクを適切にコントロールして安定的な収益を確保できる運営に努めております。
(2) 金融商品の内容及びそのリスク
当行グループが保有する金融資産は、主として国内のお取引先に対する貸出金、有価証券であります。貸出金につきましては、お取引先の経営状態の悪化などにより元本・利息が回収できなくなる信用リスクに晒されており、有価証券は、発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、適切なリスク分散を図るよう努めております。

金融負債である預金や借用金は、市場環境の急変や当行グループの財務内容の悪化等により、通常より著しく高い金利による資金調達を余儀なくされるなどの流動性リスクに晒されております。

当行の利用しているデリバティブ取引は、通貨関連では通貨スワップ・為替予約・通貨オプション取引、金利関連では、金利先物・金利先物オプション・金利スワップ・金利オプション・キャップ取引、有価証券関連では、株価指数先物・株価指数オプション・債券先物・債券先物オプション・債券店頭オプション取引であります。お客様の多様なニーズに応えるために行っているデリバティブ取引は、原則として銀行間市場でカバー取引を行っております。当行自身のALMのために行っているデリバティブ取引は、金利・為替等のリスクヘッジを目的としております。また、短期的な売買差益を獲得する目的で行っているデリバティブ取引は、当行の定めるリスク管理基準に則り、限定的な範囲で取り組んでおります。これらのデリバティブ取引は、金利変動リスク、為替変動リスク、価格変動リスク及び信用リスク等に晒されております。

当行グループが保有する金融資産・金融負債で著しくリスクの高いものや、時価の変動率が高い特殊なデリバティブ取引の取り扱いはありません。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

当行では、リスク管理部署を設置して「リスク管理基本規程」及びリスクに関する各種管理規程を定め、ALM委員会や各種委員会を設置して、各種リスクの管理を行っております。

①信用リスクの管理

信用リスクの適切な管理・運営を行うことにより経営の健全性の確保と収益力の向上に努める基本方針のもと、「信用リスク管理規程」等各種規程類を制定し、業務推進部門と信用リスク管理部門の分離による内部牽制機能の確保、「クレジットポリシー」に基づく厳正な審査と信用格付の付与、与信集中リスク抑制のための貸出限度額の設定等による個別管理、自己査定や信用リスク量の計測とそれらの取締役会への報告等を実施しております。

具体的には、個別案件毎に営業店が的確に分析・審査を行い、営業店長の権限を超える場合は本部の審査部門でも分析・審査を行っております。審査部門には業種・地域毎に専門の担当者を配置し、お取引先の特性に応じて、営業店への適切な助言・指導が行える体制を整備しております。

また、有価証券の発行体の信用リスク及びデリバティブ取引のカウンターパーティーリスクに関しては、リスク管理部署において、信用情報や取引状況を定期的に把握・管理しております。

②市場リスクの管理

ALM委員会を設置し、預貸金を含めた市場リスクを適切にコントロールして、安定的な収益を確保できる運営に努めております。

ⅰ　金利リスクの管理

「金利リスク管理規程」等の諸規程にリスク管理方法や手続等の詳細を明記し、リスク管理部署が定期的に金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握し、ギャップ分析や金利感応度分析等により金利リスク量をモニタリングするとともに、その結果をALM委員会等に報告・協議し、必要な対策を講じる体制としております。また、金利リスクを適切にコントロールするために、金利リスク量に対する各種限度額を設定・管理し、ALMの観点から金利の変動リスクをヘッジするための金利スワップ及び金利キャップ等のデリバティブ取引を利用して金利リスクの軽減を図っております。

ⅱ　為替リスクの管理

外貨建資産・負債にかかる為替の変動リスクを管理し、通貨スワップ等を利用し、為替リスクの軽減を図っております。

ⅲ　価格変動リスクの管理

有価証券を含む投資商品の保有にあたり、経営会議で定めた方針に基づき、取締役会の監督の下、「リスク管理基本規程」ならびに関連諸規程に従い、事前審査、投資限度額の設定のほか、継続的なモニタリングを通じて、価格変動リスクの軽減を図っております。当行が保有している株式の多くは、政策保有目的で保有しているものであり、お取引先の市場環境や財務状況などをモニタリングしております。これらの情報はリスク管理部署を通じ、取締役会及び経営会議において定期的に報告されております。

また、有価証券については、リスク管理部署においてバリュー・アット・リスク（VaR）等を用いて有価証券の市場リスク量を把握し、規程で定めた各種ルールの遵守状況等が管理されております。

ⅳ　デリバティブ取引

デリバティブ取引に関しては、取引の執行、事務管理に関する部門をそれぞれ分離し内部牽制を確立するとともに、管理セクションが取引の確認、日々のポジションの時価評価、損益状況、リスク量の計測を行い、一定の限度を超える損失が発生しないように管理しております。

ⅴ　市場リスクに係る定量的情報

（ア）トレーディング目的の金融商品

トレーディング目的の金融商品はありません。

（イ）トレーディング目的以外の金融商品

当行において、金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「貸出金」、「債券」、「預金」、「借用金」、「デリバティブ取引」のうちの金利スワップ取引、金利スワップション取引、金利キャップ取引であります。また、価格変動リスクの影響を受ける主たる金融商品は「上場株式」及び「投資信託」であります。当行では、これらの金融資産及び金融負債について、統計的なリスク計測手法であるVaRにより金利変動リスクや価格変動リスクを統一的に管理しております。

なお、VaRの算定にあたっては、ヒストリカル法（保有期間120日、信頼区間99%、観測期間1,250日）を採用し、金利と株価等の変動における相関を考慮しております。ただし、商品有価証券業務（公共債窓販業務等）及び投資有価証券業務として行う特定金外信託運用におけるVaRは、保有期間を10日と定めそれぞれ個別に算定しており、特定金外信託運用におけるVaRは金利と株価等の変動における相関を考慮しております。

2018年3月31日現在、トレーディング目的以外の金融商品におけるVaRは21,414百万円であり、商品有価証券のVaRは16百万円、特定金外信託のVaRは4百万円であります。

また、VaR計測モデルのバックテスティングを定期的に実施し、モデルの妥当性を検証する体制としており、適切なリスクの把握に努めております。ただし、VaRは統計的に算出した一定の発生確率での市場リスク量を計測しており、通常では考えられないほど市場環境が激変する状況下におけるリスクは捕捉できない場合があります。

VaRは統計的な信頼区間（99%）の下で、金融商品を保有する期間に相当する最大損失額ですが、特に金利リスクの影響を受ける主たる金融商品については、補完的なリスク指標として、指標となる金利が100ベーシス・ポイント（1.00%）上昇を想定した資産負債の時価変動額（100bpV：100ベーシス・ポイント・バリュー）を算出しております。2018年3月31日現在、指標となる金利が1.00%上昇したものと想定した場合には、時価が17,413百万円増加するものと把握しております。当該影響額は、金利環境のみが変化する場合を想定しており、金利以外のリスク変数との相関を考慮しておりません。なお、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

③流動性リスクの管理

「流動性リスク管理規程」に基づいて、運用・調達の状況を的確に把握し、円滑な資金繰りに万全を期しております。国債など資金化の容易な支払準備資産を十分に確保するとともに、流動性リスク管理指標を各種設定し、日々チェックしております。また、万一危機が発生した場合は、危機の段階に応じた対応が取れるように、流動性リスクの状況をALM委員会等で定期的に把握・管理する体制を整備しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

2．金融商品の時価等に関する事項

2018年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません（（注2）参照）。また、重要性の乏しいものは省略しております。

	連結貸借対照表計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金預け金	923,254	923,254	－
(2) 有価証券			
満期保有目的の債券	203,222	215,007	11,784
その他有価証券	422,051	422,051	－
(3) 貸出金	3,520,979		
貸倒引当金（＊1）	△25,241		
	3,495,738	3,539,830	44,092
資産計	5,044,267	5,100,144	55,877
(1) 預金	4,645,721	4,645,783	61
(2) 譲渡性預金	26,040	26,040	－
(3) 債券貸借取引受入担保金	33,725	33,725	－
(4) 借用金	249,400	248,825	△574
負債計	4,954,887	4,954,375	△512
デリバティブ取引（＊2）			
ヘッジ会計が適用されていないもの	2,446	2,446	－
ヘッジ会計が適用されているもの	－	－	－
デリバティブ取引計	2,446	2,446	－

（＊1）貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

（＊2）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資　産

(1) 現金預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、預入期間に基づく区分ごとに、市場金利に信用リスク等を加味した利率で割り引いた現在価値を算定しております。なお、預入期間が1年以内のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(2) 有価証券

株式は期末前1カ月の市場価格の平均に基づいて算定された価格、債券は取引所の価格又は公表されている価格、これらがない場合には合理的な見積りに基づいて算定された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格によっております。

自行保証付私募債は、内部格付、残存期間に基づく区分ごとに、市場金利に信用リスク等を加味した利率で割り引いた現在価値を算定しております。

(3) 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を市場金利に信用リスク等を加味した利率で割り引いて時価を算定しております。なお、約定期間が1年以内のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収可能見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。

負　債

(1) 預金及び (2) 譲渡性預金

要求払預金については、連結決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしております。また、定期預金及び譲渡性預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、預入期間が1年以内のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(3) 債券貸借取引受入担保金

債券貸借取引受入担保金については、約定期間が1年以内であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(4) 借用金

借用金のうち変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当行及び連結子会社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借用金の元利金の合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しております。なお、約定期間が1年以内のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引は、金利関連取引（金利先物、金利オプション、金利スワップ等）、通貨関連取引（通貨先物、通貨オプション、通貨スワップ等）、債券関連取引（債券先物、債券先物オプション等）であり、取引所の価格、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算出した価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「資産（2）その他有価証券」には含まれておりません。

区分	連結貸借対照表計上額(百万円)
非上場株式（＊1）（＊2）	4,787
非上場外国証券（＊1）	0
合計	4,787

（＊1）市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。

（＊2）当連結会計年度において、非上場株式について12百万円減損処理を行っております。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 3年以内 (百万円)	3年超 5年以内 (百万円)	5年超 7年以内 (百万円)	7年超 (百万円)
預け金	863,229	−	−	−	−
有価証券					
満期保有目的の債券	32,965	59,451	44,893	5,495	60,805
うち国債	2,500	1,000	1,000	500	60,000
社債	30,465	58,451	43,893	4,995	805
その他有価証券のうち満期があるもの	52,612	127,650	47,240	47,793	49,739
うち国債 (＊1)	39,000	116,000	21,000	−	−
地方債	10,900	8,170	14,010	11,100	21,400
社債	1,390	1,530	596	2,813	4,622
その他	1,321	1,949	11,634	33,880	23,717
貸出金 (＊2)	975,305	515,280	430,212	382,477	1,150,249
合計	1,924,112	702,382	522,346	435,766	1,260,794

(＊1) 国債のうち、変動利付国債64,000百万円について、それぞれの償還期間に含めて開示しております。
(＊2) 貸出金のうち、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めない54,112百万円、期間の定めのないもの13,342百万円は含めておりません。

(注4) 借用金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 3年以内 (百万円)	3年超 5年以内 (百万円)	5年超 7年以内 (百万円)	7年超 (百万円)
預金 (＊)	4,108,134	429,888	107,698	−	−
譲渡性預金	26,040	−	−	−	−
債券貸借取引受入担保金	33,725	−	−	−	−
借用金	−	115,300	114,100	20,000	−
合計	4,167,900	545,188	221,798	20,000	−

(＊) 預金のうち、要求払預金については、「1年以内」に含めて開示しております。

8. 退職給付関係

1. 採用している退職給付制度の概要
当行は、確定給付型の制度として、企業年金制度と退職一時金制度を設けるとともに、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。
また、連結子会社は、退職一時金制度を設けております。
なお、当行は退職給付信託を設定しております。

2. 確定給付制度
(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

区分	金額 (百万円)
退職給付債務の期首残高	49,187
勤務費用	1,354
利息費用	309
数理計算上の差異の発生額	363
退職給付の支払額	△2,184
その他	86
退職給付債務の期末残高	49,117

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

区分	金額 (百万円)
年金資産の期首残高	38,015
期待運用収益	1,068
数理計算上の差異の発生額	1,531
事業主からの拠出額	1,316
退職給付信託の設定	5,199
退職給付の支払額	△1,687
その他	86
年金資産の期末残高	45,529

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

区分	金額 (百万円)
積立型制度の退職給付債務	42,208
年金資産	△40,284
	1,923
非積立型制度の退職給付債務	6,908
年金資産	△5,245
	1,663
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,587

区分	金額 (百万円)
退職給付に係る負債	3,587
退職給付に係る資産	−
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,587

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

区分	金額 (百万円)
勤務費用	1,354
利息費用	309
期待運用収益	△1,068
数理計算上の差異の費用処理額	961
確定給付制度に係る退職給付費用	1,557

(5) 退職給付に係る調整額
退職給付に係る調整額に計上した項目 (税効果控除前) の内訳は次のとおりであります。

区分	金額 (百万円)
数理計算上の差異	2,129
合計	2,129

(6) 退職給付に係る調整累計額
退職給付に係る調整累計額に計上した項目 (税効果控除前) の内訳は次のとおりであります。

区分	金額 (百万円)
未認識数理計算上の差異	1,477
合計	1,477

(7) 年金資産に関する事項
① 年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	34.25%
株式	47.58%
現金及び預金	3.80%
一般勘定	7.67%
その他	6.70%
合計	100.00%

(注) 年金資産合計には、企業年金制度等に対して設定した退職給付信託が27.96%含まれています。

② 長期期待運用収益率の設定方法
年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項
当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎
① 割引率 0.63%
② 長期期待運用収益率 3.0%

3. 確定拠出制度
当行の確定拠出制度への要拠出額は、105百万円であります。

9. 税効果会計関係

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金損金算入限度超過額	9,983百万円
退職給付に係る負債	4,108百万円
有価証券評価損否認額	979百万円
減価償却損金算入限度超過額	471百万円
未払事業税	87百万円
繰越欠損金	7百万円
その他	1,724百万円
繰延税金資産小計	17,360百万円
評価性引当額	△4,072百万円
繰延税金資産合計	13,288百万円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	9,678百万円
退職給付信託	1,884百万円
その他	224百万円
繰延税金負債合計	11,788百万円
繰延税金資産の純額	1,500百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率	30.64%
(調整)	
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0.99%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.36%
住民税均等割	0.61%
評価性引当額の増減	△0.89%
その他	△0.69%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.04%

10. 1株当たり情報

	2017年度
1株当たり純資産額	343.81円
1株当たり当期純利益	13.58円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	−円

(注) 1. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、次のとおりであります。

1株当たり当期純利益	
親会社株主に帰属する当期純利益	8,221百万円
普通株主に帰属しない金額	1,611百万円
うち定時株主総会決議による優先配当額	805百万円
うち中間優先配当額	805百万円
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益	6,610百万円
普通株式の期中平均株式数	486,634千株

2. なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

純資産の部の合計額	221,834百万円
純資産の部の合計額から控除する金額	54,521百万円
うち優先株式発行金額	53,716百万円
うち優先配当額	805百万円
普通株式に係る期末の純資産額	167,312百万円
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数	486,634千株

(重要な後発事象)
該当ありません。

セグメント情報

当行グループは、銀行業の単一セグメントであるため、記載を省略しております

財務諸表

当行の銀行法第20条第1項の規定により作成した書類は会社法により、有限責任監査法人トーマツの監査を受けております。

貸借対照表

（単位：百万円）

	2016年度末（2017年3月31日）	2017年度末（2018年3月31日）
（資産の部）		
現金預け金	**644,373**	**923,208**
現金	62,845	60,024
預け金	581,528	863,183
商品有価証券	**2,842**	**2,906**
商品国債	642	679
商品地方債	2,199	2,226
金銭の信託	**9,251**	**9,491**
有価証券 ※1,7,11	**981,696**	**626,231**
国債	356,679	239,328
地方債	94,918	66,253
社債	153,092	149,283
株式	85,462	84,959
その他の証券	291,542	86,406
貸出金 ※2,3,4,5,7,8	**3,320,734**	**3,519,283**
割引手形 ※6	11,204	14,242
手形貸付	152,106	147,458
証書貸付	2,753,348	2,930,833
当座貸越	404,075	426,750
外国為替	**6,763**	**6,694**
外国他店預け	6,752	6,429
買入外国為替 ※6	−	142
取立外国為替	11	122
その他資産	**49,722**	**94,949**
未収還付法人税等	−	784
前払費用	201	281
未収収益	4,996	4,528
先物取引差入証拠金	8	−
金融派生商品	6,855	5,406
金融商品等差入担保金	3,539	1,721
その他の資産 ※7	34,120	82,227
有形固定資産 ※9	**29,235**	**29,151**
建物	12,539	12,403
土地	14,785	14,682
リース資産	403	687
その他の有形固定資産	1,507	1,377
無形固定資産	**3,407**	**4,563**
ソフトウエア	2,810	3,802
リース資産	−	444
その他の無形固定資産	596	315
繰延税金資産	**5,326**	**1,110**
支払承諾見返	**24,181**	**24,646**
貸倒引当金	**△25,916**	**△22,175**
資産の部合計	**5,051,619**	**5,220,060**

	2016年度末（2017年3月31日）	2017年度末（2018年3月31日）
（負債の部）		
預金 ※7	**4,479,727**	**4,648,903**
当座預金	239,682	266,713
普通預金	2,616,820	2,815,769
貯蓄預金	65,204	67,272
通知預金	8,435	8,478
定期預金	1,503,943	1,443,085
定期積金	10,943	11,031
その他の預金	34,697	36,552
譲渡性預金	**7,939**	**26,040**
債券貸借取引受入担保金※7	**140,142**	**33,725**
借用金 ※7	**139,792**	**249,400**
借入金 ※10	139,792	249,400
外国為替	**45**	**139**
外国他店預り	25	113
売渡外国為替	12	11
未払外国為替	8	14
その他負債	**40,996**	**14,513**
未払法人税等	27	−
未払費用	3,617	3,334
前受収益	1,631	1,327
給付補塡備金	1	1
金融派生商品	10,186	2,959
金融商品等受入担保金	620	1,235
リース債務	348	1,103
資産除去債務	70	71
その他の負債	24,493	4,479
退職給付引当金	**7,504**	**2,048**
役員退職慰労引当金	**104**	**104**
偶発損失引当金	**567**	**477**
睡眠預金払戻損失引当金	**514**	**589**
支払承諾	**24,181**	**24,646**
負債の部合計	**4,841,517**	**5,000,588**
（純資産の部）		
資本金	**93,524**	**93,524**
資本剰余金	**16,795**	**16,795**
資本準備金	16,795	16,795
利益剰余金	**81,250**	**86,931**
利益準備金	8,554	9,071
その他利益剰余金	72,695	77,859
繰越利益剰余金	72,695	77,859
株主資本合計	**191,569**	**197,250**
その他有価証券評価差額金	**18,531**	**22,221**
評価・換算差額等合計	**18,531**	**22,221**
純資産の部合計	**210,101**	**219,472**
負債及び純資産の部合計	**5,051,619**	**5,220,060**

損益計算書

（単位：百万円）

	2016年度（2016年4月 1日から 2017年3月31日まで）	2017年度（2017年4月 1日から 2018年3月31日まで）
経常収益	**78,974**	**78,222**
資金運用収益	**54,293**	**52,319**
貸出金利息	44,215	43,472
有価証券利息配当金	9,637	8,438
コールローン利息	△1	△34
買現先利息	△1	△10
預け金利息	285	275
その他の受入利息	157	177
役務取引等収益	**17,341**	**17,199**
受入為替手数料	4,633	4,624
その他の役務収益	12,707	12,574
その他業務収益	**1,738**	**1,382**
国債等債券売却益	1,685	106
国債等債券償還益	41	42
金融派生商品収益	–	3
その他の業務収益 ※1	11	1,230
その他経常収益	**5,601**	**7,319**
貸倒引当金戻入益	183	1,382
償却債権取立益	15	10
株式等売却益	3,707	4,063
金銭の信託運用益	10	0
その他の経常収益	1,683	1,863
経常費用	**63,593**	**69,226**
資金調達費用	**909**	**963**
預金利息	523	460
譲渡性預金利息	10	2
コールマネー利息	△0	0
債券貸借取引支払利息	61	305
借用金利息	312	187
その他の支払利息	2	7
役務取引等費用	**8,543**	**9,591**
支払為替手数料	838	835
その他の役務費用	7,704	8,756
その他業務費用	**4,549**	**12,369**
外国為替売買損	1,296	632
商品有価証券売買損	14	15
国債等債券売却損	2,323	3,603
国債等債券償還損	897	7,920
国債等債券償却	–	197
金融派生商品費用	18	–
営業経費	**43,177**	**42,317**
その他経常費用	**6,413**	**3,985**
貸出金償却	1	50
株式等売却損	4,106	1,747
株式等償却	31	12
その他の経常費用	2,274	2,174
経常利益	**15,381**	**8,995**
特別利益	**0**	**2,518**
固定資産処分益	0	14
退職給付信託設定益	–	2,504
特別損失	**207**	**282**
固定資産処分損	95	134
減損損失	112	148
税引前当期純利益	**15,173**	**11,231**
法人税、住民税及び事業税	**2,605**	**498**
法人税等調整額	**1,623**	**2,467**
法人税等合計	**4,229**	**2,965**
当期純利益	**10,943**	**8,265**

株主資本等変動計算書

（単位：百万円）

2016年度（2016年4月1日から2017年3月31日まで）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	93,524	16,795	16,795	7,648	67,189	74,838	185,157
当期変動額							
剰余金の配当				906	△5,437	△4,531	△4,531
当期純利益					10,943	10,943	10,943
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	–	–	–	906	5,506	6,412	6,412
当期末残高	93,524	16,795	16,795	8,554	72,695	81,250	191,569

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	18,641	18,641	203,799
当期変動額			
剰余金の配当			△4,531
当期純利益			10,943
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△109	△109	△109
当期変動額合計	△109	△109	6,302
当期末残高	18,531	18,531	210,101

2017年度（2017年4月1日から2018年3月31日まで）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	93,524	16,795	16,795	8,554	72,695	81,250	191,569
当期変動額							
剰余金の配当				516	△3,101	△2,584	△2,584
当期純利益					8,265	8,265	8,265
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	–	–	–	516	5,163	5,680	5,680
当期末残高	93,524	16,795	16,795	9,071	77,859	86,931	197,250

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	18,531	18,531	210,101
当期変動額			
剰余金の配当			△2,584
当期純利益			8,265
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3,689	3,689	3,689
当期変動額合計	3,689	3,689	9,370
当期末残高	22,221	22,221	219,472

重要な会計方針 （2017年度）

1．商品有価証券の評価基準及び評価方法
商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）により行っております。

2．有価証券の評価基準及び評価方法
（1）有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券のうち株式については原則として決算期末前1カ月の市場価格の平均に基づく価格、それ以外については原則として決算日における市場価格等に基づく時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。
なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
（2）金銭の信託において信託財産を構成している有価証券の評価は、上記1.及び2.（1）と同じ方法により行っております。

3．デリバティブ取引の評価基準及び評価方法
デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

4．固定資産の減価償却の方法
（1）有形固定資産（リース資産を除く）
有形固定資産は、定率法（ただし、1998年4月1日以後に取得した建物（建物附属設備を除く。）並びに2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）を採用しております。
なお、主な耐用年数は次のとおりであります。
建　物：6年～50年
その他：3年～20年
（2）無形固定資産（リース資産を除く）
無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間（主として5年）に基づいて償却しております。
（3）リース資産
所有権移転ファイナンス・リース取引
「無形固定資産」中のリース資産は上記（2）無形固定資産と同様に償却しております。
所有権移転外ファイナンス・リース取引
「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

5．外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準
外貨建資産・負債は、主として決算日の為替相場による円換算額を付しております。

6．引当金の計上基準
（1）貸倒引当金
貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。
破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という。）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。
破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で非保全額又は与信額が一定金額以上の大口債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを貸出条件緩和実施前の約定利子率で割り引いた金額と債権の帳簿価額の差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）により計上しております。
上記以外の債権については、一定の種類ごとに分類し、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。
すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。
なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は12,717百万円であります。
（2）退職給付引当金
退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。
なお、数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。
数理計算上の差異：各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（9年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から損益処理
（3）役員退職慰労引当金
役員退職慰労金制度については、2012年5月11日開催の取締役会で廃止することを決定し、2012年6月26日開催の定時株主総会にて、役員退職慰労金制度廃止に伴う退職慰労金の打ち切り支給が承認されております。
これに伴い、役員退職慰労引当金の繰入は2012年6月の繰入をもって停止し、既引当金については継続して役員退職慰労引当金として計上しております。
（4）偶発損失引当金
偶発損失引当金は、信用保証協会における責任共有制度等に基づく、将来発生する可能性のある負担金支払見込額及び他の引当金で引当対象とした事象以外の偶発事象に対し、将来発生する可能性のある損失を見積り、必要と認められる額をそれぞれ計上しております。
（5）睡眠預金払戻損失引当金
睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。

7．ヘッジ会計の方法
（イ）金利リスク・ヘッジ
金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号　2002年2月13日）に規定する繰延ヘッジによる会計処理、あるいは金利スワップの特例処理を行っております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の（残存）期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。また、キャッシュ・フローを固定するヘッジについては、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。
（ロ）為替変動リスク・ヘッジ
外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号　2002年7月29日）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

8．その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項
（1）退職給付に係る会計処理
退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。
（2）消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税（以下「消費税等」という。）の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しております。

注記事項 （2017年度）

1．貸借対照表関係
※1．関係会社の株式及び出資金総額　3,083百万円
※2．貸出金のうち、破綻先債権額は1,165百万円、延滞債権額は51,315百万円であります。
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（1965年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
※3．貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は173百万円であります。
なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
※4．貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は8,108百万円であります。
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。
※5．破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は60,763百万円であります。
なお、上記2．から5．に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
※6．手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号　2002年2月13日）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は14,384百万円であります。
※7．担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産		担保資産に対応する債務	
有価証券	195,530百万円	預金	2,375百万円
貸出金	104,741百万円	債券貸借取引受入担保金	33,725百万円
		借用金	229,400百万円

上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、有価証券14,226百万円、その他の資産（現金）53,777百万円を差し入れております。
また、その他の資産には保証金2,632百万円が含まれております。
※8．当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、1,070,102百万円であります。このうち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なものが1,037,031百万円あります。
なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。
※9．有形固定資産の圧縮記帳額　1,001百万円
（当該事業年度の圧縮記帳額　ー百万円）
※10．借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金20,000百万円が含まれております。
※11．「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する当行の保証債務の額は138,610百万円であります。

2．損益計算書関係
※1.その他の業務収益には、貸出債権売却益1,230百万円を計上しております。

3．税効果会計関係

1．繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金損金算入限度超過額	9,019百万円
退職給付引当金	3,639百万円
有価証券評価損否認額	977百万円
減価償却損金算入限度超過額	470百万円
未払事業税	75百万円
その他	1,656百万円
繰延税金資産小計	15,838百万円
評価性引当額	△3,353百万円
繰延税金資産合計	12,484百万円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	9,265百万円
退職給付信託	1,884百万円
その他	224百万円
繰延税金負債合計	11,374百万円
繰延税金資産の純額	1,110百万円

2．法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率	30.64%
(調整)	
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△3.75%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.35%
住民税均等割	0.61%
評価性引当額の増減	△1.12%
その他	△0.33%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	26.40%

(重要な後発事象)

該当ありません。

財務諸表に係る確認書

「財務諸表の正確性、内部監査の有効性についての経営者責任の明確化について（要請）」（2005年10月7日付金監第2835号）に基づく、当行の財務諸表の適正性、および財務諸表作成に係る内部監査の有効性に関する代表者の確認書は以下のとおりです。

2018年7月4日

確認書

株式会社　北海道銀行
取締役頭取　笹原　晶博

私は、当行の2017年4月1日から2018年3月31日までの会計年度（2018年3月期）に係る財務諸表・連結財務諸表の適正性、および財務諸表・連結財務諸表作成に係る内部監査の有効性を確認しております。

以上

損益の状況（単体）

部門別損益の状況

（単位：百万円、％）

		2016年度	2017年度
国内業務部門業務粗利益	資金運用収支	50,544	49,644
	役務取引等収支	8,772	7,577
	その他業務収支	256	△7,005
		59,573 (1.31)	**50,217 (1.10)**
国際業務部門業務粗利益	資金運用収支	2,840	1,712
	役務取引等収支	25	30
	その他業務収支	△3,067	△3,981
		△201 (△0.13)	**△2,238 (△1.95)**
業務粗利益		59,371	47,978
経費		41,592	41,300
業務純益（一般貸倒引当金繰入前）		17,778	6,678
一般貸倒引当金繰入額		－	－
業務純益		17,778	6,678
臨時損益		△2,397	2,317
経常利益		15,381	8,995
当期純利益		10,943	8,265

（注）（ ）内は業務粗利益率を表示しております。

営業経費の内訳

（単位：百万円）

	2016年度	2017年度
給料・手当	15,469	15,476
退職給付費用	2,304	1,740
福利厚生費	156	162
減価償却費	2,273	2,599
土地建物機械賃借料	2,543	2,843
営繕費	85	91
消耗品費	632	542
給水光熱費	527	551
旅費	237	224
通信費	554	568
広告宣伝費	678	665
租税公課	3,037	2,981
その他	14,675	13,868
合　計	**43,177**	**42,317**

資金運用収支

（単位：百万円、％）

		2016年度			2017年度		
		平均残高	利　息	利回り	平均残高	利　息	利回り
国内業務部門	**資金運用勘定**	**4,525,062**	**51,302**	**1.13**	**4,535,703**	**50,156**	**1.10**
	うち貸出金	3,245,317	44,072	1.35	3,390,078	43,381	1.27
	うち有価証券	918,602	6,746	0.73	680,402	6,341	0.93
	うち預け金等	224,867	284	0.12	357,521	241	0.06
	資金調達勘定	**4,547,113**	**757**	**0.01**	**4,760,164**	**511**	**0.01**
	うち預金	4,392,097	456	0.01	4,560,720	347	0.00
	うち譲渡性預金	55,268	10	0.01	52,932	2	0.00
	うち債券貸借取引受入担保金	58,405	5	0.00	11,030	1	0.00
	うち借用金等	48,953	284	0.58	143,126	153	0.10
	資金運用収支	——	**50,544**	——	——	**49,644**	——
国際業務部門	**資金運用勘定**	**148,573**	**3,023**	**2.03**	**114,221**	**2,179**	**1.90**
	うち貸出金	12,495	143	1.14	5,995	91	1.52
	うち有価証券	133,861	2,874	2.14	94,603	2,076	2.19
	うち預け金等	26	0	0.13	17	0	0.09
	資金調達勘定	**147,787**	**183**	**0.12**	**115,064**	**466**	**0.40**
	うち預金	17,976	67	0.37	16,745	112	0.67
	うち譲渡性預金	－	－	－	－	－	－
	うち債券貸借取引受入担保金	5,511	56	1.01	21,336	303	1.42
	うち借用金等	2,619	27	1.04	2,506	34	1.37
	資金運用収支	——	**2,840**	——	——	**1,712**	——
合　計		——	**53,385**	——	——	**51,357**	——

（注）1. 預け金等にはコールローンを含んでおります。
2. 借用金等にはコールマネーを含んでおります。

受取・支払利息の分析

（単位：百万円）

		2016年度			2017年度		
		残高要因	利率要因	純増減	残高要因	利率要因	純増減
国内業務部門	**受取利息**	**△1,317**	**△4,932**	**△6,250**	**119**	**△1,265**	**△1,145**
	うち貸出金	902	△2,778	△1,875	1,909	△2,599	△690
	うち有価証券	△1,145	△3,161	△4,306	△1,984	1,579	△405
	うち預け金等	△92	51	△40	128	△171	△42
	支払利息	**△3**	**△1,157**	**△1,160**	**29**	**△275**	**△246**
	うち預金	20	△754	△733	15	△123	△108
	うち譲渡性預金	△113	△130	△243	△0	△7	△7
	うち債券貸借取引受入担保金	5	△0	5	△4	△0	△4
	うち借用金等	17	△208	△191	323	△454	△130
	資金運用収支	**△1,313**	**△3,775**	**△5,089**	**89**	**△989**	**△899**
国際業務部門	**受取利息**	**64**	**783**	**847**	**△677**	**△167**	**△844**
	うち貸出金	△32	58	25	△86	34	△52
	うち有価証券	298	529	827	△852	54	△797
	うち預け金等	△0	0	△0	△0	△0	△0
	支払利息	**△0**	**△128**	**△128**	**△86**	**369**	**283**
	うち預金	△4	△43	△48	△6	51	45
	うち譲渡性預金	－	－	－	－	－	－
	うち債券貸借取引受入担保金	△139	71	△68	193	54	247
	うち借用金等	△3	17	13	△1	8	7
	資金運用収支	**64**	**911**	**975**	**△590**	**△537**	**△1,128**
合　計		**△1,249**	**△2,864**	**△4,113**	**△500**	**△1,527**	**△2,027**

（注）1. 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、残高要因と利率要因に按分して記載しております。
2. 預け金等にはコールローンを含んでおります。
3. 借用金等にはコールマネーを含んでおります。

損益の状況・預金業務（単体）

役務取引等収支

（単位：百万円）

		2016年度	2017年度
国内業務部門	**役務取引等収益**	**17,239**	**17,104**
	うち預金・貸出業務	6,757	6,379
	うち為替業務	4,533	4,531
	うち代理業務	719	730
	うち証券関連業務	2,668	2,718
	役務取引等費用	**8,466**	**9,526**
	うち為替業務	762	770
	役務取引等収支	**8,772**	**7,577**
国際業務部門	**役務取引等収益**	**101**	**94**
	うち預金・貸出業務	－	－
	うち為替業務	100	93
	うち証券関連業務	－	－
	役務取引等費用	**76**	**64**
	うち為替業務	76	64
	役務取引等収支	**25**	**30**
合　計		**8,797**	**7,608**

その他業務収支

（単位：百万円）

	2016年度	2017年度
国内業務部門	**256**	**△7,005**
国債等債券関係損益	277	△8,224
その他	△21	1,218
国際業務部門	**△3,067**	**△3,981**
外国為替売買益	△1,296	△632
国債等債券関係損益	△1,770	△3,348
その他	△0	△0
合　計	**△2,811**	**△10,986**

預金者別残高

（単位：百万円、％）

区　分	2016年度末	構成比	2017年度末	構成比
個人預金	3,254,455	72.65	3,321,853	71.45
法人預金	1,084,373	24.21	1,175,747	25.29
その他	140,899	3.14	151,302	3.26
合　計	**4,479,727**	**100.00**	**4,648,903**	**100.00**

（注）譲渡性預金及び特別国際金融取引勘定分は含んでおりません。

預金科目別残高

（単位：百万円、％）

		2016年度				2017年度			
		期末残高	構成比	平均残高	構成比	期末残高	構成比	平均残高	構成比
国内業務部門	流動性預金	2,930,142	65.52	2,814,886	63.29	3,158,233	67.83	3,038,369	65.85
	定期性預金	1,514,887	33.87	1,562,300	35.13	1,454,116	31.23	1,504,962	32.62
	その他の預金	19,242	0.43	14,910	0.34	17,446	0.38	17,388	0.38
	合　計	**4,464,272**	**99.82**	**4,392,097**	**98.76**	**4,629,796**	**99.44**	**4,560,720**	**98.85**
	譲渡性預金	7,939	0.18	55,268	1.24	26,040	0.56	52,932	1.15
	総合計	**4,472,211**	**100.00**	**4,447,365**	**100.00**	**4,655,836**	**100.00**	**4,613,653**	**100.00**
国際業務部門	流動性預金	－	－	－	－	－	－	－	－
	定期性預金	－	－	－	－	－	－	－	－
	その他の預金	15,455	100.00	17,976	100.00	19,106	100.00	16,745	100.00
	合　計	**15,455**	**100.00**	**17,976**	**100.00**	**19,106**	**100.00**	**16,745**	**100.00**
	譲渡性預金	－	－	－	－	－	－	－	－
	総合計	**15,455**	**100.00**	**17,976**	**100.00**	**19,106**	**100.00**	**16,745**	**100.00**

（注）1. 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金
2. 定期性預金＝定期預金＋定期積金
3. 国際業務部門の外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により、算出しております。

定期預金の残存期間別残高

（単位：百万円）

		3ヵ月未満	3ヵ月以上6ヵ月未満	6ヵ月以上1年未満	1年以上2年未満	2年以上3年未満	3年以上	合計
2016年度末	定期預金	287,312	180,561	420,434	187,892	116,305	117,202	**1,309,709**
	うち固定自由金利定期預金	287,249	180,495	420,220	187,589	115,947	117,202	**1,308,705**
	うち変動自由金利定期預金	62	66	213	302	358	－	**1,003**
	うちその他定期預金	0	－	－	－	－	－	**0**
2017年度末	定期預金	289,354	180,126	384,664	141,278	142,118	107,146	**1,244,688**
	うち固定自由金利定期預金	289,277	180,047	384,475	140,940	141,745	107,146	**1,243,632**
	うち変動自由金利定期預金	77	78	189	337	372	－	**1,055**
	うちその他定期預金	0	－	－	－	－	－	**0**

（注）1. 固定自由金利定期預金：預入時に満期日までの利率が確定する自由金利定期預金
2. 変動自由金利定期預金：預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する自由金利定期預金
3. 本表の預金残高には、積立定期預金を含んでおりません。

貸出業務（単体）

貸出金科目別残高

（単位：百万円）

		2016年度		2017年度	
		期末残高	平均残高	期末残高	平均残高
国内業務部門	手形貸付	152,106	146,661	147,458	137,571
	証書貸付	2,742,768	2,674,068	2,930,433	2,810,084
	当座貸越	404,075	413,102	426,750	431,856
	割引手形	11,204	11,485	14,242	10,565
	計	**3,310,154**	**3,245,317**	**3,518,883**	**3,390,078**
国際業務部門	手形貸付	－	7	－	0
	証書貸付	10,580	12,487	400	5,995
	当座貸越	－	－	－	－
	割引手形	－	－	－	－
	計	**10,580**	**12,495**	**400**	**5,995**
合　計		**3,320,734**	**3,257,812**	**3,519,283**	**3,396,074**

（注）国際業務部門の外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

業種別貸出状況

（単位：百万円、％）

	2016年度末		2017年度末	
	貸出金残高	構成比	貸出金残高	構成比
国内（除く特別国際金融取引勘定分）	**3,320,734**	**100.00**	**3,519,283**	**100.00**
製造業	240,833	7.25	244,163	6.94
農業，林業	13,768	0.41	16,313	0.46
漁業	1,704	0.05	1,366	0.04
鉱業，採石業，砂利採取業	2,638	0.08	2,447	0.07
建設業	102,670	3.09	101,440	2.88
電気・ガス・熱供給・水道業	58,314	1.76	68,651	1.95
情報通信業	25,469	0.77	28,247	0.80
運輸業，郵便業	96,986	2.92	93,856	2.67
卸売業，小売業	306,343	9.23	305,929	8.69
金融業，保険業	162,538	4.89	144,126	4.09
不動産業，物品賃貸業	328,391	9.89	343,696	9.77
各種サービス業	228,833	6.89	233,609	6.64
地方公共団体等	687,925	20.72	797,317	22.66
その他	1,064,322	32.05	1,138,123	32.34
特別国際金融取引勘定分	－	－	－	－
合　計	**3,320,734**	――	**3,519,283**	――

貸出金の残存期間別残高

（単位：百万円）

		1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超	期間の定めのないもの	合計
2016年度末	貸出金	870,659	496,286	421,038	359,888	1,159,393	13,467	**3,320,734**
	うち変動金利		172,280	151,359	86,931	255,294	13,467	
	うち固定金利		324,005	269,679	272,957	904,099	－	
2017年度末	貸出金	1,027,961	515,280	430,212	382,477	1,150,249	13,102	**3,519,283**
	うち変動金利		176,963	152,201	79,321	248,985	13,102	
	うち固定金利		338,317	278,011	303,155	901,263	－	

（注）残存期間１年以下の貸出金については、変動金利、固定金利の区別をしておりません。

貸出金使途別残高

（単位：百万円、％）

区　分	2016年度末		2017年度末	
	貸出金残高	構成比	貸出金残高	構成比
設備資金	1,464,578	44.10	1,562,098	44.39
運転資金	1,856,156	55.90	1,957,185	55.61
合　計	**3,320,734**	**100.00**	**3,519,283**	**100.00**

貸出金の担保別内訳

（単位：百万円）

種　類	2016年度末	2017年度末
有価証券	7,028	6,895
債　権	34,193	32,678
商　品	715	888
不動産	372,773	401,812
その他	2,696	6,622
計	**417,408**	**448,897**
保　証	1,524,248	1,564,828
信　用	1,379,077	1,505,557
合　計	**3,320,734**	**3,519,283**

支払承諾見返の担保別内訳

（単位：百万円）

種　類	2016年度末	2017年度末
有価証券	187	196
債　権	226	310
商　品	－	－
不動産	3,111	3,568
その他	122	90
計	**3,648**	**4,166**
保　証	11,639	10,114
信　用	8,893	10,364
合　計	**24,181**	**24,646**

中小企業等に対する貸出金

（単位：百万円）

区　分	2016年度末	2017年度末
貸出金残高	**3,320,734**	**3,519,283**
うち中小企業等	2,002,502	2,103,715
（割合）	(60.30%)	(59.77%)

（注）1. 貸出金残高には、特別国際金融取引勘定分は含まれておりません。
2. 中小企業等とは、資本金3億円（ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円）以下の会社又は常用する従業員が300人（ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人、サービス業は100人）以下の企業等であります。

個人ローン残高

（単位：百万円）

	2016年度末	2017年度末
個人ローン残高	**1,050,388**	**1,124,715**
住宅系ローン残高	967,760	1,038,179
その他のローン残高	82,627	86,536

（注）1. 住宅系ローンには、アパートローンを含んでおります。
2. その他のローンには、カードローンを含んでおり、総合口座の貸越残高は含んでおりません。

金融再生法に基づく開示債権の額

（単位：百万円）

区　分	2016年度末	2017年度末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	5,126	5,086
危険債権	53,510	47,856
要管理債権	8,435	8,282
小　計	**67,071**	**61,224**
正常債権	3,408,622	3,623,567
合　計	**3,475,694**	**3,684,792**

（注）資産の査定は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」（1998年法律第132号）第6条に基づき、当行の貸借対照表の社債（当該社債を有する金融機関がその元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が金融商品取引法（1948年法律第25号）第2条第3項に規定する有価証券の私募によるものに限る。）、貸出金、外国為替、その他資産中の未収利息及び仮払金、支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに貸借対照表に注記することとされている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券（使用貸借又は賃貸借契約によるものに限る。）について債務者の財政状態及び経営成績等を基礎として次のとおり区分するものであります。
(1)「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。
(2)「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権であります。
(3)「要管理債権」とは、3カ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権であります。
(4)「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記(1)から(3)までに掲げる債権以外のものに区分される債権であります。

リスク管理債権額

（単位：百万円）

区　分	2016年度末	2017年度末
破綻先債権額	1,105	1,165
延滞債権額	57,108	51,315
3カ月以上延滞債権額	4	173
貸出条件緩和債権額	8,430	8,108
合　計	**66,649**	**60,763**

リスク管理債権額（連結）

（単位：百万円）

区　分	2016年度末	2017年度末
破綻先債権額	1,423	1,329
延滞債権額	58,515	52,782
3カ月以上延滞債権額	4	173
貸出条件緩和債権額	8,430	8,108
合　計	**68,375**	**62,394**

特定海外債権残高

該当ありません。

貸倒引当金残高

（単位：百万円）

		2016年度					2017年度				
		期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高
				目的使用	その他				目的使用	その他	
貸倒引当金	一般貸倒引当金	4,551	3,240	－	4,551	3,240	3,240	2,770	－	3,240	2,770
	個別貸倒引当金	22,746	22,676	318	22,428	22,676	22,676	19,404	98	22,577	19,404
	うち非居住者向け債権分	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	特定海外債権引当勘定	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	合　計	**27,298**	**25,916**	**318**	**26,980**	**25,916**	**25,916**	**22,175**	**98**	**25,817**	**22,175**

貸出金償却額

（単位：百万円）

	2016年度	2017年度
貸出金償却額	1	50

為替業務・国際業務（単体）

内国為替取扱高

（単位：千口、百万円）

区　分		2016年度		2017年度	
		口　数	金　額	口　数	金　額
送金為替	各地へ向けた分	17,636	17,357,169	17,490	17,606,132
	各地より受けた分	24,045	17,926,697	23,674	18,429,089
代金取立	各地へ向けた分	236	383,881	217	360,278
	各地より受けた分	172	286,803	157	269,870

外国為替取扱高

（単位：百万米ドル）

区　分		2016年度	2017年度
仕向為替	売渡為替	964	1,152
	買入為替	111	147
被仕向為替	支払為替	720	625
	取立為替	14	13
合　計		**1,811**	**1,938**

国際業務部門資産残高

（単位：百万米ドル）

	2016年度末	2017年度末
国内店合計	**1,363**	**662**

（注）国際業務部門は国内店の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

証券業務（単体）

有価証券残高

（単位：百万円、％）

種類		2016年度				2017年度			
		期末残高	構成比	平均残高	構成比	期末残高	構成比	平均残高	構成比
国内業務部門	国債	356,679	41.83	456,813	49.73	239,328	42.14	291,728	42.88
	地方債	94,918	11.13	103,227	11.24	66,253	11.67	82,809	12.17
	社債	153,092	17.95	141,793	15.43	149,283	26.28	147,207	21.63
	株式	85,462	10.02	58,941	6.42	84,959	14.96	45,362	6.67
	その他の証券	162,594	19.07	157,827	17.18	28,133	4.95	113,296	16.65
	合計	**852,748**	**100.00**	**918,602**	**100.00**	**567,958**	**100.00**	**680,402**	**100.00**
国際業務部門	外国債券	128,947	100.00	133,861	100.00	58,273	100.00	94,603	100.00
	外国株式	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	合計	**128,948**	**100.00**	**133,861**	**100.00**	**58,273**	**100.00**	**94,603**	**100.00**

（注）国際業務部門の外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

有価証券の残存期間別残高

（単位：百万円）

種類		1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超10年以下	10年超	期間の定めのないもの	合計
2016年度末	国債（注）	115,696	111,105	67,722	2,130	10,103	49,921	－	**356,679**
	地方債	40,378	15,225	9,153	13,593	16,566	－	－	**94,918**
	社債	44,621	54,711	41,579	8,142	4,037	－	－	**153,092**
	株式	－	－	－	－	－	－	85,462	**85,462**
	外国債券	－	12,909	18,005	14,314	83,718	－	－	**128,947**
	外国株式	－	－	－	－	－	－	0	**0**
	その他の証券	623	7,604	8,915	492	94,077	－	50,880	**162,594**
2017年度末	国債（注）	39,262	118,158	21,890	－	10,090	49,927	－	**239,328**
	地方債	10,979	8,183	14,179	11,466	21,444	－	－	**66,253**
	社債	31,585	59,871	44,488	7,913	5,424	－	－	**149,283**
	株式	－	－	－	－	－	－	84,959	**84,959**
	外国債券	－	－	10,941	28,985	18,345	－	－	**58,273**
	外国株式	－	－	－	－	－	－	0	**0**
	その他の証券	1,321	1,949	547	4,287	4,791	5	15,230	**28,133**

（注）国債には、変動利付国債64,178百万円（前年度末は64,178百万円）を含んでおります。

商品有価証券ディーリング実績

（単位：百万円）

種類	2016年度		2017年度	
	売買高	平均残高	売買高	平均残高
商品国債	1,712	668	174	706
商品地方債	783	2,038	570	2,302
合計	**2,495**	**2,706**	**744**	**3,009**

公共債の引受実績

（単位：百万円）

区分	2016年度	2017年度
国債	－	－
地方債・政府保証債	15,377	14,496
合計	**15,377**	**14,496**

公共債及び投資信託の窓口販売実績

（単位：百万円）

区分	2016年度	2017年度
国債	11,928	44,171
地方債・政府保証債	297	2,532
合計	**12,225**	**46,703**
投資信託	49,187	24,134

有価証券・金銭の信託の時価等情報（単体）

有価証券の時価等情報

（単位：百万円）

1. 貸借対照表の「有価証券」のほか、「商品有価証券」を含めて記載しております。
2. 「子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの」については該当ありません。

1. 売買目的有価証券

	2016年度末	2017年度末
	2016年度の損益に含まれた評価差額	2017年度の損益に含まれた評価差額
売買目的有価証券	△4	△17

2. 満期保有目的の債券

	種類	2016年度末			2017年度末		
		貸借対照表計上額	時価	差額	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	国債	60,024	70,676	10,651	60,017	70,863	10,845
	社債	107,137	108,054	916	116,783	117,701	917
	その他	－	－	－	－	－	－
	小計	**167,162**	**178,730**	**11,568**	**176,801**	**188,564**	**11,763**
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	国債	－	－	－	－	－	－
	社債	21,397	21,328	△68	21,418	21,361	△56
	その他	－	－	－	－	－	－
	小計	**21,397**	**21,328**	**△68**	**21,418**	**21,361**	**△56**
合計		**188,559**	**200,058**	**11,499**	**198,219**	**209,926**	**11,707**

3. その他有価証券

	種類	2016年度末			2017年度末		
		貸借対照表計上額	取得原価	差額	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	64,851	30,046	34,804	54,669	22,686	31,983
	債券	389,465	383,765	5,700	235,374	231,650	3,723
	国債	285,627	281,139	4,487	179,310	176,465	2,845
	地方債	82,393	81,377	1,015	47,221	46,488	732
	社債	21,445	21,248	196	8,842	8,696	145
	その他	4,789	4,721	68	4,997	4,899	97
	外国証券	－	－	－	2,598	2,584	13
	その他	4,789	4,721	68	2,399	2,314	84
	小計	**459,106**	**418,533**	**40,573**	**295,041**	**259,236**	**35,804**
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	13,279	13,929	△649	22,989	24,509	△1,519
	債券	26,665	26,770	△105	21,271	21,337	△65
	国債	11,027	11,034	△6	－	－	－
	地方債	12,525	12,610	△84	19,032	19,090	△57
	社債	3,112	3,126	△13	2,239	2,247	△7
	その他	286,749	300,519	△13,769	81,406	84,139	△2,732
	外国証券	128,947	133,369	△4,421	55,675	57,152	△1,476
	その他	157,801	167,149	△9,348	25,731	26,987	△1,255
	小計	**326,695**	**341,219**	**△14,524**	**125,668**	**129,986**	**△4,317**
合計		**785,801**	**759,753**	**26,048**	**420,709**	**389,222**	**31,486**

4. 期中に売却したその他有価証券

	2016年度			2017年度		
	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	96,824	3,678	4,062	98,398	3,804	1,629
債券	163,329	270	393	39,044	1	147
国債	163,329	270	393	39,044	1	147
地方債	－	－	－	－	－	－
社債	－	－	－	－	－	－
その他	84,638	1,444	1,973	143,885	363	3,573
外国証券	76,684	158	1,929	120,978	104	3,453
その他	7,954	1,286	43	22,907	258	120
合計	**344,793**	**5,393**	**6,429**	**281,329**	**4,169**	**5,350**

5. 時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券

	2016年度末	2017年度末
子会社株式及び関連会社株式	2,527	2,527
うち子会社株式	2,527	2,527
非上場株式	4,806	4,774
非上場外国証券	0	0

6. 保有目的を変更した有価証券

該当ありません。

7. 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券（時価を把握することが極めて困難なものを除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当期の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。

前期における減損処理額は、該当ありません。

当期における減損処理額は197百万円（うち社債197百万円）であります。
また、「減損処理」は、資産の自己査定における有価証券の発行会社の区分ごとに次のとおりとしております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先、要注意先	株式は時価が取得原価に比べ下落、債券は時価が取得原価に比べ30％超下落
正常先	時価が取得原価の50％以上下落、又は、時価が取得原価の30％超50％未満下落かつ市場価格が一定水準以下で推移等

なお、要注意先とは今後管理に注意を要する債務者であり、正常先とは、破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の債務者であります。

金銭の信託の時価等情報

（単位：百万円）

1. 運用目的の金銭の信託

	2016年度末		2017年度末	
	貸借対照表計上額	2016年度の損益に含まれた評価差額	貸借対照表計上額	2017年度の損益に含まれた評価差額
運用目的の金銭の信託	9,251	18	9,491	11

2. 満期保有目的の金銭の信託

該当ありません。

3. その他の金銭の信託（運用目的及び満期保有目的以外）

該当ありません。

その他有価証券評価差額金

（単位：百万円）

貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は次のとおりであります。

	2016年度末	2017年度末
評価差額	26,048	31,486
その他有価証券	26,048	31,486
その他の金銭の信託	－	－
（＋）繰延税金資産（又は（△）繰延税金負債）	△7,516	△9,265
その他有価証券評価差額金	18,531	22,221

デリバティブ取引情報（単体）

取引の時価等

（単位：百万円）

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

（1）金利関連取引

区分	種類		2016年度末				2017年度末			
			契約額等	うち1年超	時価	評価損益	契約額等	うち1年超	時価	評価損益
店頭	金利スワップ	受取固定・支払変動	132,139	129,125	3,832	3,832	114,415	104,095	2,796	2,796
		受取変動・支払固定	132,125	129,111	△2,434	△2,434	114,403	104,074	△1,784	△1,784
	金利オプション	売建	－	－	－	－	－	－	－	－
		買建	－	－	－	－	－	－	－	－
合計					1,397	1,397			1,011	1,011

（注）1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。
2. 時価の算定
割引現在価値等により算定しております。

（2）通貨関連取引

区分	種類		2016年度末				2017年度末			
			契約額等	うち1年超	時価	評価損益	契約額等	うち1年超	時価	評価損益
店頭	通貨スワップ		21	－	0	0	－	－	－	－
	為替予約	売建	136,228	－	△4,802	△4,802	50,945	－	1,450	1,450
		買建	21,966	－	72	72	28,774	－	△15	△15
	通貨オプション	売建	62,693	34,861	△2,179	6,054	37,999	16,465	△967	4,087
		買建	62,693	34,861	2,180	△5,522	37,999	16,465	967	△3,828
合計					△4,728	△4,197			1,434	1,694

（注）1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。
2. 時価の算定
割引現在価値等により算定しております。

（3）株式関連取引

該当ありません。

（4）債券関連取引

該当ありません。

（5）商品関連取引

該当ありません。

（6）クレジットデリバティブ取引

該当ありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当ありません。

デリバティブ取引情報・諸比率等（単体）

オフバランス取引情報

（単位：億円）

		2016年度末	2017年度末
金融派生商品及び先物外国為替取引の想定元本額（信用リスク相当額）	金利及び通貨スワップ	2,642（64）	2,288（46）
	金利及び通貨オプション	626（42）	379（20）
	先物外国為替取引	1,573（23）	764（23）
	その他の金融派生商品	－（－）	－（－）
	合　計	**4,842（130）**	**3,432（90）**
与信関連取引の契約金額	ローン・コミットメント	5,588	5,388
	保証取引	241	246
	その他	1,517	450
	合　計	**7,347**	**6,085**

（注）1. 上記取引は、オフバランス取引のうち、自己資本比率基準の対象のものです。
2. 信用リスク相当額は、カレント・エクスポージャー方式で算出しております。
3. なお、自己資本比率基準で算出対象となっていない取引所取引、原契約期間が5営業日以内の外国為替関連取引等の契約金額・想定元本額は次のとおりです。

	2016年度末	2017年度末
金利及び通貨先物取引	－	－
金利及び通貨オプション	－	－
先物外国為替取引	8	32
その他の金融派生商品（*）	－	－
合　計	**8**	**32**

（*）「その他の金融派生商品」は、取引所で取引される金利、通貨及び株価指数の各先物取引が含まれます。先物取引とは、将来の特定の期日に予め決められた価格等とその時点での価格等との差額を決済する取引のことです。

利　鞘

（単位：%）

		2016年度	2017年度
資金運用利回り	国内業務部門	1.13	1.10
	国際業務部門	2.03	1.90
	計	**1.19**	**1.14**
資金調達原価	国内業務部門	0.91	0.86
	国際業務部門	0.61	0.98
	計	**0.92**	**0.88**
総資金利鞘	国内業務部門	0.21	0.24
	国際業務部門	1.42	0.92
	計	**0.26**	**0.26**

利益率

（単位：%）

	2016年度	2017年度
総資産経常利益率	0.32	0.17
資本経常利益率	8.98	4.58
総資産当期純利益率	0.22	0.16
資本当期純利益率	6.09	4.13

（注）1. 総資産経常（当期純）利益率＝$\frac{\text{経常（当期純）利益}}{\text{総資産（除く支払承諾見返）平均残高}}\times 100$

2. 資本経常（当期純）利益率＝$\frac{\text{経常（当期純）利益}-\text{優先株式配当金総額}}{\{(\text{期首純資産（除く優先株式）})+(\text{期末純資産（除く優先株式）})\}\div 2}\times 100$

預貸率・預証率

（単位：%）

		2016年度		2017年度	
		期末値	期中平均値	期末値	期中平均値
預貸率	国内業務部門	74.01	72.97	75.58	73.47
	国際業務部門	68.45	69.50	2.09	35.80
	計	**73.99**	**72.95**	**75.27**	**73.34**
預証率	国内業務部門	19.06	20.65	12.19	14.74
	国際業務部門	834.32	744.65	304.99	564.96
	計	**21.87**	**23.56**	**13.39**	**16.73**

（注）預金額には譲渡性預金を含んでおります。

店舗・人員の状況

店舗数の推移

（単位：店）

		2016年度末	2017年度末
国　内	本支店	136	136
	出張所	6	6
	国内計	**142**	**142**
海　外	駐在員事務所	3	3

現金自動機設置状況

（単位：台）

	2016年度末	2017年度末
店　舗　内	451	438
店　舗　外	354	357
合　　計	**805**	**795**

（注）イーネット、ローソン・エイティエム・ネットワークス、バンクタイム、セブン銀行及びビューカードとの提携により、利用できるコンビニATM等は、53,528台です。

従業員の状況

	2016年度末	2017年度末
従業員数	2,291人	2,357人
平均年齢	38歳　3月	38歳　0月
平均勤続年数	15年　3月	14年　11月
平均給与月額	356千円	347千円

（注）1. 平均年齢、平均勤続年数、平均給与月額は、それぞれ単位未満を切り捨てて表示しております。
2. 従業員には、出向者を含み臨時雇員及び嘱託は含まれておりません。
3. 平均給与月額は、賞与を除く3月中の平均給与月額であります。

従業員1人当たり預金・貸出金残高

（単位：百万円）

種　類	2016年度末	2017年度末
預　金	1,947	1,973
貸出金	1,441	1,485

（注）1. 預金額には譲渡性預金を含んでおります。
2. 従業員数は期中平均人員を使用し計算しております。また、従業員数には本部人員数を含んでおります。

1店舗当たり預金・貸出金残高

（単位：百万円）

種　類	2016年度末	2017年度末
預　金	32,997	34,374
貸出金	24,417	25,877

（注）1. 預金額には譲渡性預金を含んでおります。
2. 店舗数は出張所を含まないもので計算しております。

自己資本の充実の状況（連結）

当行は、銀行法施行規則（1982年大蔵省令第10号）第19条の2第1項第5号ニ等の規定に基づき、自己資本の充実の状況等について金融庁長官が別に定める事項（自己資本比率規制の第3の柱（市場規律））として、事業年度の開示事項を、以下のとおり、開示しております。

自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（2006年金融庁告示第19号。以下「自己資本比率告示」という。）に定められた算式に基づき、算出しております。

当行は、国内基準を適用のうえ信用リスク・アセットの算出においては標準的手法（注）を採用しております。また、オペレーショナル・リスク相当額の算出においては、粗利益配分手法を採用しております。

（注）標準的手法とは、あらかじめ監督当局が設定したリスク・ウェイトを使用して信用リスク・アセットを算出する手法のことです。

自己資本の構成及び自己資本比率（連結）

（単位：百万円）

項　目	2016年度末	経過措置による不算入額	2017年度末	経過措置による不算入額
コア資本に係る基礎項目				
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	139,572		145,209	
うち、資本金及び資本剰余金の額	56,603		56,603	
うち、利益剰余金の額	83,775		89,412	
うち、自己株式の額（△）	－		－	
うち、社外流出予定額（△）	805		805	
うち、上記以外に該当するものの額	－		－	
コア資本に算入されるその他の包括利益累計額	△1,505		△822	
うち、為替換算調整勘定	－		－	
うち、退職給付に係るものの額	△1,505		△822	
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	－		－	
コア資本に係る調整後非支配株主持分の額	－		－	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	7,491		6,720	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	7,491		6,720	
うち、適格引当金コア資本算入額	－		－	
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	53,716		53,716	
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	20,000		20,000	
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	－		－	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	－		－	
非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	－		－	
コア資本に係る基礎項目の額　（イ）	219,274		224,823	
コア資本に係る調整項目				
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	1,456	970	2,584	646
うち、のれんに係るもの（のれん相当差額を含む。）の額	－	－	－	－
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	1,456	970	2,584	646
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	－	－	3	0
適格引当金不足額	－	－	－	－
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	－	－	－	－
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	－	－	－	－
退職給付に係る資産の額	－	－	－	－
自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	－	－	－	－
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	－	－	－	－
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	－	－	－	－
特定項目に係る十パーセント基準超過額	702	468	－	－
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	－	－	－	－
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	－	－	－	－
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	702	468	－	－
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	－	－	－	－
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	－	－	－	－
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	－	－	－	－
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	－	－	－	－
コア資本に係る調整項目の額　（ロ）	2,158		2,588	
自己資本				
自己資本の額（（イ）－（ロ））　（ハ）	217,116		222,235	
リスク・アセット等				
信用リスク・アセットの額の合計額	2,168,462		2,233,450	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	1,438		647	
うち、無形固定資産（のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）	970		646	
うち、繰延税金資産	－		0	
うち、退職給付に係る資産	－		－	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	－		－	
うち、上記以外に該当するものの額	468		－	
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	－		－	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	124,508		119,205	
信用リスク・アセット調整額	－		－	
オペレーショナル・リスク相当額調整額	－		－	
リスク・アセットの額の合計額　（ニ）	2,292,971		2,352,656	
連結自己資本比率				
連結自己資本比率（（ハ）／（ニ））	9.46%		9.44%	

【定性的な開示事項】

1．連結の範囲に関する事項

(1) 自己資本比率告示第26条の規定により連結自己資本比率を算出する対象となる会社の集団（以下「連結グループ」という。）に属する会社と会計連結範囲に含まれる会社との相違点及び当該相違点の生じた原因

・連結グループに属する会社と会計連結範囲に含まれる会社に相違点はありません。

(2) 連結グループのうち、連結子会社の数、名称及び主要な業務の内容

2017年3月末の連結グループに属する連結子会社は3社であります。

名　称	主要な業務の内容
道銀ビジネスサービス株式会社	文書管理業務、現金等の整理・精算業務、事務集中処理業務
道銀カード株式会社	クレジットカード業務、信用保証業務
株式会社道銀地域総合研究所	経済調査業務、受託調査・研究業務、コンサルティング業務

2018年3月末の連結グループに属する連結子会社は3社であります。

名　称	主要な業務の内容
道銀ビジネスサービス株式会社	文書管理業務、現金等の整理・精算業務、事務集中処理業務
道銀カード株式会社	クレジットカード業務、信用保証業務
株式会社道銀地域総合研究所	経済調査業務、受託調査・研究業務、コンサルティング業務

(3) 自己資本比率告示第32条が適用される金融業務を営む関連法人等の数並びに当該金融業務を営む関連法人等の名称、貸借対照表の総資産の額及び純資産の額並びに主要な業務の内容

当該金融業務を営む関連法人等はありません。

(4) 連結グループに属する会社であって会計連結範囲に含まれないもの及び連結グループに属しない会社であって会計連結範囲に含まれるものの名称、貸借対照表の総資産の額及び純資産の額並びに主要な業務の内容

・連結グループに属する会社であって会計連結範囲に含まれないもの
該当するものはありません。

・連結グループに属しない会社であって会計連結範囲に含まれるもの
該当するものはありません。

(5) 連結グループ内の資金及び自己資本の移動に係る制限等の概要

連結子会社全てにおいて、債務超過会社はなく、自己資本は充実しております。また、連結グループ内において自己資本に係る支援は行っておりません。

2．自己資本調達手段（その額の全部又は一部が、自己資本比率告示第25条又は第37条の算式におけるコア資本に係る基礎項目の額に含まれる資本調達手段をいう。）の概要

2017年3月末の自己資本調達の概要は以下のとおりです。

発行主体	当行	当行
資本調達手段の種類	普通株式	第一回第二種優先株式
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額（連結）(注)	1,395億円	537億円
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額（単体）(注)	1,370億円	537億円
配当率又は利率	―	1株あたり7円50銭
償還期限の有無	無	無
その日付	―	―
償還等を可能とする特約の概要		
初回償還可能日及びその償還金額	―	当行は、2005年3月31日以降いつでも、本優先株式1株につき500円で本優先株式の全部又は一部を取得することができる。一部取得の場合は抽選その他の方法により行うことができる。
償還特約の対象となる事由	―	―
ステップ・アップ金利等に係る特約その他の償還等を行う蓋然性を高める特約の概要	―	―

発行主体	当行
資本調達手段の種類	劣後特約付借入金
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額（連結）(注)	200億円
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額（単体）(注)	200億円
配当率又は利率	―
償還期限の有無	有
その日付	2023年10月23日から2024年 3月31日まで
償還等を可能とする特約の概要	
初回償還可能日及びその償還金額	2018年10月23日 120億円
償還特約の対象となる事由	5年経過
ステップ・アップ金利等に係る特約その他の償還等を行う蓋然性を高める特約の概要	契約時から5年を経過した後にステップ・アップ特約金利が付されております。

（注）適格旧非累積的永久優先株式及び適格旧資本調達手段については、経過措置期間に応じて自己資本の額への算入が制限されており、また適格旧資本調達手段については資本の額に基づいた一定の算入上限が設けられておりますが、各資本調達手段に係る「コア資本に係る基礎項目の額に算入された額」には、これらの算入制限を考慮する前の金額を記載しております。

2018年3月末の自己資本調達の概要は以下のとおりです。

発行主体	当行	当行
資本調達手段の種類	普通株式	第一回第二種優先株式
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額（連結）(注)	1,452億円	537億円
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額（単体）(注)	1,427億円	537億円
配当率又は利率	―	1株あたり7円50銭
償還期限の有無	無	無
その日付	―	―
償還等を可能とする特約の概要		
初回償還可能日及びその償還金額	―	当行は、2005年3月31日以降いつでも、本優先株式1株につき500円で本優先株式の全部又は一部を取得することができる。一部取得の場合は抽選その他の方法により行うことができる。
償還特約の対象となる事由	―	―
ステップ・アップ金利等に係る特約その他の償還等を行う蓋然性を高める特約の概要	―	―

発行主体	当行
資本調達手段の種類	劣後特約付借入金
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額（連結）(注)	200億円
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額（単体）(注)	200億円
配当率又は利率	―
償還期限の有無	有
その日付	2023年10月23日から2024年 3月31日まで
償還等を可能とする特約の概要	
初回償還可能日及びその償還金額	2018年10月23日 120億円
償還特約の対象となる事由	5年経過
ステップ・アップ金利等に係る特約その他の償還等を行う蓋然性を高める特約の概要	契約時から5年を経過した後にステップ・アップ特約金利が付されております。

（注）適格旧非累積的永久優先株式及び適格旧資本調達手段については、経過措置期間に応じて自己資本の額への算入が制限されており、また適格旧資本調達手段については資本の額に基づいた一定の算入上限が設けられておりますが、各資本調達手段に係る「コア資本に係る基礎項目の額に算入された額」には、これらの算入制限を考慮する前の金額を記載しております。

●以下の「3. 銀行の自己資本の充実度に関する評価方法の概要」から「10. 金利リスクに関する事項」までの開示内容については、2016年度、2017年度とも相違はありません。

3．銀行の自己資本の充実度に関する評価方法の概要

当行では、自己資本比率の管理に加えて、当行が銀行業務を行ううえで被る可能性のある各種のリスクを把握・管理することで、自己資本充実度の評価を行っております。

自己資本充実度を評価する主要な方法としては、「リスク資本配賦」による経営管理の枠組み構築を進めており、業務上抱える「信用リスク」「市場リスク」「オペレーショナル・リスク」等様々なリスクに係る最大損失額を計量化等により見積もり、リスクが全て発現した場合でも一定の自己資本比率を確保できるよう一定限度内にリスク量が収まっていることを定期的にモニタリングしております。

このほか、一定の金利ショックが起こった場合の影響額試算や、与信集中に係るストレステスト等も実施しております。

なお、連結グループについては、主として連結自己資本比率の管理を通じて自己資本の充実度の評価を行っております。

4．信用リスクに関する事項

(1) リスク管理の方針及び手続の概要

信用リスクとは、お取引先の経営状態の悪化などにより貸出金などの元本・利息が回収できなくなるリスクです。

当行では、信用リスクの適切な管理・運営を行うことにより経営の健全性の確保と収益力の向上に努める基本方針のもと、「信用リスク管理規程」等各種規程類を制定し、業務推進部門と信用リスク管理部門の分離による内部牽制機能の確保、「クレジットポリシー」に基づく厳正な審査と信用格付の付与、与信集中リスク管理のための貸出限度額の設定等による個別管理、自己査定や信用リスク量の計測とそれらの取締役会への報告等を実施しております。

また、貸倒引当金につきましては、予め定めている償却・引当基準に則り次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。

また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で非保全額又は与信額が一定金額以上の大口債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを貸出条件緩和実施前の約定利子率で割り引いた金額と債権の帳簿価額の差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）により計上しております。

上記以外の債権については、一定の種類ごとに分類し、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。

全ての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

連結子会社においても、同様に資産の自己査定を行い、必要な額を計上しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しております。

(2) リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関

当行及び連結子会社では、リスク・ウェイトの判定にあたり、内部管理との整合性を考慮し、次のとおりエクスポージャーの区分毎に適格格付機関によって付された外部格付を使用しております。

証券化エクスポージャー	日本格付研究所（JCR） 格付投資情報センター（R&I） ムーディーズ（Moody's） S&Pグローバル・レーティング
上記以外のエクスポージャー	日本格付研究所（JCR） 格付投資情報センター（R&I）

5．信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

信用リスク削減手法とは、当行及び連結子会社が抱える信用リスクを軽減するための措置であり、担保、保証、貸出金と預金の相殺、クレジット・デリバティブが該当いたします。

信用リスク削減手法の適用にあたっては、「事務規程集（融資業務編）」等の諸規程に基づき、経済情勢の変化や経営悪化等に備えて貸出金等を保全するための補完的な手段として、合理的な範囲での適切な取り扱いに努めております。

当行及び連結子会社が取り扱う担保、保証の主要な種類は次のとおりであり、それぞれ「事務規程集（融資業務編）」等の関連諸規程に基づき適切に事務管理を行うとともに最低年1回以上の定期的な評価替えを実施しております。

担保の種類	預金、有価証券、商品、商業手形、不動産等
保証の種類	一般保証、信用保証協会保証等

(注) クレジット・デリバティブについては取り扱い実績はありません。

自己資本比率告示に定められている信用リスク削減手法としては、上記の担保の種類のうち適格金融資産担保として自行預金と上場株式（債務者の連結対象会社の発行するものは除く。）を対象としております。また、保証としては上記の保証の種類のうち中央政府、地方公共団体、政府関係機関及び信用保証協会による保証をその対象として取り扱っており、信用度の評価については、政府保証と同等又はそれに準じた水準と評価しております。

また、貸出金については、自己資本比率告示第117条に基づいて、「銀行取引約定書」等に定める相殺要件を充足する貸出金と自行定期性預金の相殺効果を勘案しております。

このほか担保付で行う証券の貸借取引等のレポ形式の取引については、法的な有効性を個別取引毎に確認できたものについて相対ネッティング契約による信用リスク削減効果を勘案しております。

信用リスク削減手法の適用に伴う信用リスクは、同一業種に偏ることのないように努めております。

6．派生商品取引の取引相手のリスクに関するリスク管理方針及び手続の概要

派生商品取引（デリバティブ取引）に係る信用リスクについては、その他の与信とオン・バランス、オフ・バランス合算して管理するとともに、担保等の保全についても与信合計との対比で適切に保全措置を講じております。

貸倒引当金については、必要に応じて予め定めている償却・引当基準に則り引当しております。

対金融機関との派生商品取引において、ISDA Credit Support Annex（CSA）契約を締結する担保付取引については、当行の格付低下等の信用力低下によって追加的に取引相手に担保提供する義務が生じるものがあります。

なお、連結子会社において派生商品取引の取り扱いはありません。

7．証券化エクスポージャーに関する事項

(1) リスク管理の方針及びリスク特性の概要

証券化エクスポージャーに内在するリスクとしては、信用リスク、金利リスク等の市場リスク、流動性リスク等があります。

当行が投資家として保有する証券化エクスポージャーについては、証券化によるリスク移転の程度及びリスクの種類等を的確に把握し、経営体力と対比して過大なリスクテイクを行わない基本方針のもと、予め定めている基準に則り、スキームの特性や債務償還見通しを個別に検討・評価のうえ、投融資に係る限度枠等の範囲で取り扱う態勢としております。なお、当行は再証券化取引の取り扱いはありません。

また、当行がオリジネーターとなる証券化取引はありませんが、アレンジャー兼サービサーとして、お取引先が行う売掛債権等の証券化取引に関与しております。

(2) 体制の整備及びその運用状況の概要

当行が保有する証券化エクスポージャーについては、外部格付の利用に関する基準を定め、証券化エクスポージャーと裏付資産プールのリスク特性、裏付資産のパフォーマンスに係る情報及び証券化エクスポージャーのパフォーマンスに重大な影響を及ぼし得る構造上の特性等について、定期的にモニタリングし、リスク評価に反映させる体制を整備しております。

なお、信用リスク削減手法として用いている証券化取引はありません。

(3) 信用リスク・アセットの額の算出に使用する方式

当行が投資家として保有する証券化エクスポージャーについては、外部格付を使用して自己資本比率告示第249条に定めるリスク・ウェイトを適用しております。

また、当行がアレンジャー兼サービサーとしてお取引先の売掛債権等の証券化を行うにあたっては特別目的会社（SPC）等を用いており、当行は投資家として当該証券化エクスポージャーを保有し、オン・バランス取引として計上しております。

なお、当行が関与した証券化取引に係る証券化エクスポージャーの子法人等での保有はありません。

(4) 証券化取引に関する会計方針

当行が投資家として保有する証券化エクスポージャーについては、それぞれの金融資産について金融商品会計基準に基づいた会計処理を行っております。

(5) リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関

当行は、証券化エクスポージャーのリスク・ウェイトの判定にあたっては、適格格付機関である日本格付研究所（JCR）、格付投資情報センター（R&I）、ムーディーズ（Moody's）、S&Pグローバル・レーティングの4社の格付を使用しております。

8．オペレーショナル・リスクに関する事項

(1) リスク管理の方針及び手続の概要

当行及び連結子会社は、業務上抱える様々なリスクのうち、信用リスク、市場リスク及び流動性リスクを除く全てのリスクを総称してオペレーショナル・リスク（以下「オペリスク」という。）と定義し、オペリスクの顕在化を防ぐために、全ての部署でオペリスク管理水準の向上に取り組み、特に銀行の損益や業務に重大な影響が懸念されるオペリスクについては、損失の発生を回避又は軽減することを基本方針として管理態勢を整備しております。

オペリスクの管理にあたっては、「オペレーショナル・リスク管理規程」等の諸規程を制定し、オペリスクを以下のサブカテゴリーに区分したうえで、それぞれの所管部署を定め、営業部門から独立したこれらの所管部署が各リスク区分の管理を行うとともに、オペリスク全体を統括する部署が重層的な管理を行っております。さらに月次でオペリスクの把握・管理・制御について検討・協議を行ったうえで、オペリスクの状況を取締役会等へ定期的に報告することにより適切な措置がとられる体制としております。

≪オペリスクの区分≫

①システムリスク ②事務リスク ③法務リスク ④人的リスク	⑤有形資産リスク ⑥風評リスク ⑦その他のリスク

(2) オペレーショナル・リスク相当額の算出に使用する手法の名称

当行及び連結子会社は、粗利益配分手法によりオペレーショナル・リスク相当額を算出しております。

9．出資等エクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要

出資その他これに類するエクスポージャーについては、上場株式、非上場株式、子会社・関連会社株式等が対象となります。

このうち上場株式等は、債券と比べて価格ボラティリティーが高いため多額のリスク資本が必要となることに鑑み、当行では「市場リスク管理規程」等諸規程に基づいて、予め定めた投資方針並びに保有限度枠の範囲で厳格に運用しており、リスク管理部門が評価損益及びVaR（バリュー・アット・リスク）等のリスク量を日次で計測し経営陣へ報告する態勢としております。

また、株式等については、非上場株式も含め自己査定基準に則って定期的に自己査定を実施し、評価損が発生しているものについては回復可能性を判断のうえ、減損・引当処理を行っております。

なお、株式等の評価は、時価のある株式については決算期末前1カ月の市場価格の平均に基づく価格、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

株式等について、会計方針等を変更した場合は、財務諸表等規則第8条の3に基づき変更の理由や影響額について財務諸表の注記に記載することとしております。

また、連結子会社の保有する株式は限定的であり、簿価管理による体制のもと、上記に準じて減損・引当処理を行っております。

10. 金利リスクに関する事項

(1) リスク管理の方針及び手続の概要

金利リスクとは、市場金利の変動により資産・負債の経済価値が変動し将来の期間損益に影響を与えるリスクであり、当行では以下の基本方針を基に、「金利リスク管理規程」等の諸規程を定めております。

①ALM管理態勢のもとで、運用と調達の間に生ずる期間のミスマッチギャップを管理し、ヘッジが必要と判断される場合には、適切にコントロールする。

②リスクリミット・アラームポイントを含む各種限度の設定を実施し、リスク量のモニタリングをVaR（バリュー・アット・リスク）等により行い、定期的に報告する。

また、金利リスクを適切にコントロールするため金利リスク量に対する限度額を設定し、リスク管理部署が月次で金利リスク量を計測・モニタリングするとともにその結果をALM委員会や取締役会等に報告・協議し、必要な対応を講じる態勢としております。

(2) 内部管理上使用した金利リスクの算定方法の概要

当行の内部管理上の金利リスク管理は、銀行勘定で保有する全ての資産、負債及びオフ・バランス取引を対象としております。

金利リスクの管理にあたっては、月次でのVaR（バリュー・アット・リスク）、100BPV（ベーシス・ポイント・バリュー）の計測と、収益シミュレーション等の複数手法を併用しリスクを計量化することにより、経済価値と期間損益の双方の観点から金利リスクの状況を適切に把握するよう努めております。

また、流動性預金の金利リスク算定にあたり、コア預金内部モデルを用いております。貸出金、預金等の期限前返済（解約）については、考慮しておりません。

なお、連結グループの金利リスク管理については、連結子会社の金利リスクが限定的であることから、当行の金利リスク量を適切にコントロールすることにより連結グループの金利リスクを管理する体制としております。

【定量的な開示事項】（北海道銀行連結）

その他金融機関等（自己資本比率告示第29条第6項第1号に規定するその他金融機関等をいう。）であって銀行の子法人等であるもののうち、自己資本比率規制上の所要自己資本を下回った会社の名称、所要自己資本を下回った額の総額

該当ありません。

自己資本の充実度に関する事項

信用リスクに対する所要自己資本の額（所要自己資本の額＝リスク・アセット×4%）

（単位：百万円）

【資産（オン・バランス）項目】	2016年度末 所要自己資本の額	2017年度末 所要自己資本の額
1. 現金	－	－
2. 我が国の中央政府及び中央銀行向け	－	－
3. 外国の中央政府及び中央銀行向け	－	－
4. 国際決済銀行等向け	－	－
5. 我が国の地方公共団体向け	－	－
6. 外国の中央政府等以外の公共部門向け	－	－
7. 国際開発銀行向け	－	－
8. 地方公共団体金融機構向け	92	8
9. 我が国の政府関係機関向け	375	150
10. 地方三公社向け	0	0
11. 金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	952	677
12. 法人等向け	38,133	39,643
13. 中小企業等向け及び個人向け	22,571	25,108
14. 抵当権付住宅ローン	4,787	4,510
15. 不動産取得等事業向け	9,524	10,094
16. 三月以上延滞等	325	218
17. 取立未済手形	－	－
18. 信用保証協会等による保証付	507	474
19. 株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	－	－
20. 出資等	2,101	2,243
（うち出資等のエクスポージャー）	2,101	2,243
（うち重要な出資のエクスポージャー）	－	－
21. 上記以外	3,235	3,222
（うち他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通株式等に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー）	－	－
（うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー）	1,425	1,261
（うち上記以外のエクスポージャー）	1,809	1,961
22. 証券化（オリジネーターの場合）	－	－
（うち再証券化）	－	－
23. 証券化（オリジネーター以外の場合）	525	596
（うち再証券化）	－	－
24. 複数の資産を裏付とする資産（所謂ファンド）のうち、個々の資産の把握が困難な資産	1,553	597
25. 経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	57	25
26. 他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	－	－
資産（オン・バランス）計 (A)	84,744	87,571
【オフ・バランス取引項目】		
1. 任意の時期に無条件で取消可能又は自動的に取消可能なコミットメント	－	－
2. 原契約期間が1年以下のコミットメント	90	88
3. 短期の貿易関連偶発債務	2	1
4. 特定の取引に係る偶発債務	228	222
（うち経過措置を適用する元本補填信託契約）	－	－
5. NIF又はRUF	－	－
6. 原契約期間が1年超のコミットメント	564	567
7. 内部格付手法におけるコミットメント	－	－
8. 信用供与に直接的に代替する偶発債務	430	480
（うち借入金の保証）	430	480
（うち有価証券の保証）	－	－
（うち手形引受）	－	－
（うち経過措置を適用しない元本補填信託契約）	－	－
（うちクレジット・デリバティブのプロテクション提供）	－	－
9. 買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等（控除後）	－	－
買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等（控除前）	－	－
控除額（△）	－	－
10. 先物購入、先渡預金、部分払込株式又は部分払込債券	－	－
11. 有価証券の貸付、現金若しくは有価証券による担保の提供又は有価証券の買戻条件付売却若しくは売戻条件付購入	101	39
12. 派生商品取引及び長期決済期間取引	295	203
カレント・エクスポージャー方式	295	203
派生商品取引	295	203
外為関連取引	106	64
金利関連取引	189	138
金関連取引	－	－
株式関連取引	－	－
貴金属（金を除く）関連取引	－	－
その他のコモディティ関連取引	－	－
クレジット・デリバティブ取引（カウンター・パーティー・リスク）	－	－
一括清算ネッティング契約による与信相当額削減効果（△）	－	－
長期決済期間取引	－	－
標準方式	———	———
期待エクスポージャー方式	———	———
13. 未決済取引	－	－
14. 証券化エクスポージャーに係る適格流動性補完及び適格なサービサー・キャッシュ・アドバンス	－	－
15. 上記以外のオフ・バランスの証券化エクスポージャー	－	－
オフ・バランス取引 計 (B)	1,713	1,603
【CVA リスク相当額】（標準的リスク測定方式） (C)	**280**	**162**
【中央清算機関関連エクスポージャー】 (D)	**0**	**0**
合 計 (E) ＝ (A+B+C+D)	**86,738**	**89,338**

オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額

（単位：百万円）

	2016年度末 所要自己資本の額	2017年度末 所要自己資本の額
粗利益配分手法 (F)	**4,980**	**4,768**

連結総所要自己資本の額

（単位：百万円）

	2016年度末 所要自己資本の額	2017年度末 所要自己資本の額
連結総所要自己資本の額 (E+F)	**91,718**	**94,106**

信用リスクに関する事項

信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高

（単位：百万円）

	2016年度末				
	信用リスクエクスポージャー期末残高	貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引	債券	デリバティブ取引	三月以上延滞エクスポージャー
国内計	5,150,439	3,505,682	689,842	7,543	6,982
国外計	59,578	－	51,470	5,474	－
地域別合計	**5,210,018**	**3,505,682**	**741,313**	**13,017**	**6,982**
製造業	287,072	245,419	18,575	1,151	2,232
農業，林業	14,952	13,594	1,047	310	27
漁業	1,716	1,704	－	12	11
鉱業，採石業，砂利採取業	3,109	2,638	467	3	21
建設業	127,473	109,386	17,338	179	417
電気・ガス・熱供給・水道業	66,133	58,720	1,680	256	－
情報通信業	28,864	25,886	1,849	237	－
運輸業，郵便業	111,058	98,512	8,724	356	－
卸売業，小売業	345,246	306,099	32,247	1,084	60
金融業，保険業	1,062,886	318,806	84,383	666	16
不動産業，物品賃貸業	368,233	329,305	34,011	1,654	161
各種サービス業	267,149	239,534	21,891	1,678	294
地方公共団体等	1,156,845	687,925	467,628	－	－
個人	1,072,644	1,066,397	－	－	3,738
その他	296,631	1,751	51,470	5,426	－
業種別合計	**5,210,018**	**3,505,682**	**741,313**	**13,017**	**6,982**
1年以下	1,146,917	372,300	186,794	3,693	
1年超3年以下	470,763	276,590	183,010	2,876	
3年超5年以下	517,638	348,243	157,285	2,453	
5年超7年以下	362,123	315,869	43,562	1,947	
7年超10年以下	642,060	418,881	120,737	1,835	
10年超	1,340,970	1,289,634	49,921	211	
期間の定めのないもの	729,543	484,163	－	－	
残存期間別合計	**5,210,018**	**3,505,682**	**741,313**	**13,017**	

	2017年度末				
	信用リスクエクスポージャー期末残高	貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引	債券	デリバティブ取引	三月以上延滞エクスポージャー
国内計	5,164,367	3,596,539	477,226	5,320	5,389
国外計	48,524	－	41,627	3,768	－
地域別合計	**5,212,891**	**3,596,539**	**518,854**	**9,089**	**5,389**
製造業	299,511	248,504	21,442	714	333
農業，林業	18,874	16,308	2,413	150	114
漁業	1,476	1,366	100	9	7
鉱業，採石業，砂利採取業	2,918	2,447	470	－	19
建設業	129,060	107,591	20,531	128	289
電気・ガス・熱供給・水道業	76,228	69,131	1,680	166	－
情報通信業	31,078	28,084	2,003	184	2
運輸業，郵便業	110,057	96,140	10,021	267	40
卸売業，小売業	346,214	306,986	33,613	604	145
金融業，保険業	1,153,761	191,978	29,265	613	10
不動産業，物品賃貸業	373,595	344,482	24,789	1,272	424
各種サービス業	270,048	244,431	19,913	1,196	393
地方公共団体等	1,109,362	797,317	310,983	－	－
個人	1,146,428	1,140,051	－	－	3,608
その他	144,274	1,717	41,627	3,781	－
業種別合計	**5,212,891**	**3,596,539**	**518,854**	**9,089**	**5,389**
1年以下	1,442,680	504,811	67,509	3,206	
1年超3年以下	461,707	286,040	171,597	1,780	
3年超5年以下	486,966	368,593	115,968	1,505	
5年超7年以下	377,841	317,375	54,468	1,201	
7年超10年以下	417,233	351,079	59,381	1,372	
10年超	1,424,745	1,373,539	49,927	23	
期間の定めのないもの	601,717	395,099	－	－	
残存期間別合計	**5,212,891**	**3,596,539**	**518,854**	**9,089**	

（注）1. 国内／国外の区分はリスク所在地ベース、残存期間は最終期日ベース、オフ・バランス取引は与信相当額を記載しております。
2. 「その他」には業種別に分類することが困難なエクスポージャー及び非居住者向けのエクスポージャーを記載しております。
3. 「三月以上延滞エクスポージャー」には、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞しているエクスポージャー、又は引当金勘案前でリスク・ウェイトが150％であるエクスポージャーを記載しております。
4. 証券化エクスポージャー及び中央清算機関関連エクスポージャーを含みません。

一般貸倒引当金、個別貸倒引当金、特定海外債権引当勘定の期末残高及び期中増減額

（単位：百万円）

	2016年度				2017年度			
	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
一般貸倒引当金	8,470	6,945	8,470	6,945	6,945	6,263	6,945	6,263
個別貸倒引当金	23,674	23,395	23,674	23,395	23,395	19,983	23,395	19,983
特定海外債権引当勘定	－	－	－	－	－	－	－	－
合　計	**32,145**	**30,341**	**32,145**	**30,341**	**30,341**	**26,246**	**30,341**	**26,246**

個別貸倒引当金の業種別残高及び期中増減額

（単位：百万円）

	2016年度				2017年度			
	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
製造業	2,711	2,285	2,711	2,285	2,285	1,816	2,285	1,816
農業，林業	104	121	104	121	121	168	121	168
漁業	21	14	21	14	14	10	14	10
鉱業，採石業，砂利採取業	5	6	5	6	6	5	6	5
建設業	4,208	3,973	4,208	3,973	3,973	3,440	3,973	3,440
電気・ガス・熱供給・水道業	424	421	424	421	421	412	421	412
情報通信業	443	407	443	407	407	380	407	380
運輸業，郵便業	224	178	224	178	178	114	178	114
卸売業，小売業	2,826	3,187	2,826	3,187	3,187	2,938	3,187	2,938
金融業，保険業	89	39	89	39	39	24	39	24
不動産業，物品賃貸業	5,749	5,638	5,749	5,638	5,638	5,142	5,638	5,142
各種サービス業	5,831	6,329	5,831	6,329	6,329	4,876	6,329	4,876
地方公共団体等	－	－	－	－	－	－	－	－
個人	958	726	958	726	726	590	726	590
その他	75	65	75	65	65	63	65	63
業種別合計	**23,674**	**23,395**	**23,674**	**23,395**	**23,395**	**19,983**	**23,395**	**19,983**

（注）上記は全て国内向けエクスポージャーに対するものであります。

業種別の貸出金償却の額

（単位：百万円）

	2016年度	2017年度
	貸出金償却額	貸出金償却額
製造業	－	8
農業，林業	－	－
漁業	－	－
鉱業，採石業，砂利採取業	－	－
建設業	－	27
電気・ガス・熱供給・水道業	－	－
情報通信業	－	－
運輸業，郵便業	－	－
卸売業，小売業	－	3
金融業，保険業	－	－
不動産業，物品賃貸業	1	11
各種サービス業	－	－
地方公共団体等	－	－
個人	78	71
その他	－	－
業種別合計	**79**	**122**

リスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果を勘案した後の残高

（単位：百万円）

	2016年度末		2017年度末	
	エクスポージャーの額（注）		エクスポージャーの額（注）	
	格付あり	格付なし	格付あり	格付なし
0%	－	1,865,257	－	2,096,041
10%	－	182,763	－	166,083
20%	47,169	182,681	51,733	96,092
35%	－	341,980	－	322,188
50%	216,289	1,088	210,123	983
75%	－	755,646	－	839,717
100%	92,604	1,114,134	83,597	1,185,175
150%	2,000	3,152	－	3,297
250%	－	14,253	－	12,617
350%	－	－	－	－
1250%	－	－	－	－
合　計	**358,062**	**4,460,960**	**345,454**	**4,722,196**

（注）1．複数の資産を裏付とする資産（所謂ファンド）のうち、個々の資産の把握が困難な資産（2016年度末169,003百万円、2017年度末26,141百万円）は上記より除いております。
2．証券化エクスポージャー及び中央清算機関関連エクスポージャーを含みません。

信用リスク削減手法に関する事項

信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー

（単位：百万円）

	2016年度末	2017年度末
	信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー（効果が勘案された部分に限る）	信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー（効果が勘案された部分に限る）
現金及び自行預金	165,363	64,732
金	－	－
適格債券	－	－
適格株式	1,584	1,567
適格投資信託	－	－
適格金融資産担保合計	**166,947**	**66,299**
適格保証	166,497	156,383
適格クレジット・デリバティブ	－	－
適格保証、適格クレジット・デリバティブ合計	**166,497**	**156,383**

派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

（単位：百万円）

【派生商品取引】

1．派生商品取引の与信相当額算出に用いる方式

派生商品取引の与信相当額は、カレント・エクスポージャー方式（注）にて算出しております。

（注）カレント・エクスポージャー方式とは、デリバティブ取引の信用リスク計測手段の1つで、取引を時価評価することによって再構築コストを算出し、これに契約期間中に生じるであろう同コストの増加見込み額（ポテンシャル・エクスポージャー）を付加して算出する方法です。

2．派生商品取引のグロス再構築コストの額及び与信相当額

		2016年度末	2017年度末
グロス再構築コストの額（ゼロを下回らないものに限る）の合計額	(A)	6,854	5,397
グロスのアドオンの合計額	(B)	6,163	3,692
与信相当額（担保による信用リスク削減効果勘案前）	(C)	13,017	9,089
派生商品取引		13,017	9,089
外国為替関連取引		6,607	4,393
金利関連取引		6,410	4,696
株式関連取引		－	－
その他取引		－	－
クレジット・デリバティブ		－	－
(A) ＋ (B) － (C)		－	－
与信相当額（担保による信用リスク削減効果勘案後）		13,017	9,089

（注）原契約期間が5営業日以内の外国為替関連取引の与信相当額は除いております。

3．信用リスク削減手法に用いた担保の種類及び額

該当ありません。

4．与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの想定元本額

該当ありません。

5．信用リスク削減手法の効果を勘案するために用いるクレジット・デリバティブの想定元本額

該当ありません。

【長期決済期間取引】

該当ありません。

証券化エクスポージャーに関する事項

・連結グループがオリジネーターである場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャーに関する事項

該当ありません。

・連結グループが投資家である場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャーに関する事項

保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳　（単位：百万円）

	2016年度末	2017年度末
	エクスポージャーの額	エクスポージャーの額
住宅ローン債権	–	–
売掛債権	–	–
事業者向け貸出	–	–
不動産	1,664	887
その他	11,476	14,015
合　計	**13,141**	**14,902**

（注）オフ・バランス取引に該当する証券化エクスポージャー及び再証券化エクスポージャーについては該当ありません。

保有する証券化エクスポージャーの適切な数のリスク・ウェイトの区分ごとの残高及び所要自己資本の額　（単位：百万円）

リスク・ウェイト区分	2016年度末		2017年度末	
	残高	所要自己資本の額	残高	所要自己資本の額
20%	–	–	–	–
50%	–	–	–	–
100%	13,141	525	14,902	596
150%	–	–	–	–
1250%	–	–	–	–
計	**13,141**	**525**	**14,902**	**596**

（注）オフ・バランス取引に該当する証券化エクスポージャー及び再証券化エクスポージャーについては該当ありません。

自己資本比率告示第247条第1項の規定により1250%のリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳（単位：百万円）

該当ありません。

保有する再証券化エクスポージャーに対する信用リスク削減手法の適用の有無及び保証人ごと又は当該保証人に適用されるリスク・ウェイトの区分ごとの内訳（単位：百万円）

該当ありません。

出資等エクスポージャーに関する事項

出資等エクスポージャーの連結貸借対照表計上額等

（単位：百万円）

	2016年度末		2017年度末	
	連結貸借対照表計上額	時価	連結貸借対照表計上額	時価
上場している出資等エクスポージャー	78,298	78,298	79,001	79,001
上記に該当しない出資等エクスポージャー	7,155	7,155	7,292	7,292
計	**85,453**	**85,453**	**86,293**	**86,293**

出資等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

（単位：百万円）

	2016年度	2017年度
売却損益額	△398	2,315
償却額	31	12

連結貸借対照表で認識され、かつ、連結損益計算書で認識されない評価損益の額

（単位：百万円）

	2016年度末	2017年度末
評価損益の額	35,181	31,787

連結貸借対照表及び連結損益計算書で認識されない評価損益の額

（単位：百万円）

該当ありません。

金利リスクに関して連結グループが内部管理上使用した金利ショックに対する損益又は経済的価値の増減額

連結グループの金利リスク管理については、連結子会社の金利リスクが限定的であることから、北海道銀行の金利リスク量を適切にコントロールすることにより連結グループの金利リスクを管理する体制としております。

【報酬等に関する開示事項】

報酬等に関する事項については、定性的な事項について株式会社ほくほくフィナンシャルグループ及び株式会社北陸銀行と記載内容が重複することから、全て67ページにまとめて記載しております。

自己資本の充実の状況（単体）

当行は、銀行法施行規則（1982年大蔵省令第10号）第19条の2第1項第5号ニ等の規定に基づき、自己資本の充実の状況等について金融庁長官が別に定める事項（自己資本比率規制の第3の柱（市場規律））として、事業年度の開示事項を、以下のとおり、開示しております。

自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（2006年金融庁告示第19号。以下「自己資本比率告示」という。）に定められた算式に基づき、算出しております。

当行は、国内基準を適用のうえ信用リスク・アセットの算出においては標準的手法（注）を採用しております。また、オペレーショナル・リスク相当額の算出においては、粗利益配分手法を採用しております。

（注）標準的手法とは、あらかじめ監督当局が設定したリスク・ウェイトを使用して信用リスク・アセットを算出する手法のことです。

自己資本の構成及び自己資本比率（単体）

（単位：百万円）

項　目	2016年度末	経過措置による不算入額	2017年度末	経過措置による不算入額
コア資本に係る基礎項目				
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	137,048		142,728	
うち、資本金及び資本剰余金の額	56,603		56,603	
うち、利益剰余金の額	81,250		86,931	
うち、自己株式の額（△）	－		－	
うち、社外流出予定額（△）	805		805	
うち、上記以外に該当するものの額	－		－	
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	－		－	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	3,786		3,227	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	3,786		3,227	
うち、適格引当金コア資本算入額	－		－	
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	53,716		53,716	
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	20,000		20,000	
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	－		－	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	－		－	
コア資本に係る基礎項目の額　（イ）	214,550		219,672	
コア資本に係る調整項目				
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	1,417	945	2,540	635
うち、のれんに係るものの額	－	－	－	－
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	1,417	945	2,540	635
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	－	－	－	－
適格引当金不足額	－	－	－	－
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	－	－	－	－
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	－	－	－	－
前払年金費用の額	－	－	－	－
自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	－	－	－	－
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	－	－	－	－
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	－	－	－	－
特定項目に係る十パーセント基準超過額	23	15	－	－
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	－	－	－	－
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	－	－	－	－
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	23	15	－	－
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	－	－	－	－
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	－	－	－	－
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	－	－	－	－
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	－	－	－	－
コア資本に係る調整項目の額　（ロ）	1,441		2,540	
自己資本				
自己資本の額（（イ）－（ロ））　（ハ）	213,108		217,131	
リスク・アセット等				
信用リスク・アセットの額の合計額	2,161,662		2,224,825	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	961		635	
うち、無形固定資産（のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）	945		635	
うち、繰延税金資産	－		－	
うち、前払年金費用	－		－	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	－		－	
うち、上記以外に該当するものの額	15		－	
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	－		－	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	120,010		114,647	
信用リスク・アセット調整額	－		－	
オペレーショナル・リスク相当額調整額	－		－	
リスク・アセットの額の合計額　（ニ）	2,281,673		2,339,472	
自己資本比率				
自己資本比率（（ハ）／（ニ））	9.34%		9.28%	

定量的な開示事項（単体）

自己資本の充実度に関する事項

信用リスクに対する所要自己資本の額（所要自己資本の額＝リスク・アセット×4%）

（単位：百万円）

【資産（オン・バランス）項目】	2016年度末 所要自己資本の額	2017年度末 所要自己資本の額
1. 現金	－	－
2. 我が国の中央政府及び中央銀行向け	－	－
3. 外国の中央政府及び中央銀行向け	－	－
4. 国際決済銀行等向け	－	－
5. 我が国の地方公共団体向け	－	－
6. 外国の中央政府等以外の公共部門向け	－	－
7. 国際開発銀行向け	－	－
8. 地方公共団体金融機構向け	92	8
9. 我が国の政府関係機関向け	375	150
10. 地方三公社向け	0	0
11. 金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	951	676
12. 法人等向け	37,924	39,421
13. 中小企業等向け及び個人向け	22,571	25,108
14. 抵当権付住宅ローン	4,787	4,510
15. 不動産取得等事業向け	9,524	10,094
16. 三月以上延滞等	264	155
17. 取立未済手形	－	－
18. 信用保証協会等による保証付	507	474
19. 株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	－	－
20. 出資等	2,200	2,342
（うち出資等のエクスポージャー）	2,200	2,342
（うち重要な出資のエクスポージャー）	－	－
21. 上記以外	3,154	3,064
（うち他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通株式等に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー）	－	－
（うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー）	1,388	1,179
（うち上記以外のエクスポージャー）	1,765	1,885
22. 証券化（オリジネーターの場合）	－	－
（うち再証券化）	－	－
23. 証券化（オリジネーター以外の場合）	525	596
（うち再証券化）	－	－
24. 複数の資産を裏付とする資産（所謂ファンド）のうち、個々の資産の把握が困難な資産	1,553	597
25. 経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	38	25
26. 他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	－	－
資産（オン・バランス）計 (A)	84,472	87,226
【オフ・バランス取引項目】		
1. 任意の時期に無条件で取消可能又は自動的に取消可能なコミットメント	－	－
2. 原契約期間が1年以下のコミットメント	90	88
3. 短期の貿易関連偶発債務	2	1
4. 特定の取引に係る偶発債務	228	222
（うち経過措置を適用する元本補填信託契約）	－	－
5. NIF又はRUF	－	－
6. 原契約期間が1年超のコミットメント	564	567
7. 内部格付手法におけるコミットメント	－	－
8. 信用供与に直接的に代替する偶発債務	430	480
（うち借入金の保証）	430	480
（うち有価証券の保証）	－	－
（うち手形引受）	－	－
（うち経過措置を適用しない元本補填信託契約）	－	－
（うちクレジット・デリバティブのプロテクション提供）	－	－
9. 買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等（控除後）	－	－
買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等（控除前）	－	－
控除額（△）	－	－
10. 先物購入、先渡預金、部分払込株式又は部分払込債券	－	－
11. 有価証券の貸付、現金若しくは有価証券による担保の提供又は有価証券の買戻条件付売却若しくは売戻条件付購入	101	39
12. 派生商品取引及び長期決済期間取引	295	203
カレント・エクスポージャー方式	295	203
派生商品取引	295	203
外為関連取引	106	64
金利関連取引	189	138
金関連取引	－	－
株式関連取引	－	－
貴金属（金を除く）関連取引	－	－
その他のコモディティ関連取引	－	－
クレジット・デリバティブ取引（カウンター・パーティー・リスク）	－	－
一括清算ネッティング契約による与信相当額削減効果（△）	－	－
長期決済期間取引	－	－
標準方式	――	――
期待エクスポージャー方式	――	――
13. 未決済取引	－	
14. 証券化エクスポージャーに係る適格流動性補完及び適格なサービサー・キャッシュ・アドバンス	－	－
15. 上記以外のオフ・バランスの証券化エクスポージャー	－	－
オフ・バランス取引 計 (B)	1,713	1,603
【CVAリスク相当額】（標準的リスク測定方式） (C)	**280**	**162**
【中央清算機関関連エクスポージャー】 (D)	**0**	**0**
合 計 (E) ＝ (A+B+C+D)	**86,466**	**88,993**

オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額

（単位：百万円）

	2016年度末 所要自己資本の額	2017年度末 所要自己資本の額
粗利益配分手法 (F)	**4,800**	**4,585**

総所要自己資本の額

（単位：百万円）

	2016年度末 所要自己資本の額	2017年度末 所要自己資本の額
総所要自己資本の額 (E+F)	**91,266**	**93,578**

信用リスクに関する事項

信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高

（単位：百万円）

	2016年度末				
	信用リスクエクスポージャー期末残高	貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引	債券	デリバティブ取引	三月以上延滞エクスポージャー
国内計	5,137,844	3,503,730	683,836	7,543	5,256
国外計	59,578	－	51,470	5,474	－
地域別合計	**5,197,422**	**3,503,730**	**735,307**	**13,017**	**5,256**
製造業	287,068	245,419	18,575	1,151	2,232
農業，林業	14,952	13,594	1,047	310	27
漁業	1,716	1,704	－	12	11
鉱業，採石業，砂利採取業	3,109	2,638	467	3	21
建設業	127,473	109,386	17,338	179	417
電気・ガス・熱供給・水道業	66,133	58,720	1,680	256	－
情報通信業	28,864	25,886	1,849	237	－
運輸業，郵便業	111,058	98,512	8,724	356	－
卸売業，小売業	345,211	306,099	32,247	1,084	60
金融業，保険業	1,065,102	318,806	84,383	666	16
不動産業，物品賃貸業	368,233	329,305	34,011	1,654	161
各種サービス業	265,731	239,594	21,891	1,678	294
地方公共団体等	1,150,840	687,925	461,623	－	－
個人	1,065,620	1,064,385	－	－	2,013
その他	296,306	1,751	51,470	5,426	－
業種別合計	**5,197,422**	**3,503,730**	**735,307**	**13,017**	**5,256**
1年以下	1,144,031	372,358	185,794	3,693	
1年超3年以下	467,760	276,590	180,007	2,876	
3年超5年以下	517,139	348,243	156,786	2,453	
5年超7年以下	360,620	315,869	42,060	1,947	
7年超10年以下	642,060	418,881	120,737	1,835	
10年超	1,340,970	1,289,634	49,921	211	
期間の定めのないもの	724,839	482,152	－	－	
残存期間別合計	**5,197,422**	**3,503,730**	**735,307**	**13,017**	

	2017年度末				
	信用リスクエクスポージャー期末残高	貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引	債券	デリバティブ取引	三月以上延滞エクスポージャー
国内計	5,151,885	3,594,493	472,223	5,320	3,758
国外計	48,524	－	41,627	3,768	－
地域別合計	**5,200,410**	**3,594,493**	**513,851**	**9,089**	**3,758**
製造業	299,507	248,504	21,442	714	333
農業，林業	18,874	16,308	2,413	150	114
漁業	1,476	1,366	100	9	7
鉱業，採石業，砂利採取業	2,918	2,447	470	－	19
建設業	129,060	107,591	20,531	128	289
電気・ガス・熱供給・水道業	76,228	69,131	1,680	166	－
情報通信業	31,078	28,084	2,003	184	2
運輸業，郵便業	110,057	96,140	10,021	267	40
卸売業，小売業	346,179	306,986	33,613	604	145
金融業，保険業	1,156,099	191,978	29,265	613	10
不動産業，物品賃貸業	373,595	344,482	24,789	1,272	424
各種サービス業	268,230	244,256	19,913	1,196	393
地方公共団体等	1,104,358	797,317	305,979	－	－
個人	1,139,415	1,138,179	－	－	1,977
その他	143,328	1,717	41,627	3,781	－
業種別合計	**5,200,410**	**3,594,493**	**513,851**	**9,089**	**3,758**
1年以下	1,437,271	504,635	65,008	3,206	
1年超3年以下	460,707	286,040	170,598	1,780	
3年超5年以下	485,965	368,593	114,967	1,505	
5年超7年以下	377,339	317,375	53,967	1,201	
7年超10年以下	417,233	351,079	59,381	1,372	
10年超	1,424,745	1,373,539	49,927	23	
期間の定めのないもの	597,146	393,229	－	－	
残存期間別合計	**5,200,410**	**3,594,493**	**513,851**	**9,089**	

（注）1．国内／国外の区分はリスク所在地ベース、残存期間は最終期日ベース、オフ・バランス取引は与信相当額を記載しております。
2．「その他」には業種別に分類することが困難なエクスポージャー及び非居住者向けのエクスポージャーを記載しております。
3．「三月以上延滞エクスポージャー」には、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞しているエクスポージャー、又は引当金勘案前でリスク・ウェイトが150％であるエクスポージャーを記載しております。
4．証券化エクスポージャー及び中央清算機関関連エクスポージャーを含みません。

一般貸倒引当金、個別貸倒引当金、特定海外債権引当勘定の期末残高及び期中増減額

（単位：百万円）

	2016年度				2017年度			
	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
一般貸倒引当金	4,551	3,240	4,551	3,240	3,240	2,770	3,240	2,770
個別貸倒引当金	22,746	22,676	22,746	22,676	22,676	19,404	22,676	19,404
特定海外債権引当勘定	－	－	－	－	－	－	－	－
合　計	**27,298**	**25,916**	**27,298**	**25,916**	**25,916**	**22,175**	**25,916**	**22,175**

個別貸倒引当金の業種別残高及び期中増減額

（単位：百万円）

	2016年度				2017年度			
	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
製造業	2,711	2,285	2,711	2,285	2,285	1,816	2,285	1,816
農業，林業	104	121	104	121	121	168	121	168
漁業	21	14	21	14	14	10	14	10
鉱業，採石業，砂利採取業	5	6	5	6	6	5	6	5
建設業	4,208	3,973	4,208	3,973	3,973	3,440	3,973	3,440
電気・ガス・熱供給・水道業	424	421	424	421	421	412	421	412
情報通信業	443	407	443	407	407	380	407	380
運輸業，郵便業	224	178	224	178	178	114	178	114
卸売業，小売業	2,826	3,187	2,826	3,187	3,187	2,938	3,187	2,938
金融業，保険業	89	39	89	39	39	24	39	24
不動産業，物品賃貸業	5,749	5,638	5,749	5,638	5,638	5,142	5,638	5,142
各種サービス業	5,831	6,329	5,831	6,329	6,329	4,876	6,329	4,876
地方公共団体等	－	－	－	－	－	－	－	－
個人	34	11	34	11	11	16	11	16
その他	71	60	71	60	60	59	60	59
業種別合計	**22,746**	**22,676**	**22,746**	**22,676**	**22,676**	**19,404**	**22,676**	**19,404**

（注）上記は全て国内向けエクスポージャーに対するものであります。

業種別の貸出金償却の額

（単位：百万円）

	2016年度	2017年度
	貸出金償却額	貸出金償却額
製造業	－	8
農業，林業	－	－
漁業	－	－
鉱業，採石業，砂利採取業	－	－
建設業	－	27
電気・ガス・熱供給・水道業	－	－
情報通信業	－	－
運輸業，郵便業	－	－
卸売業，小売業	－	3
金融業，保険業	－	－
不動産業，物品賃貸業	1	11
各種サービス業	－	－
地方公共団体等	－	－
個人	－	－
その他	－	－
業種別合計	**1**	**50**

リスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果を勘案した後の残高

（単位：百万円）

	2016年度末		2017年度末	
	エクスポージャーの額（注）		エクスポージャーの額（注）	
	格付あり	格付なし	格付あり	格付なし
0%	－	1,859,251	－	2,091,037
10%	－	182,763	－	166,083
20%	47,169	182,512	51,733	96,045
35%	－	341,980	－	322,188
50%	216,289	1,088	210,123	983
75%	－	755,646	－	839,717
100%	92,604	1,109,809	83,597	1,180,202
150%	2,000	2,142	－	2,240
250%	－	13,888	－	11,794
350%	－	－	－	－
1250%	－	－	－	－
合　計	**358,062**	**4,449,084**	**345,454**	**4,710,293**

（注）1．複数の資産を裏付とする資産（所謂ファンド）のうち、個々の資産の把握が困難な資産（2016年度末169,003百万円、2017年度末26,141百万円）は上記より除いております。
2．証券化エクスポージャー及び中央清算機関関連エクスポージャーを含みません。

信用リスク削減手法に関する事項

信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー

（単位：百万円）

	2016年度末	2017年度末
	信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー（効果が勘案された部分に限る）	信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー（効果が勘案された部分に限る）
現金及び自行預金	165,363	64,732
金	－	－
適格債券	－	－
適格株式	1,584	1,567
適格投資信託	－	－
適格金融資産担保合計	**166,947**	**66,299**
適格保証	166,497	156,383
適格クレジット・デリバティブ	－	－
適格保証、適格クレジット・デリバティブ合計	**166,497**	**156,383**

派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

（単位：百万円）

【派生商品取引】

1．派生商品取引の与信相当額算出に用いる方式

派生商品取引の与信相当額は、カレント・エクスポージャー方式（注）にて算出しております。

（注）カレント・エクスポージャー方式とは、デリバティブ取引の信用リスク計測手段の1つで、取引を時価評価することによって再構築コストを算出し、これに契約期間中に生じるであろう同コストの増加見込み額（ポテンシャル・エクスポージャー）を付加して算出する方法です。

2．派生商品取引のグロス再構築コストの額及び与信相当額

		2016年度末	2017年度末
グロス再構築コストの額（ゼロを下回らないものに限る）の合計額	(A)	6,854	5,397
グロスのアドオンの合計額	(B)	6,163	3,692
与信相当額（担保による信用リスク削減効果勘案前）	(C)	13,017	9,089
派生商品取引		13,017	9,089
外国為替関連取引		6,607	4,393
金利関連取引		6,410	4,696
株式関連取引		－	－
その他取引		－	－
クレジット・デリバティブ		－	－
(A) ＋ (B) － (C)		－	－
与信相当額（担保による信用リスク削減効果勘案後）		13,017	9,089

（注）原契約期間が5営業日以内の外国為替関連取引の与信相当額は除いております。

3．信用リスク削減手法に用いた担保の種類及び額

該当ありません。

4．与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの想定元本額

該当ありません。

5．信用リスク削減手法の効果を勘案するために用いるクレジット・デリバティブの想定元本額

該当ありません。

【長期決済期間取引】

該当ありません。

証券化エクスポージャーに関する事項

・銀行がオリジネーターである場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャーに関する事項

該当ありません。

・銀行が投資家である場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャーに関する事項

保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳 （単位：百万円）

	2016年度末	2017年度末
	エクスポージャーの額	エクスポージャーの額
住宅ローン債権	–	–
売掛債権	–	–
事業者向け貸出	–	–
不動産	1,664	887
その他	11,476	14,015
合　計	**13,141**	**14,902**

（注）オフ・バランス取引に該当する証券化エクスポージャー及び再証券化エクスポージャーについては該当ありません。

保有する証券化エクスポージャーの適切な数のリスク・ウェイトの区分ごとの残高及び所要自己資本の額 （単位：百万円）

【オン・バランス】

リスク・ウェイト区分	2016年度末		2017年度末	
	残高	所要自己資本の額	残高	所要自己資本の額
20%	–	–	–	–
50%	–	–	–	–
100%	13,141	525	14,902	596
150%	–	–	–	–
1250%	–	–	–	–
計	**13,141**	**525**	**14,902**	**596**

（注）オフ・バランス取引に該当する証券化エクスポージャー及び再証券化エクスポージャーについては該当ありません。

自己資本比率告示第247条第1項の規定により1250%のリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳（単位：百万円）

該当ありません。

保有する再証券化エクスポージャーに対する信用リスク削減手法の適用の有無及び保証人ごと又は当該保証人に適用されるリスク・ウェイトの区分ごとの内訳（単位：百万円）

該当ありません。

出資等エクスポージャーに関する事項

出資等エクスポージャーの貸借対照表計上額等

（単位：百万円）

	2016年度末		2017年度末	
	貸借対照表計上額	時価	貸借対照表計上額	時価
上場している出資等エクスポージャー	78,131	78,131	77,659	77,659
上記に該当しない出資等エクスポージャー	9,669	9,669	9,807	9,807
計	**87,801**	**87,801**	**87,467**	**87,467**

出資等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

（単位：百万円）

	2016年度	2017年度
売却損益額	△398	2,315
償却額	31	12

貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額

（単位：百万円）

	2016年度末	2017年度末
評価損益の額	34,179	30,481

貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額

（単位：百万円）

該当ありません。

金利リスクに関して銀行が内部管理上使用した金利ショックに対する損益又は経済的価値の増減額

（単位：億円）

	2016年度末	2017年度末
金利ショックの定義	100BPV、VaRによる金利リスク量	100BPV、VaRによる金利リスク量
経済的価値の増減額	100BPV ……△333 VaR ……214	100BPV ……174 VaR ……109

（注）1. 「100BPV」は、当期末の金利リスクにつき、1%金利上昇ショックに対する経済的価値の増減額。
2. 「VaR」は信頼区間99%、保有期間6カ月、観測期間5年、計測手法はヒストリカル法。
3. 流動性預金の金利リスク算定にあたり、「コア預金内部モデル」を用いております。

【報酬等に関する開示事項】

報酬等に関する事項については、定性的な事項について株式会社ほくほくフィナンシャルグループ及び株式会社北陸銀行と記載内容が重複することから、全て67ページにまとめて記載しております。

資本の状況

株式会社ほくほくフィナンシャルグループ

1.発行済株式総数の状況（2018年3月末現在）

株式合計	239,595,014株
普通株式	132,163,014株
第1回第5種優先株式	107,432,000株

2.大株主の状況（2018年3月末現在）

（単位：千株、%）

株主名	持株数			持株比率（自己株式を除く。）
	普通株式	第1回第5種優先株式	計	
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	7,556	900	8,456	3.54
公益社団法人北海道栽培漁業振興公社	−	5,000	5,000	2.09
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	4,775	−	4,775	2.00
北海道旅客鉄道株式会社	−	4,420	4,420	1.85
明治安田生命保険相互会社	3,395	−	3,395	1.42
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口5）	2,508	−	2,508	1.05
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口4）	2,409	−	2,409	1.01
住友生命保険相互会社	2,360	−	2,360	0.98
北海道電力株式会社	281	2,000	2,281	0.95
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	693	1,540	2,233	0.93

（注）日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口、信託口4及び信託口5）及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）の所有株式は、当該銀行の信託業務に係るものであります。

3.普通株式所有者別状況（2018年3月末現在）

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）								単元未満株式の状況
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数（人）	15	62	42	3,239	243	5	24,051	27,657	
所有株式数（単元）	3,022	419,074	26,592	403,641	215,771	111	246,911	1,315,122	650,814株
割合（%）	0.23	31.87	2.02	30.69	16.41	0.01	18.77	100.00	

（注）1. 自己株式1,094,996株は「個人その他」に10,949単元、「単元未満株式の状況」に96株含まれております。
2. 「その他の法人」及び「単元未満株式の状況」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ56単元及び80株含まれております。

4.第1回第5種優先株式所有者別状況（2018年3月末現在）

区分	株式の状況（1単元の株式数1,000株）								単元未満株式の状況
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数（人）	10	5	−	1,080	1	−	384	1,480	
所有株式数（単元）	1,380	4,640	−	88,876	100	−	12,433	107,429	3,000株
割合（%）	1.29	4.32	−	82.73	0.09	−	11.57	100.00	

（注）自己株式2,160株は「個人その他」に2単元、「単元未満株式の状況」に160株含まれております。

株式会社北陸銀行

発行済株式総数の状況（2018年3月末現在）

株式合計	1,047,542,335株
普通株式	1,047,542,335株

なお、上記株式は株式会社ほくほくフィナンシャルグループが100%保有しております。

株式会社北海道銀行

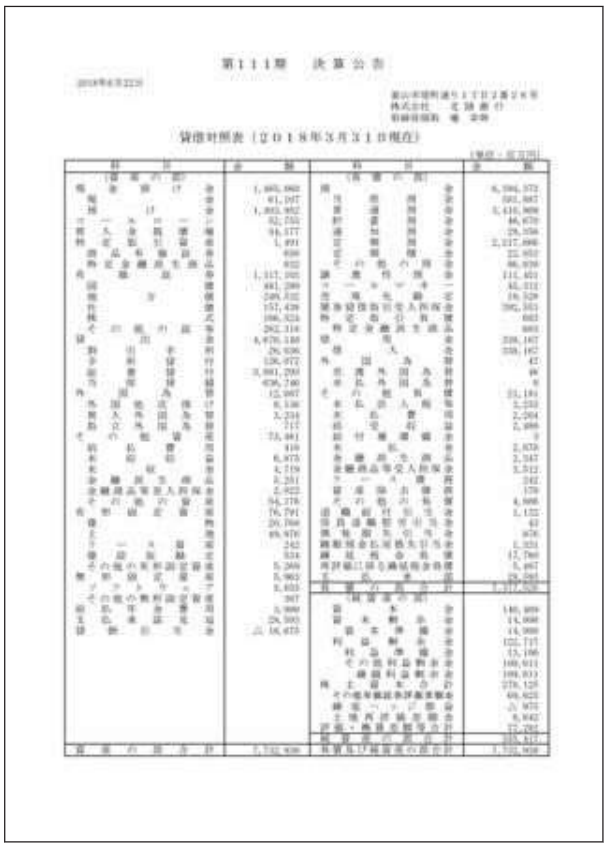
発行済株式総数の状況（2018年3月末現在）

株式合計	594,066,512株
普通株式	486,634,512株
第一回第二種優先株式	107,432,000株

なお、上記株式は株式会社ほくほくフィナンシャルグループが100%保有しております。

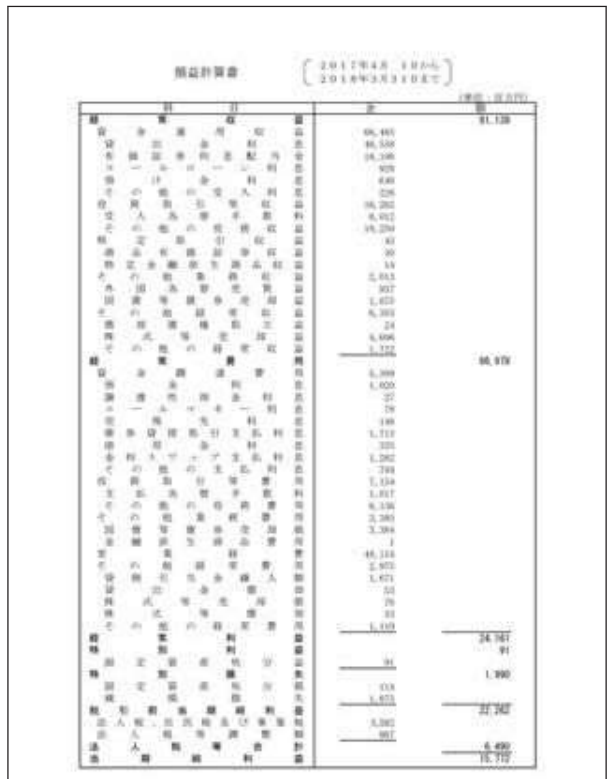
決算公告〔北陸銀行〕

※銀行法第20条に基づき、決算公告を下記ホームページに掲載しました。
http://www.hokugin.co.jp/



第１１１期　決算公告

貸借対照表（２０１８年３月３１日現在）



損益計算書





ックの特例処理を行っております。

ヘッジの有効性評価の方法については、当行のリスク管理手続きに則り、ヘッジ指定をしたヘッジ手段とヘッジ対象を一体管理するとともに、ヘッジ手段によってヘッジ対象の金利リスクの減殺されているかどうかを検証することで評価しております。

(2) 為替変動リスク・ヘッジ

外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第 25 号 2002 年 7 月 29 日) に規定する繰延ヘッジによっております。

ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金融資産等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金融資産等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

6. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税 (以下、「消費税等」という。) の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しております。

注記事項

(貸借対照表関係)

1. 関係会社の株式及び出資金総額 66 百万円

2. 貸出金のうち、破綻先債権額は 158 百万円、延滞債権額は 72,966 百万円であります。

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の回収について元本の全額が回収されないおそれがあるとして未収利息を計上しなかった貸出金 (貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。) のうち、法人税法施行令 (1965 年政令第 97 号) 第 96 条第 1 項第 3 号イからホまでに掲げる事由又は同項第 4 号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

3. 貸出金のうち、3 カ月以上延滞債権額は 30 百万円であります。

なお、3 カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から 3 カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

4. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は 21,858 百万円であります。

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利な取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び 3 カ月以上延滞債権に該当しないものであります。

5. 破綻先債権額、延滞債権額、3 カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は 95,980 百万円であります。なお、上記 2.、3.、4. に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

6. 手形割引は、「銀行業における金融商品の会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第 24 号 2002 年 2 月 13 日) に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は (再) 担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面総額は 56,291 百万円であります。

7. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

有価証券	398,182 百万円
貸出金	284,489 百万円

担保資産に対応する債務

預金	29,745 百万円
コールマネー	40,000 百万円
債券貸借取引受入担保金	282,501 百万円
借用金	317,201 百万円

上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、有価証券 4,481 百万円、その他の資産 (敷金) 46,508 百万円を差し入れております。

また、その他の資産には、保証金 1,939 百万円が含まれております。

8. 当座貸越等契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約とは、顧客からの融資実行の申し出を受け行う前に、契約上規定された条件に反していないことなどを確認した上で、一定の限度額まで貸出を実行することをあらかじめ約束する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、1,331,222 百万円であります。このうち原契約期間が 1 年以内のものの又は任意の時期に無条件で取消可能なものが 1,234,424 百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融環境の変化、債権の保全及び当行の信用力の維持のため、当行が実行申し込みを受けた融資の形態または期間、極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている当行手続に基づき顧客の資況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の諸措置等を講じております。

9. 土地の再評価に関する法律 (1998 年 3 月 31 日公布法律第 34 号) に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日　1998 年 3 月 31 日

同法律第 3 条第 3 項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令 (1998 年 3 月 31 日公布政令第 119 号) 第 2 条第 4 号に定める固定資産税評価額に基づき、奥行補正に規定する補正率等合理的な調整を行なった土地の価額 (路線価) を基準として算定しております。

同法律第 10 条に定める再評価を行った事業用の土地の当事業年度末における時価の合計額と当該事業用の土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額　16,300 百万円

10. 有形固定資産の減価償却累計額　82,362 百万円

11. 有形固定資産の圧縮記帳額　2,484 百万円

12. 個人会社には、他の関係よりも優先の順位の確定である旨の再評価が付された支店舗の付帯人全 20,966 百万円が含まれております。

13. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募 (金融商品取引法第 2 条第 3 項) による社債に対する当行の保証債務の額は 236,121 百万円であります。

14. 1 株当たり純資産額　339 円 29 銭

15. 関係会社に対する金銭債権総額　91,207 百万円

16. 関係会社に対する金銭債務総額　21,206 百万円

17. 銀行法第 18 条の定めにより剰余金の配当に制限を受けております。

剰余金の配当をする場合には、会社法第 445 条第 4 項 (資本金の額及び準備金の額) の規定にかかわらず、当該剰余金の配当により減少する剰余金の額に 1/10 を乗じて得た額を資本準備金及び利益準備金として計上しております。

当事業年度における当該剰余金の配当により計上される資本準備金及び利益準備金はありません。

18. 銀行法施行規則第 19 条の 2 第 1 項第 3 号ロ (2) に規定する純資産の部の合計額の 200 百万円未満の端数は、0 百万円であります。

(損益計算書関係)

1. 関係会社との取引による収益

資金運用取引に係る収益総額	161 百万円
役務取引等に係る収益総額	1 百万円
その他業務・その他経常取引に係る収益総額	3 百万円
関係会社との取引による費用	
資金調達取引に係る費用総額	98 百万円
その他業務・その他経常取引に係る費用総額	1,565 百万円

2. 以下の固定資産について減損損失を計上しております。

地域	主な用途		種類	減損損失 (百万円)
北陸三県	営業用店舗	11 ヵ所	土地及び建物	941
	遊休資産	11 ヵ所	土地	439
その他	営業用店舗	4 ヵ所	土地及び建物	601
	遊休資産	3 ヵ所	土地	32
合計	－	－		1,015

これらの営業用店舗等は、営業キャッシュ・フローが低下又は継続的な地価の下落により、投資フローが概ね継続的な収入獲得期間まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

当行は、営業用店舗については、キャッシュ・フローの発生額が主に基づき一定の地域区分に区分した営業用店舗ベースで主な収入である貸出金のグルーピングの単位としており、本部、コンピューターセンター、厚生施設等については、独立したキャッシュ・フローを生み出さないことから共用資産としております。なお、売却予定資産及び遊休資産については、資産単位でグルーピングしております。

なお、減損損失の測定に使用した回収可能価額は正味売却価額と使用価値のうち高い方としております。正味売却価額は、基準地価に一定の調整を加えた価額又は不動産鑑定士による不動産鑑定評価基準に基づき算定しております。使用価値は、将来キャッシュ・フローを 3.0%で割り引いて算定しております。

3. 1 株当たり当期純利益金額　11 円 06 銭

4. 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5. 関連当事者との取引

(役員及び個人主要株主等)

属性	会社等の名称	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円) (注) 1	科目	期末残高 (百万円)
当該会社の議決権の過半数を自己の計算において所有している会社等	ヤマト運輸株式会社 (注) 4	運送業	0.1	当行の顧客	貸出金の回収	10	貸出金等	0
	株式会社ヤマトクレジットサービス (注) 4	割賦販売業務等	0.0 (0.0)	当行の顧客	貸出金の回収	0	貸出金等	0
	ヤマト運輸株式会社 (注) 3	運送業	0.1	当行の顧客	貸出金の回収	10	貸出金等	0
役員の近親者	非公開 (注) 5	会社役員	0.0	当行の顧客	貸出金の回収	0	貸出金等	0

上記の取引は、一般の取引先と同様な条件で行っております。

(注) 1. 取引金額には消費税等は含まれておりません。

2. 当行取締役甲斐一良氏の近親者が、議決権の過半数を自己の計算において所有している会社であります。また、同人は代表取締役社長であります。

3. 当行取締役甲斐一良氏の近親者が、議決権の過半数を自己の計算において所有しております。また、同人は代表取締役社長であります。

4. 当行取締役甲斐一良氏の近親者が、議決権の過半数を自己の計算において所有しております。

5. 取引金額には消費税等が含まれております。

6. 貸出金の担保として、不動産を受け入れております。

(従業員等)

属性	会社等の名称	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員の近親者	元役員株式会社	飲食店経営	0.0	当行の顧客	貸出金の回収	1,140,000	－	－
					利息の受入	10,000	－	－
					担保設定	400	－	－

(注) 1. 元役員株式会社の株式は当行役員オーナーにおいて保証金を受け入れております。なお、保証金の利息は市場金利を勘案して決定しております。

2. 上記取引は、元役員、その近親者が議決権の過半数を所有する会社等であります。

3. 上記取引のうち、貸出金の回収及び利息の受入については、元役員オーナーの個人としての借入であり、元役員株式会社との取引ではありません。

4. 担保設定については、元役員株式会社の借入に対して設定しております。



（有価証券関係）

貸借対照表の「現金」「地方債」「社債」「株式」「その他の証券」のほか、「商品有価証券」「買入金銭債権」中の信託受益権が含まれております。

1．売買目的有価証券（2018年３月31日現在）

	当事業年度の損益に含まれた評価差額（百万円）
売買目的有価証券	△4

2．子会社・子法人等株式及び関連法人等株式（2018年３月31日現在）

	貸借対照表計上額（百万円）
子会社・子法人等株式	30
関連法人等株式	－
合　計	30

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

3．その他有価証券（2018年３月31日現在）

	種類	貸借対照表計上額（百万円）	取得原価（百万円）	差額（百万円）
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	230,459	151,220	79,238
	債券	925,561	894,459	35,102
	国債	691,299	670,356	20,942
	地方債	200,916	192,713	8,202
	社債	133,346	131,026	2,320
	その他	135,960	114,780	21,179
	外国証券	41,967	40,847	420
	その他	93,992	73,932	8,841
	小　計	1,491,980	1,301,210	190,769
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	16,275	22,521	△6,246
	債券	67,737	67,960	△2,191
	国債	－	－	－
	地方債	44,179	44,226	△46
	社債	23,579	23,722	△143
	その他	186,827	191,400	△4,573
	外国証券	114,971	126,960	△11,989
	その他	41,550	44,490	△2,941
	小　計	273,469	281,670	△8,200
合　計		1,765,511	1,582,880	182,632

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

	貸借対照表計上額（百万円）
非上場株式	18,729
非上場外国証券	0
合　計	18,729

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

なお、当事業年度において、非上場株式について51百万円減損処理を行っております。



4．当事業年度中に売却したその他有価証券（自 2017年４月１日　至 2018年３月31日）

	売却額（百万円）	売却益の合計額（百万円）	売却損の合計額（百万円）
株式	10,744	4,300	30
債券	5,554	23	－
地方債	5,153	23	－
社債	401	2	－
その他	208,281	1,147	5,494
外国証券	130,971	991	5,128
その他	66,396	265	229
合　計	242,580	5,482	5,524

5．減損処理を行った有価証券

当期首の有価証券12件の有価証券（時価を把握することが極めて困難なもの６銘柄）のうち、当該有価証券の時価の取得原価について著しく下落しており、時価の取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当事業年度の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。

当事業年度における減損処理額は、該当ありません。

また、「減損処理」は、基準日（決算日）において以下のような有価証券の場合に当該下落率に応じて減損処理しております。

破綻先、実質破綻先	株式は時価の取得原価に比べて下落、債券は時価の取得原価に比べ30%超下落
破綻懸念先、要注意先	時価が取得原価の30%以上下落、又は、時価の取得原価の30%超50%未満下落かつ時価総額に一定水準以下で個別判定
正常先	同上

なお、要注意先とは今後管理に注意を要する債務者であり、正常先とは、破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の債務者であります。

（税効果会計関係）

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は、それぞれ次のとおりであります。

繰延税金資産		
貸倒引当金損金算入限度超過額	13,186	百万円
減価償却費損金算入限度超過額	159	
退職給付引当金	4,436	
有価証券評価損否認額	15,474	
その他	4,199	
繰延税金資産小計	37,457	
評価性引当額	△25,991	
繰延税金資産合計	11,466	
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額	26,172	
合併に伴う土地	2,765	
その他	922	
繰延税金負債合計	29,860	
繰延税金資産の純額	△18,394	百万円



第１１１期　決算公告

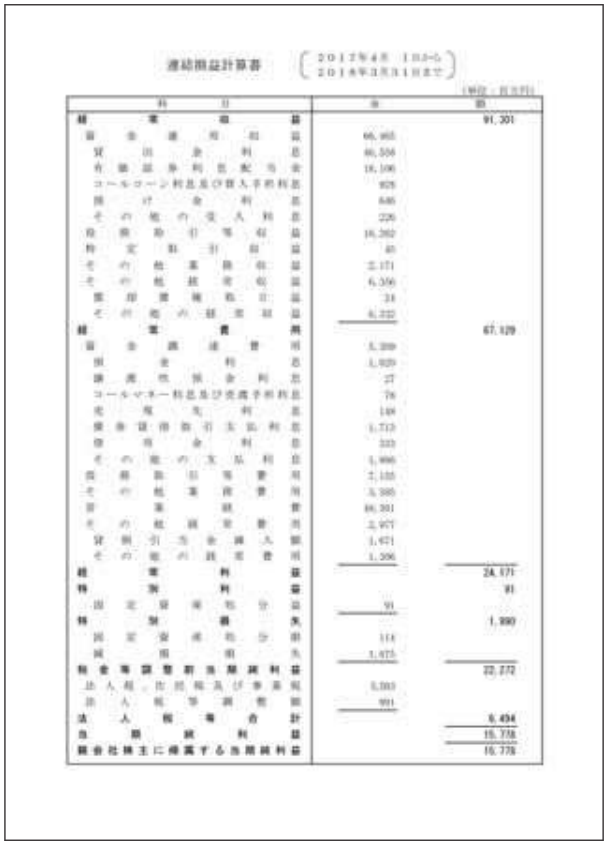
2018年６月22日

富山市堤町通り１丁目２番26号
株式会社　北陸銀行
取締役頭取　種　雅明

連結貸借対照表（２０１８年３月３１日現在）

（単位：百万円）

科　目	金　額	科　目	金　額
（資産の部）		（負債の部）	
現金預け金	1,665,960	預金	6,396,122
コールローン及び買入手形	32,733	譲渡性預金	111,411
買入金銭債権	14,177	コールマネー及び売渡手形	45,712
特定取引資産	1,491	売現先勘定	16,329
有価証券	1,312,161	債券貸借取引受入担保金	202,551
貸出金	4,670,149	特定取引負債	663
外国為替	12,067	借用金	336,167
その他資産	71,169	外国為替	12
有形固定資産	77,011	その他負債	21,191
建物	28,900	退職給付に係る負債	2,226
土地	50,038	役員退職慰労引当金	43
リース資産	243	睡眠預金払戻損失引当金	676
建設仮勘定	334	偶発損失引当金	1,331
その他の有形固定資産	1,292	繰延税金負債	18,427
無形固定資産	5,973	再評価に係る繰延税金負債	5,997
ソフトウェア	5,666	支払承諾	28,395
その他の無形固定資産	306	負債の部合計	7,227,154
退職給付に係る資産	995	（純資産の部）	
支払承諾見返	28,395	資本金	140,499
貸倒引当金	△16,475	資本剰余金	14,896
		利益剰余金	122,652
		株主資本合計	278,241
		その他有価証券評価差額金	66,625
		繰延ヘッジ損益	△ 975
		土地再評価差額金	5,442
		退職給付に係る調整累計額	△ 2,949
		その他の包括利益累計額合計	74,142
		純資産の部合計	352,383
資産の部合計	7,579,537	負債及び純資産の部合計	7,579,537



連結損益計算書　（２０１７年４月１日から２０１８年３月３１日まで）

（単位：百万円）

科　目	金　額	
経常収益		91,301
資金運用収益	66,465	
貸出金利息	46,556	
有価証券利息配当金	18,106	
コールローン利息及び買入手形利息	459	
預け金利息	646	
その他の受入利息	226	
役務取引等収益	16,262	
特定取引収益	40	
その他業務収益	2,171	
その他経常収益	6,356	
償却債権取立益	24	
その他の経常収益	6,332	
経常費用		67,129
資金調達費用	3,289	
預金利息	1,929	
譲渡性預金利息	27	
コールマネー利息及び売渡手形利息	76	
売現先利息	149	
債券貸借取引支払利息	1,713	
借用金利息	333	
その他の支払利息	1,060	
役務取引等費用	2,155	
その他業務費用	3,365	
営業経費	46,301	
その他経常費用	2,977	
貸倒引当金繰入額	1,471	
その他の経常費用	1,506	
経常利益		24,171
特別利益		91
固定資産処分益	91	
特別損失		1,990
固定資産処分損	514	
減損損失	1,475	
税金等調整前当期純利益		22,272
法人税、住民税及び事業税	5,393	
法人税等調整額	991	
法人税等合計		6,484
当期純利益		15,788
親会社株主に帰属する当期純利益		15,778

百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結財務諸表の作成方針

1．子会社、子会人等及び関連会人等の範囲に、銀行法第２条第８項及び銀行法施行令第４条の３に基づいております。

2．連結の範囲に関する事項

（１）連結される子会社及び子会人等　１社

会社名

北陸ビジネスサービス株式会社

（２）非連結の子会社及び子会人等　４社

非連結の子会社及び子会人等は、その資産、経常収益、当期純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、連結の範囲から除いても金融商品取引業等に関する内閣府令第15条第１項第２号ロに規定する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

3．持分法の適用に関する事項

（１）持分法適用の非連結の子会社及び子会人等　なし

（２）持分法適用の関連会人等　なし

（３）持分法非適用の非連結の子会社及び子会人等　４社

（４）持分法非適用の関連会人等　１社

持分法非適用の非連結の子会社及び子会人等又は関連会人等は、当期純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除いております。

4．連結される子会社及び子会人等の決算期末日に関する事項

連結される子会社及び子会人等の決算期末日は、連結決算日と一致しております。

会計方針に関する事項

1．特定取引勘定・投資の評価基準及び取扱い・費用の計上基準

金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る利潤の獲得を目的とする取引（以下「特定取引目的」という。）の取引については、取引が約定時点を基準とし、連結貸借対照表上（特定取引勘定）及び（特定取引収益）に計上するとともに、当該取引からの損益を連結損益計算書上（特定取引収益）及び（特定取引費用）に計上しております。

特定取引勘定及び特定取引負債の評価は、有価証券及び金融商品等については連結決算日の時価により、スワップ・先物・オプション取引等の派生商品については連結決算日において決済したものとみなした額により行っております。

また、特定取引の収益及び特定取引費用の商品利子には、当連結会計年度中の受取利息等に、有価証券及び金融商品等については連結会計年度末までに発生した利息相当額が、派生商品については連結会計年度末までに発生した利息相当額がそれぞれ含まれております。

2．有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、その保有区分ごとに次のとおりとしております。

満期保有目的の債券……償却原価法（定額法）

子会社株式及び関連会社株式……移動平均法による原価法

その他有価証券……時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）

なお、その他有価証券のうち、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、移動平均法による原価法により行っております。

3．デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引（特定取引目的の取引を除く）の評価は、時価法により行っております。

4．固定資産の減価償却の方法

（１）有形固定資産（リース資産を除く）

当行の有形固定資産は、動産については主に定率法、不動産については定額法を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建　物：　６年～50年

その他：　３年～20年

連結される子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定率法により償却しております。

（２）無形固定資産（リース資産を除く）

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結される子会社で定める利用可能期間（主として５年）に基づいて償却しております。

（３）リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産は、当行無形固定資産中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該保証額とし、それ以外のものは零としております。

5．貸倒引当金の計上基準

当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破綻先、実質破綻先等の信用格付の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下の(1)の算出に記載されている流動額額から減価額額額から、利用の処分可能見込額及び利益による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という。）に係る債権については、債権額から、利用の処分可能見込額及び利益による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で与信金額が一定金額以上の大口債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに関するキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを当初の条件緩和前の約定利子率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）により計上しております。

上記以外の債権については、一定の種類ごとに分類し、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する債権・保証付債権等については、債権額から担保や保証先の返済による回収が可能と認められる額を控除した残額を貸出金残高に対する比率で最低必要額として債権額から直接減額しており、その金額は30,310百万円であります。

6．役員退職慰労引当金の計上基準

役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払に備えるため、内規に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当連結会計年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

なお、当行の役員退職慰労金制度については、2012年３月31日開催の株主総会で廃止することを決定し、2012年４月１日以降の役員等の退職慰労金については、役員退職慰労金制度廃止に伴う退職慰労金の打ち切り支給の承認されております。これに伴い、当行の役員退職慰労引当金の繰入は2012年４月の繰入をもって停止し、既引当金については退職まで役員退職慰労引当金として計上しております。

7．債権売却引当金の計上基準

債権売却引当金は、売却への退職慰労金の支払に備えるため、内規に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当連結会計年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

なお、当行の役員退職慰労金制度については、2012年３月31日開催の株主総会で廃止することを決定し、2012年４月１日以降の役員等の退職慰労金については、役員退職慰労金制度廃止に伴う退職慰労金の打ち切り支給の承認されております。これに伴い、当行の役員退職慰労引当金の繰入は2012年４月の繰入をもって停止し、既引当金については退職まで役員退職慰労引当金として計上しております。

8．債権売却引当金の計上基準

債権売却引当金は、信用リスク管理手続きに則り、ヘッジ指定を行い、ヘッジ対象とヘッジ手段との一体管理をするとともに、ヘッジ手段によってヘッジ対象の金利リスクが減殺されているかどうかを検証することで評価しております。

(ⅲ) 為替変動リスク・ヘッジ

当行の外貨建金融資産・負債からなる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号　2002年７月29日）に規定する繰延ヘッジによっております。

ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金融資産等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金融資産等毎に主なヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

ハ　連結される子会社においては、デリバティブ取引によるヘッジを行っておりません。

11．消費税等の会計処理

当行及び連結される子会社の消費税及び地方消費税（以下、消費税等という。）の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当連結会計年度の費用に計上しております。

過去勤務費用：その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（８年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理

数理計算上の差異：各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（８年）による定額法により翌連結会計年度から費用処理

なお、連結される子会社は、退職給付に係る外貨及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る簡易の方法を適用しております。

10．外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

当行の外貨建資産・負債は、主として連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

11．重要なヘッジ会計の方法

(ⅰ) 金利リスク・ヘッジ

当行の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法として、一部の資産・負債について、ヘッジ対象とヘッジ手段を個別取引ごとに対応させる「個別ヘッジ」を適用し、繰延ヘッジによる処理を採用しております。

ヘッジ有効性評価の方法については、当行のリスク管理手続きに則り、ヘッジ指定を行い、ヘッジ対象とヘッジ手段との一体管理をするとともに、ヘッジ手段によってヘッジ対象の金利リスクが減殺されているかどうかを検証することで評価しております。

(ⅱ) 為替変動リスク・ヘッジ

当行の外貨建金融資産・負債からなる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号　2002年７月29日）に規定する繰延ヘッジによっております。

ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金融資産等の為替変動リスクを相殺又は回避する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金融資産等毎に主なヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

ハ　連結される子会社においては、デリバティブ取引によるヘッジを行っておりません。

12．消費税等の会計処理

当行及び連結される子会社の消費税及び地方消費税（以下、消費税等という。）の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当連結会計年度の費用に計上しております。

注記事項

（連結貸借対照表関係）

1．関係会社の株式及び出資金総額（連結子会社及び連結子会人等の株式及び出資金を除く）　41百万円

2．貸出金のうち、破綻先債権額は1,108百万円、延滞債権額は71,386百万円であります。

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延など所定の事由に該当している貸出金（債務償還年限の到来、利息支払期日の経過など相当の期間が経過しているにもかかわらず元本又は利息の支払を受けることができないことその他これらに準ずる事由が生じている貸出金（債務償還年限の到来、利息支払期日の経過など相当の期間が経過しているにもかかわらず元本又は利息の支払を受けることができないことその他これらに準ずる事由が生じている貸出金（以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（1965年政令第97号）第96条第１項第３号イからホまでに掲げる事由又は同項第４号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

なお、３カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から３カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

4．貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は16,808百万円であります。

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済繰下、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び３カ月以上延滞債権に該当しないものであります。

5．破綻先債権額、延滞債権額、３カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は96,084百万円であります。

なお、上記2．から5．に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

6．手形割引は、業種別監査委員会報告第24号に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は26,279百万円であります。

7．有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

有形固定資産

有価証券	396,182百万円
貸付金	204,649百万円
担保資産に対応する債務	
預金	30,740百万円
コールマネー	81,000百万円
債券貸借取引受入担保金	382,331百万円
借用金	317,231百万円

上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、有価証券6,946百万円、その他資産（預金）84,939百万円を差し入れております。

また、その他資産には、保証金1,366百万円が含まれております。

8．当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、予め上限まで約定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで貸金を提供することをあらかじめ約束するものであります。これらの契約に係る融資未実行残高は1,331,212百万円であります。このうち1年内に期限到来するものが1,321,212百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結される子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及び当行の信用力の維持のため、当行が実行申し込みを受けた融資の承諾又は契約条件の変更を行うことができる旨の条項がついております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に与信状況を確認し、顧客の信用悪化等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

9．土地の再評価に関する法律（1998年３月31日公布法律第34号）に基づき、当行の事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日　1998年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令（1998年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める固定資産税評価額に基づき、地価税法に規定する地価税の課税標準の計算基礎となる土地の価額（路線価）を基準として合理的な調整を行っております。

同法律第10条に定める再評価を行った事業用の土地の当連結会計年度末における時価の合計額と当該事業用の土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額　16,908百万円

10. 有形固定資産の減価償却累計額　　45,274百万円

11. 有形固定資産の圧縮記帳額　　2,982百万円

12. 担保権には、他の債務よりも優先の取引の保証金である旨の特約が付されたお客様預り預金2兆26,000百万円が含まれております。

13. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額は28,121百万円であります。

14. 1株当たりの純資産額　336円30銭

15. 銀行法施行規則第17条の5第1号ロに規定する連結自己資本比率（国内基準）は、8.90%であります。

（連結損益計算書関係）

1. 「その他の経常収益」には、株式等売却益6,906百万円を含んでおります。

2. 「その他の経常費用」には、株式等売却損19,412百万円、株式等償却33百万円を含んでおります。

3. 以下の資産について減損損失を計上しております。

地域	主な用途		種類	減損損失 （百万円）
北陸三県	営業用店舗	12ヵ所	土地及び建物	941
	遊休資産	11ヵ所	土地	619
その他	営業用店舗	4ヵ所	土地及び建物	803
	遊休資産	3ヵ所	土地	32
合計		—	—	1,451

これらの営業用店舗等は、営業キャッシュ・フローが低下見込額等の減損の十分な回収により、当社グループの経営戦略の中で機動的な売却を予定しており、当該帳簿価額を減額損失として特別損失に計上しております。

なお、営業用店舗については、キャッシュ・フローの算定単位に基づき一定の地域または区分した営業用店舗キャリアを基礎とする管理会計上の区分をグルーピングの単位としており、本店、システムセンター等、営業、賃貸、休止施設等については、独立したキャッシュ・フローを生み出さないことから共用資産としております。なお、当社子会社及び関連会社については、会社単位でグルーピングしております。また、連結される子会社については、会社を1つの単位としてグルーピングを行っております。

なお、減損損失の測定に使用した回収可能価額は主に使用価値により算定しており、将来キャッシュ・フローを3.5%で割り引いて算定しております。使用価値は、営業用の用途不動産については第三者から入手した鑑定評価額、それ以外については「不動産鑑定評価基準」等に基づき算定しております。使用価値は、将来キャッシュ・フローを3.5%で割り引いて算定しております。

4. 1株当たりの純会社株主に帰属する当期純利益金額　10円96銭

5. 潜在株式調整後1株当たり純会社株主に帰属する当期純利益金額は、潜在株式が存在しないためお記載しておりません。

6. 当期利益　16,902百万円

（金融商品関係）

1. 金融商品の状況に関する事項

（1）金融商品に対する取組方針

当行グループは、預金、貸出業務等の銀行業務を中心に様々な金融サービスを提供しております。

貸出につきましては、地域経済との共生を目指し、健全かつ適切な貸出運用を図ることなどに注意リスク管理の徹底に努めております。有価証券につきましては、リスク管理方針や限度等に基づいた適切な運用を行っております。

預金につきましては、預金パルラミーの金融サービスの拡充に努めることで流動性及び安定性預金などに安定的な調達を目指しております。借用金、社債は、中長期的な資金調達としております。

当行グループが保有する貸出金等の金融資産と預金等の金融負債は期間構造が異なるため、市場の金利変動等によりリスクに晒されていることから、資産及び負債の総合的管理（以下「ALM」という。）を行い、市場リスクを適切にコントロールして安定的な収益を確保できる運営に努めております。

（2）金融商品の内容及びそのリスク

当行グループが保有する金融資産は、主として国内での貸出先に対する貸出金、有価証券であります。貸出金につきましては、お取引先の経営状態の悪化などによって元金・利息が回収できなくなる信用リスクに晒されており、また、有価証券は、発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、適切なリスク管理を図るよう努めております。

金融負債である預金や譲渡性預金、コールマネー及び売渡手形は、市場環境の変化や当行の財務内容の悪化等により、運用より著しく高い金利による資金調達を余儀なくされるなどの流動性リスクに晒されております。

当行は金融スワップ・先物予約・通貨オプション取引等の金融関連デリバティブ取引や今後的活用、金利スワップ、金利キャップ取引等の金利関連デリバティブ取引を、当行自身のALM目的と、お取引先の多様なリスクヘッジニーズにこたえるため行っております。これらのデリバティブ取引には、金利変動リスク、為替変動リスク、価格変動リスク及び信用リスク等に晒されております。ただし、当行は厳格である金融資産・金融負債で著しくリスクに晒されるものや、特殊な変動形式の高い特殊なデリバティブ取引の取り扱いはありません。

なお、当行では一部の預金・有価をヘッジ対象として金利の変動リスクに対してヘッジ会計を適用しておりますが、ヘッジ会計の適用に際しては、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段を一体管理するとともに、ヘッジの有効性を評価しております。

（3）金融商品に係るリスク管理体制

当行グループでは、リスク管理部署を設置してリスク管理基本規程及びリスクに関する各種管理規程等を定め、ALM委員会や各種委員会を設置して、各種リスクの管理を行っております。

① 信用リスクの管理

当行グループでは、信用リスクの適切な管理・運営を行うことにより経営の健全性の確保と収益力の向上に努めることを基本方針のもと、「信用リスク管理規定」等を制定し、審査推進部門と信用リスク管理部門の分離による牽制機能の確保、「クレジット・ポリシー」に基づく厳正な審査と信用格付の付与、与信集中リスク管理のための与信限度ラインの設定等による適切管理、自己査定や信用リスク量の計測などに積極的に努めております。

貸出金については、個別案件毎に営業店の伺議に加え・審査センター、営業店長の権限を超える場合は本部の審査部門でも分析・審査を行っております。審査部門には業種・地域別に専門の担当者を配置し、お取引先の財務内容に応じて担保・保証の徴求方法・回収方針などを策定しております。

また、有価証券の発行体の信用リスク及びデリバティブ取引のカウンターパーティーリスクに関しては、リスク管理部署にて、信用情報や格付の状況を定期的に把握・管理しております。

② 市場リスクの管理

当行では、ALM委員会等を設置し、預貸金を含めた市場リスクを適切にコントロールして、安定的な収益を確保できる運営に努めております。

i 金利リスクの管理

「金利リスク管理規定」等の諸規定にリスク管理方法や分析手法の詳細を明記し、リスク管理部署が定期的に金融資産及び負債の金利や期間を総合的な把握し、ギャップ分析や金利感応度分析等により金利リスク量をモニタリングするとともに、その結果をALM委員会等に報告・協議し、必要な対策を講じる体制としております。また、金利リスクを適切にコントロールするために、金利リスク量に対する各種限度ラインを設定・管理し、ALM手続きから金利の変動リスクをヘッジするための金利スワップ及び金利キャップ等のデリバティブ取引を利用して金利リスクの軽減を図っております。

ii 為替リスクの管理

外貨建預金・貸出金による為替の変動リスクを管理し、通貨スワップ等を利用し、為替リスクの軽減を図っております。

iii 価格変動リスクの管理

有価証券を含む投資商品の保有にあたり、経営計画で定めた運用方針に基づき、取締役会や監督の下、リスク管理基本規程のもと関連諸規程に従い、事前審査、限度枠管理の設定のほか、継続的なモニタリングを通じて、価格変動リスクの軽減を図っております。当行保有している株式のうち、純資産を目的で保有しているものであり、お取引先の財務環境や財務状況などをモニタリングしております。また、有価証券については、リスク管理部署にてバリュー・アット・リスク（VaR）等を用いて有価証券の市場リスク量を把握し、限定で定めた各種ルールの遵守状況等の管理を行っており、これらの情報はリスク管理部署を通じ、取締役会等において定期的に報告されております。

iv デリバティブ取引

デリバティブ取引に関しては、取引の執行、ヘッジ有効性の評価、事務管理に関する部門をそれぞれ独立の機構を確立するとともに、管理セクションが取引の確認、日々のポジション・時価評価、損益状況、リスク量の計測を行い、一定の限度を超える損失が発生しないようにに管理しております。

v 市場リスクに係る定量的情報

（ア）トレーディング目的の金融商品

当社グループでは、「特定取引資産」のうちの売買目的有価証券、「デリバティブ取引」のうちトレーディング目的として保有している金融商品を主な時価帯ベース（主に期末日）で、ヒストリカル法（保有期間1日、信頼区間99%、観測期間1,250日）を採用しております。

2018年3月31日現在で当行のトレーディング業務の市場リスク量（VaR）は17百万円であります。

（イ）トレーディング目的以外の金融商品

当社グループにおいて、金利リスクの重要な影響を受けるとされる金融商品は、「買入金銭債権」、「有価証券」、「貸出金」、「預金」、「譲渡性預金」、「デリバティブ取引」のうちの金利スワップ取引、金利オプション取引、金利キャップ取引であります。また、価格変動リスクの重要な影響を受ける金融商品は「有価証券」及び「貸出金」であります。当行グループでは、これらの金融資産及び金融負債について、経営例のリスク許容限度であるVaRにより金利変動リスクや価格変動リスクを統一的に管理しております。

なお、VaRの算定にあたっては、ヒストリカル法（保有期間120日、信頼区間99%、観測期間1,250日）を採用し、金利と価格等の変動については共通の考慮しております。

2018年3月31日現在、トレーディング目的以外の金融商品におけるVaRは56,250百万円であります。

また、VaRを前提のデルタヘッジングを定期的に実施し、そのの妥当性を検証する管理としており、適切なリスクの把握に努めております。ただし、VaRは過去的に算出した一定の発生確率での市場リスク量を計測しており、通常では考えられないほどの市場変動が発生する状況におけるリスクは捕捉できない場合があります。

VaRは統計的な計測手法（期間1年（250営業日）、片側99%）ですが、金融商品を保有する期間に発生する最大値ではなく、特に金利リスクの影響を受けるとされる金融商品については、確定的なリスク評価として、自然とされる例えば10ベーシス・ポイント（0.10%）上昇を想定した場合金利感応度額（DELTA）（10ベーシス・ポイントパラレルシフトを想定しております。2018年3月31日現在、市況となる金利が0.10%上昇したものと想定した場合には、時価が46,750百万円減少するものと把握しております。当該影響額は、金利環境のみの変化する場合を想定しており、金利以外のリスク変数との相関を考慮しておりません。なお、金利が同様の大幅変動を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

③ 流動性リスクの管理

当行では、「流動性リスク管理規定」に基づいて、運用・調達の状況を不断に把握し、月次で資金繰り計画を策定するとともに、流動性と資金の効率な分析調整等を行うことにより、流動性リスク管理体制を整備しております。月次ベースでは、危機時に備えて日々の資金繰りを管理するとともに、流動性リスクの状況をALM委員会等で定期的に報告・管理する体制を整備しております。

（4）金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定にあたっては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2018年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません（注2）参照）。また、重要性の乏しいものは記載しておりません。

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金預け金	1,465,000	1,465,000	—
(2) コールローン及び買入手形	32,753	32,753	—
(3) 買入金銭債権	44,277	44,277	—
(4) 有価証券			
その他有価証券	1,300,333	1,300,333	—
(5) 貸出金	4,976,149		
貸倒引当金（※1）	▲35,014		
	4,941,134	4,984,190	53,110
資産計	7,314,300	7,346,555	53,110
(1) 預金	6,204,122	6,204,409	286
(2) 譲渡性預金	171,451	171,451	—
(3) 借用金（借用分定入利息金	392,351	392,351	—
(4) 社債	336,167	337,144	▲622
負債計	7,226,291	7,225,906	▲336
デリバティブ取引（※2）			
ヘッジ会計が適用されていないもの	316	316	—
ヘッジ会計が適用されているもの	2,196	2,196	（※3） —
デリバティブ取引計	2,513	2,513	—

（※1）貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

（※2）特定取引資産・負債及びヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引を一括して表示しております。デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる場合には（　）で表示しております。

（※3）金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている貸出金と一体として処理されているため、その時価は当該貸出金の時価に含めて記載しております。

（注1）金融商品の時価の算定方法

資産

（1）現金預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、預入期間が1年以内であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(2)コールローン及び買入手形

コールローン及び買入手形は、約定期間が短期間（1年以内）であり、時価と帳簿価額とは近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(3)買入金銭債権

買入金銭債権のうち、投資目的として買入した住宅ローン債権の信託受益権及び貸付債権の信託受益権については、取引金融機関から提示された価格を時価としております。また、資産流動化のために債権と、期間当たの発生利息リスクを加味した将来で割り引いた現在価値を算定しております。

(4)有価証券

株式は市場価格（上場投資信託の受益証券を含む。）又は日本証券業協会が公表する売買参考統計値の月中平均価格に基づいて算定された価格、債券は取引所の価格又は公表されている価格、これらがない場合には合理的な見積もりに基づいて算定された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格によっております。

当行保証付私募債は、内部格付、残存期間に基づく区分ごとに、市場金利に信用リスク等を加味した利率で割り引いた現在価値を算定しております。

(5)貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっている場合、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を市場金利に当用リスク等を加味した利率で割り引いて時価を算定しております。なお、約定期間が1年以内のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先における債権等については、担保保全やキャッシュ・フローの回収見込額等に基づいて時価を算定しているため、時価は直近の貸借対照表計上額から現在の貸倒引当金見込額を減算した金額に近似しており、当該金額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出金の将来キャッシュ・フローが、契約上の担保・保証等により、ほぼ確実に回収可能と見込まれる貸出金については、担保及び保証による回収見込額等に基づいて算定した金額を時価としております。

(6)有価証券及び金銭の信託

有価証券及び金銭の信託については、「有価証券関係」、「金銭の信託関係」をご参照ください。

(7)金融資産及び金融負債の時価の算定方法に関する事項

金融商品の時価の算定については、時価の算定に関するインプットの観察可能性及び重要性を勘案し、以下の3つのレベルに区分しております。

レベル1の時価：活発な市場における無調整の相場価格により測定される時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接に観察可能なインプットを用いて測定される時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを用いて測定される時価

複数のインプットを用いて時価を測定する場合には、各インプットの観察可能性及び重要性を勘案し、最も低いレベルに時価を分類しております。

(8)デリバティブ取引

デリバティブ取引は、金利関連取引（金利先物、金利オプション、金利スワップ等）、通貨関連取引（通貨先物、通貨オプション、通貨スワップ等）、債券関連取引（債券先物、債券先物オプション等）、株式関連取引（株価指数先物、株価指数オプション等）、商品関連取引（商品先物、商品オプション等）、クレジット・デリバティブ取引（クレジット・デフォルト・スワップ等）であり、取引所の価格、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定した価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「資産(3)買入金銭債権」及び「資産(4)その他有価証券」には含まれておりません。

（単位：百万円）

区　分	連結貸借対照表計上額
非上場株式（※1）（※2）	16,720
非上場外国証券（※1）	4
合　計	16,724

（※1）市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。

（※2）当連結会計年度において、非上場株式について13百万円減損処理を行っております。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

（単位：百万円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超7年以内	7年超10年以内	10年超
預け金	1,405,362	—	—	—	—
コールローン	52,752	—	—	—	—
買入金銭債権	1,140	864	1,469	—	36,440
有価証券					
その他有価証券のうち満期があるもの	336,360	672,254	255,301	94,269	150,453
貸出金（※）	1,402,898	992,890	641,923	370,929	1,164,917
合　計	3,198,513	1,665,999	898,693	465,198	1,351,810

（※）貸出金のうち、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めない7,145百万円、期間の定めのないもの42,338百万円は含めておりません。

(注4) 借用金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

（単位：百万円）

	1年以内	1年超3年以内	3年超5年以内	5年超7年以内	7年超
預金（※）	5,985,898	599,954	134,286	6,199	6,000
譲渡性預金	111,851	—	—	—	—
債券貸借取引受入担保金	342,321	—	—	—	—
借用金	6,998	186,012	142,407	20,429	—
合　計	6,447,069	785,967	276,693	26,628	6,000

（※）預金のうち、要求払預金については、「1年以内」に含めて開示しております。

(有価証券関係)

連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金及び「買入金銭債権」中の信託受益権が含まれております。

1．売買目的有価証券（2018年3月31日現在）

	当連結会計年度の損益に含まれた評価差額（百万円）
売買目的有価証券	119

2．その他有価証券（2018年3月31日現在）

	種類	連結貸借対照表計上額（百万円）	取得原価（百万円）	差額（百万円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	130,435	51,270	79,164
	債券	820,503	806,659	13,843
	国債	681,299	675,706	10,592
	地方債	105,304	102,711	2,592
	社債	123,899	120,939	2,959
	その他	220,009	116,290	3,719
	外国証券	81,982	80,457	458
	その他	78,980	76,192	1,493
	小　計	1,071,948	978,219	186,727
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	68,275	82,921	△13,295
	債券	97,757	97,968	△1,001
	国債	—	—	—
	地方債	84,139	85,228	△1,088
	社債	13,579	13,722	△143
	その他	186,427	191,006	△4,571
	外国証券	124,471	126,995	△2,499
	その他	61,955	64,000	△2,044
	小　計	352,460	371,896	△18,959
合　計		1,344,511	1,351,466	△6,955

3．当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自 2017年4月1日　至 2018年3月31日）

	売却額（百万円）	売却益の合計額（百万円）	売却損の合計額（百万円）
株式	10,734	4,308	90
債券	4,510	21	—
地方債	4,152	21	—
社債	361	2	—
その他	214,261	1,147	3,464
外国証券	155,921	961	3,128
その他	58,339	201	339
合　計	242,506	5,502	3,561

4．減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券（時価を把握することが極めて困難なものを除く）のうち、当該有価証券の時価の著しい下落について、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって連結貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当連結会計年度の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。

当連結会計年度における減損処理額は、該当ありません。

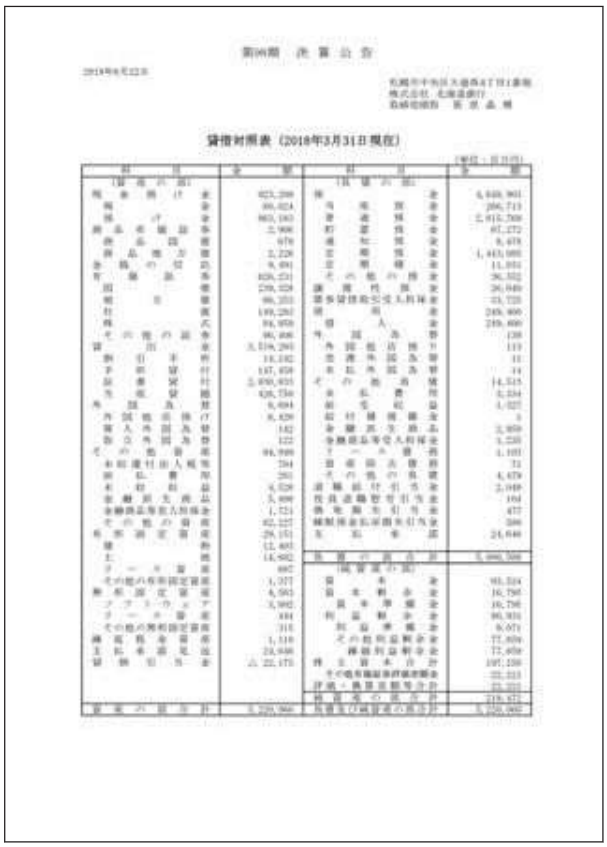
また、「減損処理」は、原則その決算日における有価証券の取得原価の区分ごとに次のとおりとしております。

破綻先、実質破綻先	株式以外時価が取得原価に比べ下落、要件に該当する株式は時価が取得原価に比べ50%超下落
破綻懸念先、要注意先	時価が取得原価に30%以上下落、又は、時価が取得原価に30%超50%未満下落かつ一定の基準に一定を満たす下落率等
正常先	

なお、要注意先とは今後管理に注意を要する債務者であり、正常先とは、破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の債務者であります。

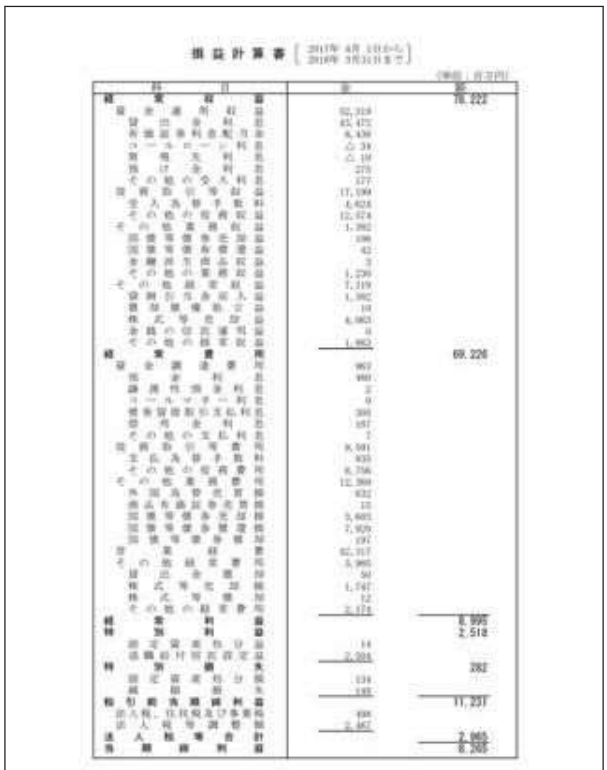
決算公告〔北海道銀行〕

※銀行法第20条に基づき、決算公告を下記ホームページに掲載しました。
http://www.hokkaidobank.co.jp/



第66期　決算公告

貸借対照表（2018年3月31日現在）



損益計算書





注記事項

（貸借対照表関係）

1. 関係会社の株式及び出資金総額（関会社株式を除く）　3,460百万円

2. 貸出金のうち、破綻先債権額は、80百万円、延滞債権額は31,015百万円であります。

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒処理を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（1965年政令第97号）第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として未収の利息を受け取る権利を放棄した貸出金以外の貸出金であります。

3. 貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は、172百万円であります。

なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

4. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は14,108百万円であります。

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる条件を付した貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。

5. 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は86,363百万円であります。

なお、上記2.から4.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

6. 手形割引は、業種別監査委員会報告第24号に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、割引先銀手形及び買入外国為替等は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は、16,394百万円であります。

7. 担保に関している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

有価証券	195,536百万円
貸出金	199,781百万円

担保資産に対応する債務

預金	2,335百万円
債券貸借取引受入担保金	33,326百万円
借用金	226,680百万円

上記のほか、為替決済等の担保の有価証券として有価証券14,226百万円、その他の資産（保証金）10,777百万円を差し入れております。

また、その他の負債には保証金4,632百万円含まれております。

8. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受け付ける際に、契約上規定された条件について違反がないことを確認した上で、一定の限度額まで貸出を受け付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、1,870,332百万円であります。このうち期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なものが1,807,301百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及び当行の信用力の維持のために、当行が実行申し込みを受け付け融資の承諾又は期間の短縮をすることができる旨の条項が付されております。また、契約時において必要に応じて不動産や有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている当行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

9. 有形固定資産の減価償却累計額　41,042百万円

10. 有形固定資産の圧縮記帳額　1,491百万円

11. 借入金には、他の債務より劣後的地位にある旨の特約が付された劣後特約付借入金20,000百万円が含まれております。

12. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の売買（金融商品取引法第2条第8項）による仕訳に対する当行の保証債務の額は18,616百万円であります。

13. 1株当たりの純資産額　126円96銭

14. 関係会社に対する金銭債権総額　366百万円

15. 関係会社に対する金銭債務総額　15,519百万円

16. 繰延税金資産の総額により評価性の高度な調整を行っております。

評価性の高度な調整により、当社は第66条第1項（国本会計）規則に関連が軽減の規定により、当該評価性の高度により繰延税金資産（3,047）を差引で当該評価性調整額として計上しております。

当事業年度における当該評価性の高度な評価調整額の合計額は、160百万円であります。

17. 繰延税金負債の算出に用いた税率は、当社：30.86%であります。

（損益計算書関係）

1. 関係会社との取引による収益

資金運用取引に係る収益総額	1,600百万円
役務取引等に係る収益総額	68百万円
その他業務・その他経常取引に係る収益総額	194百万円

関係会社との取引による費用

資金調達取引に係る費用総額	86百万円
役務取引等に係る費用総額	1,225百万円
その他業務・その他経常取引に係る費用総額	693百万円

2. その他の業務収益

貸付債権売却益1,299百万円を計上しております。

3. 1株当たりの当期純利益金額　11万97銭

4. 連結株式会社間等1株当たり当期純利益金額につきましては、連結株式会社が存在しないため記載しておりません。

5. 関連当事者との取引

（子会社等）

属性	会社等の名称	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（%）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）	科目	期末残高（百万円）
子会社	道銀カード株式会社	クレジットカード業務等	所有直接100.00	役員の兼任	預金利息（注）1.	1,745	—	—
					債務保証（注）2.	185,452	—	—
					資金貸付（注）1.	1,745	利息費用	0
					利息収受（注）1.	1,745	—	—
					保証料	—	—	—

（注）1. 道銀カード株式会社より当行の各種ローンに対して保証を受けております。なお、保証料は、各種ローン債務者からの直接保証会社に支払うため、一部のローンについては当行より支払っており、保証料の料率は住宅ローン等を勘案し、個別協議のうえ決定しております。

2. 上記債務保証に関連して、各種ローン債務者が債務を弁済し銀行が回収に至った場合には、道銀カード株式会社との契約に従い、同社から代位弁済を受けております。代位弁済の履行条件については、他の保証会社との事例等を参考にして、個別協議のうえ決定しております。

（有価証券関係）

貸借対照表の「国債」「地方債」「社債」「株式」「その他の証券」のうち、「商品国債」、「商品地方債」が含まれております。

1. 売買目的有価証券（2018年3月31日現在）

	当事業年度の損益に含まれた評価差額（百万円）
売買目的有価証券	△37

2. 満期保有目的の債券（2018年3月31日現在）

	種類	貸借対照表計上額（百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	国債	99,917	99,460	(456)
	社債	176,780	177,238	457
	小計	276,698	276,698	0
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	国債	—	—	—
	社債	21,810	21,803	(7)
	小計	21,810	21,803	(7)
合　計		298,508	298,502	(6)

3. 子会社・子会人等株式及び関連会人等株式（2018年3月31日現在）

	貸借対照表計上額（百万円）
子会社・子会人等株式	2,427
関連会人等株式	—
合　計	2,427

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

4. その他有価証券（2018年3月31日現在）

	種類	貸借対照表計上額（百万円）	取得原価（百万円）	差額（百万円）
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	34,469	32,486	1,983
	債券	225,214	222,699	2,515
	国債	174,310	170,465	3,844
	地方債	47,221	46,649	572
	社債	3,682	3,696	(14)
	その他	4,987	4,989	(2)
	外国証券	3,598	3,594	3
	その他	1,389	1,393	(4)
	小計	266,661	260,176	6,484
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	21,469	23,649	(2,179)
	債券	21,211	21,333	(122)
	国債	—	—	—
	地方債	19,002	19,109	(107)
	社債	2,209	2,223	(13)
	その他	61,849	64,139	(2,290)
	外国証券	36,975	39,102	(2,126)
	その他	24,873	25,037	(163)
	小計	103,529	108,922	(5,392)
合　計		370,190	369,099	1,091

（注）時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

	貸借対照表計上額（百万円）
非上場株式	4,774
非上場外国証券	0
合計	4,774

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

尚、当事業年度において、非上場株式については2百万円減損処理を行っております。

5. 当事業年度中に売却したその他有価証券（自 2017年4月1日　至 2018年3月31日）

	売却額（百万円）	売却益の合計額（百万円）	売却損の合計額（百万円）
株式	36,398	2,404	1,429
債券	39,944	1	147
国債	39,944	1	147
地方債	—	—	—
社債	—	—	—
その他	181,966	303	5,673
外国証券	130,979	104	5,403
その他	50,987	199	270
合　計	258,309	2,709	7,250

6. 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券（時価を把握することが極めて困難なもの（注）1.を除く。当該有価証券の時価の著しい下落について、時価の回復可能性が認められると認められないものについては、当該時価をもって貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当事業年度の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。

当事業年度における減損処理額は2億57百万円（うち社債1億57百万円）であります。

また、減損処理は、基準日の決算における有価証券の時価の状況に次のとおりとしております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先、要注意先	株式は時価の著しい下落、債券は時価の著しい下落（50%超下落）
正常先	株式は時価の著しい下落（50%以上下落、又は、時価が取得原価の30%超50%未満下落）かつ一定の基準に従い合理的に判断

なお、要注意先とは今後管理に注意を要する債務者であり、正常先とは、破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の債務者であります。

（金銭の信託関係）

1. 運用目的の金銭の信託（2018年3月31日現在）

	貸借対照表計上額（百万円）	当事業年度の損益に含まれた評価差額（百万円）
運用目的の金銭の信託	9,491	11

2. 満期保有目的の金銭の信託（2018年3月31日現在）

該当事項はありません。

3. その他の金銭の信託（運用目的及び満期保有目的以外）（2018年3月31日現在）

該当事項はありません。



（当事業年度）

1．繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は、それぞれ以下のとおりであります。

繰延税金資産

退職給付引当金損金算入限度超過額	8,399	百万円
退職給付引当金	3,439	
有価証券評価損否認額	457	
繰延税金資産小計	12,296	
評価性引当額	△2,305	
繰延税金資産合計	12,496	
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	9,301	
退職給付信託	1,364	
その他	329	
繰延税金負債合計	11,371	
繰延税金資産の純額	1,125	百万円



第106期　決算公告

2019年6月27日

札幌市中央区大通西4丁目1番地
株式会社 北海道銀行
取締役頭取　佐 野 晶 博

連結貸借対照表（２０１８年３月３１０現在）

（単位：百万円）

科目	金額	科目	金額
（資産の部）		（負債の部）	
現金預け金	903,534	預金	4,845,721
商品有価証券	2,906	譲渡性預金	28,046
金銭の信託	8,001	債券貸借取引受入担保金	34,725
有価証券	630,061	借用金	109,699
貸出金	3,520,979	外国為替	138
外国為替	8,009	その他負債	23,222
その他資産	102,335	退職給付に係る負債	3,567
有形固定資産	28,211	役員退職慰労引当金	113
建物	12,429	偶発損失引当金	477
土地	14,602	睡眠預金払戻損失引当金	666
リース資産	694	支払承諾	24,665
その他の有形固定資産	1,484	負債の部合計	5,087,443
無形固定資産	4,632	（純資産の部）	
ソフトウェア	3,849	資本金	93,524
リース資産	602	資本剰余金	16,795
その他の無形固定資産	219	利益剰余金	89,832
繰延税金資産	1,500	株主資本合計	199,751
支払承諾見返	24,665	その他有価証券評価差額金	23,139
貸倒引当金	△ 28,244	退職給付に係る調整累計額	△ 1,827
		その他の包括利益累計額合計	21,312
		純資産の部合計	221,064
資産の部合計	5,308,507	負債及び純資産の部合計	5,308,507

連結損益計算書（2017年 4月 1日から 2018年 3月31日まで）

（単位：百万円）

科目	金額	
経常収益		79,518
資金運用収益	51,404	
貸出金利息	43,529	
有価証券利息配当金	7,467	
コールローン利息及び買入手形利息	△ 34	
預け金利息	△ 10	
その他の受入利息	272	
役務取引等収益	19,250	
その他業務収益	1,768	
その他経常収益	7,094	
貸倒引当金戻入益	1,200	
償却債権取立益	11	
その他の経常収益	5,882	
経常費用		70,167
資金調達費用	964	
預金利息	440	
譲渡性預金利息	2	
コールマネー利息及び売渡手形利息	0	
売現先利息	360	
債券貸借取引支払利息	167	
借用金利息	0	
その他の支払利息	0	
役務取引等費用	9,415	
その他業務費用	12,531	
営業経費	44,139	
その他経常費用	3,114	
その他の経常費用	3,114	
経常利益		9,350
特別利益		2,518
固定資産処分益	13	
退職給付信託設定益	2,504	
特別損失		282
固定資産処分損	134	
減損損失	148	
税金等調整前当期純利益		11,586
法人税、住民税及び事業税	980	
法人税等調整額	2,181	
法人税等合計		3,264
当期純利益		8,321
親会社株主に帰属する当期純利益		8,321



金額金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結財務諸表の作成方針

1．子会社、子法人等及び関連法人等の定義は、銀行法第２条第８項及び銀行法施行令第４条の２に基づいております。

2．連結の範囲に関する事項

（1）連結される子会社及び子法人等　　３社

会社名

連銀ビジネスサービス株式会社

連銀カード株式会社

株式会社道銀地域総合研究所

（2）非連結の子会社及び子法人等　　２社

会社名

道銀ドバイ・ビジネス・センター

ロシア・ビジネス・センター

非連結の子会社及び子法人等は、その資産、経常収益、当期純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、連結の範囲から除いても企業集団の財務状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性がないため、連結の範囲から除外しております。

3．持分法の適用に関する事項

持分法非適用の非連結の子会社及び子法人等は、当期純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除いております。

4．連結される子会社及び子法人等の事業年度等に関する事項

連結される子会社及び子法人等の決算期が末日は、連結決算日と一致しております。

会計方針に関する事項

1．商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）により行っております。

2．有価証券の評価基準及び評価方法

（1）有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、その他有価証券のうち株式については決算日として連結決算期末前１カ月の市場価格の平均に基づく時価、それ以外については決算日として連結決算日における市場価格等に基づく時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

（2）金銭の信託において信託財産を構成している有価証券の評価は、上記１及び２（1）と同じ方法により行っております。

3．デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

4．固定資産の減価償却の方法

（1）有形固定資産（リース資産を除く）
当行の有形固定資産は、定率法（ただし、1998年4月1日以後に取得した建物（建物附属設備を除く。）並びに2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）を採用しております。
また、主な耐用年数は次のとおりであります。
建　物：6年～50年
その他：2年～20年
連結される子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定率法により償却しております。
（2）無形固定資産（リース資産を除く）
無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結される子会社で定める利用可能期間（主として5年）に基づいて償却しております。
（3）リース資産
所有権移転ファイナンス・リース取引
「有形固定資産」中のリース資産は主に（2）無形固定資産と同様に償却しております。
所有権移転外ファイナンス・リース取引
「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース期間が工作機械等の場合のみあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

3．貸倒引当金の計上基準
当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。
破産、特別清算等法的な経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は該当債権の発生はありません。今後破産、破綻に係る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という。）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。
破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で与信金額が5億円以上の大口債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを貸出条件緩和実施前の約定利子率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）により計上しております。
上記以外の債権については、一定の種類ごとに分類し、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。
すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署等が資産査定を実施し、当該営業から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。
連結される子会社においても同様に資産の自己査定を行い、必要な額を計上しております。
なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は3,512百万円であります。

4．役員退職慰労引当金の計上基準
役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払に備えるため、当社内規に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当連結会計年度末までに発生していると認められる額を計上しております。
なお、当行の役員退職慰労金制度については、2012年6月19日開催の株主総会で廃止することを決定し、2012年9月30日開催の定時株主総会にて、役員退職慰労金制度廃止に伴う退職慰労金の打ち切り支給が承認されております。

5．退職給付引当金の計上基準
当行の従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。
過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。
数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（主として10年）による定額法により翌連結会計年度から費用処理しております。
なお、連結される子会社の退職給付債務及び退職給付費用は、簡便法により計算しております。

6．睡眠預金払戻損失引当金の計上基準
睡眠預金払戻損失引当金は、将来の払戻しを予定した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り、必要と認める額を計上しております。

7．訴訟対応に係る引当金の計上の方法
訴訟対応費用の発生に備えるため、訴訟対応に係る将来見込額を当連結会計年度末までの期間に対応させる方法については、訴訟対応に係る将来見込額を訴訟対応費用として費用計上する方法を採用しております。

8．外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準
当行の外貨建資産・負債は、主として連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。
連結される子会社の外貨建資産・負債については、それぞれの決算日等の為替相場により換算しております。

9．重要なヘッジ会計の方法
（1）金利リスク・ヘッジ
当行の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 2002年2月13日、以下、「業種別監査委員会報告第24号」という。）に規定する繰延ヘッジによる会計処理、あるいは金利スワップの特例処理を行っております。ヘッジ有効性評価の方法については、同様実施を前提するヘッジについて、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の（残存）期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。また、キャッシュ・フローを固定するヘッジについては、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。
（2）為替変動リスク・ヘッジ
当行の外貨建金融資産・負債のうちでとりまとめ為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 2002年7月29日）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金融資産負債等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金融資産負債等に係るキャッシュ・フローの内容がヘッジ期間中において変動しないことを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。
（3）連結される子会社においては、デリバティブ取引によるヘッジを行っておりません。

10．消費税等の会計処理
当行及び連結される子会社の消費税及び地方消費税（以下、消費税等という。）の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当連結会計年度の費用に計上しております。

上記に伴い、当行の有価証券売却損益の繰入は2012年6月の繰入をもって停止し、期末残高については段階的な取崩しを実施しております。

7．偶発損失引当金の計上基準
偶発損失引当金は、将来発生の可能性がある偶発損失に備えるため、当行所定の計上基準により、将来発生する可能性のある負担金額を計上しております。

8．睡眠預金払戻損失引当金の計上基準
睡眠預金払戻損失引当金は、将来の払戻しを予定した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り、必要と認める額を計上しております。

9．退職給付に係る会計処理の方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。また、数理計算上の差異の費用処理方法は次のとおりであります。
数理計算上の差異：各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（主に10年）による定額法により翌連結会計年度から費用処理
なお、連結される子会社は、退職給付に係る将来見込額及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

10．外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準
当行の外貨建資産・負債は、主として連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。
連結される子会社の外貨建資産・負債については、それぞれの決算日等の為替相場により換算しております。

11．重要なヘッジ会計の方法
（1）金利リスク・ヘッジ
当行の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 2002年2月13日、以下、「業種別監査委員会報告第24号」という。）に規定する繰延ヘッジによる会計処理、あるいは金利スワップの特例処理を行っております。ヘッジ有効性評価の方法については、同様実施を前提するヘッジについて、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の（残存）期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。また、キャッシュ・フローを固定するヘッジについては、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。
（2）為替変動リスク・ヘッジ
当行の外貨建金融資産・負債のうちでとりまとめ為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 2002年7月29日）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金融資産負債等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金融資産負債等に係るキャッシュ・フローの内容がヘッジ期間中において変動しないことを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。
（3）連結される子会社においては、デリバティブ取引によるヘッジを行っておりません。

12．消費税等の会計処理
当行及び連結される子会社の消費税及び地方消費税（以下、消費税等という。）の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当連結会計年度の費用に計上しております。

注記事項
（連結貸借対照表関係）
1．関係会社の株式及び出資金総額（連結子会社及び連結子会社等の株式及び出資金を除く）
505百万円
2．貸出金のうち、破綻先債権額は1,329百万円、延滞債権額は8,502百万円であります。
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）であって、法人税法施行令（1965年政令第97号）第96条第1項第3号ロからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
3．貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は73百万円であります。
なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
4．貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は8,146百万円であります。
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。
5．破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は9,421,394百万円であります。
なお、上記2．から4．に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
6．手形割引は、業種別監査委員会報告第24号に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、割引先振手形及び買入外国為替等は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しております。その額面金額は8,384百万円であります。
7．担保に供している資産及びその内容であります。
担保に供している資産
有価証券　　195,536百万円
貸出金　　101,261百万円
担保資産に対応する債務
預金　　3,335百万円
債券貸借取引受入担保金　　31,720百万円
借用金　　226,406百万円
上記のほか、為替決済等の担保として、有価証券3,239百万円、その他資産（敷金）11,777百万円を差し入れております。
また、その他資産には、金融商品等差入担保金1,751百万円、保証金2,409百万円が含まれております。
8．当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約に規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は1,065,867百万円であります。これらは、多くの契約が期限切れ又は当行からの引き出し時に契約条件で融資可能かどうかの判断が行われることなく終了するものがあり、1,052,327百万円であります。
なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及び当行の信用力の維持のため、当行が実行に際して一定の条件を課すことができる旨の条項が付されております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に与信先の財務状況を調査し、必要に応じて契約の見直しや保全措置の変更等を行っております。
9．有形固定資産の減価償却累計額　　41,134百万円
10．有形固定資産の圧縮記帳額　　1,001百万円
11．信用金庫は、他の債務より劣後的地位にある旨の特約が付された永久劣後特約付借入金20,000百万円含まれております。
12．「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額は139,610百万円であります。
13．1株当たりの純資産額　　283円49銭
14．銀行法施行規則第17条の5第1項第3号の2に規定する連結自己資本比率（国内基準）　12.94%であります。

（連結損益計算書関係）
1．「その他の経常収益」には、株式等売却益4,083百万円を含んでおります。
2．「その他の経常費用」には、貸倒金償却122百万円、株式等売却損1,767百万円、株式等償却12百万円を含んでおります。
3．1株当たりの純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額　　15円36銭
4．潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
5．当期利益　　13,691百万円

（金融商品関係）
1．金融商品の状況に関する事項
（1）金融商品に対する取組方針
当行グループは、預金、貸出業務等の銀行業務を中心に様々な金融サービスを提供しております。
貸出につきましては、地域経済との密着を目指し、幅広い顧客の貸出運用を図るとともに、日常リスク管理の強化に努めております。有価証券につきましては、リスク管理方針・限度額に基づいた適切な運用を実施しております。預金につきましては、堅実かつ安定的な資金調達を図るべく、個人のお客さまへの金融サービスの充実に努めることで、流動性及び定期性預金ともに安定的な調達を目指しております。借用金は、中長期的な資金調達としております。
貸出金等の金融資産と、預金等の金融負債の期間構造に偏りがあるため、市場の金利変動等に伴うリスクに晒されていることから、資産及び負債の総合的管理（以下「ALM」という。）を行い、市場リスクを適切にコントロールして安定的な収益を確保できる運用に努めております。
（2）金融商品の内容及びそのリスク
当行グループが保有する金融資産には、主として国内の取引先に対する貸出金、有価証券であります。貸出金につきましては、お取引先の経営状態の悪化などにより元本・利息が回収できなくなる信用リスクに晒されており、有価証券は、発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されております。また、運用のミスマッチ以外にも流動性リスクに晒されております。
金融負債である預金や借用金は、市場環境の急変や当行グループの財務内容の悪化等により、通常より多くの資金を確保するために金利の上昇による資金調達を余儀なくされるなどの流動性リスクに晒されております。
当行の利用しているデリバティブ取引は、通貨関連では通貨スワップ・為替予約・通貨オプション取引、金利関連では、金利先渡・金利先物オプション・金利スワップ・金利オプション・キャップ取引、有価証券関連では、株価指数先物・株価指数オプション・債券先物・債券先物オプション・債券店頭オプション取引であります。お客様の多様なニーズに応えるためにおこなっているデリバティブ取引は、銀行として顧客間の取引であり一般的な行為であります。当行自身の収益のためにおこなっているデリバティブ取引は、金利・為替等のリスクヘッジを目的としております。また、短期的な売買差益を獲得する目的で行っているデリバティブ取引は、当行の定めるリスク管理基準に則り、設定

的な観点で取り組んでおります。これらのデリバティブ取引は、金利変動リスク、為替変動リスク、価格変動リスク及び信用リスク等に晒されております。

当行グループが保有する金融資産・金融負債で著しいリスクの高いもの、時価の定量的に乏しい特殊なデリバティブ取引の取り扱いはありません。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

当行では、リスク管理部署を設置して「リスク管理基本規則」及びリスクに関する各種管理規則を定め、ALM委員会や各種委員会を設置して、各種リスクの管理を行っております。

①信用リスクの管理

信用リスクの適切な管理・運営を行うことにより健全な資産内容の維持と収益力の向上に努める基本方針のもと、「信用リスク管理規則」等を機関規程等を制定し、審査業務部門と信用リスク管理部門の分離による内部牽制機能の確保、「クレジット・ポリシー」に基づく適正な審査と信用格付の付与、与信集中リスク回避のための与信限度額の設定等による厳格管理、自己査定や信用リスク量の計測とそれらの与信統合への報告等を実施しております。

具体的には、個別案件毎に営業店が申請に当初・審査を行い、営業店長の権限を超える場合は本部の審査部門でも分析・審査を行っております。審査部門には審議・協議役に専門の担当者を配置し、お取引先が特性に応じて、営業店への適切の設定・指導が行える体制を整備しております。

また、有価証券の発行体の信用リスク及びデリバティブ取引のカウンターパーティーリスクに関しては、リスク管理部署において、信用情報や格付状況を定期的に把握・管理しております。

②市場リスクの管理

ALM委員会を設置し、投資全体及び各種の市場リスクを適切にコントロールして、安定的な収益を確保できる運営に努めております。

ⅰ 金利リスクの管理

「金利リスク管理規則」等の諸規則にリスク管理方法や組織等の役割を明記し、リスク管理部署が定期的に金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握し、ギャップ分析や金利感応度分析等により金利リスク量をモニタリングするとともに、その結果を定期的に取締役会等に報告・協議し、必要な対策を講じる体制としております。また、金利リスクを適切にコントロールするために、金利リスク量に対する各種限度額を設定・管理し、ALM委員会から金利の変動リスクをヘッジするための金利スワップ及び金利オプション等のデリバティブ取引を利用して金利リスクの軽減を図っております。

ⅱ 為替リスクの管理

外貨建貸出・預金における為替の変動リスクを管理し、通貨スワップ等を利用し、為替リスクの軽減を図っております。

ⅲ 価格変動リスクの管理

有価証券を含む投資商品の保有にあたり、経営会議で定めた方針に基づき、取締役会の監督のもと、「リスク管理基本規則」から引き継権限内に30 ヒ事前審査、自己査定制の設定のほか、継続的なモニタリングを通じて、価格変動リスクの軽減を図っております。当行が保有している株式の多くは、投資株式当初で保有しているものであり、お取引先の市場環境や財務の状況などをモニタリングしております。これらの情報はリスク管理部署を通じ、取締役会及び経営会議において定期的に報告されております。

また、有価証券については、リスク管理部署においてバリュー・アット・リスク (VaR) 等を用いて有価証券の市場リスク量を把握し、限度で定めた各種ルールの遵守状況等の管理を行っております。

ⅳ デリバティブ取引

デリバティブ取引に関しては、取引の執行、事務管理に関する部門をそれぞれ分離し内部牽制を確立するとともに、管理セクションが取引の確認、ロイドのオプションの時価評価、損益状況、リスク量の計測を行い、一定の限度を超える損失が発生しないように管理しております。

ⅴ 市場リスクに係る定量的情報

(ア) トレーディング目的の金融商品

トレーディング目的の金融商品はありません。

(イ) トレーディング目的以外の金融商品

当行において、金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「貸出金」「債券」「預金」「借用金」「デリバティブ取引」のうちの金利スワップ取引、金利スワップション取引、金利キャップ取引であります。また、価格変動リスクの影響を受ける主たる金融商品は「上場株式」及び「投資信託」であります。当行では、これらの金融資産及び負債全体について、統計的なリスク計測手法であるVaRにより金利変動リスクや価格変動リスクを統一的に管理しております。

なお、VaRの算定にあたっては、ヒストリカル法（保有期間250日、信頼区間99%、観測期間1,250日）を採用し、金利と株価等の変動における相関を考慮しております。ただし、株式有価証券運用（日本銀行勘定期間等）および投資者協証券業務として行う特定金外信託運用におけるVaRは、保有期間を10日と定めそれぞれ個別に算定しており、特定金外信託運用におけるVaRと金利と株価等の相関における相関を考慮しております。

2019年3月31日現在、トレーディング目的以外の金融商品におけるVaRは、43,015百万円であり、純金利資産残高VaR22,672百万円、特定金外信託VaR20,343百万円であります。

また、VaR算出モデルのバックテスティングを定期的に実施し、モデルの妥当性を検証する体制としており、過去1年リスク把握に問題ないであります。ただし、VaRは統計的に算出した一定の発生確率での市場リスク量を計測しており、通常では考えられない大幅な市場変動が発生する状況においてリスクは捕捉できない場合があります。

VaRは統計的な手法を用 (99%) ハリて、金融商品を保有する期間に当たする最大損失額ですが、特に金利リスクの影響を受けるまたる金融商品については、補足的なリスク測度として、前提となる金利が100ベーシス・ポイント (1.00%) 上昇を想定した基準日時の時価変動額（BPV値：100ベーシス・ポイントバリュー）を算出しております。2019年3月31日現在、期間が5年超かつ1.00%上昇したものと想定した場合には、時価が21,415百万円減少するものと把握しております。当該影響額は、金利環境のみが変化する場合を想定しており、金利以外のリスクと変動との相関を考慮しておりません。なお、金利が小幅的なり想定変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

③流動性リスクの管理

「流動性リスク管理規則」に基づいて、適切・調達の状況を把握に把握し、円滑な資金繰りに支障を来さないよう、日頃から資金化の容易な支払準備資産を十分に確保するとともに、流動性リスク管理規則等を制定し、日々チェックしております。

また、万一危機が発生した場合は、危機の段階に応じた対応が取れるように、流動性リスクが社内を4つ各段階等で定期的に把握・管理する体制を整備しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2019年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません（(注)2）参照）。また、重要性が乏しい科目は記載しておりません。

	連結貸借対照表計上額（百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金預け金	901,204	901,204	-
(2) 有価証券			
満期保有目的の債券	201,232	210,007	11,794
その他有価証券	422,461	422,461	-
(3) 貸出金	3,526,959		
貸倒引当金 (※1)	(7,251)		
	3,485,728	3,530,800	44,992
資産計	5,161,207	5,180,144	56,937
(1) 預金	4,646,723	4,646,788	65
(2) 譲渡性預金	26,940	26,940	-
(3) 債券貸借取引受入担保金	33,735	33,735	-
(4) 借用金	246,469	246,455	△13
負債計	4,954,867	4,954,919	△52
デリバティブ取引(※2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	2,149	2,149	-
ヘッジ会計が適用されているもの	-	-	-
デリバティブ取引計	2,149	2,149	-

(※1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(※2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、預入期間に基づく区分ごとに、市場金利と信用リスク等を加味した利率で割り引いた現在価値を算定しております。なお、預入期間が1年以内のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(2) 有価証券

株式は取引所の価格又は日本証券業協会が公表する売買参考統計値、債券は取引所の価格又は公表されている価格、これらがない場合には合理的な見積りに基づいて算定された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価額によっております。

自行保証付私募債は、内部格付、残存期間に基づく区分ごとに、市場金利に信用リスク等を加味した利率で割り引いた現在価値を算定しております。

なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については「有価証券関係」に記載しております。

(3) 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を市場金利に信用リスク等を加味した利率で割り引いて時価を算定しております。なお、約定期間が1年以内のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、担保処分やキャッシュ・フローの見込額又は財務及び保証による回収可能見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結貸借対照表上の債権等引き上額から現時点で見込まれる額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

割引金のうち、当該割引金利等環境の範囲内に収まるリスク利率により、記載期間を設定しているものについては、元利金込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。

負債

(1) 預金及び (2) 譲渡性預金

要求払預金については、連結決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしております。また、定期預金及び譲渡性預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、時価のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、預入期間が1年以内のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(3) 債券貸借取引受入担保金

債券貸借取引受入担保金については、約定期間が1年以内であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(4) 借用金

借用金のうち変動金利によるものは、短期間での市場金利を反映し、また、当行及び連結される子会社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借用金の元利金の合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しております。なお、約定期間が1年以内のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引は、金利関連取引（金利先物、金利オプション、金利スワップ等）、通貨関連取引（通貨先物、通貨オプション、通貨スワップ等）、債券関連取引（債券先物、債券先物オプション等）であり、取引所の価格、割引現在価値等やオプション価格計算モデル等により算出した価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報には「資産 (2) その他有価証券」には含まれておりません。

区分	連結貸借対照表計上額（百万円）
非上場株式 (※1)・(※2)	4,793
非上場外国証券 (※1)	4
合計	4,797

(※1) 市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。

(※2) 当連結会計年度において、非上場株式について12百万円減損処理を行っております。







開示項目一覧

開示項目一覧

（ページ）

銀行法施行規則第34条の26

	ほくほくフィナンシャルグループ
銀行持株会社の概況及び組織に関する事項	
1. 経営の組織（銀行持株会社の子会社等の経営管理に係る体制を含む。）	19～20,27
2. 資本金及び発行済株式の総数	27
3. 持株数の多い順に10以上の株主に関する次に掲げる事項	
（1）氏名	147
（2）各株主の持株数	147
（3）発行済株式の総数に占める各株主の持株数の割合	147
4. 取締役の氏名及び役職名	28
5. 会計監査人の氏名又は名称	28
銀行持株会社及びその子会社等の概況に関する事項	
1. 銀行持株会社及びその子会社等の主要な事業の内容及び組織の構成	33
2. 銀行持株会社の子会社等に関する次に掲げる事項	
（1）名称	27,33
（2）主たる営業所又は事務所の所在地	33
（3）資本金又は出資金	33
（4）事業の内容	33
（5）設立年月日	33
（6）銀行持株会社が保有する子会社等の議決権の総株主又は総出資者の議決権に占める割合	33
（7）銀行持株会社の一の子会社等以外の子会社等が保有する当該一の子会社等の議決権の総株主の議決権に占める割合	33
銀行持株会社及びその子会社等の主要な業務に関する事項	
1. 直近の事業年度における事業の概況	02～04
2. 直近の5連結会計年度における主要な業務の状況を示す指標として次に掲げる事項	
（1）経常収益又はこれに相当するもの	41
（2）経常利益若しくは経常損失又はこれらに相当するもの	41
（3）親会社株主に帰属する当期純利益若しくは親会社株主に帰属する当期純損失	41
（4）包括利益	41
（5）純資産額	41
（6）総資産額	41
（7）連結自己資本比率	41
銀行持株会社及びその子会社等の2連結会計年度における財産の状況に関する事項	
1. 連結貸借対照表、連結損益計算書及び連結株主資本等変動計算書	42～49
2. 貸出金のうち次に掲げるものの額及びその合計額	
（1）破綻先債権に該当する貸出金	54
（2）延滞債権に該当する貸出金	54
（3）3カ月以上延滞債権に該当する貸出金	54
（4）貸出条件緩和債権に該当する貸出金	54
3. 自己資本の充実の状況について金融庁長官が別に定める事項	57～67
4. セグメント情報	50
5. 銀行法第52条の28第1項の規定により作成した書面について会社法第396条第1項による会計監査人の監査を受けている場合にはその旨	42
6. 銀行持株会社が連結貸借対照表、連結損益計算書及び連結株主資本等変動計算書について金融商品取引法第193条の2の規定に基づき公認会計士又は監査法人の監査証明を受けている場合にはその旨	42
報酬等に関する事項であって、業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与えるものとして金融庁長官が別に定める事項	67

銀行法施行規則第19条の2（単体情報）

	北陸銀行	北海道銀行
銀行の概況及び組織に関する事項		
1. 経営の組織	30	32
2. 持株数の多い順に10以上の株主に関する次に掲げる事項		
（1）氏名	147	147
（2）各株主の持株数	147	147
（3）発行済株式の総数に占める各株主の持株数の割合	147	147
3. 取締役及び監査役の氏名及び役職名	28	28
4. 会計監査人の氏名又は名称	28	28
5. 営業所の名称及び所在地	34～36,39	37～39
銀行の主要な業務の内容	30	32
銀行の主要な業務に関する事項		
1. 直近の事業年度における事業の概況	03	04
2. 直近の5事業年度における主要な業務の状況を示す指標として次に掲げる事項		
（1）経常収益	68	108
（2）経常利益又は経常損失	68	108
（3）当期純利益若しくは当期純損失	68	108
（4）資本金及び発行済株式の総数	68	108
（5）純資産額	68	108
（6）総資産額	68	108
（7）預金残高	68	108
（8）貸出金残高	68	108
（9）有価証券残高	68	108
（10）単体自己資本比率	68	108
（11）配当性向	68	108
（12）従業員数	68	108
3. 直近の2事業年度における業務の状況を示す指標		
（1）主要な業務の状況を示す指標		
業務粗利益及び業務粗利益率	80	120
国内業務部門並びに国際業務部門の区分ごとの資金運用収支、役務取引等収支、特定取引収支及びその他業務収支	80～81	120～121
国内業務部門並びに国際業務部門の区分ごとの資金運用勘定並びに資金調達勘定の平均残高、利息、利回り及び資金利ざや	80,90	120,129
国内業務部門並びに国際業務部門の区分ごとの受取利息及び支払利息の増減	80	120
総資産経常利益率及び資本経常利益率	90	129
総資産当期純利益率及び資本当期純利益率	90	129
（2）預金に関する指標		
国内業務部門及び国際業務部門の区分ごとの流動性預金、定期性預金、譲渡性預金その他の預金の平均残高	81	121
固定金利定期預金、変動金利定期預金及びその他の区分ごとの定期預金の残存期間別の残高	81	121

	北陸銀行	北海道銀行
(3) 貸出金等に関する指標		
国内業務部門並びに国際業務部門の区分ごとの手形貸付、証書貸付、当座貸越及び割引手形の平均残高	82	122
固定金利及び変動金利の区分ごとの貸出金の残存期間別の残高	82	122
担保の種類別（有価証券、債権、商品、不動産、保証及び信用の区分）の貸出金残高及び支払承諾見返額	83	123
使途別（設備資金及び運転資金の区分）の貸出金残高	82	122
業種別の貸出金残高及び貸出金の総額に占める割合	82	122
中小企業等に対する貸出金残高及び貸出金の総額に占める割合	83	123
特定海外債権残高の5パーセント以上を占める国別の残高	83	123
国内業務部門並びに国際業務部門の区分ごとの預貸率の期末値及び期中平均値	90	129
(4) 有価証券に関する指標		
商品有価証券の種類別（商品国債、商品地方債、商品政府保証債及びその他の商品有価証券）の平均残高	85	125
有価証券の種類別（国債、地方債、短期社債、社債、株式、外国債券及び外国株式その他の証券）の残存期間別の残高	85	125
国内業務部門及び国際業務部門の区分ごとの有価証券の種類別（国債、地方債、短期社債、社債、株式、外国債券及び外国株式その他の証券）の平均残高	85	125
国内業務部門並びに国際業務部門の区分ごとの預証率の期末値及び期中平均値	90	129
銀行の業務の運営に関する次に掲げる事項		
1. リスク管理の体制	23～26	23～26
2. 法令遵守の体制	21～22	21～22
3. 中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組の状況	9～14,16	9～14,16
4. 金融ADR制度への取り組み	22	22
銀行の直近の2事業年度における財産の状況に関する次に掲げる事項		
1. 貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書	75～79	115～119
2. 貸出金のうち次に掲げるものの額及びその合計額		
(1) 破綻先債権に該当する貸出金	83	123
(2) 延滞債権に該当する貸出金	83	123
(3) 3カ月以上延滞債権に該当する貸出金	83	123
(4) 貸出条件緩和債権に該当する貸出金	83	123
3. 自己資本の充実の状況について金融庁長官が別に定める事項	93,94,101～107	132,133,140～146
4. 次に掲げるものに関する取得価額又は契約価額、時価及び評価損益		
(1) 有価証券	86～87	126～127
(2) 金銭の信託	87	127
(3) デリバティブ取引	88～90	128～129
5. 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額	83	123
6. 貸出金償却の額	83	123
7. 銀行法第20条第1項の規定により作成した書面について会社法第396条第1項による会計監査人の監査を受けている場合にはその旨	75	115
報酬等に関する事項であって、業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与えるものとして金融庁長官が別に定める事項	67,107	67,146

銀行法施行規則第19条の3（連結情報）

	北陸銀行	北海道銀行
銀行及びその子会社等の概況に関する事項		
1. 銀行及びその子会社等の主要な事業の内容及び組織の構成	30,33	32～33
2. 銀行の子会社等に関する次に掲げる事項		
(1) 名称	33	33
(2) 主たる営業所又は事務所の所在地	33	33
(3) 資本金又は出資金	33	33
(4) 事業の内容	33	33
(5) 設立年月日	33	33
(6) 銀行が保有する子会社等の議決権の総株主又は総出資者の議決権に占める割合	33	33
(7) 銀行の一の子会社等以外の子会社等が保有する当該一の子会社等の議決権の総株主の議決権に占める割合	33	33
銀行及びその子会社等の主要な業務に関する事項		
1. 直近の事業年度における事業の概況	03	04
2. 直近の5連結会計年度における主要な業務の状況を示す指標として次に掲げる事項		
(1) 経常収益又はこれに相当するもの	68	108
(2) 経常利益若しくは経常損失又はこれらに相当するもの	68	108
(3) 親会社株主に帰属する当期純利益若しくは親会社株主に帰属する当期純損失	68	108
(4) 包括利益	68	108
(5) 純資産額	68	108
(6) 総資産額	68	108
(7) 連結自己資本比率	68	108
銀行及びその子会社等の直近の2連結会計年度における財産の状況に関する事項		
1. 連結貸借対照表、連結損益計算書及び連結株主資本等変動計算書	69～74	109～114
2. 貸出金のうち次に掲げるものの額及びその合計額		
(1) 破綻先債権に該当する貸出金	83	123
(2) 延滞債権に該当する貸出金	83	123
(3) 3カ月以上延滞債権に該当する貸出金	83	123
(4) 貸出条件緩和債権に該当する貸出金	83	123
3. 自己資本の充実の状況について金融庁長官が別に定める事項	92～100	131～139
4. セグメント情報	74	114
報酬等に関する事項であって、業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与えるものとして金融庁長官が別に定める事項	67,100	67,139

金融機能の再生のための緊急措置に関する法律施行規則第6条

	北陸銀行	北海道銀行
1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権	83	123
2. 危険債権	83	123
3. 要管理債権	83	123
4. 正常債権	83	123